

第9回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 次第

平成19年3月2日(金) 19時～21時

於：シビックセンター2102・2103 会議室

1. 開会あいさつ

2. 「最終報告」の取りまとめについて【資料27】【資料28】

3. その他

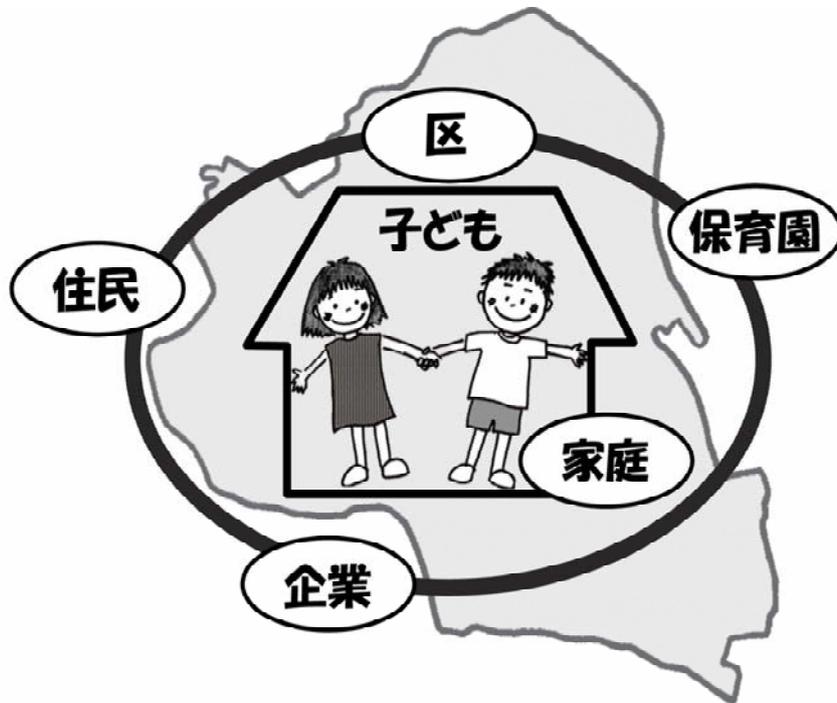
配布資料一覧

- (1)文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書(案)【資料第27号】
- (2)文京区保育ビジョン策定検討委員会最終報告に向けた委員意見【資料第28号】

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書

～子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまちへ～

(案)



平成19年3月

文京区保育ビジョン策定検討委員会

はじめに——文京区保育ビジョン策定検討委員会報告にあたって

日本は「成熟社会」と称され、経済的に極めて豊かな国であることは、疑う余地もありません。にもかかわらず、親子を取り巻く暗い話題や悲しい事件が引きもきらないのは何故なのでしょう。

わが国では、かつては、子育て・子育ては当然のように家庭や地域社会で担われてきていました。しかしながら、高度経済成長期を経て、私たちが生活する地域社会は、お互いのつながりや助け合いといった機能を失っていきました。その結果、孤立した環境での子育てを余儀なくされ、子育てに不安や負担感を持つ親が急速に増えることにも繋がっていきました。このような環境では、誰もが楽しく子育てできるとは言えません。

これまで以上に、子どもを産み育てることを社会がもっと評価し、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力に推進しなければ、この状況は好転しないものと考えます。

文京区の保育が目指すべき方向性を明確にする、保育ビジョンの策定にあたって、ここに規定すべき内容について、公募区民をはじめとする 20 人の委員からなる、文京区保育ビジョン策定検討委員会で検討を重ねてまいりました。本検討委員会では、9回の委員会と4つのワーキンググループでの検討が行われ、このたび最終報告をする運びとなりました。

昨年 12 月に「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ」を公表した際には、数多くのご意見が寄せられ、区民の皆さんの子育てや保育に対する関心の高さをうかがい知ることが出来ました。

この保育ビジョンの策定を機に、区民の皆さん一人ひとりが子育てのあり方や支援について積極的に関心を持ち、係わっていただけるようになることを、切に願って止みません。

平成 19 年 3 月

文京区保育ビジョン策定検討委員会

会 長 汐 見 稔 幸

目 次

第Ⅰ 保育ビジョン策定の基本的な考え方	1
第Ⅱ 保育ビジョンにおける対象領域.....	2
第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ	2
第Ⅳ 保育ビジョン作成の背景 ～文京区の保育を取り巻く現状～	2
第Ⅴ 文京区がめざす将来像.....	7
第Ⅵ 文京区がめざす将来像を実現する方向性.....	8
Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障	8
1. 子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ.....	8
2. 家庭での子育てのありかたを見直す.....	9
3. 公園を遊びとふれあいの場にしていく.....	10
4. メディアとの関わり方を見直すー「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ10	
5. まちの環境整備を図る.....	11
6. 地域全体で子どもを見守るー子どもを育てるまちの一員として.....	12
Vision2 子育て支援・親の支援	13
1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を.....	13
2. 子育て情報の効果的な提供を行う.....	14
3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援を推進する.....	15
4. 養育サポートの充実を図る.....	16
5. 医療体制を充実させる.....	17
6. 施設の充実・整備を図る.....	17
Vision3 親の就労・多様な生き方の支援.....	19
1. 従業員の家族的責任を踏まえた新たな雇用・就労のありかたを創造する.....	19
2. 多様な生き方、ライフコースへの支援を行う.....	21
Vision4 保育機能の中核としての保育園	23
1. すべての子育て家庭を対象とする保育園へ.....	23
2. 保育機能の中核にふさわしい保育園の具体的役割.....	24
3. 保育園の機能を高める.....	26
4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目.....	28
第Ⅶ 保育ビジョンの実現に向けて	29

参 考 資 料

資 料 1 文京区保育ビジョン策定の体制.....	33
資 料 2 文京区における保育の状況.....	39
資 料 3 文京区の地域別人口の推移.....	57
資 料 4 子育て支援先進事例集.....	73
資 料 5 子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果.....	87
資 料 6 家庭で乳幼児を育てている保護者に対するグループヒアリング調査結果.....	123
資 料 7 保育士アンケート調査結果.....	137
資 料 8 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ.....	141
資 料 9 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに向けた議論の整理.....	167
資 料 10 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに対する区民意見.....	191

第 I 保育ビジョン策定の基本的な考え方

子どもは未来の希望です。その子どもたちを豊かにはぐくむまちはまだ、だれもが希望をもって生活できるまちでもあります。そして、子どもたちを育むこと、その成長を見守ることは大きな喜びでもあります。

しかし、私たちを取り巻く現実は厳しいものとなってきました。私たちの希望であるはずの子どもたちは、今、子ども同士や異年齢との交流を通じて、自主的に学び、自立した成長を促す機会や場が減少し、かつてよりも厳しい子育て、子育て環境におかれています。そのなかで、児童虐待やさまざまな問題の被害者として、心身ともに傷ついている子どもたちもいます。また、豊かな人間関係を体験できないまま、いじめや犯罪の加害者となる子どもたちもいます。

一方、今の親の暮らしからは、子どもをはぐくむことに喜びを見いだす余裕も失われかねない状況です。経済的、社会的に厳しい状況に直面する親たち、子育てと就労との両立で疲れている親たち、育児の大半を一人で担い、心身の負担に苦しむ親たちもいます。

この現実に対し、子育て力・教育力の低下として親個人や家庭内部の問題にとどめるのではなく、子どもを生き育てることを社会がもっと大切に思い、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力で推進していかなければなりません。

今、求められるのは、これまで以上に子どもたちを豊かにはぐくむまちのありようを大胆に描き、その未来像に向けて一歩でも踏み出すことです。また、そこにおいては、いたずらに効率を追い求めることや画一的な家族像、ライフスタイルを強調することがあってはならないと考えます。

すべての子育て家庭が安心して暮らすことができ、すべての子どもたちが健やかに育つことのできる社会を築くために、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、あらためてこれからの文京区の保育の目指すべき方向性を明確にするとともに、文京区の様々な人たちや団体及び区が、その方向性をともに確認しあいながら主体的に活動するため、文京区保育ビジョンを策定するものです。

第Ⅱ 保育ビジョンにおける対象領域

文京区保育ビジョンにおいては、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上での養育、教育双方を含むさまざまな活動、機能であるととらえ、その強化の方向性を示します。子どもの発達成長を保障し、自立へと至るまでの過程に求められる福祉的かつ教育的視点をあわせもつ活動、機能を担う場は、保育園、幼稚園、小・中学校、学童保育、保健・医療分野、社会教育分野、さらには地域の多様な社会資源等、広範囲にわたるものです。また、それらは家庭、地域社会、行政のありようとも密接に関わっています。

このような重層的かつ広範囲な領域を踏まえ、本委員会ではまず、保育の方向性を示す足がかりとして、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、検討しています。その際、未就学児を広範囲にカバーする施設として、従来から国、東京都、文京区レベルの施策において地域子育て支援の中核と位置づけられ、保育に関する多様な活動、機能を担ってきた経緯を持つ保育園に着目しています。

文京区における保育の方向性を示す上で、幼稚園の重要性は言うまでもありません。しかし、幼稚園のありかたについては、現在、国レベル、都レベルで議論が進められており、認定こども園等幼保一元化の方向性を含め、従来の教育機能のみならず、子育て支援機能等における位置づけ、方針がなお検討されている段階にあることから、今後、本ビジョンで示されていく方向性が、保育園・幼稚園・小学校・社会教育の連携等、広範囲な領域で確認、接合され、子どもの心身の豊かな育ちを保障する総合的な施策・まちづくりへと発展していくことが大切だと考えています。

第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ

就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とします。

第Ⅳ 保育ビジョン作成の背景 ～文京区の保育を取り巻く現状～

近年の人口動態を見ると、ひと頃減少傾向にあった文京区の人口は、地価の下落などの要因を背景とした都心回帰などもあり、増加に転じています。とくに乳幼児人口の増加率は総人口の増加率をやや上回るペースであり、保育園をはじめとする子育て支援サービスに対する需要が増加しつつあります。こうした変化への量的対応のみならず、とりわけ都心部での子どもや子育て家庭を取り巻く環境が厳しくなっている今、安心して子どもを育てる上で、経験豊富な人材、施設設備等に裏打ちされたより一層、質の高い子育て支援サービスも求められています。

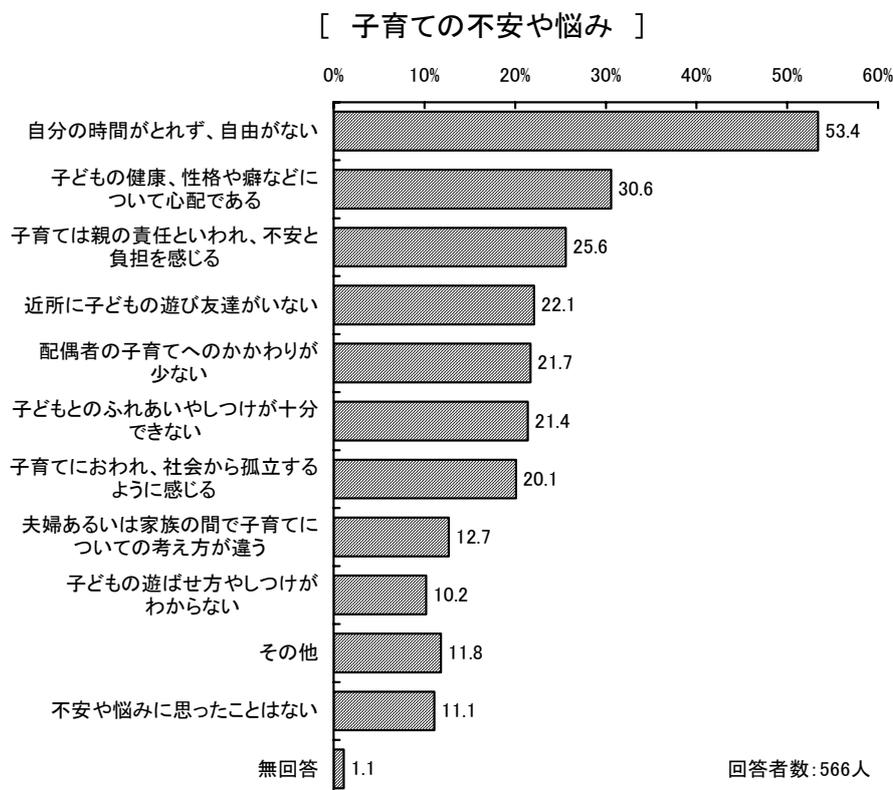
また、文京区における合計特殊出生率は平成 18 年時点で 0.79 と全国平均を下回り続けており、長期的展望に立って、核家族化など家族の変化、地域社会の子育て環境の変化、働き方やライフスタイルなどの多様化等の社会変動に的確に対応した施策、社会全体での支援のあり方を再構築していくことが求められています。

■ 地域社会のつながりの希薄化と子育てを負担に感じる人の増加

平成 16 年 3 月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、子育てに不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。

就学前児童の保護者からは、「自分の時間がとれず、自由がない」、「子どもの健康、性格や癖などについて心配である」、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」、「近所に子どもの遊び友達がいない」などが多くあげられています。

また、「子育てしやすいまちアンケート」結果から、子育て世帯の状況についてみると、「仕事と子育ての両立・働き方」「子どもが病気するとき」「相談者や支援者がいない」といったときに、子育てが大変、つらいと回答する人が多く、子育てを負担に感じざるを得ないような現状があることがわかります。核家族化で地域社会のつながりの希薄化が進みつつあるなかで、こうした不安や悩みに対応する施策をなお一層、充実する必要があります。



資料出所：「文京区子育て支援に関するアンケート調査報告書」（平成 16 年 3 月）

[子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)とき]

順位	保育園保護者の回答	件数	主に家庭で子育て中の主婦の回答	件数
1	仕事と子育ての両立・働き方	21 件	自分の体調がわるいとき	15 件
2	子どもが病気の時	20 件	交通機関や道路、遊び場の問題	12 件
3	保育園のこと	16 件	自分の時間がとれない・したいことができない	9 件
4	相談相手や支援者がいない	10 件	相談相手や支援者がいない	8 件
5	孤独に子育てをしていると感じるとき	9 件	保育園・幼稚園のこと	7 件
6	自分の時間がとれない	9 件	子育てに関する支援について	7 件
7	自分や家族の体調がわるいとき	8 件	出産後しばらくの間	5 件
8	子育てに関する支援について	7 件	経済的な負担	5 件
9	小学校のこと	5 件	仕事と子育ての両立	5 件
10	子育ての仕方のこと	4 件	周囲の理解がない	5 件
		回答者数 78 人	回答者数 49 人	

資料出所：文京区策定検討委員会資料第 21 号「子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果」より抜粋

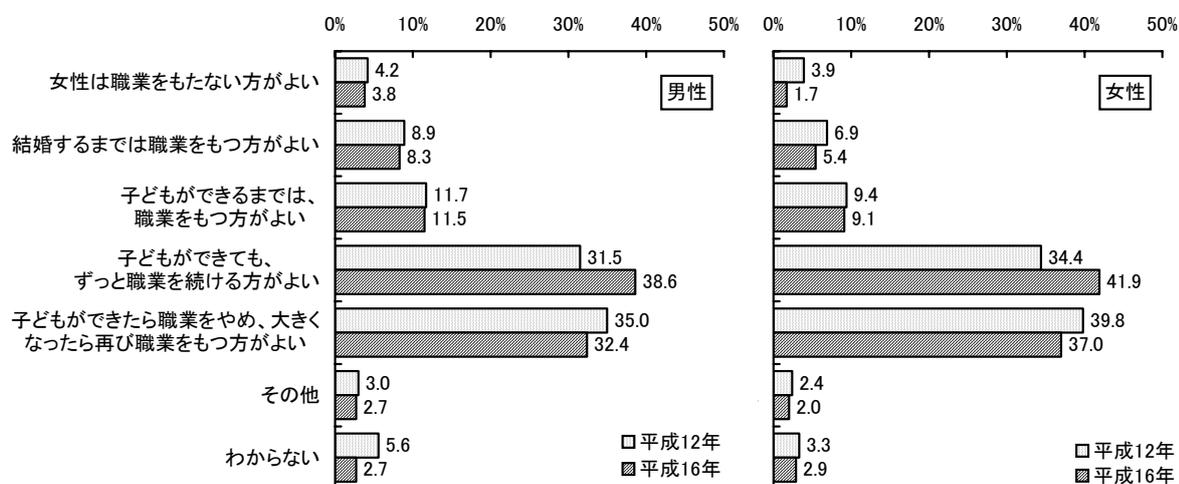
■ 働く親の増加と就労形態、労働環境の変化

働きながら子育てをする人たちが増えています。女性の就労に対する意識の変化のみならず、核家族・共働き家庭・ひとり親家庭など親が就労する家族のありかたも多様化しています。

一方、30代・40代男性の4人に1人、同女性の10人に1人が週60時間以上、働いているなど、子育て世代の長時間労働が問題となっています。また、パート、派遣等非典型雇用労働者の数も増加しており、不安定な労働条件と経済的条件を抱えて、働く親も少なくありません。

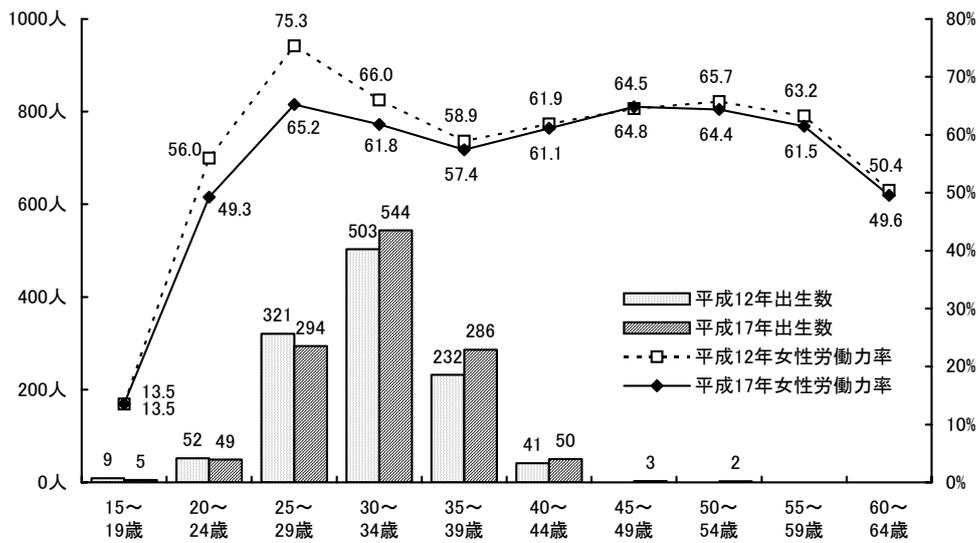
父親、母親が子育てを楽しみ、安心して就労できるよう、今後なお一層、就労形態の多様化、雇用、労働環境の変化に対応しながら、働く親の就労と子育てとの両立を支えていくことが必要となっています。

[女性が職業をもつことに対する意識]



資料出所：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

[文京区の女性労働力率と出生数]



資料出所：出生数：東京都「人口動態統計年報」、女性労働力率：総務省「国勢調査」

■ 多様な支援の必要性

都市化や車社会の進展などにより、地域社会から、子ども同士が安心安全に遊び、地域の子ども集団、人間関係を軸に自ら学び、成長する場や機会が失われています。このようなかつて地域社会が持っていた育児機能が失われる中、親が引き受ける育児課題はかつてなく膨大なものとなり、その課題もより一層、複雑化しています。地域社会から孤立した子育てをする親の育児不安、育児ノイローゼも指摘されているところです。

こうした問題への対応に加え、近年、児童虐待に関する相談件数も増えてきており、個々のケースの特徴や問題点をすばやく見極め、丁寧に対応できる専門性の高い支援が求められています。同時に、重度の障害だけでなく、軽度発達障害の子ども一人ひとりの課題を把握した個別の支援の充実、さらには、外国籍を持つ子どもたちへの支援などの充実が求められています。

[子ども家庭支援センターにおける児童虐待に関する相談者数の推移]

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
0～3歳未満	0人	5人	3人
3～就学前児童	6人	7人	15人
小学生	4人	17人	19人
中学生	1人	3人	4人
高校生・その他	0人	3人	1人
合計	11人	35人	42人

※ 平成15年度は、10月1日から3月31日までの実績 (単位：実人数)

■ 文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過

文京区では、地域福祉計画の中で、子育て施策を子育て支援計画と位置づけ、施策の推進を図ってきました。さらに、少子化対策の総合的な取り組みを推進するため、平成 15 年に次世代育成支援対策推進法」が制定されたことを受け、平成 16 年度に、子育てに係る施策を総合・包括・拡充した「子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）」を策定し、地域における子育て支援の取り組みをすすめてきています。

しかしながら社会環境の変化のスピードは速く、文京区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていないのも現実です。

一方、国においても、少子化の背景にあるさまざまな要因についての分析、それに基づく対策に関する議論がなされるとともに、少子化に歯止めをかけるべく、さまざまな施策が実施されてきています。こうした国の制度も年度によって大きく変化しています。

第V 文京区がめざす将来像

すべての子どもたちが、のびのびと育ち、自立した大人へと成長していくことは、私たちの願いです。そして、子育てを取り巻く環境が変化し、厳しいものとなっているとしても、本来子育ては無限の喜びと将来への希望に満ちた営みであるはずです。

子どもを育てる人々が子育ての楽しさを実感することができるとともに、地域に暮らす人々が子どもと子どもを育てる人々を同じ温かいまなざしで見守り、応援することのできるまちを目指すことにより、子どもの育ちを保障していく必要があります。

将来像：「子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち」

- 一人ひとりの子どもの幸せを第一に考える社会
- 安心して子どもを産み育てることができる社会
- 地域ぐるみで子育てを応援する社会

この将来像の実現に向けて、以下の4つの方向性を示します。

Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障

Vision2 子育て支援・親の支援

Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

Vision4 保育機能の中核としての保育園

第VI 文京区がめざす将来像を実現する方向性

Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障

子どもをあたたく包み込むまちのありかたが問われています。思春期を見通した子どもの育ちを考えると、家庭や地域で基本的な生活習慣を身につける機会が重要です。

同様に、文京区ならではの人的資源や施設、ネットワークを最大限生かし、安全安心に子どもたちが遊び、学ぶことのできるまちにすることも必要です。そのためには、その力を生かす工夫がまちづくりにも求められます。

目 標

1. 子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ

子どもの心身の健やかな成長にとって、「食事」「遊び」「睡眠」は非常に大切であり、十分な配慮が求められます。子どもにはのぞましい生活リズムがあること、「食事」「遊び」「睡眠」が子どもの心身の成長にとって極めて大切であるということについて、改めて見直し、子どもがのぞましい生活習慣を身につけられるように支援していく必要があります。

また、「しつけ」や「教育」の前提として、まず子ども自身が受け容れられていることを実感できていなければなりません。そのためには、他人とふれあい、交流していくことが重要であり、このことによって思いやりや信じあう関係、いたわりの心や愛情、社会性が芽生えることにつながります。そして、自然の中でさまざまな体験を通じて、子どもは、本来の姿をみせ、考える力をはぐくみ、感性豊かで心身ともにたくましく育つことができます。このようなふれあいの中から、子どもたちは好奇心や探究心をはぐくみ、さまざまなことを身につけ、学んでいきます。

(1)子どもたちが、のぞましい基本的な生活習慣を身につけられるように心がける

- ・安全性に配慮した「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」が子どもたちには必要。
- ・大人のリズムに子どもをあわせるのではなく、子どもにとってのぞましい基本的な生活リズム＝「早起き → 朝食摂取 → 身体を使った十分な遊び → 早寝」を基本とした「生活のリズム」を整えるように心がける。
- ・必要以上の厚着をさせず、薄着での外遊びを心がける。四季折々の気候の刺激を経験・体感でき、体温や血圧の調節機能をつかさどる自律神経の発達が促されることにつながる。

(2) 子どもたちに、人とのゆたかなふれあいや自然とのふれあいの機会を与える

- ・子どもが「自分を好き」と思える心の土台づくりをすることが大切。そのために、まず、保護者をはじめとする大人とのゆたかなふれあいを通じて、大人に対する基本的な「信頼」（自分は受け容れられているという感覚）をはぐくむ。
- ・同年齢・異年齢の友だちと遊べる環境・ふれあう機会をつくっていく。
- ・動物や植物など生き物とふれあう機会をつくっていく。
- ・自然の中で、肌のふれあいや声のかけあいでできる外遊び・野外活動体験の機会をつくっていく。

(3) 子どもたちの日常生活に根ざした、内発的な「知」の成長を支える

- ・形式的な「知育」に偏ることなく、日常生活や人・自然とのふれあいの中から、自然に湧き出てくる、子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切に、支える環境を整えていく。

(4) 子どもたちが一人の人間として自立していくための成長を支える

- ・「過保護」「過干渉」に陥ることなく、日常生活の中で、子どもが自分自身で出来ることを尊重し、認めることで、自立に向けた成長の過程を大切にする。

2. 家庭での子育てのありかたを見直す

子どもにとっては、家庭が第一目の社会であるといえます。しかし、現実には父親は仕事に追われて、結局母親だけが一人で育児の責任を負わなければならない「密室育児」が、母親の孤立感・負担感を高めているともいわれています。家事や育児に協力できる、もっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴える必要があります。

また、夜更かしなどで、無意識のうちに子どもを大人の生活につきあわせてしまっていないでしょうか。子どもの成長にとってのぞましい生活習慣を再認識すべきです。

【施策のための具体案】

- ・「父子健康手帳」を配布し、父親として必要な知識や役割を学ぶ機会をつくる。
（妊娠期間 40 週の赤ちゃんの成長と母親の体の変化にあわせ、父親ができるサポート、家事、妊婦体操、ベビー用品の準備、出産の兆候から産後までの出産のプロセスにそった具体的な夫のサポート、3 歳までの赤ちゃんの心と体の発達、我が子への関わり方等が具体的に書かれているもの）
- ・「家事・子育ては女性・母親がするもの」というような、旧来の性差による固定的な考え方を排していく。

3. 公園を遊びとふれあいの場にしていく

文京区には大小さまざまな公園があります。四季折々の自然に親しむ場であり、また、地域の人々が集う場でもあります。そうした公園を一層、子どもたちが地域の人と交流し、楽しめる場として整備していくことが必要です。

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区はビルや住宅が立ち並び、空き地が少ないことから、子どもが外遊びできる場の整備が必要です。区内には児童遊園も多くありますが、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがわくわくするような遊具に設置し直すことを検討すべきです。

また、保育園・幼稚園に通わせていない親子が遊べて、かつ、親同士が交流できる場をつくる必要があります。

(1) 公園を整備・改良する

【施策のための具体案】

- ・公園の一角に、子どもたちが生き生きと遊べる「はらっぱ」型のスペースを設ける。
- ・公園の遊具は、子どもたちがわくわくできる、発達・安全を考慮したものを設置。
- ・専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園づくりをすすめる。

(2) 公園が子どもの遊び場や親同士が交流できる場となるような仕組みづくりをする

【施策のための具体案】

- ・「私の公園」という意識をもてるよう、「ロードサポート」のような近隣住民による公園の清掃や樹木の剪定、夜間の不審者対策などが行われている仕組みをより一層活用して、コミュニティを大事にしようとする意識をはぐくむことにつなげていく。
- ・子育てに関する情報掲示板などを設置して、人が集まる場にする。

4. メディアとの関わり方を見直すー「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ

現代社会において、電子メディアは身の回りいたるところにあふれており、我々の社会生活に必要不可欠なものです。そして大人たちばかりでなく、子どもたちにとっても電子メディアは生活や遊びの上で、身近で日常的な存在となっています。

しかし、子どもたちが、長時間にわたりテレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等を利用することは、生活リズムの乱れ（夜更かし）や運動不足、双方向のコミュニケーションの不足をもたらすことにもつながります。

文京区には多くの図書館があります。電子メディアが氾濫している今、幼い子が絵本に親しむことは貴重な経験であり、また、子どものゆたかな心の成長に欠かせません。とくに、区内のいくつかの図書館でも行われている絵本の読み聞かせは、子どもに読み手との直のふれあいをもたらし、子どもが他者の話を集中して聞く練習ともなります。そして、絵本に描かれてい

る静止画に親しむことによって、子どもたちの想像力が磨かれます。子どもたちは、お話を聞きながら、絵と絵の間の実際には目に見えない「絵」を、自ずと心に思い描けるようになるのです。

(1) 電子メディアの過度の視聴の弊害について啓発する

【施策のための具体案】

- ・長時間にわたる過度の電子メディア視聴がもたらす影響について、保護者・区民に情報提供する。
- ・茨城県東海村、鳥取県三朝町、島根県雲南市久野地区で行っている「ノー・テレビデイ（ウィーク）」などの取り組みを参考にして、生活習慣の改善・親子のふれあいの時間を呼びかける。

(2) 図書館の活用を図る

【施策のための具体案】

- ・図書館に、親が子どもに読み聞かせをできる専用スペースを設ける。
- ・平日の幼稚園降園後の時間や土・日曜に、親が子どもの年齢別に読み聞かせグループ活動ができるようにする。
- ・地域に読み聞かせボランティアを育成する。
- ・出版社などの協力により、親子向けのブックイベントなどを行う。
- ・平日の午前中など、在宅の親子が利用しやすい時間帯に、子ども向けのイベント（エプロンシアター、人形劇、紙芝居など）を行う。
- ・外国人の親子にも親しんでもらえるよう、英語をはじめ外国語の絵本の読み聞かせや絵本等を充実させる。
- ・児童館においても、図書を活用を図っていく。

5. まちの環境整備を図る

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」によると、子どもとの外出の際に困ることとして、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」(66.6%)、「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」(58.7%)など、まちや施設がバリアフリーになっていないことがあげられています。また、「みどりや広い歩道が少ない等、町並みにゆとりとうるおいがない」(40.3%)など、まちの空間に、子どもが安心して過ごせる場が少ないこともあげられています。子どもの安全安心を視野に入れたまちづくりが急務です。

【施策のための具体案】

- ・道路のバリアフリー化、電線の地中化、コミュニティ道路（ボンエルフ道路など）の設置。
- ・都市計画のあり方の検討。
- ・歩行者天国の実施：子どもたちが集える場の拡大。
- ・エレベーターの工夫
公共施設を始めとして、エレベーターを誰でもが利用しやすいようにしていく。
（例：操作しやすいボタン・見やすい表示を導入する。ベビーカーや小さい子どもと一緒に乗り降りしやすい広さや動作のものにする など）

6. 地域全体で子どもを見守るー子どもを育てるまちの一員として

子どもが安全安心に暮らせるまちづくりのためには、行政の取り組みがもっとも重要であるのは当然ですが、地域での取り組みも必要不可欠です。例えば、子ども連れで外出するとき、狭い道路に侵入してくる自動車や、歩道を猛進する自転車はとても危険です。路上での喫煙も、受動喫煙の危険性を考えれば気がかりです。そして、大人から子どもたちに積極的に挨拶や声かけをすることは、子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていることを実感できる第一歩にもなります。

地域の住民のみならず、企業や団体などそれぞれが地域の一員として、お互いに気を配り、ルールやマナーを守って生活していくことも大切です。

【施策のための具体案】

- ・挨拶・注意など、子どもたちに対して声かけを行う。
- ・路上禁煙の実行。
- ・自動車・自転車の運転マナーの改善。
- ・「子育てにやさしい店」への取り組み。
（例：商店・企業等が親子連れにトイレや授乳場所を提供する、誰でもが利用しやすいエレベーターを設置する など）
- ・地域の一員として「子どもの安全に配慮する企業」としての取り組み。
（例：狭い道路での営業車両（フォークリフト等も含む）の往来を必要最低限に止めるよう配慮する、企業に対して、安全なまちづくりをサポートするための啓発活動。「子育てしやすいまちをいっしょにつくろう」「子どもを連れている人にやさしくしよう」「手伝おう」と呼びかける など）
- ・お寺などのスペースを、子どもたちのふれあいの場として活用する。
- ・「団塊の世代」をターゲットにしたネットワークづくり。
- ・さまざまな団体・個人の連携と地域における交流の場づくりの支援。
- ・子育てサロン等、地域資源を活用した取り組みの拡充。
- ・民生・児童委員、NPO、ボランティアなどの制度・活動の周知。
- ・文京区の企業がNPOに助成、協賛する形で支援する仕組みづくり。

Vision2 子育て支援・親の支援

子育ての第一義的責任は、親・家庭にあることはいうまでもありません。しかし、子どもの発達、健康、しつけは子どもの年齢に関係なく、親の不安としてあげられています。

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、「子育ては親の責任といわれ、不安や負担を感じる」とする親が、就学前の子どもを持つ親の4分の1にものぼっています。また、さまざまな事情により、緊急の支援を求める家庭も増加しています。

子どもの成長を保障する上で、子育ての負担を個人や家庭だけに押しつけていては、子どもたちが犠牲になってしまうことになりかねません。子どもの幸せを支援することは、決して親の利便性を優先することではありません。さまざまな事情で配慮を要する児童、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分であり、親の不安感を軽減するとともに、安心感をもって子育てする上で必要なものです。未来の社会を担う子どもたちの成長を社会全体で支え、親と子どもが豊かな関係を結びあい成長していくために、子育て支援・親の支援を提供できる体制づくりが求められています。

目 標

1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を

文京区には、さまざまな親子がいます。①妊娠中の女性及び産褥期の母親と子ども、②母子家庭や父子家庭などの一人親世帯、③子どもが障害や病気等を持っている家族、④親が障害や病気等を持っている家族、⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）、虐待の被害にあっている子（疑いがある場合も含む）、⑥外国籍、日本語を理解できない家族、⑦その他緊急な対応を迫られるケースなどです。

業務が縦割りのために、窓口が散らばっている行政の体制では、こうした親や子どもが必要なサービスを受けるための情報を得ること自体に困難を伴い、手続きの煩雑さのために、必要なときに必要な支援を受けにくくなりかねません。

子育て支援、子育て支援に関するワンストップ・サービスがぜひとも必要です。1か所に足を運べば、専門的な知識を持った職員が相談に応じ、受けられる支援内容をコーディネートしてくれるとともに、一度の手続きで必要な関連作業を終えることができる。そんなサービスが待ち望まれています。

(1) 窓口一元化を推進する

【施策のための具体案】

- ・緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、複数の課にまたがっている支援について庁内窓口の一本化をすすめる。
- ・相談内容に適切に対応できる専門性を持った職員を配置する。
- ・千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」のように多様なサービスの案内を一元化し、利用者にサービス利用プランを提案する制度を整備していく。
- ・「子ども」や「子育て支援」に関連することをすべて取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設する（「子ども課」設置の検討）。

(2) 専門的支援ができる職員の配置・育成をすすめる

【施策のための具体案】

- ・相談ごとに適切なサービスをコーディネートできる専門職員を配置する。
- ・児童相談所など他の機関との連携ができる能力を持った人材を採用・育成する。
- ・とくに家庭で育児をしている専業主婦・主夫層向けの、子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を行う地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーを配置する。

2. 子育て情報の効果的な提供を行う

子育てに関する情報誌はたくさん発行されています。しかし、子育て真っ最中の世帯は多忙で、生活している地域の情報が得られることを求めています。そこで、地域の子育て情報がまとまって手軽に入手できるように、情報を集約し、発信していくことが大切です。

【施策のための具体案】

- ・1か所に行けば、必要な情報が一括で閲覧できたり、入手したりできるようにしていく。
- ・子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食づくり・料理講座などさまざまな「子育て」に関する、区からの情報やNPO等民間からの情報などをまとめた冊子・ペーパー・ホームページなどを作成する。
- ・パソコン・携帯電話で利用できる「子育てメール」により情報を発信する。
- ・だれでも書き込める「子育てかわら版」を作成し、区民の間での情報交換の場を設ける。
- ・役所に関係のないネットワークを活用した情報発信を活用する。
(例：メディア、ロコミ など)
- ・さまざまな団体のネットワークを活用した情報発信を支援する。

3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援を推進する

子育ては家族を中心としつつも、公共的な営みとして位置づけていく必要があります。そのためには、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして区民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべきであるとの共通認識が必要です。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまうことにもつながります。それぞれの家族が必要とする支援に対して、きめ細かに対応できる体制が求められます。

【施策のための具体案】

- ・ 既存の支援体制の連携を強化していく。
地域でのニーズを発見し、適切な支援を行うために、保健師、保護課ケースワーカー等、行政の専門職と主任児童委員（民生・児童委員）等、既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、区民からみてわかりやすい体制とするため、長期的には現行の担当地域割りを見直すことも検討する。
- ・ 関連する機関のネットワークづくりをすすめていく。
区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化をすすめるとともに、区のサービスの委託などを行う。
- ・ 既存の区有施設を活用して、子育て活動団体の自主的な活動を支援していく。
- ・ 子育て支援に関わる団体・個人間の信頼関係の醸成をすすめていく。
保育園、幼稚園、学校などの子育てに関連する機関、町会などの組織が話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。そのために情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめる。
- ・ 子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援の開始。
一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるよう、NPOの立上げ時の助成や活動継続のために助成などを行う。

4. 養育サポートの充実を図る

都市化、核家族化の進展に伴い、子育ての不安を気軽に相談したり、いざというときに助けてもらったりしてもらえそうな人が、身近に少なくなってきました。

家庭で乳幼児を育てている母親に対するヒアリング調査でも、「自分が急な病気の際に子どもを見てくれる人がいない」「ちょっとした家事や育児の手伝いをしてほしいときがある」「自分の時間を持つことが出来ない」などの意見があり、孤立した育児環境の中で、子育てに対する不安感や負担感を抱えている親への支援が急務となっています。また、母子家庭・父子家庭の増加など、家族の多様化に対応した養育サポートの多様化も必要です。

親や子の置かれている状況に応じた、支援のためのサービスを拡充していくため、行政をはじめ、様々な団体や個人が、相談や支援を行う体制を整備し、地域の中で安心して子育てができるよう、子どもたちの成長を社会全体で支えることが求められています。

【施策のための具体案】

- ・ 子育て相談の充実
地域の中で、子育てに関する相談を気軽に受けられる体制を整備していく。
- ・ 子育てひろばの拡充
とくに、幼稚園・保育園に通わせていない親子に、安心して子どもを遊ばせることができるとともに、必要な情報提供と相談を受けられる場所として整備していく。
- ・ 児童館機能の充実
新たなニーズに対応することで、機能の充実を図っていく。
- ・ 緊急一時保育の抜本的拡充
国の予算の拡充状況等を踏まえつつ、全園での実施を検討する。
- ・ ショートステイ（短期間の24時間保育）
親と子どもが豊かな人間関係をはぐくみ、安全安心に過ごすために、区の事業として、ショートステイの実施を検討していく。
- ・ 病後児保育の拡充・要件の緩和
病後児保育実施施設を増やすとともに、感染性等の病気にかかった家族がいる場合に保育園で預かるというような、多様なニーズへの対応を検討していく。
- ・ 出産後の支援
親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変である出産後3か月くらいまでの時期の支援体制を構築する。
- ・ 「2人目」を妊娠したときからの支援
第2子以降を妊娠した際の、親や第1子の子育てに対する支援体制を構築する。
- ・ 緊急かつ継続的支援が必要な家庭への対応
4か月健診等の場を、家庭で一人で子育てをしている人への支援・フォローの機会とする。また、出張による健診を実施し、同時にカウンセリングも行う。
看護師による事前カウンセリングにより、支援メニューの提示とサービスの提供を行う。

- ・ネグレクトや育児放棄、虐待など、問題のある（問題になりそうな）家庭に対する予防と早期対応
地域で見守ってくれる人たちやそのネットワークと行政との連携を図るとともに制度・サービスのPRが行き届いているかのフォローアップについて検討する。
- ・子育て支援施策の実施にあたっては、利用者の声を生かしながら制度の改善を図っていく。（ファミリーサポート制度の充実、在宅で子育てしている人でも気軽に預けられるベビーシッター制度 など）

5. 医療体制を充実させる

子育て中は、母子ともに医療にかかることが多い時期です。安心して医療を受けられることが、子育て中の不安の軽減につながります。

【施策のための具体案】

- ・母親への医療費控除
乳腺炎の保険外治療など、保険がきかない医療費の補助の実施などを検討する。
- ・予防接種の補助
おたふくかぜやインフルエンザの予防接種への補助は、子育て中の親の支援のみならず、子どもの健康、感染予防にもつながる。
- ・4 か月健診、集団予防接種などの実施場所の拡充の検討
健診、予防接種等を保健センターや小児科以外の場所で行う可能性を追求する。

6. 施設の充実・整備を図る

(1) 子育て・子育て支援の核となる総合施設を整備していく

保育園・児童館・子育てひろばなど、従来からある子育てのための施設について引き続き充実・整備をすすめていくとともに、区の支援サービス一元化のひとつのありかたとして、窓口やさまざまな施設が集約された、子育て・子育て支援の核となる新たな総合的施設の整備の検討を行うことも考えられます。

【施策のための具体案】

① 施設に必要と考えられる主な機能

- ・個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援。
- ・必要なサービスの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム。
- ・年齢にあわせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設。

- ・親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に係る市民活動団体も利用しやすい研修室、会議室、ホール、事務スペースの配置。
- ・保護者の事情で緊急に保育が必要な場合にも対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス。
- ・区内の保育、教育、福祉に関係する専門職やボランティアが、区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関。

②その他考慮すべき点

- ・区内のどこからでもアクセスしやすいこと（十分広く安全な駐車場の確保及びデマンド型交通などによる移動手段の確保）。
- ・建物はバリアフリーや建材の安全性にも十分配慮し、子どもの育ちを支えるような観点からの工夫がされたもの。
- ・基本的には区の直営施設として、個人情報保護に配慮し、一貫したサービスを提供する。

(2)国や都の関連機関の誘致をすすめる

文京区は地下鉄網が充実しているなど、交通アクセスに恵まれた便利な地域です。このような地理的条件を生かして、渋谷区の東京都児童館や江東区東部医療センターなどのような子育てに関する都や国の施設・関連機関の積極的な誘致をすることで、子育て環境の整備を図っていくことも考えられます。

(3)子育て支援の視点から施設整備に取り組む

区が施設を設置する際に、文京区独自のガイドライン（施設設置基準など）をつくることも有用と思われます。

- ・障害の有無やその程度、性別の違い、国籍など、個別の状況に応じて発生する、多様なニーズに配慮した施設の整備をすすめる。

Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

社会の成熟化に伴い、人々の価値観も多様化してきています。しかし、自らが望む生き方を選択し、社会の中で、一人の自立した大人として自らが培ってきた経験を活かし、能力を発揮することは、子どもを持っていては望めないことなのではないでしょうか。

子を持つ親が、子どもの成長を見守り、家族との豊かな人間関係をはぐくみながら、地域や社会の中で一人の自立した大人としてさらなる成長を目指す——これは特別なことではなく、だれにでも保障されるべきことであり、そのための取り組みが望まれています。

目 標

1. 従業員の家族的責任を踏まえた新たな雇用・就労のありかたを創造する

子育てや家庭生活との両立ができる就労環境が求められています。働く親にとって、子どもの成長を見守り、家族との豊かな人間関係をはぐくむ時間の確保は喫緊の課題となっています。同時に、就労は家族の経済的基盤を確保するのみならず、時間と努力をかけて得た能力を発揮し、自分らしい生き方を実現する営みです。こうした家庭生活と就労の双方が調和した暮らしを実現するには、職場の環境整備は不可欠であり、そうすることによって、Vision1が掲げる子どもの豊かな育ちを保障することにもつながります。

育児休業や看護休暇をはじめとする各種両立支援制度の充実のみならず、伝統的な性別役割分業から派生した職場の慣習や意識によって、女性を不当に処遇することや男性が育児をあきらめざるを得ないような職場の雰囲気は早急に改めなくてはなりません。多くの従業員が育児・介護などの家族的責任を抱えていることを前提にした働きやすい労働環境作りの促進、それに取り組む企業への積極的な支援が必要です。

(1)特に中小企業が行う取り組みへの支援を充実させる

【施策のための具体案】

- ・ 育児休業制度取得促進などに取り組んでいる企業への補助金や女性活用・パート労働者の均等待遇、両立可能な職場づくりなどに成果を上げている企業に対する入札制度での優遇措置。
- ・ 再就職を希望する母親、就学前の子どもを育てている母親を積極的に採用する企業への優遇措置。
- ・ 先進的な取り組みをしている企業への税制面での優遇等の制度導入の検討。
- ・ 先進企業に対する文京区独自の認定制度や表彰制度の創設。
- ・ 区内企業のみならず区民が勤務する区外企業についての支援の検討。

- ・従業員の両立支援に関して、区内中小企業間での情報交換、事例研究などを行う継続的なラウンドテーブルの設置と運営の支援。
- ・職住接近型雇用の実現に向けて、区内企業に勤める人への住居の斡旋やテレワーク導入への助言、助成。
- ・区内中小企業の女性活用、就業実態および男女従業員の労働実態・家族生活に関する量的質的調査を実施し、これを積み上げることで、既存の両立支援制度にとらわれない、ユニークな取り組みの発掘や業態にあわせた両立可能な職場条件の検証。
- ・従業員の両立ストレスの軽減、メンタルヘルスの向上を目的とする育児・介護、離婚等に関するカウンセリングサービスやメンタルヘルスに関する相談窓口などの情報提供。
- ・区内中小企業で働く親の情報交換の場やネットワークづくり。

(2) 支援策などの導入に関する積極的な情報提供・啓発を行う

【施策のための具体案】

- ・国などの助成制度の周知、活用を呼びかける。
- ・子育てをしている人が働きやすい・仕事と子育てを両立できる環境をつくること、結果的に企業の利益につながることを周知し、さまざまな制度の導入を呼びかける。
(例：病児のための看護休暇、搾乳・授乳などの育児時間の拡充・確保、その設備設置の工夫 など)
- ・長時間労働の解消に向けた取り組みや工夫の紹介、呼びかけを行う。
(例：ワークシェアリングの導入事例、ノー残業デー、サービス残業の見直しに向けた職務配分や職員配置の検証 など)
- ・経営者向けに、保育所・幼稚園の現場から見た親の両立についての実態を発信するとともに、保育の実践、施策について理解を深めてもらうシンポジウム、研修会等を開催する。
- ・男女の役割分担的考えの払拭・男性が育児に参加することへの意識改革への働きかけを行う
(例：共働きカップルのための両立支援セミナー、父子家庭の父親を対象にした両立支援セミナーの開催、子育て世代の夫婦コミュニケーション講座の開催 など)

(3) 国に対して、一層の支援施策の充実と法令等の整備を求める

【施策のための具体案】

- ・子育て支援に関して企業に制約力のある目標を示すよう要請する。
- ・就業規則等の届出について、もっと定期的に申請させ、精査するシステムにしていくよう要請する。

2. 多様な生き方、ライフコースへの支援を行う

育児期のライフコースの選択は様々です。いったん就労を離れ、自宅での子育てに専念しながら社会と何らかの接点を持ちたいと考えている人もいれば、出産・育児等での空白を越えて、再び自分の培ってきた経験や能力を地域や社会で生かしたい、自分の夢の実現に挑戦したいと考えている人もいます。そうした人たちが求める地域、社会との接点のありようも様々です。子育てを通じて得た気づきをきっかけに専門的な知識を身につけたい、地域活動で役立てたい、再就職に向けて自分の培ってきた経験や能力をさらにブラッシュアップしたいなど、その思いは多様です。特に女性の場合、伝統的な性別役割分業規範から、家事・育児を一人で担い、社会との接点を絶たれた閉塞感に苦しむ人も少なくありません。

このような一人の自立した大人としてのさらなる成長や社会との接点を求める人に向けて、一時保育や養育サポート体制の強化など、Vision 2 で掲げた子育て支援・親支援の整備を進めると同時に、社会参加に向けた仕組みやきっかけ作り、情報提供を充実させることが求められます。

(1) 社会との接点を持ちたい人を支援する出会いと学びの場を充実させる

【施策のための具体案】

- ・ 専門技能習得のための講座。
- ・ 子育て支援拠点で、親自身の世界を広げることを目的とした講座の開催。
(例：フラワーアレンジメント、カラーコーディネート、ビーズアクセサリー作りなど趣味の講座、ボランティア活動講座、語学講座、技術習得やブラッシュアップの講座、文京区内の大学との協力を求めている市民講座 など)
- ・ 文京区内の地域・ボランティア活動との出会いの場を作る。
(例：活動リーダーとの懇談会。活動内容やアクセス方法についての説明会やセミナー。インターネットを利用しての地域・ボランティアに参加したい人への情報提供、関連ニュースを流す仕組みづくり など)
- ・ 家族的責任を持つ人が参加、活動しやすい地域・ボランティア活動のあり方の検討。
- ・ 再就職やボランティア活動にチャレンジしている父親、母親を囲んだセミナーや懇談会の開催。
- ・ 子育て中で短時間働きたい人向けの就職説明会（ハローワーク以外の場づくり）。
- ・ 文京区内の企業経営者との出会いの場を作る。
(例：経営者との懇談会。職務内容や必要な技能についての説明会やセミナー)
- ・ 企業への情報提供・働きたい人への情報提供。
(例：働きたい人を登録したメールリストの作成、説明会やセミナー情報・関連ニュースを流す仕組みづくり、インターネットでの求人状況案内 など)

(2) 多様なライフコースに対応した社会参加への仕組みづくりをすすめる

【施策のための具体案】

- ・ 中小企業団体等に働きかけ、再就職を願う親に対して採用等の情報提供を行う。
- ・ 中小企業団体等に働きかけ、文京区内の特色を活かした地域密着型の雇用の創出やマッチングシステムづくり。
(例：出版関連業務の経験のある区内の人材を登録し、区内の中小出版業者が在宅やスポットでの出版関連業務を発注する。語学を使った仕事の経験を持つ人材を登録し、文京区内の大学が主催する国際セミナー、シンポジウムでの翻訳、通訳補助の仕事を発注する など)
- ・ 大学等に呼びかけ、文京区内の特色を活かしたボランティア活動の創出とのマッチングシステムづくり。
(例：海外での生活体験者などの人材を登録し、留学生の通訳・アパート探しの支援、子育て中の外国人への支援 など)
- ・ 文京区内の子育て支援拠点で活動するボランティア育成、研修機会の提供。
- ・ 利用しやすい区内の公民館、センター等の整備。

Vision4 保育機能の中核としての保育園

子どもの心身ともに健やかな成長を保障する、まちのあらゆる場所に広がるさまざまな保育機能を統括し、中心となるのが保育園です。文京区の保育園はすべての子どもたちとあらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点となります。子育てが困難になっている社会で生きる子育て家庭に必要な情報発信、親と子が心豊かな人間関係と暮らしを実感できる多様な支援の提供、都会での地域ネットワークの再構築など、保育機能の中核にふさわしい質と人材、設備を備えることが重要です。同時に、保育機能の中核としての保育園を行政、地域全体でもりたてていくことが必要です。

目 標

1. すべての子育て家庭を対象とする保育園へ

(1) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障する

保育園の第一義的な役割は、子どもの人間形成とそれにかかわる生活の基礎を身につける支援を行うとともに、発達に応じたさまざまな遊びと人との関係を通じて知的成長を保障することです。子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障する役割を担います。

(2) 親が多様な生き方を選択できるような支援を行う

就労のみならず、社会参加など親自身の多様な生き方を支援する役割を担っていくことが望まれます。また、親の疾病や急用などにも対応し支援していく役割を担っていきます。

(3) 地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割

保育園は、子育てを専門に行う施設です。子育てに関する相談を行うことで、安心して子育てできるまちづくりの役割を担っていきます。

(4) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割

地域では、町会、民生・児童委員、保健師、子育て支援NPOなど、さまざまな団体や個人が子育て支援の取り組みを行っています。こうした活動がつながりあい、点としての活動から線や面としての活動へと広がっていくことで、効果的な子育て支援の輪を広げていくことが大切です。そこで、地域の保育園がそのネットワークの中核としての役割を担うことが有効です。

2. 保育機能の中核にふさわしい保育園の具体的役割

保育園が現在担っている役割を引き続き果たしていくことはもちろんですが、新たな子育て支援策を効果的・機能的に行うためには、人的資源・物的資源を活用しながらその充実を図っていくことも大切です。

(1) 子どもたちに対する責任を果たす

【施策のための具体案】

- ・ 家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・ 入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任を持って、その向上に努める。
- ・ 基本的な生活習慣の保障。
（生活リズムの維持・ゆたかな遊びの提供・電子メディアからの解放 など）
- ・ 先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障。
- ・ 安全に配慮した「食事」の提供。
- ・ 知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではのくみの提供。
- ・ 産休明けからの子どもたちを対象とした施設であり、子どもたちの命と安全を保障する。
- ・ 保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用を図る。
- ・ 小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。
（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加 など）

(2) 「子育てと仕事・社会的活動の両立」を支援していく

【施策のための具体案】

- ・ 保護者の就労支援により子育てを支える。
- ・ 待機児童の解消に積極的に取り組む。
- ・ 延長保育などの長時間保育の取り組み（スポット利用）を充実する。
- ・ 病児・病後児保育、年末・年始・祝祭日保育への対応を図る。

(3) 家庭・地域の子育てサポートを実施する

～家庭での子育てを支援し、子育てに関する知識や情報を提供・共有化する～

【施策のための具体案】

① 具体的な子育て支援と相談を実施する

- ・これから子どもを産もうとする人への援助、相談。
- ・出産後の相談、援助。
- ・子育ての悩みへの相談、援助。
- ・母親のリフレッシュへの援助。
- ・乳児を中心とした子育て体験学習（離乳食づくり等のノウハウの積極的還元）。
- ・園庭の開放・図書貸し出し。 など

② 子育て支援ネットワーク

- ・「ひろば」「支援センター」などとのネットワークづくり。
- ・子育て支援のボランティアのネットワークづくり。
- ・子育てに関係するサークルのネットワークづくり。 など

(4) 災害時の防災拠点として位置づける

現在、災害時の防災拠点については、学校等を避難所として整備をすすめています。しかし、乳幼児は、大型の避難所では成人の避難者との生活リズムの違いからストレスを受けたり、体調に異変をきたしたりしやすくなります。また、災害時における乳幼児の親のストレスや悩み、不安への対応、災害時に駆けつける職務についている親、社会的活動を行う親とその子どもへの対応も必要です。平時、地域の子育て支援拠点としての役割を担い、地域の事情を把握する保育園を新たに防災拠点として位置づけることが求められます。

【施策のための具体案】

- ・耐震構造とともに、避難に備えたゆとりのある園舎、園庭の整備。
- ・緊急時に的確な指示、対応ができる経験と専門性を兼ね備えた保育士の配置と養成
- ・職員配置、ミルク・食料・紙おむつなどの保管スペースなどの整備。

(5) 保育園を社会的・公共的資源(役割)として活用する

【施策のための具体案】

- ・園庭の開放。
- ・小・中学生の体験学習、ボランティア活動の場とする。
- ・地域の高齢者（施設）との交流と子どもたちが伝統を学ぶ体験活動。
- ・幼児教育大学・専門学校等の学生の乳幼児体験と研究教育へのフィードバック。
- ・行事などを通して家庭のみで子育てをしている親子と保育園に預けている親子の交流。

(6)地域の文化を伝承していく ～子どもを介した地域コミュニティとの接点として～

【施策のための具体案】

- ・散歩、園外保育などを通じた地域を知る機会の提供。
- ・伝統的な遊び、地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加・協力。
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する。
- ・文化伝承のネットワークをつくる。

(7)親が多様な生き方を選択できるような支援を行う

【施策のための具体案】

- ・親の就労を支援する。
- ・専業主婦も孤立せずに子育てができるように支援する。

3. 保育園の機能を高める

保育園が行う子育て支援策を有効なものとしていかなければならない一方、子育てをする上で子育て家庭や子どもが抱える課題も複雑になってきています。こうした課題に的確に対応していくためには、文京区全体の保育の質の維持・向上を図っていくことが大切です。

(1)高い保育技術と専門性を持つ保育士の確保と施設設備等の向上を図る

【施策のための具体案】

- ・新たな人材の育成をすすめる。
- ・年齢の偏りのない人員配置により、高い「保育の質」を次世代へ継承していく。
- ・保育士の研修システムを確立する。
- ・ゆとりある労働環境の整備
- ・ゆとりある園庭、園舎等に向けた施設面での改善

(2)新たな子育て支援の役割を担う体制を強化していく

【施策のための具体案】

- ・ソーシャルワーク体制の確立。
- ・ボランティア受け入れに対しての具体的な方向を検討する。
- ・ボランティアの研修システムを確立していく。
- ・幼稚園・小学校等との連携と地域における支援の場づくり。
- ・小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどとの連携。
- ・小学校の先生、保健師、民生・児童委員など地域の人たちが保育について話し合える場づくり。
- ・小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会の新たな創設。 など

(3) 受け入れ体制を整備する

【施策のための具体案】

①希望すれば保育園に入園できる体制を目指す

- ・ 保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。
- ・ 保育園入園の待機児をなくす。
- ・ 育児休業後に、年度途中でも保育園に入れる制度。
- ・ 通園距離への配慮、きょうだいが別の保育園に通わざるを得ない状況の解消。
- ・ 潜在的な待機児童の解消のために、更なる施設の新設なども検討する。 など

②公設公営保育園の維持

- ・ 現在 17 園ある公設園については、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ・ 保育士が現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し、配置基準通りに配置していく。
- ・ 適切な人員の配置についての検討・目的に則した配置基準の見直しを行う。
(役割の増加に伴う負担への対応)

③良質な民間の保育園・保育施設の参入に対する支援

- ・ 私立認可保育所や認証保育所への補助の拡大について検討する。

④幼稚園や小学校等の区有施設の余裕教室や園庭・校庭を保育園が活用できるようにする

⑤「保育の質」の内容と基準の明確化を検討する

- ⑥保育園の利用に関しては、高所得者については保育料の費用テーブルの改定も聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。ただし、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下につながるような変更でないように十分に配慮する。

4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目

(1)「文京こども園」設置を検討していく

【施策のための具体案】

- ①2歳から幼稚園に通わせられる制度
- ②幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、「長時間」や「2時まで」など、親の生活にあわせて子どもの生活を保障する制度
- ③幼保一元化という既成の概念でなく、①②を実現するための方策について、これまでの事例の検証を踏まえた上での特区申請の可能性
- ④幼稚園と保育園の職員採用時に、保育士・幼稚園教諭両方の資格をもっている人を採用

(2)保育園のクラス人数を減らす

日本のクラスサイズは保育が充実されている諸外国に比べると、大きいのが現状です（ここでは、先生と園児の割合ではなく、一つの教室で生活をともにする園児数のことを指します）。クラスの園児数を減らすことは、ゆとりある保育につながります。

第Ⅶ 保育ビジョンの実現に向けて

1. 保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく。また、検討にあたって以下の点が望まれる。
 - (1) 幼稚園、学童保育、その他の地域・まちづくり施策などとの接合・連携。
 - (2) 実現可能性と区民に適切な行政サービスを提供するための、統計データの整備と市民にわかりやすい図や表の提供（人口の増減や地域分布を示す図表の工夫、文京区内の幼稚園の実情とその利用者に関する統計、調査、データなど）。
 - (3) 行政サービスの現状、とくに現場の実態把握、分析の実施。
2. (1)妊娠中の女性及び産褥期の母子 (2)一人親世帯 (3)子どもが障害や病気等を持っている家族 (4)親が障害や病気等を持っている家族 (5)DV、虐待の被害にあっている母子(疑いがある場合も含む) (6)外国籍、日本語を理解できない家族 (7)その他緊急な対応を迫られるケース等、それぞれについて、親子へのきめ細やかで俊敏な対応ができるシステムの構築の検討を行う。特に、緊急一時保育、障害児の受入態勢については、早急に整備が必要であるとの認識されていることから、早期に検討を開始することが求められる。
3. 文京区の保育機能の拠点である保育園の機能維持と強化に向けて、保育園職員、保護者、専門家等をまじえて「保育の質」についての検討を行うことにより、文京区としての保育の質に関する指針の策定をすすめていく。
4. 予算措置の確保・予算の適正配分を図っていく。

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要がある。

わが国の子育てに係わる予算は、経済規模との比較（対GDP比等）で見た場合、先進国の中では少ない方であるが、文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれる。
5. 文京区の内外に対して積極的なアピールをしていく。

文京区において先駆的な試みが発見されるのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきである。国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこでできる余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となる。そうした実利面のみならず、自分の区にさらに誇りを持てるものとなり、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにもつながっていく。

6. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する。

思春期を見通した子どもの育ちを考えていくためには、文京区で子育てに直接・間接に関わっている主体（行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、医療機関、地域住民等）が、絶えず「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要がある。

その際、以下の点が求められる。

- (1) 定期的に「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
- (2) 「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにする。

7. 地域のネットワークの再生

地域で安心して子育てをしていくために、地域全体で子どもを見守り、子育てを支えてもらえる環境が求められていることから、町会などの従来からの地域活動・ネットワークに加えて、商店や事業所・NPOなどに、積極的に子育て支援の取り組みに加わってもらうよう働きかけ、支援していく。

8. 保育ビジョンの見直し

社会の変化に応じて、育児をめぐる課題、子どもがその育ちの上で抱える課題も変化するものと思われる。また、今後、子どもや子育て家庭、家族、国、自治体レベルでの保育、幼教育幼稚園・教育、育児支援政策の変化も想定される。将来時代にあわなくなっていく部分が出てくることが予想される。そこで、本ビジョンを時代の変化に即応するのみならず、先見性のあるものへと適宜改訂していくことが望ましい。

その際、以下の点が求められる。

- (1) 本ビジョンの方向性が、保育園、幼稚園、小・中学校、学童保育、保健・医療分野、社会教育分野、さらには地域の多様な社会資源等と段階的に接合され、より包括的、総合的ビジョンへと発展させること。
- (2) 子育て支援利用者層の増減、年齢別、地域別変化や居住環境の変化を踏まえた中長期的ビジョンであることが望まれる。
- (3) 特に、幼稚園、保育所については、設置された地域の対象年齢層の増減に影響をうけることから、保育サービスを量的・質的に確保する上で、人口動態を地域別・年齢層別で的確に把握しつつ、中長期的な展望にたって施設と人材の確保を検討されたい。

参 考 资 料

資料 1

文京区保育ビジョン策定の体制

目 次

1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会設置要綱 35
2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会委員名簿 37
3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会開催状況 38

1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会設置要綱

18 文男保第 233 号平成 18 年 5 月 29 日区長決定

(設置)

第 1 条 文京区の保育行政全般に係る指針となる文京区保育ビジョン（以下「保育ビジョン」という。）に規定する内容を検討するため、文京区保育ビジョン策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、区長の依頼を受け、保育ビジョンに規定すべき内容について検討し、報告する。

(委員)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者のうちから区長が委嘱又は任命する委員 20 人以内をもって組織する。

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 文京区町会連合会の構成員 | 1 人 |
| (2) 文京区女性団体連合会の構成員 | 1 人 |
| (3) 文京区民生・児童委員協議会の構成員 | 1 人 |
| (4) 文京区青少年対策地区委員会連絡会の構成員 | 1 人 |
| (5) 文京区立保育園在園児の保護者 | 5 人 |
| (6) 文京区内の私立保育園の設置者又は管理者 | 1 人 |
| (7) 文京区内の認証保育園の設置者又は管理者 | 1 人 |
| (8) 公募委員 | 4 人 |
| (9) 学識経験者 | 2 人 |
| (10) 区職員 | 3 人 |

2 前項第 5 号に規定する委員は、別に定めるところにより募集する。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱又は任命した日から平成 19 年 3 月末日までとする。

(欠員)

第 5 条 委員に欠員が生じたときは、これを補充しない。

(会長及び副会長)

第 6 条 委員会に会長を置き、学識経験者の中から委員の互選により選任する。

2 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員会に副会長を 1 人置き、委員のうちから会長が指名する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 7 条 委員会は、会長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(幹事)

第 8 条 委員会に幹事を置く。

2 幹事は、区職員のうちから区長が指名する。

3 幹事は、委員会に出席するものとする。

(委員以外の出席)

第9条 会長は、必要があると認めたときは、委員以外の者に対し委員会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第10条 委員会は、公開とする。ただし、委員会の決定により、非公開とすることができる。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、男女協働子育て支援部保育課において処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、男女協働子育て支援部長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成18年5月29日から施行する。

2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会委員名簿

	区 分	職名または推薦団体	氏名(敬称略)
会 長	学識経験者	東京大学大学院教授	汐見 稔幸
副会長	〃	ジャーナリスト	萩原 久美子
委 員	団 体 推 薦	文京区民生委員・児童委員協議会	佐々木 陽穂
〃	〃	文京区女性団体連絡会	大川 米子
〃	〃	文京区町会連合会	小林 信男
〃	〃	文京区青少年対策地区委員会	深谷 純子
〃	〃	区内私立保育園関係者(たんぼぼ保育園園長)	菅原 良次
〃	〃	区内認証保育所関係者(なかよしの家保育園理事)	飯田 恭
〃	〃	文京区認可保育園父母の会連絡会(～平成18年10月3日)	浦中 祥子
〃	〃	〃 (平成18年10月4日～)	安達 陽子
〃	〃	〃	高橋 修平
〃	〃	〃	高橋 万由美
〃	〃	〃 (～平成18年10月3日)	武田 克明
〃	〃	〃 (平成18年10月4日～)	森 吉弘
〃	〃	〃	久武 昌人
〃	公 募 委 員		紀野 美重子
〃	〃		藤田 くる美
〃	〃		安江 とも子
〃	〃		小林 大作
〃	区 職 員	男女協働子育て支援部長	大角 保廣
〃	〃	しおみ保育園園長	根岸 かをる
〃	〃	水道保育園園長	吉田 シズ子
幹 事		男女協働子育て支援部保育課長	久住 智治
〃		男女協働子育て支援部児童青少年課長	畑山 二男

3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会開催状況

会議開催実績		主な審議内容等
第1回	平成18年9月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 策定検討委員会会長・副会長の選出について 2. 策定検討委員会会長への検討依頼 3. 委員紹介 4. フリーディスカッション 5. 今後のスケジュール並びに運営について
第2回	平成18年10月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新委員紹介 2. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について 3. 調査について
第3回	平成18年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について 2. 調査について
第4回	平成18年11月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について 2. 調査について
第5回	平成18年11月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ 骨子（案）について 2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ に向けた議論の整理について
第6回	平成18年12月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ に向けた議論の整理について（第2グループ） 2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ （案）について 3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ での記載事項の整理について 4. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ の記載に関する委員意見について 5. 今後のスケジュールについて
第7回	平成19年2月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 「最終報告」の取りまとめについて 3. 「中間のまとめ」に対する区民からの意見について 4. アンケート等の実施結果について 5. その他
第8回	平成19年2月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 「最終報告」の取りまとめについて 3. その他
第9回	平成19年3月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 「最終報告」について 3. その他

※「文京区保育ビジョン策定検討委員会中間報告書」作成にあたっては、策定検討委員会委員による4つのワーキンググループでの検討作業が行われた（延べ12回開催）。

資料 2

文京区における保育の状況

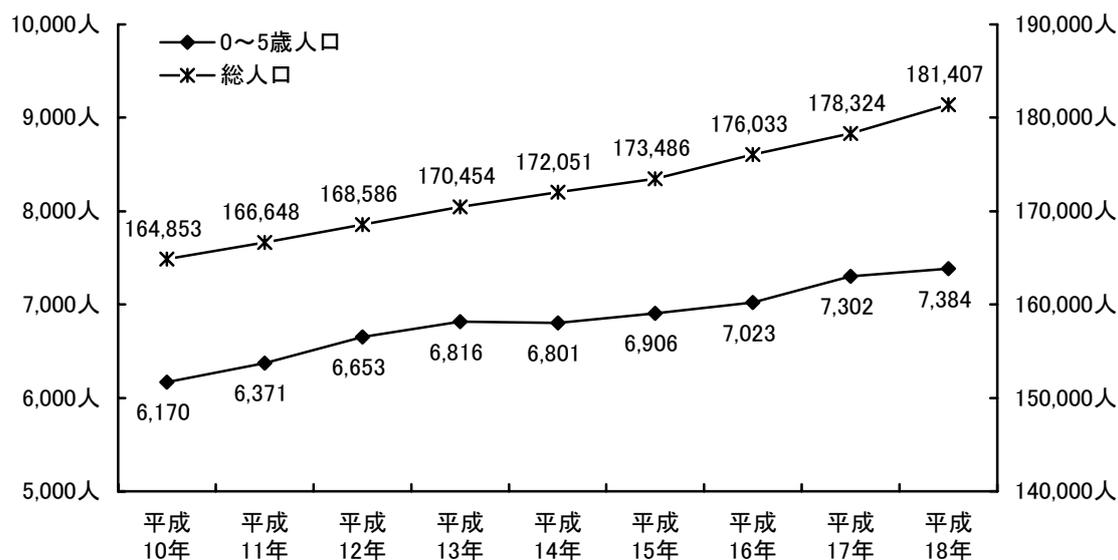
目 次

1. 総人口と就学前人口	41
2. 出生数と合計特殊出生率	44
3. 住まいの状況	45
4. 就学前児童の保育状況	46
5. 保育施設等の整備状況	47
6. 子育て支援施設等の状況	50
7. 個別の支援を必要とする家庭の状況	53
8. 子育て環境(公園の整備状況)	56

1. 総人口と就学前人口

- ・ 文京区の総人口は、平成 10 年を境に翌年から増加に転じ、以降、増加し続けている。
- ・ これに伴い 0～5 歳の就学前人口も増加傾向にある。
- ・ 人口に占める 0～5 歳人口の割合は都内で上から 14 番目、23 区平均を下回っている。

[総人口及び 0～5 歳人口の推移]



単位：人

	平成 10年	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年
0 歳	998	1,069	1,112	1,126	1,122	1,096	1,130	1,215	1,174
1 歳	1,000	1,043	1,111	1,170	1,142	1,152	1,128	1,214	1,251
2 歳	1,016	1,044	1,048	1,136	1,148	1,154	1,174	1,152	1,246
3 歳	1,061	1,082	1,083	1,103	1,158	1,176	1,182	1,224	1,188
4 歳	994	1,106	1,147	1,099	1,135	1,167	1,210	1,255	1,238
5 歳	1,101	1,027	1,152	1,182	1,096	1,161	1,199	1,242	1,287
合計	6,170	6,371	6,653	6,816	6,801	6,906	7,023	7,302	7,384
対前年増減	—	201	282	163	-15	105	117	279	82
総人口	164,853	166,648	168,586	170,454	172,051	173,486	176,033	178,324	181,407
0～5 歳人口の対人口比	3.74%	3.82%	3.95%	4.00%	3.95%	3.98%	3.99%	4.09%	4.07%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

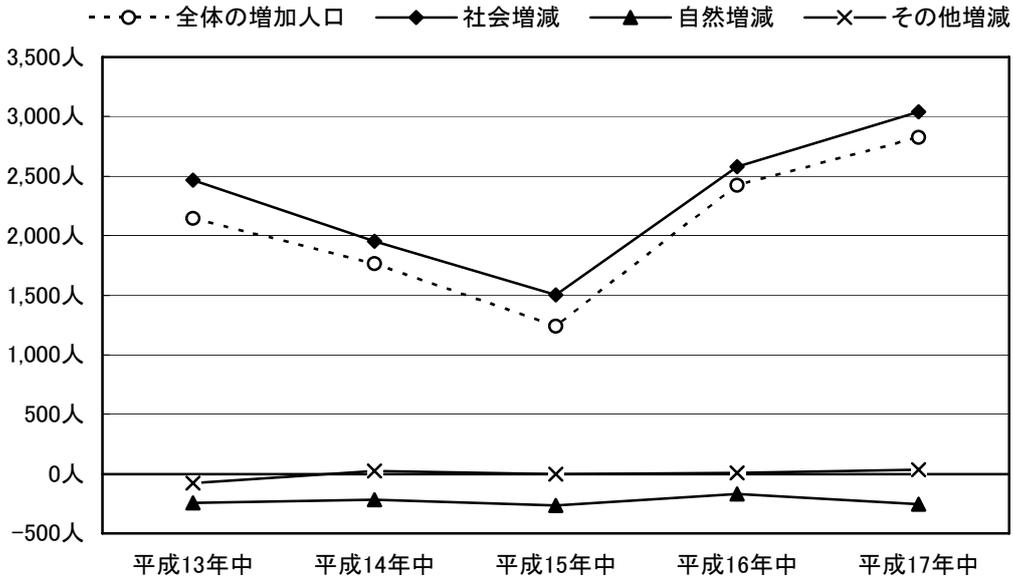
[0～5 歳人口の対人口比の 23 区比較]

	自治体名	比率		自治体名	比率
1 位	江戸川区	6.26%	14 位	文京区	4.10%
2 位	練馬区	5.16%	15 位	北区	3.99%
3 位	足立区	5.16%	16 位	目黒区	3.99%
4 位	江東区	5.11%	17 位	千代区	3.95%
5 位	葛飾区	5.09%	18 位	杉並区	3.82%
6 位	大田区	4.74%	19 位	台東区	3.82%
7 位	板橋区	4.70%	20 位	渋谷区	3.74%
8 位	中央区	4.54%	21 位	中野区	3.62%
9 位	荒川区	4.53%	22 位	新宿区	3.59%
10 位	墨田区	4.53%	23 位	豊島区	3.43%
11 位	港区	4.42%	東京 23 区平均		4.60%
12 位	世田谷区	4.40%	東京都平均		4.81%
13 位	品川区	4.21%			

資料：東京都総務局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」（平成 18 年 1 月現在）

- ・近年の人口の増加は、都心回帰により、転入が転出を上回ったことによる社会増に支えられている。
- ・年齢階層別にみると、25～44歳が増加していることがわかる。

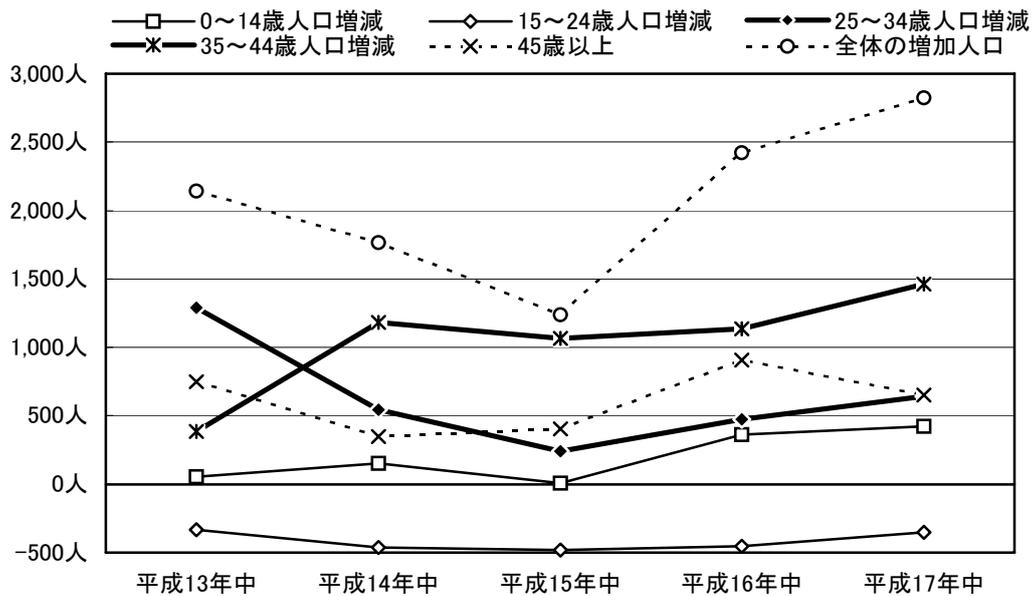
[変動要因別の人口の動き]



資料：文京の統計

※「社会増減」は転入と転出の差、「自然増減」は出生と死亡の差、「その他増減」は外国人の増減

[年齢階層別の人口の動き]

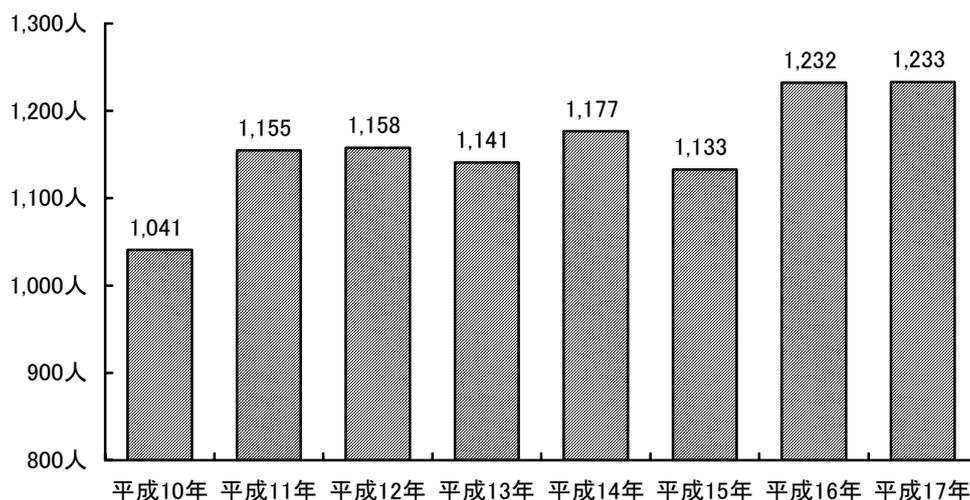


資料：住民基本台帳人口

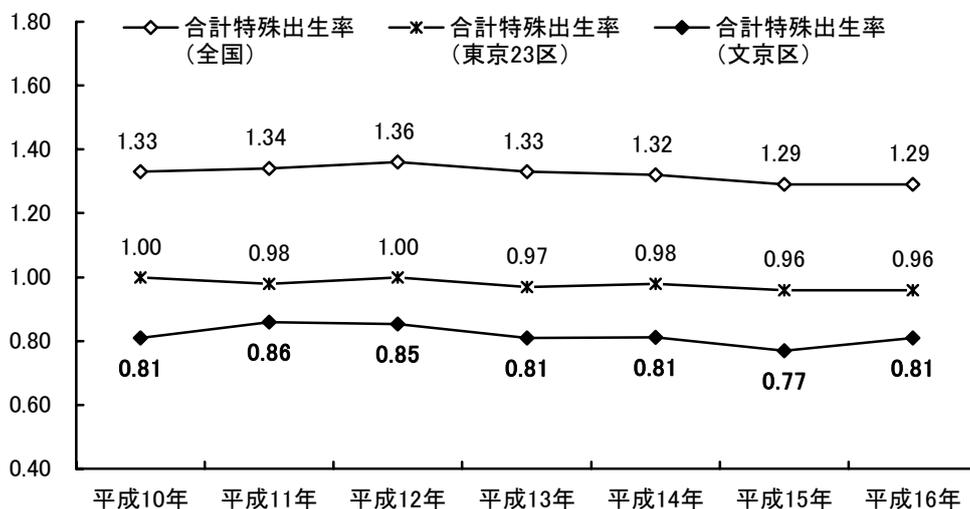
2. 出生数と合計特殊出生率

- 一人の女性が生涯に生む平均子ども数を表す合計特殊出生率は、平成16年で0.81と1.00を下回り、23区平均と比べても低い状況にある。

[出生数の推移]



[合計特殊出生率の推移]

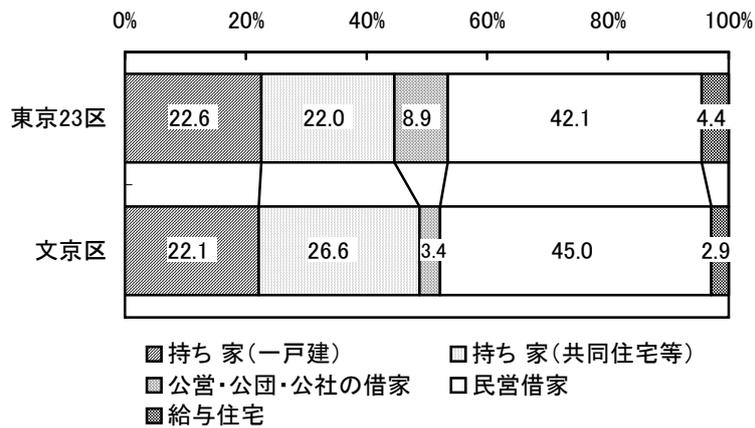


資料：文京区及び東京23区：東京都福祉保健局「人口動態統計年報」
 全国：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

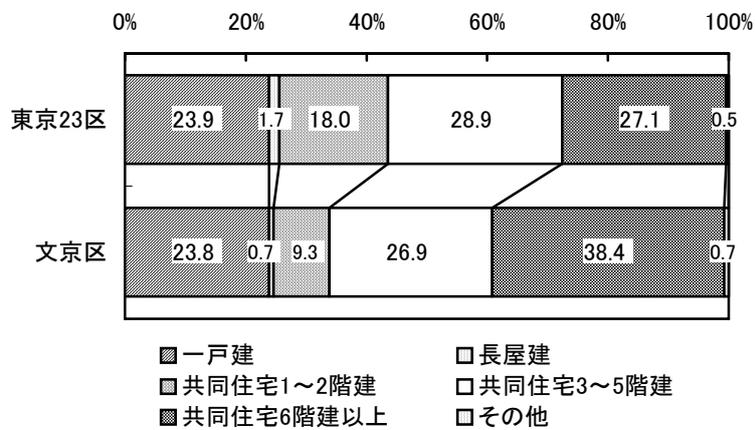
3. 住まいの状況

- ・ 文京区民が住んでいる住宅の4割強は、民間の借家。
- ・ 4割弱が6階建以上の高層住宅に居住している。

[住宅形態]



[住宅の階数]

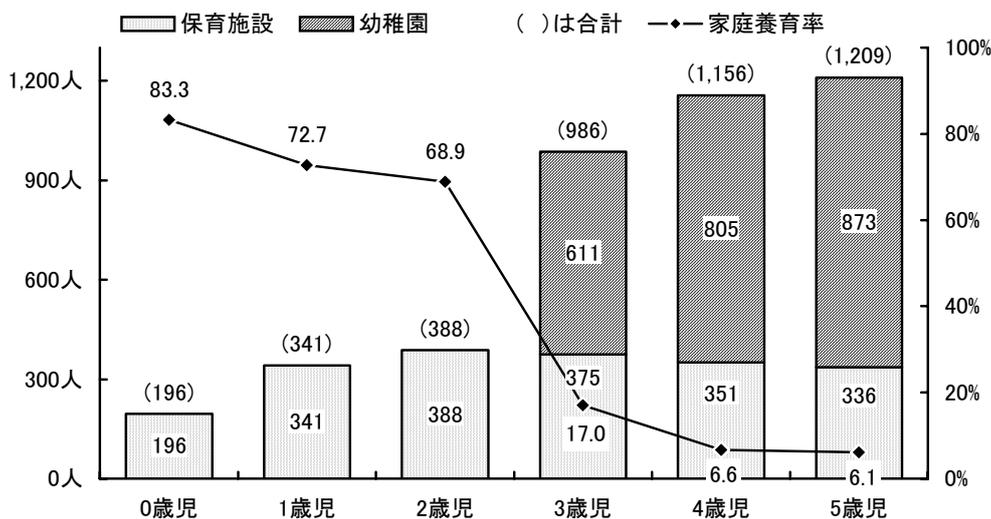


資料：総務省統計局「平成15年 住宅・土地統計調査」

4. 就学前児童の保育状況

- ・ 0歳児の8割台、1・2歳児の7割前後は、家庭で養育されている。
- ・ 0歳児の2割弱、1歳児以上の3割前後が、日中を保育園等の保育施設で過ごしている。

[就学前児童の保育状況]



※平成18年5月1日現在

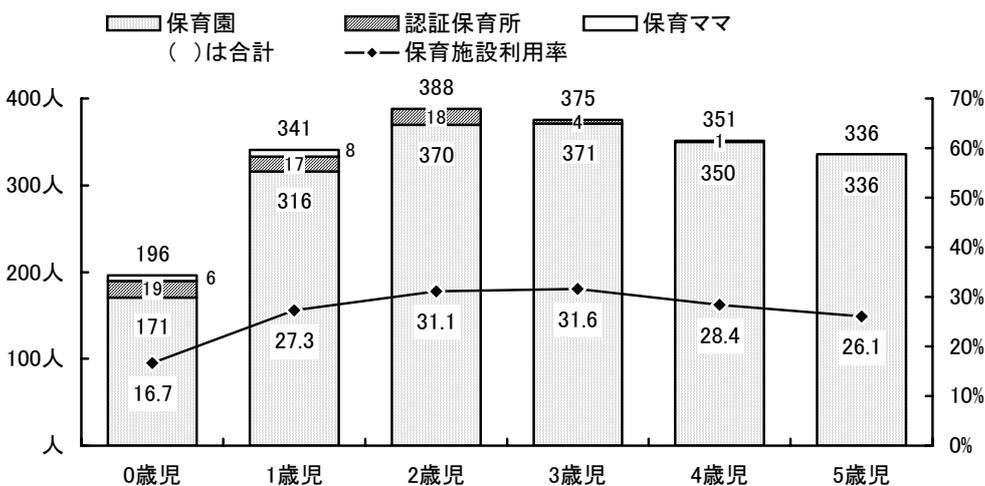
※文京区民の状況（管外委託児・区外への通園児を含み、管外受託児・区外からの通園児を除く）
但し、国立幼稚園通園児数は含まれていない

※保育施設は、保育園、認証保育所、保育ママの合計

※家庭養育率＝年齢別保育サービス・幼稚園未利用者数／年齢別人口

（平成18年4月1日現在住民基本台帳人口）

[保育施設等の利用状況]



※平成18年5月1日現在

※保育園は管外委託児を含み、管外受託児を除く人数

※保育施設利用率＝年齢別保育施設利用者数／年齢別人口

（平成18年4月1日現在住民基本台帳人口）

5. 保育施設等の整備状況

(1) 保育施設の整備状況

- ・ 文京区の保育園については、千代田区、中央区、港区と並び、公立保育園の割合が高いことが特徴。
- ・ 平成 18 年に保育園と幼稚園が一体となった施設(柳町こどもの森)が開設された。待機児童数は約 50 人となっている。
- ・ 保育園のほか、認証保育所、保育ママなどで、就学前児童の保育が実施されている。

[公立保育園整備状況]

		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4・5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	144人	265人	316人	343人	616人	1,684人	19園
	園児数	144人	263人	307人	346人	636人	1,696人	—
平成 18 年	定員数	144人	273人	326人	356人	622人	1,721人	20園
	園児数	133人	271人	322人	348人	642人	1,716人	—

※各年 5 月 1 日現在

[私立保育園整備状況]

		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4・5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	42人	44人	47人	18人	36人	187人	3園
	園児数	46人	46人	46人	23人	44人	205人	—
平成 18 年	定員数	42人	44人	47人	18人	36人	187人	3園
	園児数	38人	45人	48人	23人	44人	198人	—

※各年 5 月 1 日現在

[保育園整備率]

	定員数			整備率	公立保育園 定員の割合
	公立保育園	私立保育園	合 計		
文 京 区	1,684人	187人	1,871人	25.9%	90.0%
東京 23 区	77,060人	26,250人	103,310人	27.3%	74.6%

資料：第 38 回文京の統計（平成 17 年 5 月 1 日現在）

※整備率＝定員数／0～5 歳人口（平成 17 年 1 月 1 日現在住民基本台帳人口）

[保育園待機児童の状況]

		0歳	1歳	2歳	3歳	4・5歳	合計
平成17年	待機児数	15人	19人	3人	12人	19人	68人
	待機率	10.4%	7.2%	1.0%	3.5%	3.0%	4.0%
平成18年	待機児数	7人	33人	4人	4人	5人	53人
	待機率	5.3%	12.2%	1.2%	1.1%	0.8%	3.1%

※各年5月1日現在

※認証保育所・家庭福祉員（保育ママ）等で保育されている場合は、待機児童に含まれない

※待機率＝待機児数／園児数（各年5月1日現在）

[認証保育所整備状況]

		0歳	1歳	2歳	3歳	4・5歳	合計	施設数
平成17年	定員数	22人	23人	9人	8人	2人	64人	3園
	園児数	10人	20人	8人	3人	0人	41人	—
平成18年	定員数	25人	29人	12人	11人	2人	79人	3園
	園児数	19人	17人	18人	4人	1人	59人	—

※各年5月1日現在

[保育ママの状況]

		0歳	1歳	2歳	合計	保育ママ数
平成17年	定員数	—	—	—	30人	10人
	受託児数	14人	2人	3人	19人	—
平成18年	定員数	—	—	—	27人	9人
	受託児数	6人	8人	0人	14人	—

※各年5月1日現在

(2) 幼稚園の整備状況

- ・ 幼稚園は区内に 26 か所。

[区立幼稚園整備状況]

		3 歳	4 歳	5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	90 人	410 人	410 人	910 人	10 園
	園児数	87人	266人	333人	686人	—
平成 18 年	定員数	90人	422人	422人	934人	10 園
	園児数	85人	270人	312人	667人	—

※各年 5 月 1 日現在

[私立幼稚園整備状況]

		3 歳	4 歳	5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	660人	785人	790人	2,245人	16 園
	園児数	583人	560人	583人	1,726人	—
平成 18 年	定員数	660人	785人	790人	2,245人	16 園
	園児数	580人	596人	568人	1,744人	—

※各年 5 月 1 日現在

※園児数は、区内にある私立幼稚園の在園児数（区外からの通園児を含み、区外への通園児は含んでいない）

6. 子育て支援施設等の状況

- ・ 一時保育事業、病後児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業、子ども家庭支援センターなどの子育て支援施設(サービス)の利用は伸びている。

[緊急一時保育]

保護者又は家族が病気、出産等により緊急に保育に困る家族に対し、生後4ヶ月から小学校に就学前までの児童を「緊急一時保育所」で一時的に預かり保育する。昭和53年10月から保育員制度により開始(平成18年4月1日からは「緊急一時保育所」を3園で実施)。

- ①さしがや保育園(白山2-32-6) 定員3人
- ②しおみ保育園(千駄木2-27-8) 定員3人
- ③本駒込南保育園(本駒込3-11-14) 定員3人

受託理由	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	受託児	日数								
出産	13人	59日	16人	122日	26人	205日	28人	167日	24人	195日
病気	78人	390日	83人	501日	97人	503日	80人	513日	86人	365日
看護	35人	128日	27人	224日	48人	261日	15人	98日	35人	158日
待機	40人	581日	11人	149日	3人	44日	8人	124日	7人	99日
その他	121人	546日	103人	345日	120人	390日	119人	344日	192人	460日
合計	287人	1,704日	240人	1,341日	294人	1,403日	250人	1,246日	344人	1,277日

[一時保育事業]

(1) 一時預かり保育事業(キッズルーム)

- ・ 場 所: 春日1-16-21(文京シビックセンター3階)
- ・ 開所日時: 月曜～日曜の午前9時～午後10時(年末年始及び臨時休館日を除く)
- ・ 定 員: 10人
- ・ 保育対象: 満1歳から小学校就学前
- ・ 利用数: 1日1階(3時間以内)、月10回まで
- ・ 利用要件: 保護者が次のいずれかに該当する場合
 - ①学校等の行事参加 ②地域・社会・文化活動参加 ③通院、看護、休養及び冠婚葬祭

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
登録者数	345人	661人	1,048人
延利用者数	572人	1,179人	1,900人

※平成15年度は10月1日から3月31日までの実績

(2) 目白台一時保育所・・・事業開始 平成18年5月

- ・ 場 所: 目白台3-18-7(目白台総合センター1階)
- ・ 開所日時: 月曜～土曜の午前8時～午後6時(国民の休日及び年末年始除く)
- ・ 定 員: 12人
- ・ 保育対象: 満1歳から小学校就学前
- ・ 利用数: 月10回まで

[病後児保育事業]

児童が病気の回復期にあり集団保育が困難な時期に、保護者が仕事等で保育が出来ない場合に医療機関で一時的に保育を行う（平成16年12月10日より開始）。

- ・場所：保坂こどもクリニック（保坂病児保育ルーム） 白山 5-27-12
- ・定員：4人

	平成16年度	平成17年度
利用者数	143人	679人
開設日数	72日	243日

※平成16年度は、12月10日から3月31日までの実績

[ファミリー・サポート・センター事業]

緊急や私用の場合等、臨時的・単発的な保育需要に応えるため、子育ての援助を行う提供会員と援助を受ける依頼会員とからなる会員組織により、地域の中で子育ての相互援助活動を行う。

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
依頼会員数	410人	635人	864人	1,073人	1,298人
提供会員数	108人	142人	149人	164人	175人
両方会員数	21人	38人	40人	49人	56人
総活動回数	2,748件	4,892件	5,478件	5,745件	6,667件

[子育てひろば]

保護者とお子さんと一緒に安心して遊びながら過ごすことのできる施設。子育て相談も行う。

- ・開 放 日：月曜日～金曜日
- ・開放時間：午前10時～午後3時
- ・場 所：①子育てひろば西片（元文京区立西片幼稚園）西片 1-8-15
②子育てひろば汐見（元文京区立汐見幼稚園）千駄木 2-19-23

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
西片	登録幼児数	515人	575人	579人	555人	625人
	延利用者数(幼児)	7,047人	7,858人	7,159人	6,162人	7,180人
	延利用者数(保護者)	6,097人	7,243人	6,683人	5,502人	6,061人
汐見	登録幼児数	573人	596人	616人	577人	566人
	延利用者数(幼児)	9,717人	10,040人	11,041人	8,894人	9,358人
	延利用者数(保護者)	8,779人	9,050人	9,746人	8,142人	8,624人

[子ども家庭支援センター…事業開始 平成15年10月]

場所：春日 1-16-21 文京シビックセンター12階（「ぴよぴよひろば」は3階）

(1)総合相談事業

対象：区内在住の18歳未満の方とその保護者等

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
一般相談延相談件数	241件	549件	555件
専門相談延相談件数	25件	42件	43件
児童虐待延相談件数	82件	130件	155件
合計	266件	591件	598件

※専門相談：臨床心理士等による相談

(2)親子ひろば事業(ぴよぴよひろば)

区内在住の3歳未満の親子が楽しく遊びながら、他の親子との交流や情報交換を図る場。

利用時間：平日の午前10時から午後4時

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
登録者数	533人	1,070人	1,435人
延利用者数	3,616人	9,748人	10,855人

(3)子育て支援講座

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
開催回数	7回	13回	14回
延参加者数	151人	200人	201人

(4)親子ひろばの行事

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
開催回数	—	7回	7回
延参加者数	—	62人	206人

※平成15年度は、いずれも10月1日から3月31日までの実績

7. 個別の支援を必要とする家庭の状況

(1)ひとり親家庭の状況

- ・ひとり親家庭等の子どもを対象とする児童育成手当(育成手当)の平成17年度の受給者数は、平成13年度時点の約1.5倍に増加している。

[児童育成手当(区の制度)受給者数の推移]

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
育成手当	811人	859人	1,142人	1,255人	1,213人
障害手当	53人	61人	50人	69人	73人

※各年年度末現在

【支給要件】

①育成手当：18歳に到達した年度の末日以前の児童で次のいずれかに該当する児童

- (ア) 父母が離婚した児童
- (イ) 父または母が死亡した児童
- (ウ) 父または母が生死不明である児童
- (エ) 父または母に1年以上遺棄されている児童
- (オ) 父または母が法令により1年以上拘禁されている児童
- (カ) 父または母が重度の障害を有する児童(身体障害者手帳1・2級程度)
- (キ) 婚姻によらないで生まれ、父から扶養されていない児童

②障害手当：20歳未満で、次の程度の障害のある児童

- (ア) 知的障害で「愛の手帳」1・2・3度程度
- (イ) 身体障害で「身体障害者手帳」1・2級程度
- (ウ) 脳性麻痺または進行性筋萎縮症

(2) 障害児の状況

- ・ 障害のある乳幼児に対しては、区立保育園・幼稚園での保育、心身障害者(児)福祉センターでの児童デイサービスを実施している。

[保育園・幼稚園における障害児受け入れ者数の推移]

区立保育園

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
1歳児	0人	1人	1人
2歳児	1人	0人	2人
3歳児	2人	3人	1人
4歳児	3人	3人	3人
5歳児	6人	5人	4人
合 計	12人	12人	11人

区立幼稚園

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
3歳児	1人	3人	1人
4歳児	12人	5人	12人
5歳児	11人	13人	7人
合 計	24人	21人	20人

※各年5月1日現在

[心身障害者(児)福祉センター 児童デイサービス事業利用者数の推移]

乳幼児:入退所状況

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	
年度当初在籍者数	20人	12人	14人	13人	15人	
年 度 内	入所者	8人	11人	9人	8人	12人
	延在籍者数	28人	23人	23人	21人	27人
	退所者数	16人	9人	10人	6人	13人
年度末在籍者	12人	14人	13人	15人	14人	

乳幼児:年齢別延在籍者数

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
0~3歳	16人	12人	5人	12人	15人
4~6歳	12人	11人	18人	9人	12人

※平成 15 年度から支援費制度に基づく児童デイサービスとして実施

(3)子どもの虐待の状況

- ・子どもの虐待に関する相談者数は、年々増加する傾向にある。

[子ども家庭支援センターにおける児童虐待に関する相談者数の推移]

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
0～3歳未満	0人	5人	3人
3～就学前児童	6人	7人	15人
小学生	4人	17人	19人
中学生	1人	3人	4人
高校生・その他	0人	3人	1人
合 計	11人	35人	42人

※単位実人数

※平成 15 年度は、10 月 1 日から 3 月 31 日までの実績

8. 子育て環境(公園の整備状況)

- ・ 文京区の公園・児童遊園数は 113 か所。
- ・ 区面積に対する公園面積は都内で上から 15 番目、区民 1 人あたり公園面積は 16 位で、いずれも 23 区の中では低い。

[東京 23 区の公園整備状況の比較]

	自治体名	区面積に対する公園面積比率		自治体名	区民 1 人あたり公園面積
1 位	江戸川区	14.7%	1 位	千代田区	42.2 m ²
2 位	千代田区	14.6%	2 位	江戸川区	11.3 m ²
3 位	渋谷区	10.8%	3 位	江東区	9.5 m ²
4 位	江東区	10.0%	4 位	港区	8.6 m ²
5 位	台東区	7.6%	5 位	渋谷区	8.1 m ²
15 位	文京区	4.6%	16 位	文京区	2.8 m ²
東京 23 区平均		6.0%	東京 23 区平均		4.5 m ²

資料：財団法人特別区協議会「特別区統計情報システム」(平成 17 年度)

資料 3

文京区の地域別人口の推移

目 次

区全体の人口の推移・推計	59
地域別人口の推移	62
礪川地域	63
大原地域	64
大塚地域	65
音羽地域	66
湯島地域	67
向丘地域	68
汐見地域	69
根津地域	70
駒込地域	71

区全体の人口の推移・推計

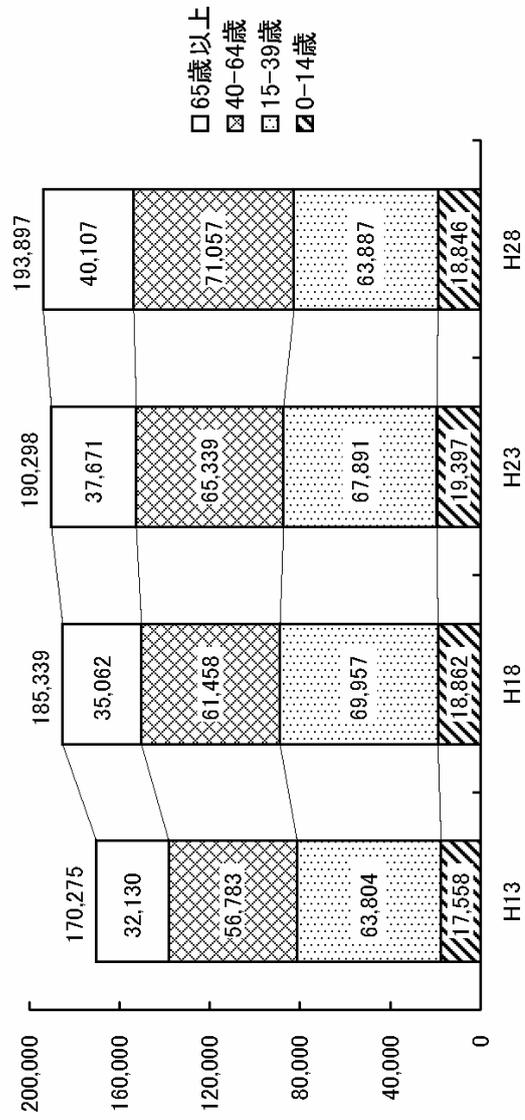
	H13	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
0-4歳	5,550	6,176	6,176	6,176	6,176	6,176	6,035	5,893	5,751	5,609	5,468	5,251
5-9歳	5,718	6,422	6,517	6,613	6,708	6,802	6,802	6,802	6,802	6,802	6,802	6,644
10-14歳	6,290	6,264	6,313	6,364	6,413	6,463	6,560	6,658	6,756	6,854	6,951	6,951
15-19歳	7,822	7,126	7,033	6,938	6,845	6,751	6,802	6,854	6,906	6,958	7,009	7,113
20-24歳	13,751	13,201	12,798	12,395	11,992	11,590	11,468	11,349	11,226	11,107	10,985	11,050
25-29歳	15,860	16,461	16,064	15,666	15,269	14,871	14,522	14,171	13,824	13,473	13,124	13,042
30-34歳	13,653	17,205	17,204	17,201	17,200	17,198	16,805	16,411	16,017	15,623	15,230	14,884
35-39歳	12,718	15,964	16,549	17,134	17,719	18,304	18,294	18,282	18,271	18,259	18,249	17,798
40-44歳	10,936	14,107	14,583	15,060	15,536	16,013	16,632	17,250	17,870	18,488	19,107	19,088
45-49歳	10,867	11,802	12,263	12,724	13,185	13,646	14,127	14,608	15,090	15,571	16,052	16,678
50-54歳	13,885	11,536	11,418	11,301	11,183	11,064	11,512	11,960	12,408	12,856	13,304	13,776
55-59歳	11,168	12,728	12,350	11,973	11,595	11,219	11,105	10,993	10,879	10,767	10,653	11,084
60-64歳	9,927	11,285	11,544	11,801	12,060	12,319	11,963	11,607	11,251	10,895	10,539	10,431
65-69歳	9,582	9,609	9,759	9,909	10,059	10,209	10,447	10,685	10,922	11,160	11,398	11,067
70-74歳	8,131	8,624	8,619	8,613	8,608	8,602	8,735	8,868	9,003	9,136	9,269	9,484
75-79歳	6,351	7,172	7,243	7,311	7,382	7,451	7,447	7,442	7,437	7,432	7,428	7,539
80-84歳	4,208	5,090	5,213	5,334	5,457	5,578	5,631	5,683	5,735	5,787	5,840	5,838
85歳以上	3,858	4,567	4,738	4,907	5,078	5,248	5,411	5,573	5,736	5,898	6,061	6,179
総人口	170,275	185,339	186,384	187,420	188,465	189,504	190,298	191,089	191,884	192,675	193,469	193,897
増加率			1.01	1.01	1.01	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
0-4歳率	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	2.8%	2.7%
高齢化率	18.9%	18.9%	19.1%	19.2%	19.4%	19.6%	19.8%	20.0%	20.2%	20.5%	20.7%	20.7%

※単位：人（各年1月1日現在人口）

※平成13年は住民基本台帳人口

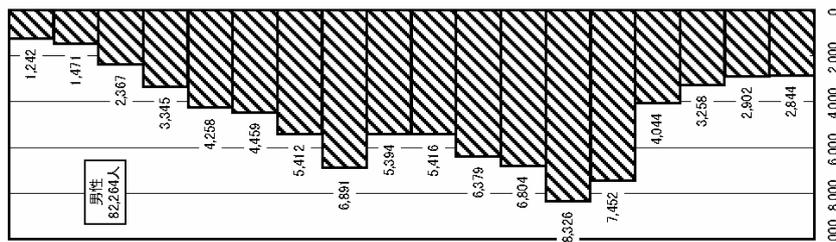
※平成18年以降は、平成12と平成17年の人口をもとに、コーホート変換率法により推計した推計値。

人口の推移

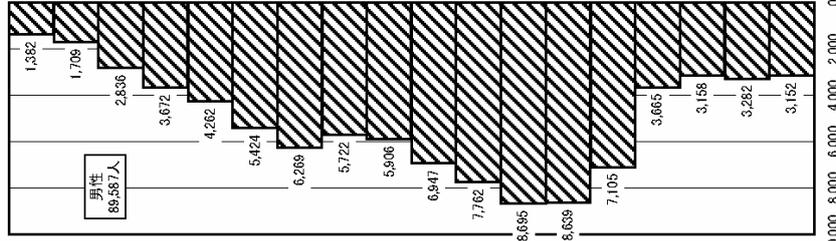


人口ピラミッド

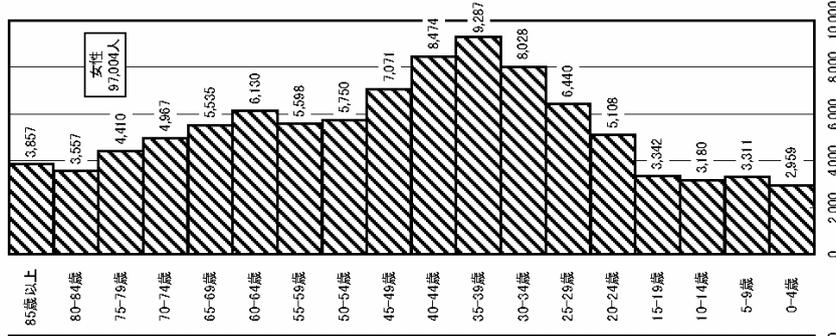
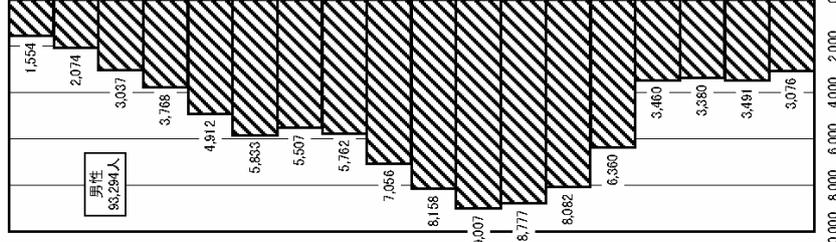
平成13年



平成18年



平成23年



地域別人口の推移（実績）

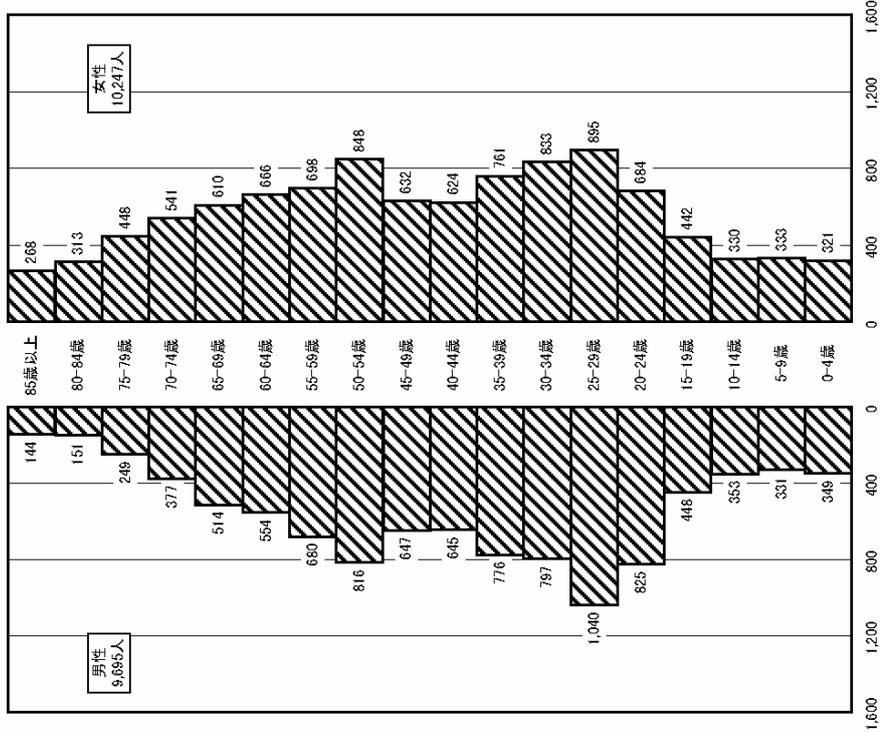
	礪川地域		大原地域		大塚地域		音羽地域		湯島地域		向丘地域		汐見地域		根津		駒込地域	
	H13	H18	H13	H18	H13	H18												
0-4歳	671	905	1,041	1,142	927	1,015	537	643	472	548	391	427	476	443	271	259	764	749
5-9歳	664	770	1,175	1,213	1,007	1,088	549	636	488	530	455	490	412	495	209	224	759	874
10-14歳	683	774	1,211	1,210	1,101	1,084	630	582	574	547	507	474	493	457	235	195	857	785
15-19歳	890	833	1,383	1,274	1,368	1,195	957	768	704	602	592	543	577	516	292	243	1,060	898
20-24歳	1,509	1,455	2,280	2,061	2,434	2,229	1,674	1,532	1,445	1,446	1,120	1,066	1,002	839	629	509	1,660	1,481
25-29歳	1,935	2,017	2,718	2,600	2,649	2,659	1,569	1,640	1,765	1,982	1,313	1,169	1,257	1,228	735	695	1,920	1,820
30-34歳	1,630	2,410	2,466	2,871	2,276	2,833	1,316	1,736	1,360	1,829	1,076	1,272	1,234	1,262	592	690	1,703	1,993
35-39歳	1,537	2,143	2,382	2,744	2,183	2,483	1,198	1,482	1,138	1,523	945	1,112	1,120	1,227	554	643	1,662	1,790
40-44歳	1,268	1,914	2,055	2,434	1,868	2,305	1,068	1,371	1,000	1,297	824	1,019	962	1,130	463	564	1,428	1,703
45-49歳	1,279	1,443	1,967	2,036	1,866	1,934	1,083	1,117	1,084	1,085	773	829	912	934	410	461	1,494	1,426
50-54歳	1,665	1,371	2,485	1,849	2,260	1,835	1,434	1,115	1,487	1,117	990	787	1,077	875	632	421	1,857	1,440
55-59歳	1,377	1,722	2,031	2,368	1,749	2,155	1,103	1,418	1,263	1,456	834	965	873	1,023	463	620	1,475	1,782
60-64歳	1,220	1,333	1,841	1,870	1,597	1,630	943	1,029	1,068	1,234	680	790	809	815	450	435	1,320	1,381
65-69歳	1,124	1,169	1,750	1,699	1,521	1,491	905	865	1,093	1,000	734	641	761	764	409	430	1,286	1,218
70-74歳	918	1,053	1,568	1,590	1,297	1,375	759	809	910	983	600	687	670	696	345	384	1,064	1,165
75-79歳	697	797	1,219	1,359	952	1,116	577	646	720	823	491	529	540	596	286	318	870	940
80-84歳	464	600	762	964	667	734	404	478	469	604	319	399	365	450	193	228	564	713
85歳以上	412	475	762	827	616	725	356	452	448	541	309	341	302	425	191	220	463	626
総人口	19,941	23,182	31,097	32,110	28,335	29,882	17,058	18,316	17,486	19,147	12,953	13,538	13,841	14,171	7,359	7,539	22,206	22,783
増加率		1.16		1.03		1.05		1.07		1.09		1.05		1.02		1.02		1.03
0-4歳率	3.4%	3.9%	3.3%	3.6%	3.3%	3.4%	3.1%	3.5%	2.7%	2.9%	3.0%	3.2%	3.4%	3.1%	3.7%	3.4%	3.4%	3.3%
高齢化率	18.1%	17.7%	19.5%	20.1%	17.8%	18.2%	17.6%	17.7%	20.8%	20.6%	18.9%	19.2%	19.1%	20.7%	19.4%	21.0%	19.1%	20.5%

※単位：人（各年1月1日現在、住民基本台帳人口）

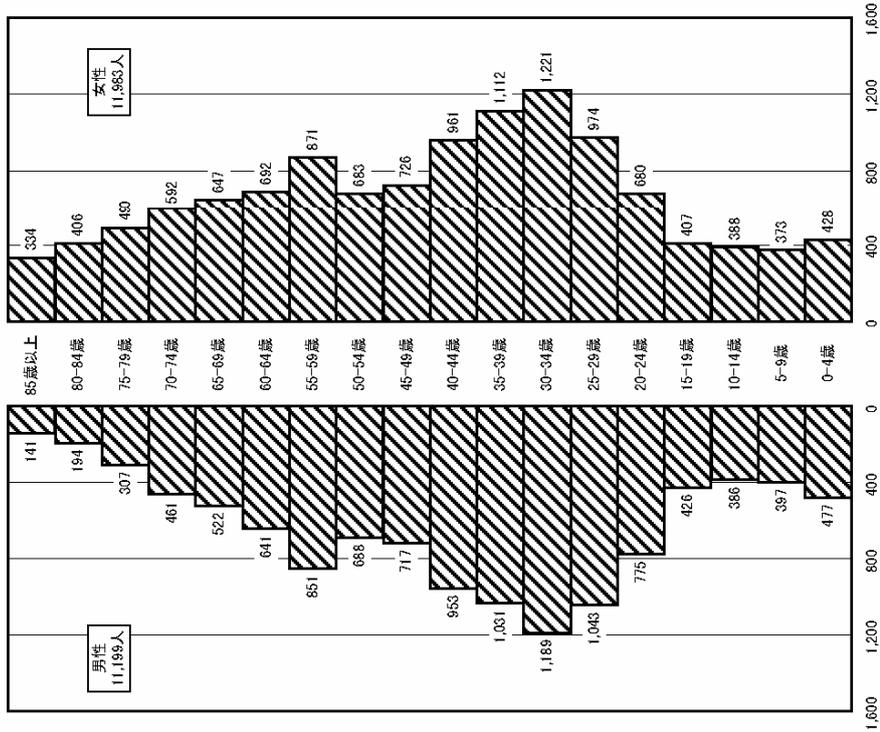
※網掛けは、区全体の平均値を上回っている地域

礪川地域

平成13年



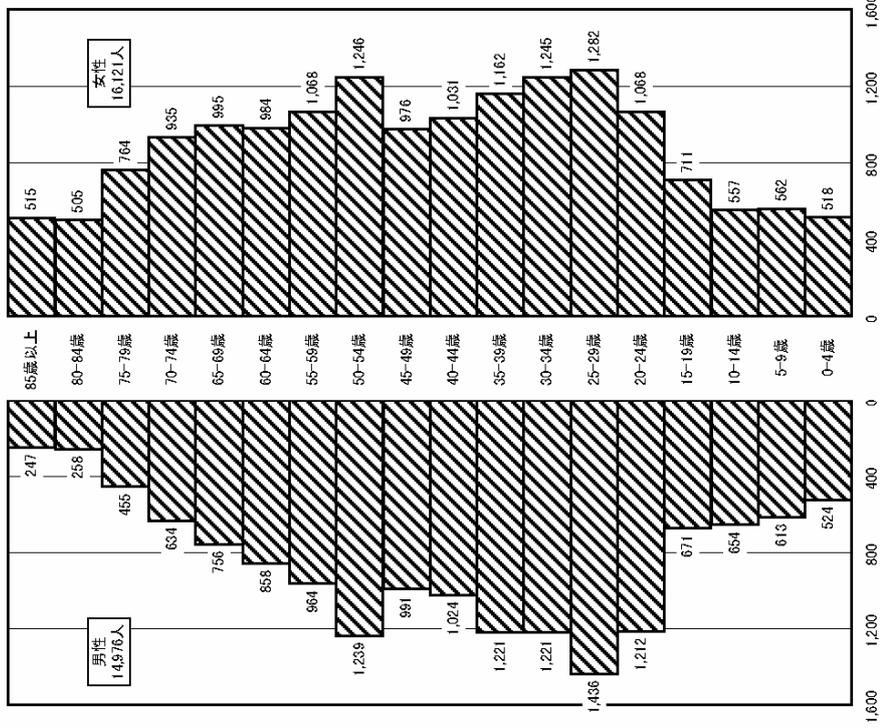
平成18年



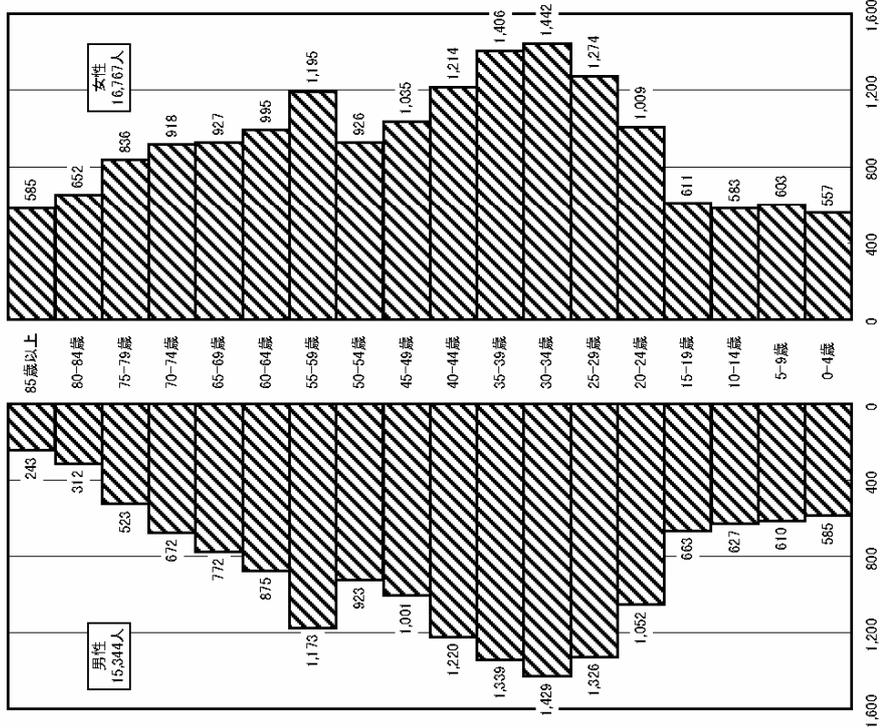
※後楽一丁目・二丁目、春日一丁目・二丁目(一部)、小石川一丁目・二丁目・三丁目(一部)、白山一丁目(一部)・二丁目(一部)・四丁目(一部)・五丁目(一部)、水道一丁目(一部)、本郷一丁目(一部)、西片一丁目(一部)

大原地域

平成13年



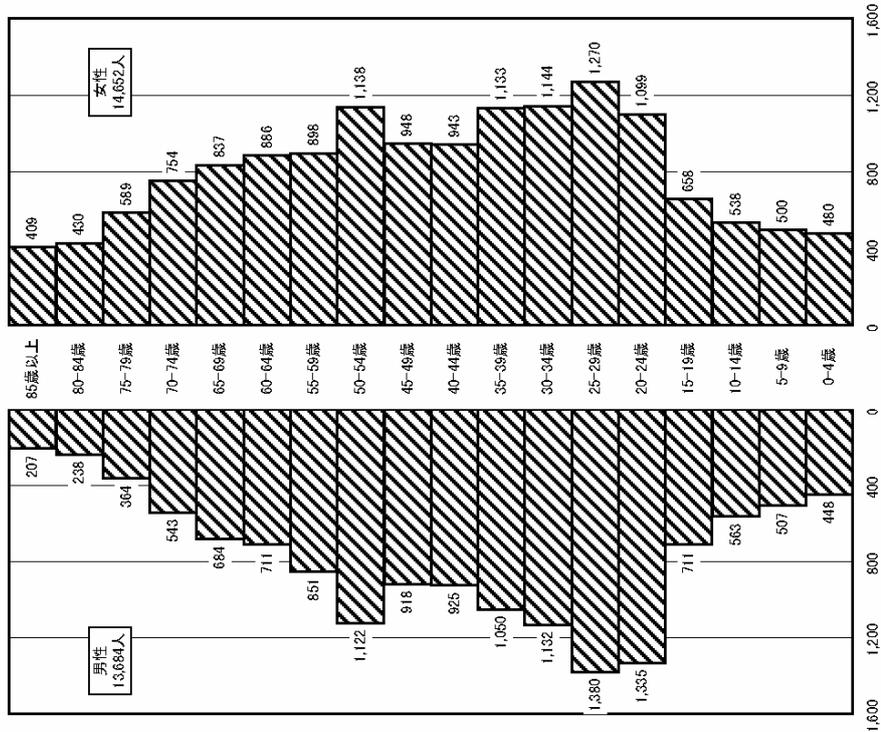
平成18年



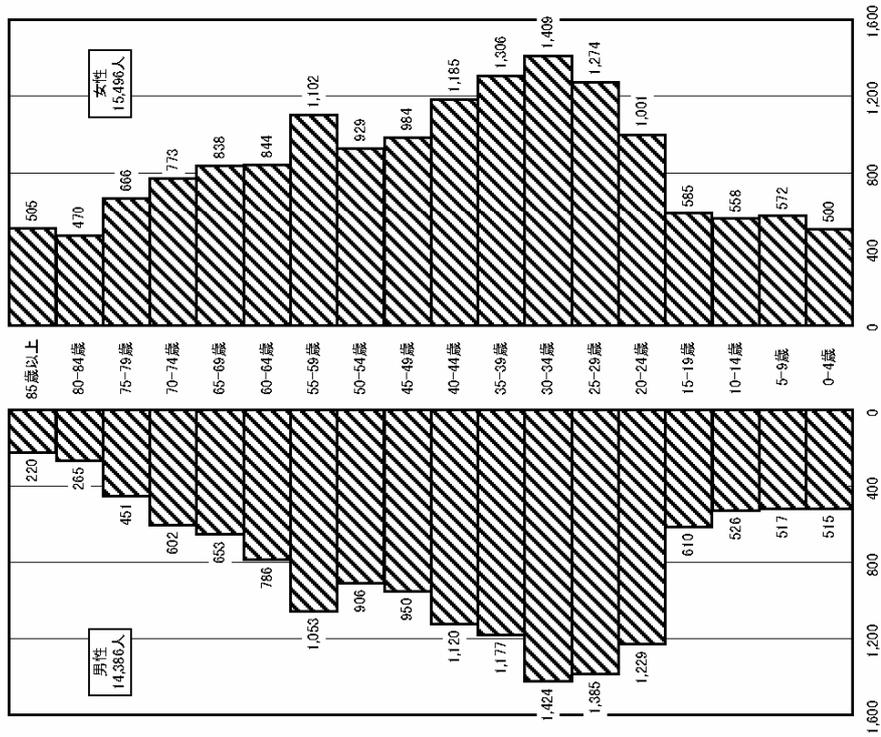
※小石川五丁目(一部)、白山一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目・四丁目(一部)・五丁目(一部)、千石一丁目・二丁目・三丁目・四丁目、大塚三丁目(一部)・四丁目(一部)、本駒込二丁目(一部)・六丁目(一部)

大塚地域

平成13年



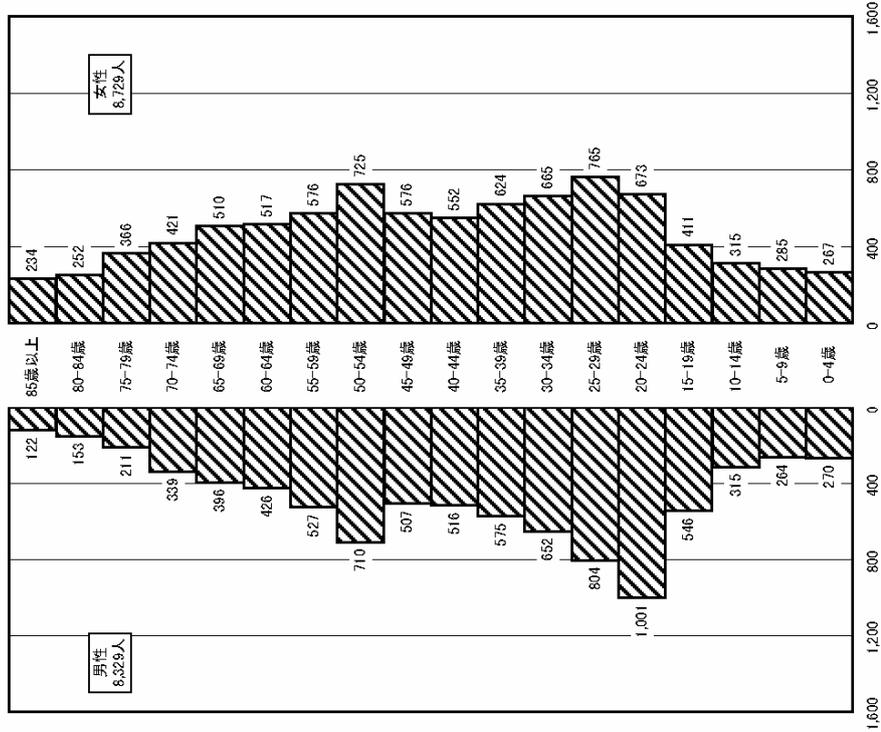
平成18年



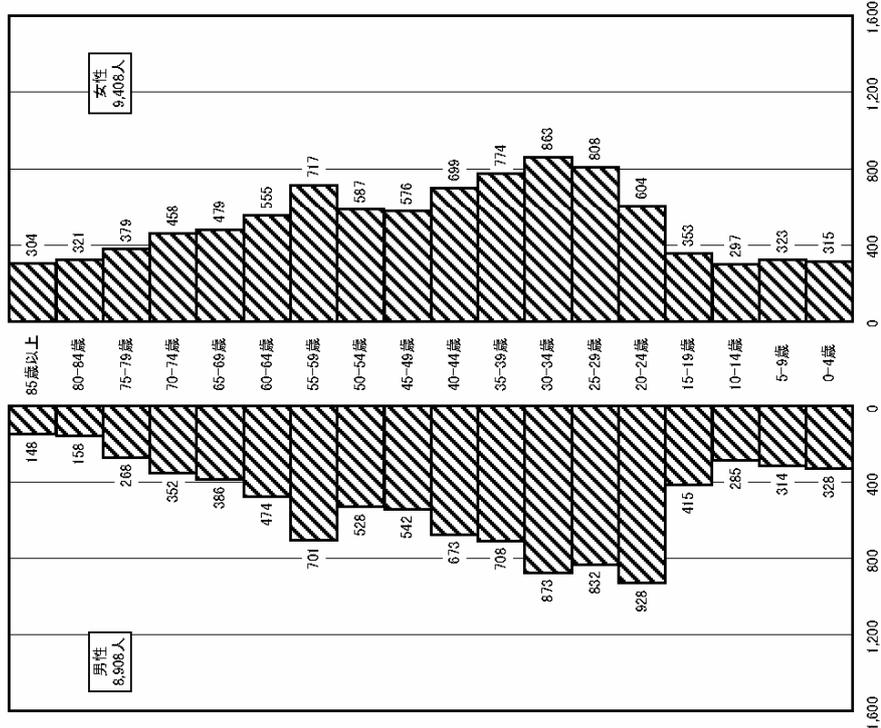
※春日二丁目(一部)、小石川三丁目(一部)・四丁目・五丁目(一部)、水道一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)・二丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)・四丁目・大塚一丁目・二丁目・三丁目(一部)・四丁目・五丁目・六丁目、音羽一丁目(一部)・二丁目(一部)

音羽地域

平成13年



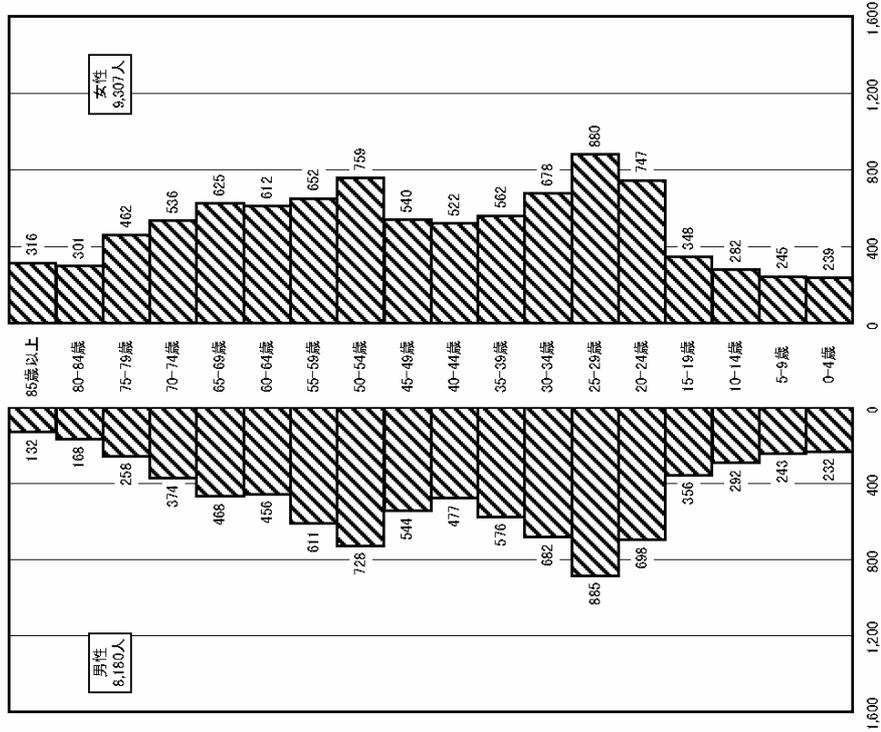
平成18年



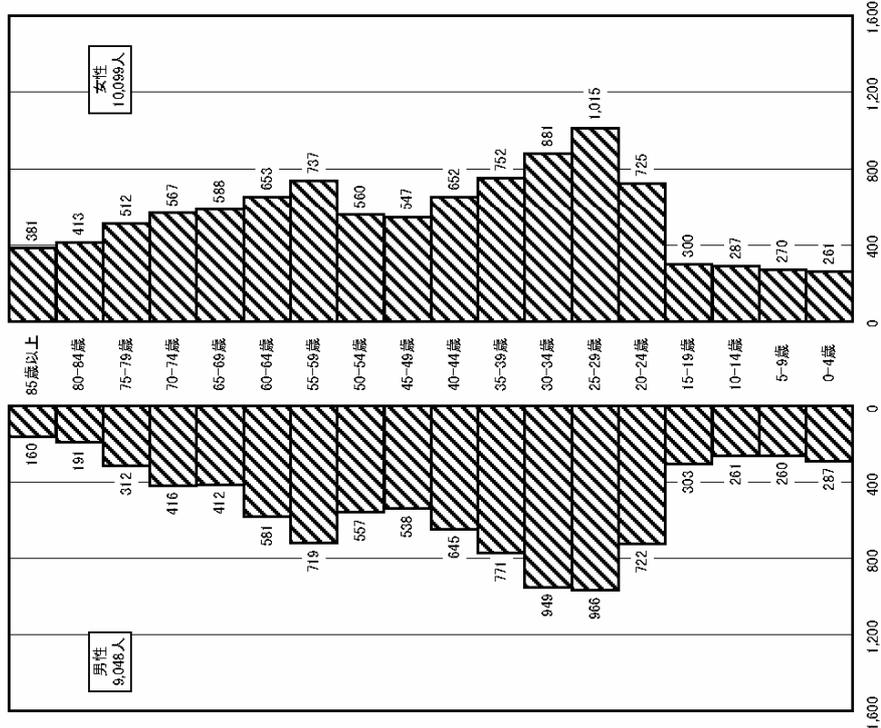
※水道二丁目(一部)、小日向一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)、関口一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目、目白台一丁目・二丁目・三丁目、音羽一丁目(一部)・二丁目(一部)

湯島地域

平成13年



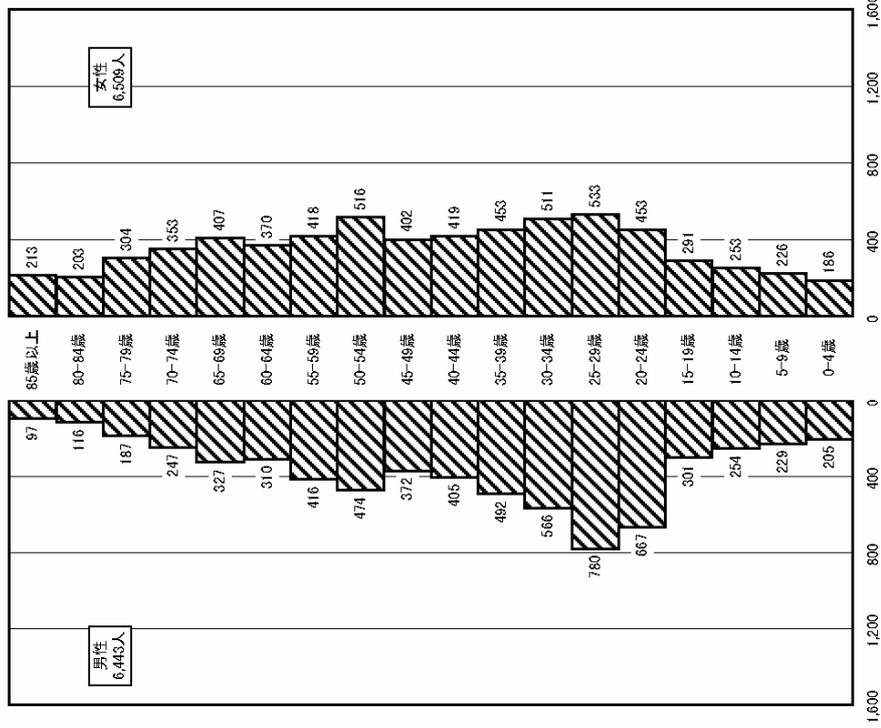
平成18年



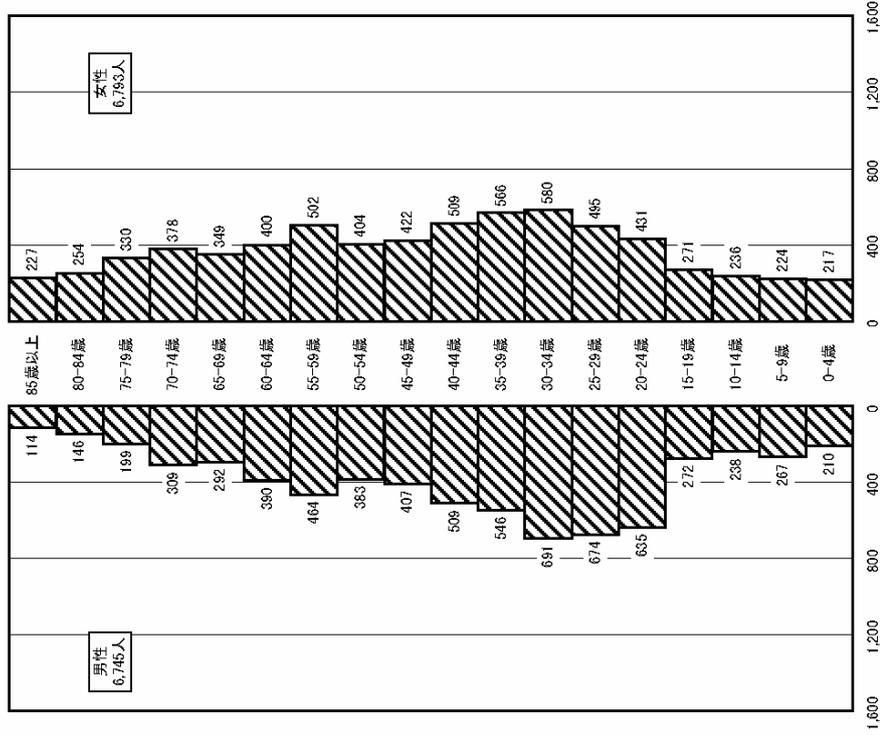
※本郷一丁目(一部)・二丁目・三丁目・四丁目・五丁目(一部)・七丁目・湯島一丁目・二丁目・三丁目・四丁目・西片一丁目(一部)

向丘地域

平成13年



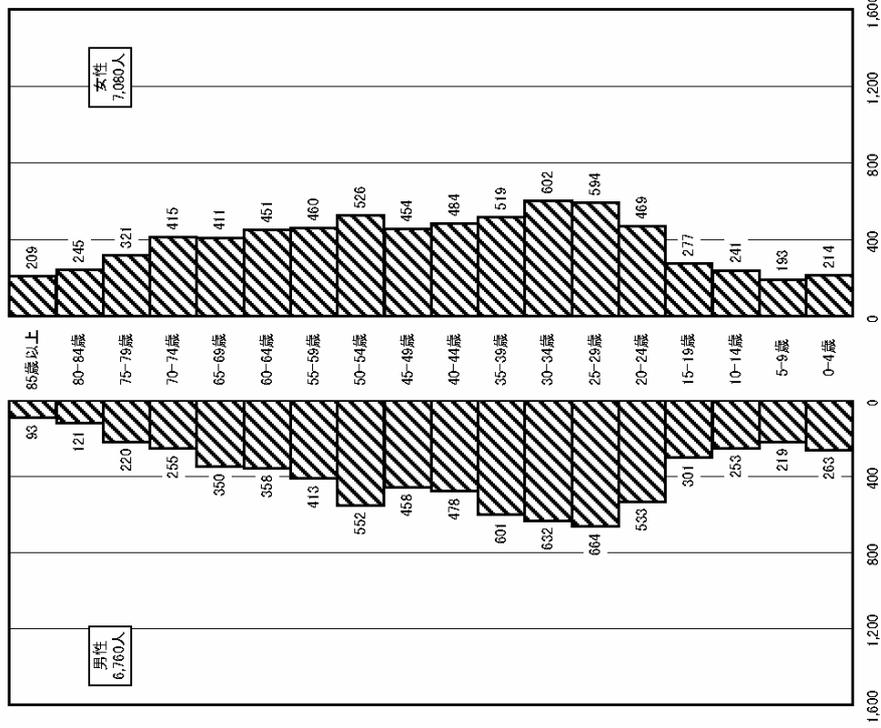
平成18年



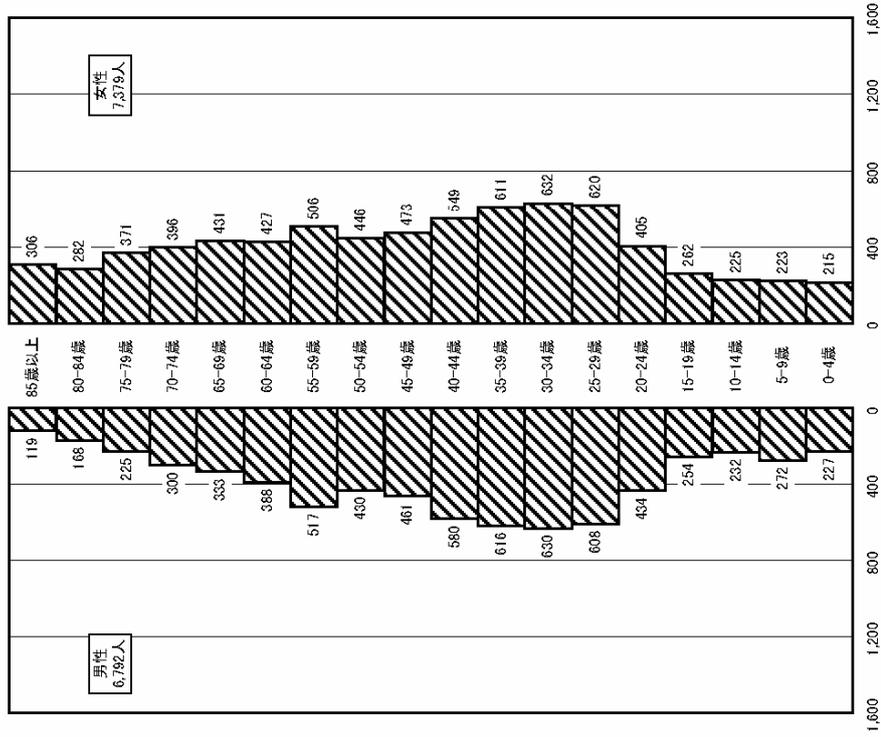
※白山一丁目(一部)、本郷五丁目(一部)・六丁目、西片一丁目(一部)・二丁目、向丘一丁目(一部)、本駒込一丁目(一部)

汐見地域

平成13年



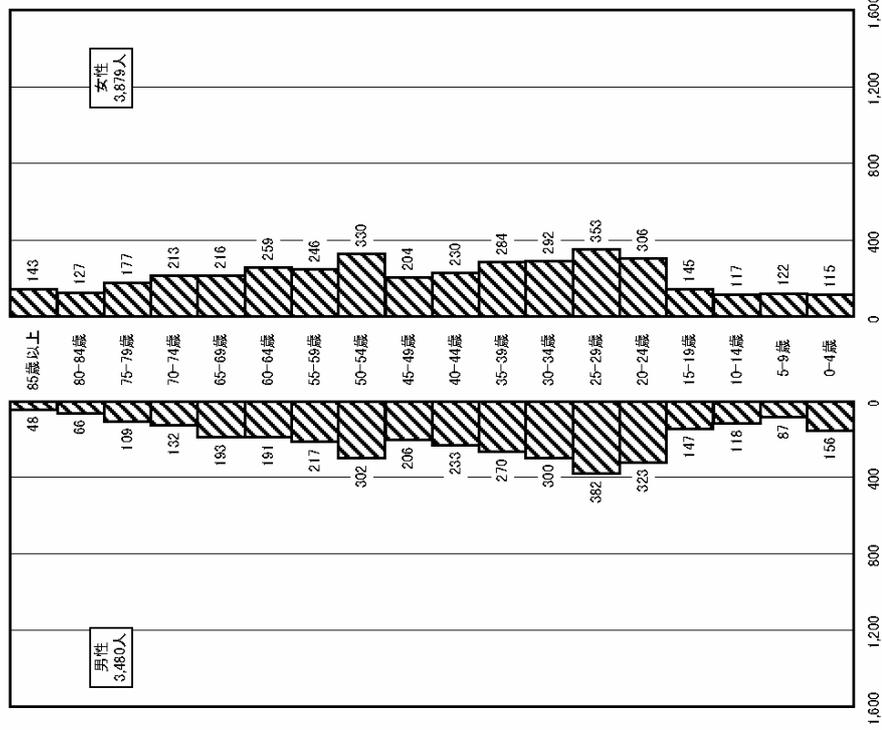
平成18年



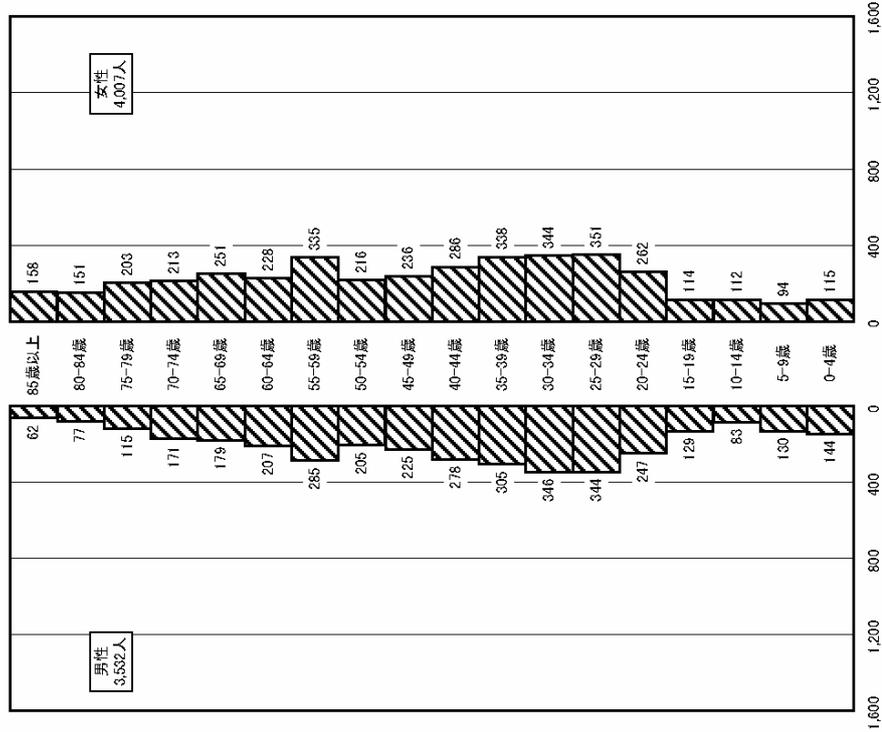
※向丘二丁目(一部)、千駄木一丁目・二丁目・三丁目・五丁目(一部)

根津地域

平成13年



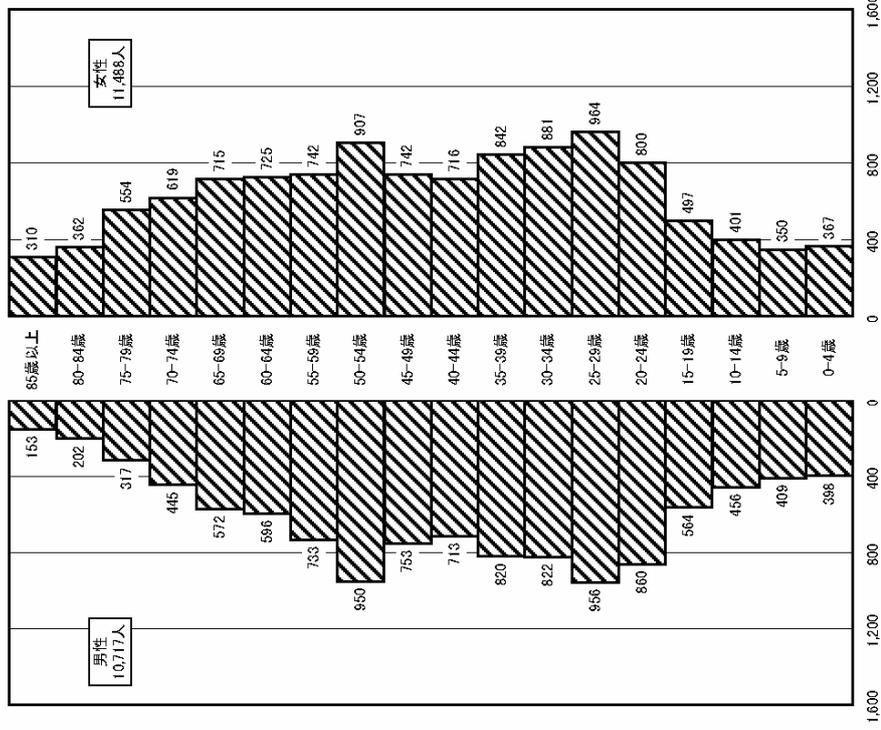
平成18年



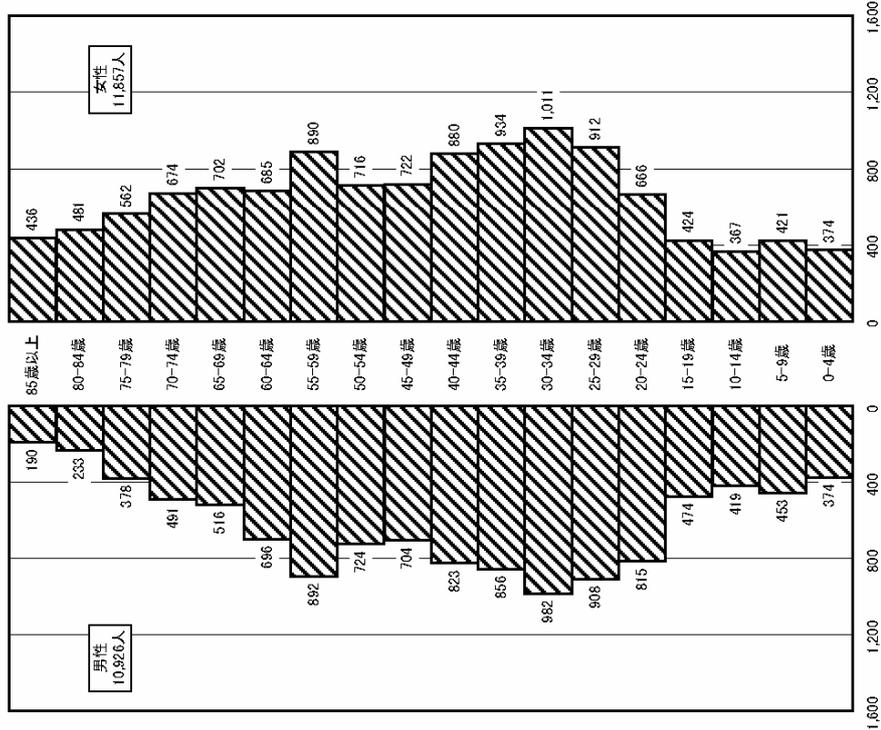
※弥生一丁目・三丁目、根津一丁目・三丁目

駒込地域

平成13年



平成18年



※向丘二丁目(一部)、千駄木四丁目・五丁目(一部)、本駒込一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目・四丁目・五丁目・六丁目(一部)

資料 4

子育て支援先進事例集

目 次

■ 三鷹市子ども家庭支援センター.....	75
■ 江東区子ども家庭支援センターみずべ.....	75
■ 豊島区立子ども家庭支援センター.....	76
■ 京都市子育て支援総合センター こどもみらい館	76
■ 大阪市立子育ていろいろ相談センター.....	77
■ 子育てひろば「あいぼーと」.....	77
■ 武蔵野市立0123吉祥寺、武蔵野市立0123はらっぱ.....	78
■ コミュニティカフェ「ぶりっじ」.....	78
■ NPOによる産中・産褥期の育児支援活動	79
■ 世田谷区社会福祉協議会の子育て支援活動	79
■ 江戸川区共育プラザ.....	80
■ みたか子育てねっと.....	80
■ 保育所・聖愛園(社会福祉法人路交館).....	81
■ 京都市 家庭教育支援.....	82
■ 京都市 絵本ふれあい事業.....	82
■ 徳丸・絵本絵本読み聞かせ会.....	83
■ 保育所における幼児教育の推進.....	83
■ 世田谷区 子ども基金	84
■ 埼玉県 ワーク・ライフ・バランス事業	84
■ 子育てタクシー事業	85
■ 子どもの早起きをすすめる会.....	85
■ 外国人の子育て支援事業	86

■ 三鷹市子ども家庭支援センター

U R L	https://www2.kosodate.mitaka.ne.jp/chi/sien/SRV01103FR.html
実施主体	東京都三鷹市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●のびのびひろばとすくすくひろばの2か所 ●のびのびひろばの事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・相談：18歳未満を対象とする子どもと家庭に関する総合相談。月～土曜の8時30分～19時。 ・親子ひろば ひまわり：0～3歳までの親子がいつでも自由に遊べるスペース。利用時間は火～土曜の10時～16時30分。 ・一時保育事業、トワイライトステイ事業、緊急一時保育事業、ショートステイ事業の相談・受付・調整。 ●すくすくひろばの事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・相談：0～3歳までの子どもに関する相談。 ・わいわい ひろば：0～3歳までの親子がいつでも自由に遊べるスペース。 ・サロン コーナー：ミルク用のお湯やお茶を用意。食事スペース。 ・あそびましよう：年齢別に遊びを企画。 ・子育て グループ室：子育てグループに活動の場を提供。

■ 江東区子ども家庭支援センターみずべ

U R L	http://www.kotomizube.jp/
実施主体	東京都江東区（運営は社会福祉法人 雲柱社）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●区内4か所に子ども家庭支援センターを設置 ●うち1か所に児童虐待ホットラインを設置 ●各センターの活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・遊び・ふれあいのひろば：0～3歳くらいの親子を中心に自由に遊びに来ることができる、遊びのひろば。開館時間はどのセンターも火～土曜（祝日除く）の10時～16時。 ・育てあいのひろば：誕生会、すくすく成長記録、井戸端会議、ひと言交流掲示板。 ・学びあいのひろば：母親・父親講座、子育て塾、グループ懇談会（グループ相談）、めだかクラブ（講習会）。 ・支えあいのひろば：ふれあい相談、面接・電話相談、専門相談。 ・わかちあいのひろば：掲示板や発行物での情報提供・交流。子育て情報の提供、かわら版“みずべ”の発行、情報交流コーナー。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・母親、ボランティア、スタッフによる運営会議や掲示板等を通じた情報交換。 ・行事の企画や実行委員、講座（先輩ママの話）等への母親の参画。

■ 豊島区立子ども家庭支援センター

U R L	http://www.toshima.ne.jp/~kodomo_e/
実施主体	東京都豊島区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 東部センターとわむと西部センターとむとむの2か所 ● 事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに関する相談：ひろば相談、電話相談、面接相談、専門相談。 ・ 親子遊び広場：0歳～就学前の親子を対象に、遊びながら情報交換や子育てができる場。各種子育て講座や学習会も開催。 利用時間は月～日曜の10時～17時。 ・ 一時保育：対象は満10か月から就学前まで。月～金曜の9時～17時。保育料は500円/時間（週3日まで利用可）。ウェブ上で予約状況を確認できる。 ・ 地域組織化活動：子育てサークルやボランティアに無料で活動の場を提供。各種行事や講座を開催。 ・ 発達支援（西部センターとむとむ）：心身の発達に問題や障害のある子ども、その家族への、個別や集団での遊びを通じた援助。専門スタッフによる相談・個別指導・通所指導。 ・ 育児支援家庭訪問事業（東部センターとわむ）：産後1年までの間、必要な場合に家事・育児を支援するヘルパーを派遣。1回の妊娠で30時間まで。利用料は900円/時間。

■ 京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

U R L	http://www.kodomomirai.or.jp/
実施主体	京都府京都市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育、福祉、保健医療が一体となった子育て支援中核施設として平成11年に開設 ● 平日は9時～21時まで開館（火曜日休館、土日祝日開館） ● 事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談事業：対面相談、健康相談、電話相談など、子育てに悩みや不安を持つ保護者のための総合相談。 ・ こども元気ランド：就学前の子どもと保護者の遊びと交流、相談の場。 ・ 研究・研修事業：あるべき保育・幼児教育についての実践的な調査・研究や、保育士・幼稚園教諭の研修。 ・ 情報発信：子育て講座、情報誌、子育て図書館、イベント等を通じた子育て情報の発信。 ・ 子育て支援ネットワークの構築：ボランティア（電話相談ボラ、子育て支援ボラ、絵本ふれあいボラ、地域子育て支援ボラ）の育成や子育て支援サークルの支援。 ・ 子育て図書館の開設、施設の使用貸し出し（有料）。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民とのパートナーシップによる事業運営ーボランティア登録500人超ー毎日約30人が活動。

■ 大阪市立子育ていろいろ相談センター

U R L	http://www.osaka-kosodate.net/
実施主体	大阪府大阪市（運営は大阪市社会福祉協議会）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●平日は 10 時～20 時まで開館（火曜日休館、土日祝日開館） ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談：電話相談及び専門家による面接相談。 ・子育て支援講座：親への支援を図る講座（子育て支援講座、親子ふれあい遊び、調理実習等）や、「子どもの権利条約」の理念に基づく講演会やセミナー等。 ・子育て支援情報の提供：情報誌やリーフレットの発行、インターネットのホームページ等による各種子育て支援情報の提供。 ・子育て支援ボランティアの養成：養成と定期的な研修。 ・ファミリー・サポート・センター事業。 ・センター利用者のための一時的保育。

■ 子育てひろば「あいぽーと」

U R L	http://www.ai-port.jp/index.html
実施主体	東京都港区（運営は特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●平成 15 年 9 月、幼稚園跡地を活用して開設 ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・つどいの広場「ひだまり」：会員制で子ども 1 人につき年会費 500 円（港区在住・在勤・在学の場合）。 利用時間は月～土曜の 10 時～16 時 30 分。 ・一時保育「あおば」：理由を問わない一時保育（会員制）。 対象は生後 2 か月～就学前まで。 利用期間は月～土曜の 6～21 時。 費用は 9 時～18 時は 800 円/時間。時間外は 1,200 円/時間。 ・派遣型一時保育：会員制。支援者は子育て・家族支援者養成講座認定者。 理由を問わない、宿泊保育や病後児保育を含む訪問型の一時的保育。 対象は生後 7 日以降の乳幼児～小学校 3 年生まで。 費用は、通常の一時的保育で 900 円/時間。 ・子育て相談、各種講座（趣味の講座、子育て講座、食育関連講座、ライフデザイン・女性のための再就職支援の講座等）の開催。 ・子育て・家族支援者の育成：地域人材の育成（認定者は派遣型一時保育の支援等を実施）。 ・キッズ交流ガーデン：季節ごとに有機園芸を楽しむ事業。

■ 武蔵野市立0123吉祥寺、武蔵野市立0123はらっぱ

U R L	http://www1.parkcity.ne.jp/m0123hap/
実施主体	東京都武蔵野市（運営は武蔵野市子ども協会）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●0～3歳の子どもと親を対象にした子育てひろばとして、平成4年（0123吉祥寺）、平成13年（0123はらっぱ）に開設 ●0123吉祥寺の開館時間は火～土曜の9時～16時 0123はらっぱの開館時間は日～木曜の9時～16時 利用料は無料 ●活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば事業：子どもたちの自由な遊び、子ども同士の関わり合いの場。親同士が自由に気軽に交流し、子育てについて学び合う場。 ・つどい事業：親子で自由に参加できるイベント、子どもの年齢別親子の講座、親を対象にした子育てに関する講演会や講習会等。 ・相談事業：小児科医や教育専門家による相談。常時スタッフによる対応。 ・情報提供事業：子育て情報の図書、雑誌等による提供。情報交換掲示板による利用者同士の情報交換。通信・リーフレットの送付。 ・地域交流事業：ひろばの環境整備、遊びの提供、利用者への対応を含め、ボランティアの参画。市内各施設との連携・交流。

■ コミュニティカフェ「ぶりっじ」

U R L	http://www.cafe-bridge.net/modules/cafebridge0/
実施主体	特定非営利活動法人せたがや子育てネット（東京都世田谷区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●下北沢の商店街に、NPOと区、商店街とのコラボ事業として、平成18年に開設 ●せたがや子育てネットは、インターネットによる子育て情報の収集と発信、子育てグループのネットワーク化等をめざして活動するNPO法人 ●ぶりっじの活動概要 <ul style="list-style-type: none"> ・講座や勉強会などが開催できる多目的スペース、料理教室も可能なコミュニティキッチン、一時預かり用スペースがある。 ・Happy☆Separation：理由を問わない一時預かりサービス。 対象は0～1歳6ヵ月まで。定員8名。 利用時間は平日10時～17時。利用料は800円/時間（基本、会員）。 ・各種講座の開催。 ・子育て情報の発信。

■ NPOによる産中・産褥期の育児支援活動

U R L	http://www.na-ka-ma.com/amigo/index-j.html
実施主体	特定非営利活動法人子育て支援グループ『amigo（アミーゴ）』（東京都世田谷区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●助産師、保育士等により設立された NPO 法人 ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・情報・交流の拠点としての「ふらっとサロン」の開設： 11時～14時まで。参加費 200 円。（世田谷区社協「子育てサロン」助成事業） ・出産・子育てに関する企画、イベント： ベビーマッサージ、リトミック、マタニティヨガ、産後のボディーケア & フィットネス、カラーセラピー等。 ・マザリング・ベル（産中・産褥期の育児支援活動・会員制）： 妊娠期の家事一般、お産期の産院への付き添い、入院中の家事一般、産褥期（産後 3 か月）の食事を中心とした家事、検診・外出の付添等。 入会金 10,000 円（2 年間有効）、コーディネート料 5,000 円。 訪問開始 2 時間 4,000 円、以後 1000 円/時（平日）。 ・地域と子育てのネットワークづくり。

■ 世田谷区社会福祉協議会の子育て支援活動

U R L	http://www.setagayashakyo.or.jp/index.htm
実施主体	東京都世田谷区社会福祉協議会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●地域支えあい活動として、平成 13 年にスタート ●子育てサロン <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育ての経験者や子育て中の親が、自宅や支え合いの活動拠点で週 1～月 1 回、一定時間を親子一緒に過ごしながら遊び、母親の育児不安や閉じこもり、社会孤立の解消をめざす活動。 ・社協は活動費の補助、活動情報や活動の場の提供等の支援を展開。 ●ふれあい子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての援助を受けたい方（利用会員）と援助を提供する方（援助会員）の地域住民の支えあいにより、子育て中の世帯を支援する事業。 ・援助会員は、社協が行う研修を受けた後、活動を開始。 ・援助内容は、保護者が子どもの世話ができない時（病気、仕事、介護、リフレッシュ、社会参加など）子どもを預かる。 ・利用時間は 7 時～21 時、利用時間は 800 円/時間。

■ 江戸川区共育プラザ

U R L	http://www.city.edogawa.tokyo.jp/shisetsu/plaza/index.html
実施主体	東京都江戸川区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●区内 6 ヲ所の児童館を改修、平成 17 年度より、共育プラザとしてリニューアル ●中学・高校生の活動支援、子育て支援、さまざまな世代間の交流など、乳幼児から幅広い世代が集う共育・協働の実践の場として展開 (小学生には、全学校で放課後活動の場「すくすくスクール」がある) ●子育て支援事業の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばを常設：全共育プラザに常設の子育てひろばを開設。 ・子育て情報コーナー設置：子育て掲示板による情報交換・ミニ知識コーナー・パソコンによる情報検索等。講座・講習会の実施など。 ・いつでも子育て相談：専門スタッフによる随時相談。 ・サークル作りの支援 ・らっこひろば：幼児と保護者が一緒に遊戯や工作等を楽しめる講座。

■ みたか子育てねっと

U R L	http://www.kosodate.mitaka.ne.jp/
実施主体	東京都三鷹市（運営は株式会社まちづくり三鷹）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●市民と市と民間の協力により、子育ての情報や人、施設、サービスなどをトータルに提供するホームページ ●自治体と地域の諸機関が協働で運営 ●みたか子育てねっとの内容 <ul style="list-style-type: none"> ・メールによる子育て・子ども相談室。 ・子育てナビ：ケース別に利用できる市の子育て制度やサービスの案内。保育園・幼稚園の空き情報や申請方法の案内。 ・子育てコンビニ：NPO 法人が運営する、市民参加による地域の子育て情報サイト。 ・子育てひろば：子育て情報の交流の場となる電子掲示板。 ・ファミリーサポート：ファミリーサポート事業の案内。

■ 保育所・聖愛園(社会福祉法人路交館)

U R L	http://www.rokoukan.or.jp/
実施主体	社会福祉法人路交館（大阪府大阪市）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●保育所 聖愛園 <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり保育（0歳児、1・2歳児、3・4・5歳児） ・産休・育休明け保育 ・延長保育（6時30分～8時30分、16時30分～22時30分） ・夜間保育所との連携による深夜2時までの保育 ●夜間保育所 あすなろ（宿泊あり） <ul style="list-style-type: none"> ・基本保育時間（14時～22時） ・延長保育（7時～14時、22時～26時） ●地域子育てセンター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育（対象：6ヵ月～就学前） 昼間一時保育（9時～19時） 夜間一時保育（14時～26時） 休日一時保育（日曜・祝日・年末年始、9時～19時） 一時的宿泊保育（18時～翌朝7時） ・子育てパワーアップ講座 ・共同子育てサークルぶくぶく（園の空き保育室を活用した子育てサークル） ・子育て教室どんくま（保育園・幼稚園に入っていない子どもの友だちづくり） ・あすなろ広場（園庭等を使った親子の遊び広場） ・ふれあい広場（保育所の施設や行事開放） ・ちょっと体験保育（保育所体験） ・地子セ通信の発行 ●ひよこルーム <ul style="list-style-type: none"> ・会員制の病後児保育（入会時20,000円、月2,700円＋保育料・利用料）

■ 京都市 家庭教育支援

U R L	http://www.edu.city.kyoto.jp/kateitiiki/
実施主体	京都府京都市教育委員会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭の教育力向上サポートチーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA や家庭教育アドバイザーを含む家庭の教育力向上サポートチームを設置し、「子育て語り合いサロン」や父親の子育てサークル「おやじの会」、「子育てサポーター養成講座」等を実施。 ● 子育て語り合いサロン <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の教室等を活用して気軽な雰囲気の中でお互いの子育ての悩みなどを語り合う井戸端会議風の子育て教室を実施。 対象は市立小学校・中学校・総合養護学校・幼稚園の保護者。 ● おやじの会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 父親の子育てへの参加を促すため、学校単位での父親によるサークル活動を奨励し、子どもに関わる種々のふれあい活動や地域との合同行事などを実施。 開設場所は市立小・中・総合養護学校・幼稚園 166校。 ● 子育てサポーター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親への子育てに関する助言や子育て交流事業の企画・推進をはじめ、子育てネットワークの運営などの活動を担う人材の養成。全5回。 ・ 対象はおやじの会や子育て語り合いサロン活動者、PTA 会員等。

■ 京都市 絵本ふれあい事業

U R L	http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/kenkozosin/kenko.html
実施主体	京都府京都市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健所で実施する8か月児健康診査の際に、ボランティアが乳児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせを実施 ● おすすめの絵本等を紹介した冊子を、8か月児健康診査を受診者全員に配布 ● 絵本の読み聞かせは、「こどもみらい館」で育成した絵本ふれあいボランティアを活用

■ 徳丸・絵本絵本読み聞かせ会

U R L	http://tokuyomikikase.hp.infoseek.co.jp/
実施主体	徳丸・絵本絵本読み聞かせ会（東京都板橋区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●板橋区徳丸地域のママにより発足 ●活動概要 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、10時30分より集会所で、生後2ヵ月から就学前の子どもとそのお母さんを対象に開催。 ・スタッフは14名、ほとんどが子育て中のママ。 ・内容は、スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊びやリズム体操、エプロンシアターやパネルシアターなど。

■ 保育所における幼児教育の推進

実施主体	東京都大田区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児全体の教育推進の機関として教育委員会事務局に、幼児教育センターを設置（平成17年度） ●同センター職員が保育園を巡回し、幼児教育を実施。あわせて幼稚園教員の資格を持つ保育士を対象に、幼児教育の要素を取り入れた保育を行うため研修を実施 ●区立幼稚園全園（9園）を平成21年度で廃止。施設及び職員は、区の幼児教育・子育て支援の充実に活用予定

■ 世田谷区 子ども基金

U R L	http://www.city.setagaya.tokyo.jp/020/d00009413.html
実施主体	東京都世田谷区こども部
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が支えあう共助による子育てのしくみ。地域の子育て活動等を支援するための資金として、子ども基金（規模3億円）を設置 ●補助事業の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て活動体験の課題や意見集約活動（「子ども基金」の周知活動） ・子育て支援を目的にした人材育成活動や知識・技術向上の取り組み ・子育て支援に関する調査研究や広報啓発活動 ・地域や家庭における子育て支援を目的とした活動 ・子育て活動を目的としたネットワークづくり ・青少年の非行防止・健全育成活動や知識・技術向上 ・子どもの自立支援活動 ●補助事業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・助成要件：事業計画、経費予定などの提出、審査 ・助成対象者：区内に活動拠点がある団体もしくは区民である個人である等 ・交付上限額 <ul style="list-style-type: none"> 3年以上継続して活動している団体＝100万円 活動期間が3年未満の団体＝20万円 個人への助成＝5万円 ・交付回数：1事業あたり3回まで

■ 埼玉県 ワーク・ライフ・バランス事業

U R L	http://www.pref.saitama.lg.jp/A03/BF00/kosodate/kosodate1.htm
実施主体	埼玉県子育て支援課
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●埼玉県ワーク・ライフ・バランス研究会を設置、平成17年10月に「これからの「ワーク・ライフ・バランス」を考える」を報告 ●10月をワーク・ライフ・バランス推進月間とし、セミナー、広報等による普及啓発を推進 ●ワークライフバランス推進員の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業・事業所に対する、県等からの情報受け入れや企業からの情報発信の窓口となる推進員選任の普及。 ●県による支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランス推進員セミナー等の開催 ・企業訪問等による出前講座の実施 ・子育て支援に関わる国、県、市町村の動向等の情報提供 ・他企業・事業所の事例等の紹介 ・子育てNPOの活動の紹介 ・企業からのニーズへの対応 ・県ホームページ等による企業・事業所PR

■ 子育てタクシー事業

U R L	http://www.npo-wahaha.net/ (NPO法人わははネット) http://kosodate-taxi.com/ (全国子育てタクシー協会)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO 法人のわははネットが企画して花園タクシー（高松市）のドライバーを養成、平成16年9月からスタート ●その後、香川県内では9社が子育て支援タクシーを展開（平成18年10月現在） ●平成18年6月、「全国子育てタクシー協会」設立：子育て支援タクシーの全国普及に向け、ドライバーの養成・研修等を展開 ●平成18年9月、長崎県諫早市10社で子育てタクシーがスタート ●子育て支援タクシーのサービス <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者が同乗する「かんがるーコース」：車内にチャイルドシートを設置、子育て情報誌など必要な冊子やリーフレットの提供等。 ・子どもが1人で乗る「ひよこコース」：保育園や学校、塾の送迎等。 ・急なトラブル・夜中の移動などの「ふくろうコース」：夜間や休日の当番医への搬送等。 ・子どもの救命救急や児童福祉に関する講習、保育実習を受けた乗務員が対応する。

■ 子どもの早起きをすすめる会

U R L	http://www.hayaoki.jp/index.cfm
実施主体	子どもの早起きをすすめる会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの早起きを進めるために、医師等により設立 ●活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上、登録した会員の支援、情報交換 ・子どもたちの睡眠に関わる情報の整理・公開 ・保育園、幼稚園、教育機関等における講演会、シンポジウムの開催 ・子どもの生活に関わるすべての機関、子どもの家庭に対する啓蒙・支援

■ 外国人の子育て支援事業

U R L	http://www.tabunka.jp/tokyo/
実施主体	特定非営利活動法人多文化共生センター東京
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●多文化子育てネット <ul style="list-style-type: none"> ・保育士、保健師、児童館職員、ボランティア、NPO、行政等が、外国人親子の抱える様々な問題の解決に向けて課題を共有するネットワーク。 ・研修会・フォーラムの開催、メーリングリストによる情報交換、子育て情報の蓄積とwebでの公開など。 ●外国人親子の居場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・台東保健所やセンターで、外国人親子が集まり、友だちをつくったり、おしゃべりする交流会を開催。 ●外国籍児童の日本語・教科の学習支援 ●「たぶんかフリースクール」 ●多言語生活相談 ●高校進路ガイダンス ●多文化理解教育・セミナー・フィールドワーク ●通訳・翻訳事業

資料 5

子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果

目 次

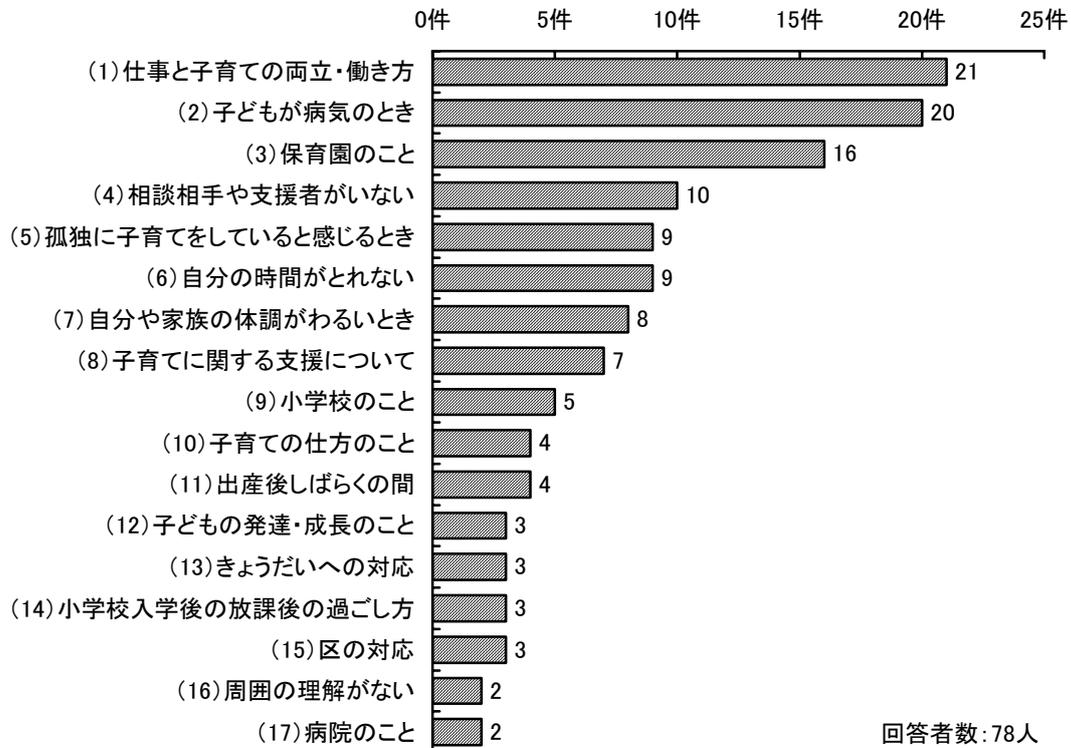
1. 調査の実施概要.....	89
2. 回答結果①	90
3. 回答結果②	107

1. 調査の実施概要

調査目的	保育ビジョンの策定にあたり、乳幼児を育てている保護者の子育ての状況、子どもの育ちや子育てしやすくするために必要としている支援等について把握する。	
調査方法	①文京区認可保育園父母の会連絡会が、加盟する父母の会メンバーに対して実施。	②第2グループのメンバー経由(家庭で子育て中の主婦が主)での配布並びに緊急一時保育実施保育所(区立保育園3か所)利用者・ぴよぴよひろば(シビックセンター3階)利用者・病後児保育施設、小児科医院(区内医院1か所)利用者に対して、アンケート用紙を配布・郵送回収
実施期間	平成18年10月	平成18年11月6日～ 平成19年1月19日
回答者数	78人	49人

2. 回答結果①

1. 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)のはどういう時？



(1) 仕事と子育ての両立・働き方(21件)

- 仕事との両立。核家族で夫婦とも民間企業勤めです。会社では当然会社への貢献を求められ、私が子育てしていることがハンデだとされています。でも産みっ放しでは子どもを産んだ意味がないし、子育てをしていることで得られる能力もあるはず。そしてこの先日本を担う世代をきちんと育てたい。こういう話はなかなか企業には理解されないんですね。
- 友人で、出産したばかりで本当は1年間の育児休暇をとりたいたいのだけれど、1年たつと保育園に入れないからと、3ヶ月、4ヶ月で職場復帰したいへんな思いをしているのをみると、この国の保育行政はどこか間違っていると感じます。
- とても不規則な仕事の為、保育園だけでは対応出来ない。実家も近くでは無く、いざ!という時(子どもの病気、けが...)は仕事をキャンセルするしかなく、信用ががた落ち。仕事が出来ない→収入が激減。三人子育ては辛いです。
- 仕事と子育ての両立。兄、妹が別々の保育園なので余計に大変と感じる。
- 保育園、小学校、自分の職場と行事が重なりやりくりが大変なこと。
- 子どもが病気しやすく、仕事を休みがちになり、結局パートにした。
- 子どもを産み育てる際直面する問題は、産休をとる際、働いているので代替職員がアルバイトになってしまうことや、職場の方々の事務分担が増えてしまうことです。
- 子どもができた喜びとともに、「いつ会社に伝えたらいいか」「どうやって職場復帰の道筋をつけたらいいか」非常に悩みました。私たちには、夫婦2人で子育てをしていく他はなく(身内のヘルプはありません)、その時勤めていた会社は、子どもを生んだ後も会社に所属し続けるケースは私が初めてでした。妊娠したことを告げると同時に、どうやって職場復帰するつもりか、できる限り影響がないように調べたことそのままを上司に伝え、自信があるように振る舞っていましたが、内心は不安でいっぱいでした。当時は、身近なところに子どもを持ちながら働き続ける人もいませんでしたので。その後、出産月の関係で保育園に入園することができず、保育ママさんをお願い

することになりましたが、生後 4 カ月で職場復帰するのが精一杯の休暇期間でした。職場に復帰してからは、子どもが熱を出したら私が仕事を休む以外にない状況の中で、結果として、同じ会社に居続けることはできませんでした。職場が零細企業で私のような社員を抱え続ける余裕がないという理由と、私自身も、無理して会社員生活を続けることができなかつたためです(2 人目を生んだとき「あと何人生むつもり？」と真顔で同僚に聞かれたのも、ちょっとしんどかった)。フリーとなって仕事を始めたとき、上司に「子どもが熱を出しまして…」と言わなくていいだけで、こんなにラクなんだ！とこれまで、有形無形に感じていたプレッシャーの大きさに改めて思いが至りました。子どもを持ち、育てることの幸せは、人生の中で初めて感じたかけがえのない喜びです。こんなふうな幸せがあるというのは、子どもがいないときには想像もつかず、子どもを持つ人を見ても、「たいへんそう」とは思っても、「幸せそう」と思ったことはありませんでした。しかし同時に、「もっと時間を気にせず仕事をしたい！もっと思っきり仕事したい！」という思いがふつふつと湧いてきて、夫にぶつけてしまうこともあります。子どもを持ちながら仕事をすることは、仕事の世界ではマイナスが多いです。仕事先の人に「お母さんは家にいるのが一番」と言われ、「それなら私に仕事を依頼するのはどうなんだ？」と怒りに襲われたこともありますし、子どもがいることをなるべく話さないようにした時期もありました。でも、常に現実がこちらの意図を裏切るというか、どうしてもはずせない仕事の日に子どもが熱を出し、キャンセルしなければならなくなったり、夜や土日の急な電話で子どもがいることが分かってしまったりして、「隠す」のはやめることにしました。子どもがいないが仕事を続けることが、介護が必要な人を抱えて仕事をすることが、当たり前前の社会になり、身近にもっと増えてくるようになればいいと思っています。そして、どこへでも子どもを連れていけるようになれば、もっといいのになあ、と。

- 仕事が終わらないのに、お迎えのために途中で打ち切り会社を出る。もちろんPCを持ち帰り、子どもが寝静まってから仕事を再開する。自分の仕事の仕上がりを待っている人がいるとき、非常に辛い。子育てが辛いというより、人生全体に無理があるなど感じる人が多い。
- 家事育児負担（終日勤務に加え、平日は家事・育児の全てを独りで負担しなくてはならない）。
- サービス業の為、急遽夜や休日、店に子ども達を連れて行き、仕事をしなければ成らない時は、親子共々つらいです。3人まとめて預けるのは難しく、1人欠けても泣いてしまう子ども達の気持ちを考えると、それも出来ません。
- 一人目の出産のときには、産後も同じように共働き(会社員・常勤)が続けられるかが不安だった。保育園に入園するにも、誕生月によって空きが無く、4月の募集までどうしたらいいのか悩んだことも。我が家の場合は、入園できるまでの数ヶ月、実家の手助けでなんとかなりましたが、母親にとって、子育てと仕事の両立は厳しい問題。
- 責任ある立場で勤めていた職場に、育休を3ヶ月早く切り上げて戻ったときは、6時まで働けないから正社員ではいられないと言われ、15分早く帰るために泣く泣くパートになりました。産休、育休を認めてこれ以上一人だけわがままを言うのならいてくれなくてもいいと言われました。
- 産休、育休がうまく取れるかが最初の心配事でした。子育てと仕事の両立が本当に出来るのか？3歳になるくらいまではよく病気になる、仕事を休みづらく大変でした。
- 母親の家事と仕事との両立。
- 職場復帰が大変だった。
- 働いていると時間に余裕がなく、人間として未熟なため子どもに対して普段よりしかってしまう気がします。本音はある程度のお金時間に余裕がありだと思いいなと思います。
- 仕事を思っきりしたいのに保育園が長時間預かってくれない。出産がキャリアアップを阻む。
- 職場復帰後1年くらいは子どもも体調を崩すことが多く、育児と仕事の両立の難しさに悩みました。
- 母親の就職。産休や育休をもらえない人は実質家計はマイナスになります。
- 仕事の面で、子どもがいなかったり独身者は無駄に残業もできるし出世する。子どもがいると時間や仕事内容を制限されてしまい出世できず給料も増えない。子どもが多く金銭的に必要な家庭が給料が低い上に、税金や医療をはじめとした制度等も悪い状況。親の気持ちの余裕もない家庭やこんな世の中で、子どもたちが善良に育つとは思えない。

(2) 子どもが病気の時(20件)

- 病気の時はいまは本当に困る。今は母親が非常勤だからまだいいが、両親が交代で休むしかないのが限界がある。
- うちの家庭は母子家庭なので、病気になった時に近隣に身内がないので大変です。
- こどもの病気が一番心配。病気の時にかかる小児科の選択。病気の際の保育など。
- 仕事をしていますが、子どもの急な病気の時がこまります。
- 子どもが病気の時。看病、通院も大変だが、仕事を休まなければならないのが困る。長いときは1週間位休まなければならないが大変である。
- 子どもが病気で保育園に預けられない時に仕事を休まなければならないこと。祖父母が近くにいないので頼める人

がない。

- 保育園に行くようになって、病気で急に休むことになるとうれいへんです。それが立て続けに二人だとどうしていいか……。病後児保育の方は遠くて連れていくのもどうかとってしまいます。
- 子どもの病気の時、初めての際には病状の軽さ、重さが分からずに医者へ急いだり、そして医者へ叱られたり、待たされたり、そして、発熱の際には元気でも保育園には預けられないので、仕事場に迷惑をかけたりして、周りに援助がないと非常に辛い。
- 子どもが小さいうちは、子どもの具合が悪い時でも仕事を簡単に休むことができず、子どもに無理をさせることもあり、それが一番辛いと思っていましたが、大きくなるにつれ、子どもの様子を十分、把握出来ていないのではなにかと、不安に思うことがしばしば。
- 一歳児から保育園に通っています。二歳までは実家から離れていたため具合が悪くて保育園に行けなくても他に預けることが出来ず、仕事を休むしかありませんでした。
- 子どもが小さいうちは、子どもが病気になった際、休まねばならない職場への遠慮で、つらかった。預ける人がおらず、下の子が病気のために、上の子も毎日病院に連れて行かざるを得なかったのはつらかった。
- 子どもが病気になった時に長時間預けられるところがない。
- 子どもの具合が悪いときに、休暇がとりづらかったり預ける場所がない。あっても利用しづらい条件がある。
- 実家の援助を望めない状況ですので、子どもが病気の際は父母どちらかが仕事を休まねばならず、病気が長引くときはとても大変です。休日出勤をして仕事をカバーしなければならない時もあります。
- 子どもが病気になった際、近隣に祖父母がいない、ベビーシッターも突然は手配できないので、子どもの面倒を見てもらう人がいない。しかし、会社は代替りの人のいない締め切りのある仕事をしているため、突然は休めない。
- 身近に祖父母などがいないので、子どもが病気になった時仕事を休まざるをえずやりくりが大変です。2番目の子の産後も上の子の育児・家事など大変でした。
- どちらかが体調を崩したとき。
- 基本的にはそんなに大変・つらいと思ったことはありませんが、働いているため、仕事の多忙と子どもの病気が重なってしまうとにっちもさっちもいなくなってしまう、大変だと思うことはあります。大変・つらいとあまり思ったことがないのは、子育てを共感・相談できる仲間や信頼できる親族が身近にいてくれるからだと思います。
- 最近大変なのは仕事が忙しい時に娘の具合が悪くなり、自分も体調を崩した時など。
- 我が家は子どもが多いので（3人＋来春誕生予定）、やはり一番は子どもの誰かもしくは親が病気などの時に困ります。うちは両家の祖父母が近所なので、何とかやっていますが、そうでない方はなお大変なのでは。

(3) 保育園のこと(16件)

- 産休後、職場復帰するにあたって保育園入園が難しかった。
- 復職に際して、保育園探しが大変。
- 職場復帰を前に保育園に入れない可能性があると思った時（通勤ルートを変えることも考え民間保育園も探したが、確保はできなかった。結局第3希望の公立保育園に滑り込めたのでほっとしたが）。
- 希望の保育園に入園できるか？
- 近所の保育園の空きがなく、遠くの保育園に通園しています。転園の希望を出していますが、転園先はパンク状態で、当分転園できる見込みがありません。待機児童がいる中、賢訳は言えませんが、入園希望の状況を見て保育園の収容人数を増やすなどの対応をしていただきたいと思います。
- 引越して保育園を転園の必要があるのに、転園できないこと。
- 出産後保育園に入れるかどうか確定しなかったこと。入園前に保育課の職員が朝9時30分に、独立したてで収入がほとんどなかった自営業の夫が本当に働いているのかどうか査察にきたときには、ここまでプライバシーを侵害され、疑われないと入園できないのかとたいへん不快だった。なぜ社会の子ども全員について、保護者が望めば保育園に入れる状況が作れないのかと思う。二人目についても、優先されると聞いてはいるものの、タイミングよく保育園に入れるかどうかかわからず、ためらっている。
- 区内保育園に入園できない（新規就職で点数が低かったせいもあり地元の区立保育園には入園できず、現在も他区の私立園に通わせている）。
- 最近気になるのが、兄弟姉妹が同じ保育園に通えないケースが増えていることです。保育とはチャイルドケア、つまり子どものケアであるわけで、その質は、保育所の中だけでなく家庭にもつながります。兄弟姉妹が異なる保育所に通う、家庭と子どもへの負担。これだけで、保育の質は劇的に下がるといってもいいのではないのでしょうか。
- 安心して子どもを預けることができる環境が少ない。地域によって、0歳児を受け入れる保育園が少ないので、仕

方がなく兄弟が別々となる家庭がある。毎日の送り迎え、行事が2倍になったり、重なったり、それもさることながら、何かあった場合、例えば災害など。避難場所がそれぞれ違うので、非常に不安になる。預ける場所がないことで、子どもを産み育てるのに躊躇することもあると思う。保育園だけでなく、その後の環境についても同様。本当に「子どもの立場に立って」行政が行われているのか、疑問が多い。

- ちょうど、子どもが3歳組の時、千葉から引っ越してきた。時期的にも夏の7月で待機児童とならざるを得なかった。とにかく託児所をということで、東京都認可保育所（完全に民間委託）に預けて仕事を続けたものの、毎月7万5千円の保育料はきつかったこと、また、この保育料を文京区にも相談したが、区は黙認していることにびっくりした。保育所での写真代も1枚130円と聞いてまたまたびっくりした記憶がある。
- 延長保育の時間。会社は6時まででしかも仕事柄、突然の残業もあり。定時で帰れるかどうか分からない。何とか仕事をやりくりし、急いで帰っても延長時間ぎりぎりである。保育園の数が足りない。4月に入園するために、法律的には1年保障されている育児休暇を削ってでも職場復帰するしかなかった。以上の理由から、ベビーシッターさんがいないと我が家は成り立たない。
- 仕事を休みたいわけではないのに仕事を休む法律ばかり充実している。その割には大学院に行きたいと思っても保育園では預かってくれないと区役所で言われた。
- 子育ては楽しいです。大変なのは、保育園民営化（又はコスト削減）対応。それから、ハコモノ行政ありきの小中学校の統廃合問題対応。
- 今は、保育園の耐震工事で明化小学校まで送迎しているので体力的にも時間的にも、また雨の日はタクシーなので金銭的にもかなり厳しい！！2月まで続くかと思うとゾッとする。
- 保育園で子どもが担任の先生と信頼関係が結ばず、子どもの気持ちが心配で仕事に手がつかないとき、非常につらいと思った。安心して預けられる保育園であってほしい。他の兄弟に比べて怪我が多い子は、遠足や行事のたびになんとなく不安。安全を確保できる保育園であってほしい。子ども自身が怪我が多い子なのか、10年前に比べて保育者の減少で子どもを見ていられなくなり、結果的に怪我が増えているのか分からないが、親としては原因に関係なく、とにかく不安。

(4) 相談相手や支援者がいない(10件)

- 周りに子育てのことを気軽に相談できる人がいなかったとき。同じくらいの子どものいる人と情報を共有できる機会が少なかったとき（地元ではないので近所に知り合いもあまりいなかった）。実家も遠く、家族も仕事が忙しかったり、日常的に子育てと一緒に関わってくれる人がいないとき。
- 協力者がいないこと。
- 急な残業や子どもの病気のときに子どもを見てくれる人がいないこと。
- 休職中、子育てを相談する人がいなかった。
- 突発的な事情で子どもを安心して預けられる場所や人がいなかった。
- 実家が夫婦共に県外（共に祖母は他界）なので、子どもが病気の時や仕事等で帰りが急に遅くなる時に気軽に安心して子どもの世話を代わってもらえる人がいないこと。
- もうすぐ4歳になりますが、1歳になるまでが一番長く感じました。1歳過ぎて、保育園に預けるようになってからは、子育てについていつでも相談でき、自分の生活のバランスも取れてきたのですが、1歳までは預けることもできず、近所に同じくらいのお子さんが集まる場もなく、子育てを苦痛に感じることもありました。
- 産後、ちょっとした気晴らしをしたいときにどうしていいのかわからなかった（夫が多忙でみてもらえない）。そのときにファミリーサポートを知った。
- 今回が初めてのお産でした。実家の母はすでに他界していたので、何も解らないときに主人側の義母にかなり協力してもらって助かっています（いろいろアドバイスも貰えて）。実家が遠かったり、周りの援助が受けられないときは、子育ても楽しいと思うよりも、辛い・心配と不安要素が多くなると思います。例えば、子どもの原因不明の高熱とか、夜泣き、成長過程での遅れなど、いろいろな悩みは尽きないと思います。
- どうしても母親の負担が多い。社会全体が忙しすぎ。世の中の父親がもっと早く家に帰って、育児に参加できたら、母親も子どもももっとゆとりができてよいと思う。育児に参加したい父親もいるのに、それができない社会環境。法的に整備しても、それが実行できなければ、何も意味がない。

(5) 孤独に子育てをしていると感じるとき(9件)

- 一人で育てていると感じた時に辛いと感じます。子どもを生み育てるということは真っ先に、イコール生活なんですよね。夫婦であれば夫の家事育児の手伝いや祖父母の助言などがあると精神面や労力共に負担が軽減されます。いろんな人にかかわってもらい助けてもらえるとそれは子どもの育ちにも関係があることだと思います。みんなで

子育てができるという環境作りを。

- 孤立してしまうこと。
- 子育てが大変だと思うのは、子どもとずっと二人っきりで過ごす日中（密室育児）や、家事と育児の両立です。またそれを支えてくれる周囲の方々の協力が不可欠なことだと思います。物理的、体力的な協力のほかに精神的支えが一番不可欠です。子どもを産んで初めて「人は一人で生きてきたわけじゃない。」「自分の子どもは自分たちだけで育てているわけではなく、親も子も周囲の人々に支えられて日々生活を送ることができている。」と感じました。私達は協力し合って、皆、お互い様で、助けたり助けられたりしながら生きているということを強く実感しました。
- もう昔のことだが、赤ちゃんのときは社会と謝絶されるので、兄弟やインターネット、肉親の存在は不可欠だった。友人といっても一人目の場合はなかなかできなかったため、今思えば地域の赤ちゃん交流の場などにもう少し行ってもよかったと思う。
- 子ども（特に第1子）と1対1になったとき、泣き止まなかったり、ミルクをもどしたりすると、暗い気分になりました。こういうことが積み重なると虐待になっていくんだらうな、と実感しました。幸い、夫の協力や保育園に入園したりと、多くの手で育児をすることができ、泣いているのもかわいいと思えるようになりましたが、密室育児はとってあぶないと思います。
- 孤独な育児（夫は仕事で終日不在、休日出勤も多い、両親も遠方で、自分から仲間を求めて外出しない限り誰とも話す機会がなかった）。
- 子どもが0歳で育休中だったときは、普段の子育ては1人きりなのでとても孤独に感じました。子育て支援サービスなど、あったのかも知れないのですが、よく分かりませんでした。自然に子育て中の人や子育て経験者と話をできるきっかけを作ることができる場があればよいと感じました。子どもが歩くようになってからは、家の中にいるのは大変で、しばしば外に連れ出さなければなりません。やんちゃな男の子なので、なおさらです。でも近くにいくつか公園があっても、ゴミや吸い殻が散乱し、犬の糞が落ちていて、乳幼児は遊んでいません。もっと清潔で美しい公園があれば、安心して、自由に遊ばせられるのに、「これは汚い」「これは触っちゃだめ」と注意してばかりになってしまいます。公園以外の場所では車に気遣って「危ない」といつも気を配って注意しなければいけないので、本当に疲れます。
- 出産後まだ子どもが小さく、外出も出来ず我が子と二人きりで家にいた間、話し相手もいなかったため（ちなみに旦那は仕事が忙しくまったく頼りにならずでした・・・）。社会からとても孤立した状態で辛かったです。
- 子育てで、ものも言えない、泣きっぱなしの子どもと二人きりになるのが予想以上に辛かった。

(6) 自分の時間がとれない(9件)

- 自分の時間が取れないこと。
- 少しも自分の時間がもてない。
- 仕事のようにきまった休みがなく、疲れていても子どもの世話はしなくてはならず、ゆっくり休みたいと思うとき。
- 自分の時間がないこと。外出をしてもゆっくりすることができない。
- どこへ行くにも子連れ（日々の買い物も大変、自由な時間はゼロ、美容院にも行けなかった）。
- 一人目のときは何もわからず、泣き止まないはどうして！とこちらも泣きたくなったりしていました。あとは自分の時間をとれないこと。美容院に行く時間すらなかなかとれず辛かったです。
- 親自身の時間が持てないこと、父親の帰りが遅いときはすべて自分でしなければならぬので、夜自宅で仕事ができないこと。自分の心にゆとりがもてないと、子どもにも厳しくなってしまうこと。
- 夜帰宅してから食事の用意をして食べさせて、お風呂に入れて寝かせるまでがとても慌ただしい。子どもの睡眠時間と家族でくつろぐ時間の確保が難しく、ついせかしてばかりいる。自分の時間が全く取れないのがつらい。
- 自分の人生が子ども主体になり自己否定をしたとき。

(7) 自分や家族の体調がわるいとき(8件)

- 一番大変だったのは、子どもが2歳の時、私の流産、直後に子どもの入院が重なって、凄く参りました。流産で入院中は祖父母の助けを借り、子どもの入院では流産間もない身体で付き添い入院。病院の方針で父親の付き添いは認められず、私の負担感が子どもにも良くなかったと思います。
- 家族の入院時（病院は基本的に子どもの入室を禁止しているため連れて行けず苦労した）。
- 体調が悪いとき（自分が）、子どもの相手をしてくれる人がいなかったとき。現在は保育園にお願いできて助かっています。
- 自分の体調が悪いとき。

- 親が病院へ行くのも子連れでは大変だと思いました。
- 自分が病気するとき。
- 自分が病気になったとき。
- 正直な気持ちとして、毎日がつらい。子どもがいなければこんなに苦しい思いをしなくてすむのと思う。例えば、親が何日も高熱が続いて、もしかしたら入院かもしれないといった場面で、その週の土曜日一日だけ預かってもらえないかと保育園にお願いしたら断られた。子どもがいる限り熱なんか出すなと言われたようだった。

(8) 子育てに関する支援について(6件)

- 夕方～夜に、大学関係の仕事が重なる時・出張の時、身近に頼れるヘルパーさんがいないことや、大学で提供されている保育サービスがそういったニーズに全くかなっていないこと。たとえ、人に頼むことが可能であったとしても、連れまわされる子のストレスや負担を考えると、本当に難しいです。
- 平日夜に用事がある際、旦那、実家以外で預けるにはハードルが高い。一時保育にいきなり、は知らない先生だらけで、きつとつらだろう。いつもの保育園の先生に見てもらえるのは安心だが…。保育園主催の保育を語る会などで、いつもの先生が見ていてくれるのはとてもありがたい。
- 子どもは二人とも7月生まれ。自営業なので育児休暇はなく、9月には仕事の一部、復帰しました。その時、一番困ったのは、1歳未満の赤ちゃんの預け先が皆無に等しいことです。この時期、認証保育所はどこもいっぱいです。一時保育も空きなし。結局、預け先がみつからず、下の子のときはベビーシッターを利用したが、その費用は1回預けるだけで、1万円を超えます。仮に、毎日、利用すると、月20万円以上の出費になります。しかも、仕事をするためには不可欠な出費にもかかわらず税制上、経費として認められない。
- ファミリーサポートの認知度が低く、探しても見つからなかったり、折角見つけても「雨の日はちょっと…」とか別の子が入っていたりと、断られたりするので利用しにくい。下の子が体が小さいと言う理由で保育園入園を断られ2年育休を取っていた時、職場から週に2日だけでも働いてほしいと言われ、緊急一時保育に週2日あずけたいと相談に行くと、仕事はあずけられる理由に入っていないと断られたことも納得いきません。なぜなら他に預けられている子どもたちは母親の習い事が理由だったためです。何が優先なのか、意味がわかりませんでした。
- 子育て広場や保健所は歩いては行けない距離で、児童館は歩いては行けますが、ハイハイの頃に行ったら、大きい子ばかりで萎縮して帰ってきた覚えがあります。シビックセンターにある一時預かりは1歳以上でないと利用できず、また仕事では利用できなかったのも、不便でした。ちょうどスタートした頃の頃で保育士さんも不慣れだったせいか、保育の仕方にも不安を感じました。
- 本駒込6丁目の自宅からは比較的近所にある地域センターで、ボランティアの婦人会による乳幼児の母と子を集めた会がありましたが、子どもとの遊びの合間に偏った思想を押し付ける啓蒙活動のようなレクチャーが度々入るためとても行く気が起きず、参加している他の母子も3～4組しかおらず、もっと母子中心で自由に参加出来る会を地域センターで開きたいと思っても、その思想を押し付けてくる団体に介入されそうで諦めた経緯があります。

(9) 小学校のこと(5件)

- 子どもが小学校に入って、「保育園出身の子は反抗的」「保育園出身の子は落ち着かない」と言われることが辛い。→保育園では、「何故そうしなくてはいけないのか」を丁寧に説明してくれて、子どもなりに先生の指示を理解していたから従えたが、学校の先生は「なぜ」を伝えずに従順を求める。子どもに「従順になれ」とは、親として言えない。
- 先生に従わない、反抗的、落ち着きがないなどの子どもがいると、「親の愛情が足りない」「親がもっと子どもに接すればいい」など、家庭の問題にしようとする人が、小学校の先生にも、保護者にも多いのが辛い。→親も努力していても、子どもの育てにくさや、先生との相性などもある。その子の親だけに責任を押しつけるのではなく、たくさん手や目や声かけが必要な子がいたら、それを前提として、先生を加配するなり、先生同士のチームワークを作るなり、その子の親が孤立しないように親同士も助け合うことが必要だと思う。
- 小学校で、先取り学習をしている子どもを中心に授業が進み、先取り学習していない子は置いてきぼり、という状態が辛い。→真面目に学校に行き、宿題をきちんとやれば、勉強が身に付く、というカリキュラム、それができる教員配置であって欲しい。結局、お金をかけて塾に行かせるか、親が付きっきりで勉強を教えなければ勉強が身に付かない、というシステムでは、経済的にも精神的にも子どもも人数は望めなくなる。
- 小学校に行ったら、お母さんが家にいることを前提とした運営（「明日までに〇〇を持ってきて下さい」とか、保護者参加を求める学校行事の日程告知が1～2週間前になってから来る、学校行事が朝でも夕方でもない中途半端な時間に設定される＝一日仕事を休まざるを得ない、など）がなされているのが辛い。→社会人として人にもものを頼むときの最低限のマナー（時間的余裕をもって告知する、相手の都合も考える）に配慮した運営をしてほしい。

- 小学校行事などが平日に集中していることです。近所づきあいも、多様な年齢や人々なのでとても難しいです。

(10)子育ての仕方のこと(4件)

- 何を食べさせたらいいのか迷うことばかり。毎日の食事には頭を悩ませています。夜早く寝かせたいが、保育園から帰るとどうしても10時過ぎてしまう。生活リズムを前倒しにしたいがなかなかできない。
- 産まれて育て始めて直面する問題は、自分も子どもも2か月くらい自宅にこもりっぱなしで、他のお母さんがどうやって育てているのかと情報を得にくいことです。
- 保育園に通う前、昼間仕事をしつつ育児をしている際、まだ0歳児の子どもがむずがって泣いてどうにもならなかった時。一人で煮詰まって、困り果てていた。今思えば、5~10分でも散歩に出れば良かったのだが、発想の転換がスムーズに出来ないほど疲れてしまう時は本当に子育てに辛さを感じる。大変だと感じるのは、目に見えにくい心の成長をどうサポートするかと悩む時。今も「これで良かったのか」を自問する日々。
- 一人目の時は子育てについて何も知らなかった事にびっくりしました。生後1ヶ月過ぎてから単発的に仕事を開始したのですが、すぐに乳腺炎になりかけたりと何かがおきてから対処するしかないことだらけでした。先輩ママたちの話をもっと聞けるような生活を子どもの時からしていたり、妊娠中にうかがえる機会があるとよかったのにと思っています。

(11)出産後しばらくの間(4件)

- お互いの実家の援助にはかなり恵まれているが、生まれてしばらくのマタニティーブルーの時期。この感情は自分ではどうしようもなかった。
- 1番大変だったのは出産後1ヶ月間(母乳が足りているのかどうか分からず、際限なく授乳して乳首の痛みがひどくなった時、夜中の授乳後、子どもがなかなか眠らなかった時など)。
- つらいと思ったのは、産後の自宅療養中、ちょっと買い物にもいけなかったこと(体がつらいのと、子どもを一人きりにできないため)。自分が病気になるって動けないのはどうしようもありません。子どもの相手ができません。子どももベッドで寝ているうちはいいのですが、一人遊びもできない間は大変でした。
- 生んで1年以内、出産後の体調の戻りが悪いのにもかかわらず、子どもがどんどん遊びたがるのでそれに応えてやるのが大変でした。歩く事が辛いので、ベビーカーやバスを使って遠くまで出かける子育て広場のような施設が近所にも欲しいと思いました。

(12)子どもの発達・成長のこと(3件)

- 産休で乳児と二人っきりで家にいたとき、自分が子どもに話しかけないと子どもの言葉の発達が遅れるのでは、と不安で、義務的に一生懸命話しかけるのが辛かった。→乳児期の未だ眠ってばかりいる赤ちゃんを抱えた母親が集える場が必要。少し大きい子(1歳以上)の広場などはあるが…。
- 障害児であった、という意味では、何処まで周りの方に援助をお願いしていいのかを悩みました。言ってしまうと簡単だったのですが、そこまでが大変でした。買い物や気晴らしも出来ず、密室育児にならないように休日も子どものために出来るだけ刺激を与え、発達を促すように努力をしました。その為いつも疲労困憊。
- 子どもの発達段階にあわせた悩みがあるとき。

(13)きょうだいへの対応(3件)

- 下の子が生まれると、どうしても下の子にかかりっきりになってしまい、上の子には、お兄さん(お姉さん)になったのだから、がまんしなさいとか、がんばりなさいとか、そんな対応しかできない時期がありました。子どもを見る人が自分しかおらず、片時も下の子を離すことができないのです。それで、上の子が情緒的に不安定になり、悪循環で、その状況からどう抜け出したらよいか分からない時期がありました。
- 子どもは2歳違いがベストと信じて生まれました。年子はありませんし3歳以上離れると一緒に遊べないし、子育て期間も長くなり職場復帰には不利だと思ったからです。でも実際は2歳違いだったためにこんなにも大変だったのだと思っています。一番大変なのは「寝かしつけ」でした。下を寝かそうとする時間に2歳の長女が足にしがみつき「抱っこ、抱っこ」と泣き喚くのに、何度切れたことでしょう。蹴り倒しても投げ飛ばしても起き上がってしがみついてくる長女、あれは間違いなく虐待でした。
- 2人目、3人目の出産のときの上の子の面倒を見るのが、大変。

(14)小学校入学後の放課後の過ごし方(3件)

- 卒園後、小学校入学後の放課後対策が今から心配。0歳児の保育料程度までなら負担できるので、民営化も含めた

学童保育の質の向上を求める。

- 育成も小3までなので、放課後の過ごし方が心配です。
- 4年生になったときに育成室がなくなる。放課後や夏休みなどの過ごし方が心配。

(15) 区への対応(3件)

- 上の子の出産が1月下旬、復帰を1月当初からということにしました。子連れで入園相談に行った際、ハナっから1月に普通の保育園の欠員があるはずがない、無理！の一言で、相手にして貰えませんでした。当時、実家が目白台にあったので、目白台の緊急一時保育所に入れました。バスで音羽に出て、毎朝実家に預け、お祖母ちゃんの出勤もあるので、そこから保育所に預けて貰い、帰りはお祖父ちゃんが一旦実家に連れて帰り、実家までお迎え、3ヶ月でしたが大変でした。最近の入園相談は少し改善されてきているようですね。
- 行政には、こどもを育てやすい環境、こどもの育ちを十分に配慮した施策を実施することがどんなに大事なことであるかを判って頂きたいです。将来に大いなる不安を覚えます。
- 2人目を出産する前、保育課の窓口で2人目の保育先を相談しにいった時の対応、一生、忘れません。「お母さん、いつ仕事に復帰されるのですか。自営業なので、復帰されないと、上のお子さんが保育園に在籍する要件がなくなり、退園させられますよ」という一言。「2人目が生まれておめでとう」という一言の前に、上の子が保育園を追い出されるかもしれないという説明を受け、保育課に対する不信感が一気に高まりました。

(16) 周囲の理解がない(2件)

- 出産前に一番つらかったことのひとつは、妊婦に対する思いやりのなさです。妊娠9ヶ月でおなかのすいかのように膨れ上がっているにもかかわらず、電車ではだれも席をゆずってくれません。優先席の前に立っても、です。二人子どもを産みましたが、席を譲ってもらえたのは通算で5回にも満たないです。生まれたあとも、小さな子どもとその親に対する社会の冷やかさには落胆を飛び越え怒りすら感じるようになりました。シビックセンターだってそうです。授乳室を使うのに、なぜ名前を記入しないといけないのか。オムツ替え台が整備されておらず、区との協議を傍聴の時に、やむなく給湯室の流し台を使っておむつを替えました。赤ちゃんをおんぶして少子化委員会を傍聴した時は、休憩時間中にベンチで授乳をしました。
- 子育てに関する社会の目が厳しい。「いじめが多いのも、少年犯罪が多いのも、今の親の育て方が悪い」といわれるのが、本当につらい。いじめも、少年犯罪も社会も勝ち負け社会にした社会全体の責任。子どもがいない人にも、子育てが終わっている人にも、子どもたちに温かい目を向けてほしい。

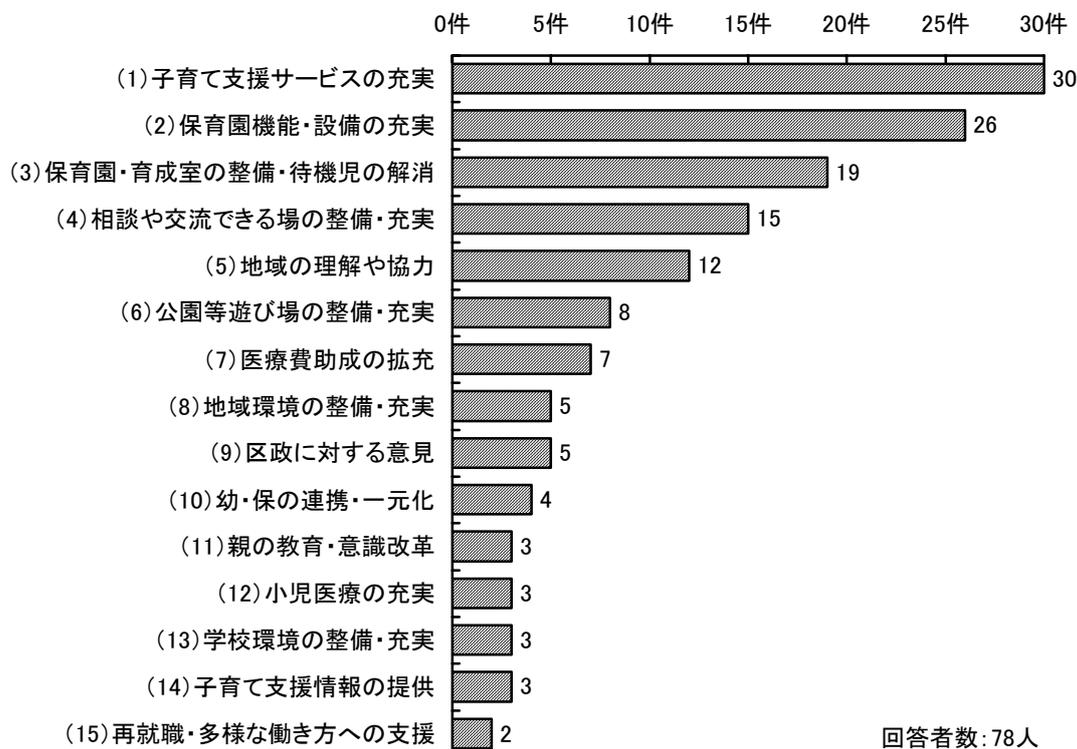
(17) 病院のこと(2件)

- 土日やっている病院が少ない。
- 信頼できる産院の確保や子どもの病院。

(18) その他

- 幼児を狙った犯罪が多く、外に自由に遊ばせられない。一人で外出させられない(来年から小学校通学なので不安。アメリカのように通学にも成人が付き添わなければならない社会になりそう)。
- 小学生になって、子どもが自分より先に帰宅することになり、寂しい思いをしていることが、時々、会話でわかる時。子どもが他人に迷惑をかけた時。
- 保育部長の発言にたいして、保育園に通わせている子どものほうが出生率が高い、というのは関係ないと思います。私は専業主婦だったとしても3人もうけようと思っていたし、就業しているのは「子どもはいつか自分の世界をもって巣立っていく」ものだと思い、自分自身の世界も大切にしようと思い、職についています。子どもにばかり集中してしまうと、ほかの子と比べたり、と自分の子どものおとっている部分にばかり目がいきってしまう、というもあります。子の数はその夫婦の考えであり、恵まれているからでは必ずしもないと思います。
- 自分の思い通りに子どもが動いてくれないとき。
- 送り迎えの時や運動会、お祝い会で他の子どものおじいちゃんやおばあちゃんの姿を見ることも、私にとっては辛いことです。最も辛いのは、保育園行事である祖父母の会です。我が家からは参加することは無く、それでも乳児クラスの時は辛いと思っているのは私だけで良かったのですが、幼児クラスになると子どもも自分のおじいちゃんとおばあちゃんは来ないということで寂しさを感じている様子で、なおさら辛くなります。
- 親同士の関わり方の難しさを感じています。
- 病院や習い事などの送迎。保育園と小学校のギャップ。

2. 子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか？



(1) 子育て支援サービスの充実(30件)

- お迎えから晩ご飯までとか、それだけでも気兼ねなく頼めるようなサービスが手近にあるといいな、と思います。あるいは、大学まで送ってもらおうとか。それだけで、全然違うだろうと感じます。
- 親のちょっとした外出や仕事のときに、安心して利用できる一時預かり施設を増やす。
- 病院へ行くとき、体調が悪いときなど、一時的に子どもを預かってくれるところは必要だと思う。2人目、3人目をつくろうと思った時、自宅ですーっと小さい子を見ろというのは、なにかと不便が多くなる（買い物、お風呂、食事の支度など）。
- 前日までの申し込みで、半日とか9:00-16:00位の時間帯で、下の子を預かってもらえるサービスがあるとありがたいです。親が病気だとか、保育ができないような事情があるとかではないので、傍目にはそれほど差し迫った状況には見えないケースだと思いますが、自分の当時の状況からいって、あると本当にありがたいと思います。半日一日、上の子としっかり向かい合うことで、上の子が安定して、お姉さん(お兄さん)としてがんばろうという気持ちも生まれて、それによって母親も気持ちが安らぎます。悪循環から抜け出して、家の中がうまくまわっていくきっかけになると思います。
- 保育園には1歳児クラスから預けています。うちはまだ一人っ子なので、異年齢児との交流から言葉遣いやマナーなどを学んだり、いい刺激にもなっています。しかし、保育園は原則、共働きが条件なので専業主婦の人は保育園には預けられず、なかなか息抜きもできないと思います。そういうときに文京シビックセンターにある3階の“ちょっと預ける”制度の場所があったり、就業者で子どもが病気になっているときでも、どうしても仕事に出なければいけない状態の中で、病児を預けられる病院などがもっと普及すれば、子どもも産みやすくなるし、働きやすくなるのではないのでしょうか。
- 子育てに協力的でない夫のため、自分が美容院に行くために、新幹線に乗って大阪の実家まで帰る、という話を聞いたことがあります。そんなことのないように、人間関係がきちんとできた上で、安心して子どもをちょっと預ける場所が確保されていたらいいと思う。また、同じような観点から、出産後の「母親学級」のようなものを継続的にやったらどうだろうか？それも、なるべく近い場所で行うのがいいと思う。働いていない親としては、子どもが幼稚園に上がるまでがとても大変なので、それまでの期間について、何らかの方策を考える必要があるように思う。
- 幼稚園の空き室、閉園幼稚園などを利用した一時保育サービスの設置。基本的に一時保育とそうでない場合の保育は、現状では別の場所の方が利用しやすいと思います。

- 日常は安心して保育園に預けられるのですが、緊急に日・祝日に預けられる一時保育があれば助かります。父母連に加入している17園の保育園の保護者（その保育園の役員を筆頭に）がローテーションでその地域の保育の場所を確保し、時間を決めて保育をする。
- 宿泊を伴う緊急一時保育を整備する。親の病気、葬祭などへの対応、被虐待児の一時保護など。採算の取れない事業であることを前提にした事業運営が必要。虐待してしまう親に対する支援プログラムの整備（カウンセリング、ワークショップなど）。
- 文京区にも24時間体制の保育施設が欲しい。病中・病後の対応できる施設も…。
- もっと仕事を持つお母さんへのサポートを増やしてほしい。病後児保育や一時預かりの場所が増えると助かります。
- 病後児保育ができる機関増加、病後児保育時間の延長も考えて欲しい。
- 病後児保育ルームの増設、時間の延長も認めて欲しい。一時預かり施設の増設。
- 病後児保育の場所をもっと増やして欲しい。
- 病児保育をもっと増やす（預かる人員、時間など）。
- 病後児保育をもっと充実させてほしい。区内に1件では少ない。豊島区のように、産後支援（ヘルパー派遣）をしてほしい。
- 病気の子を預かってくれる施設があれば有り難い、と感じますが、病気の子を置いて仕事に行くには、親としての葛藤もあります。親の”気持ち”も一緒にフォローもしてくれるような安心して預けられる環境が必要。
- 子どもの熱が何日も下がらず病後児保育に申し込みをしましたが、キャンセル待ちで結局預けることができませんでした。文京区全体で1ヶ所は少なすぎます。病後児保育の増設を望みます。
- ファミリーサポートの充実を。ベビーシッターは高額。しかし我が家ではシッターを頼まないと現実的にお迎えが間に合わない。職場復帰する際、ファミリーサポートにも登録したが、毎日の利用など、提供会員が少なすぎてとても無理とにべもなかった。文京区はたとえば、地域のお祭りが盛り上がるように、地域のつながりが生きている。その地域と連携をとって、地域ぐるみで子育てをサポートしてくれる状況をつくって欲しい。地域でお互いが知り合えれば、防犯にも役立つ。
- ファミリーサポートも時々利用させていただいているのですが、「ちょっと預ける」という感覚には程遠く、よほどでないとは頼めません。金額的にはお安いと思います。
- ファミサポでは週3日しかあずかってもらえないし。シッターだと家にあげないといけないので、とても嫌なのでたのめません。
- ファミリーサポートセンターのような中途半端な制度ではなく、依頼会員のニーズにきっちりこたえられるベビーシッターサービスの整備が急務です。民間のシッターサービスは料金が高いうえ、1、2時間預かってもらうことができません。たとえば、区とどこかのシッターサービスが提携（あるいは区でサービスを新たに整備）し、例えば1500円の料金のうち、区が500円の補助を出し、利用者が1000円負担。最低2時間からでもサービスが利用できるようなしくみがあれば、一時保育の需要の相当部分は満たせるはず。一方、在宅で預かるのが困難な方もいるので、シビックのキッズルームなどで利用者が契約したベビーシッターが利用者の子どもをみる、という新しい仕組みがあってもいいのではないのでしょうか。つまり、区は安全な「場」だけ提供し、その中で提供されるサービスは区民と事業者で埋めていくというもの。
- 区ができることとして提案したいのは、これだけ暇そうにしているお年寄りが周りにたくさんいるのだから地域の子育て支援についてファミリーサポートなど、利用できるシステムをもっと広げてほしい。あてにならない祖父母より隣のおばあさんが保育園にお迎えに行きたくご飯を食べさせてくれたら近いし楽だな～。地域交流もできるし、と思います。
- 夫や実家に代わるサポーター制度を作る（自分で出向かなくとも、それぞれの家庭にサポーターを割り当てる、または保育園のような場所に週1回以上、通う制度を設ける＝内向きな母親を家に籠らせないようにするため）。サポーター、または特定保育園が一時保育を気軽に受け入れられる体制を整える。サポーター制度の延長で、家事援助なども行えるようにする、また保育園の送り迎えや病後なども気軽に預けられる「他人おばあちゃん」のような存在が欲しい。文京区はファミリーサポートシステムがほとんど機能していません。提供会員が少なすぎ、事務局の対応も悪くやる気も感じられません。私は台東区の依頼会員でもありますが、驚くほど内容に差があります。一度他区の体制など勉強されてはいかがですか？文京区はお金持ちが多くお互いが助け合おうという精神が低いのでは？と感じずにはられません。
- 家事を安く代行してもらえる仕組み。
- どうやって子育てしていいか悩んでいる人も多いと思うので、保育園以外の親子（乳児）にも、積極的な子育て支援（保育園体験やあそびを教える）が必要で、そのために区は予算や整備（受け入れ施設や保育者の確保など）を行うなどする。

- 産後保健師さんが訪問してくれますが、とっても安心できました。密室育児にならないように、継続的に訪問してくださいとありがたいと思います（私の場合は保育園に入園できたので必要ありませんでしたが）。いつでも来ます、と言ってくださいますが、とりたてて困っていることもなく、わざわざ来てもらうのも悪いか、と思いましたので。
- 年齢にあったイベントなど。少し前に区が講演会を催していたが、確か「子どもと離れてリフレッシュ」みたいなことをかいていたのに、講演時の子どもの保育は有料というのは、親切ではないと思う。そういった内容の時にこそ、誰でもが利用しやすいように、保育無料で、多くのお母さんに講演を聞いてもらい、リフレッシュしてもらうべきだと思う。
- 子育て系の保健所のセミナーなどを平日ばかりではなく土日でも欲しい。
- 各地域で子育てが終わった人と専門性をもつ保育士・保健師などがグループでお泊まりも可能なハウスを運営する。点在させる事によりいつでもどこからでもどんな理由でもアプローチでき、保育園、幼稚園にもそこから通う事ができる。

(2) 保育園機能・設備の充実(26件)

- 現在子どもは保育園に通っているが、経験豊富な先生たちに見守られ、また同じ年齢のみならず様々な年齢の子どもたちとともに生活することで、とてもいい形で成長させてもらっていると感じている。親の立場としても、保育のプロにみてもらっていることの安心感があり、非常に助けられていると感じるし、子育てが楽になっていると思う。就労していない人も保育のプロに短時間でも見てもらえるようなしくみがあれば、すべての子どもを持つ親にとって、子育ての大変さを軽減できるし、子どもにとっても親だけでなく様々な人と関わる機会を持つことで、経験が広がるのではないかな。
- 文京区には立派な公立保育園があり、先生方にはずいぶん助けていただいています。この公立保育園の豊かな保育を削るのではなく、これをより充実させて、施設と保育士を増やし、より多くの保護者が利用できるようにすれば、少子化も虐待も減るのではないのでしょうか？何より、先生方に余裕がなければ豊かな保育はできません。保育は市場化に馴染むものではありません。コスト削減ではなく、子どものより豊かな未来のために、どうやったら豊かな保育ができるかを考えていけるような区になってくれたらと思います。
- 保育園は、共に育ちあうことができ、また異年齢の友達とも接することができ、刺激をもらいあい、心が豊かになる素晴らしいところ。また、どの家庭も、どの園にいても、均等の教育（サービス）を受けられることも素晴らしい。母がどんなに家庭で頑張っても、体験させてあげられないことがたくさんできる。これからの子どもの育ちのためにも、今の公設公営保育園はなんとしても維持してほしい。保育園は「コスト」がかかる場所ではなく、未来をはぐくむ「投資」の場である。
- 地域で子育てすること。保育園の先生方の知識を、文京区の財産とみなし、保育園という名前を取り払って、地域全体のサポートをする核になる施設にしてほしい。例えば、保育園機能の残しながら地域の人たちが集まれる場にする。子どもが多く集まる分、おじいちゃんおばあちゃん世代の人のサポートしてもらう。
- 子どもを産んだからすぐに親になれるわけではありません。子育てには、経験とたくさんの子どもの見てきたことがとても大きな力になります。私は、保育ママさんや保育士の先生方にたくさんのことを教えていただきながら、ようやく親をやっているようなものです。不安や疑問を持ったとき、そのような方々からのアドバイスや、同じ保育園に通わせている人の「ウチの子もそうなのよ」という言葉にどれだけ助けられたかわかりません。保育園や保育ママさんのような公的援助は、仕事をする・しないに関わらず、専業主婦の家庭でも受けられるようにしたいと思います。地域のすべての子どもたち開放された保育園にはできないのでしょうか。
- どこかの自治体では、乳幼児健診を保健センターではなく、自分の家から一番近い保育園で受けられると聞いたことがあります。そこでは、地域の子どもたちを担当する保育園が決まっているとか。保健センターでも子育て相談や子どもの発育状況を把握することをしてしていますが、小さい子を持った親がそこまで行くことすら大変です。歩いて行ける距離にある保育園の中でその機能を果たすこと、また、預けたい時にちょっと預けることができれば、素晴らしいことだと思います。
- 防犯の点もあるのですが、保育園の子育て支援、門が閉まっていて正直なかなか入りづらいと思います。保育園を子育て支援の拠点にするのであれば、もう少し地域と関わるようにしていった方がいいと思います。
- 保育園、児童館等、子ども対象施設とそのスタッフの質向上。
- 保育園については、とにかく保育者の質を保って欲しい。保育のスキルはもちろん、人格的にも優れた保育者をそろえて欲しい。そのためには、社会で平均以上、公務員でも優遇された給与体系を整えて欲しいと思う。幼稚園教諭より保育園の保育者のほうが給与が低いなど、言語道断。大事なところには、きちんとお金をかけるべき。
- 仕事を持っているものとしては、保育園の問題は常に心配。上の子どものおときは入園に関する情報も少なく、入れるかどうか出産前から不安だった。また今度はせっかく入園できたと安心していたのに、民営化の問題を知って、子どもの生活環境が脅かされるのではないかと常に心配がつきまわっている。民営化に反対ではないが文京区の保

育行政に安定的なポリシーが見えないため、今後子どもを安心して預けられるのかますます不安。仕事をしているものにとっては、安心して仕事を続けながら子育てする(あるいは子どもを産もうという動機が補強される)には、保育園の入園が確保され、また質の高い保育が受けられる保障があるという状況が何よりも必要。そうでないと子どもを持つことに二の足を踏んでしまう人も少なからずいるのでは。”

- 保育園がもう少し柔軟性があったほしい。保育士の人数が少ないようで、余裕なく見える。
- 子育てしやすいためには、安心して預けられる場所が必須。私にとって保育園ですが、この10年間にだいぶ変わりました。先生の数が減り、先生が忙しそうで大変に見えます。以前はもっと先生とお話できたのに。延長保育ももっと充実してほしいです。
- 保育園の防犯関係を見直してほしい(送迎の際の確認、警備員、男性の保育士を増やすなど)。
- 保育園は社会性がつき、異なる年齢の子どもと接することができずばらしい。また安心して預けられる、そして安全が確保されていることを望みます。
- 保育園・幼稚園の先生方にはプロとしての専門性や経験をふまえたお話を、もっと気軽に話せるような機会があるといいと思います。異年齢の子どもだけではなく、異世代間のつながりも良いと思います。
- 小さい子を保育園に預けるのは不安が多かったものの、実際に通い出すとお友達ができるし、生活面の自立も促されてよい経験です。親も余裕を持って育児ができると思います。しかし保育園はソフト面(先生方の接し方など)は安心できるものの、ハード面が悪いと感じることが多いです。時代遅れとしか思えない外観の保育園が多いし、新しい保育園は狭いです。区役所や都心のオフィスビルとのギャップの大きさに憤りさえ感じてしまいます。
- 「子育てしやすい町」。非常に難しいですが、「大変なこと」にも書いたように、子どもを安心して産み育てる環境があるかないかが重要だと思う。そのためには、保育園の充実・環境整備、地域の交流とサポートが必要だと思う。
- なんでもかんでも保育所に機能を持たせようとするのも、だれの利益にもなりません。一時保育と通常保育は相容れないものである(とくにスペース的に大きな制約のある文京の保育所の場合)ことは、米軍が実施した保育園改革でも証明済み。多様なニーズを追い求めるだけでなく、そのニーズを満たす適切な器が何なのかをきっちり見極める必要があります。
- 区立の保育園で、15時間くらいの保育をして欲しい。朝6時から夜9時くらいなら、子どもの睡眠にそこまでマイナスにはならないと思う。キャリアアップのため、育児休暇中に大学院に行く場合なども保育園で預かって欲しい。
- 保育園は、毎日楽しく通っています。上のクラスの子、下のクラスの子とも交流があるので、大家族のようです。安心して預けて働いています。先生方も本当によくやって下さっています。保育園のソフトや教育面にこそ公的補助が必要だと思います。いらぬ箱物にお金をじゃぶじゃぶ使うのはやめましょう。
- 働いていても子どもを預ける場所がない。また働いていなくても、子どもを預けて集団生活させたほうが、子どもにとっても良いことだと思う。3歳から幼稚園に預けることはできますが、それ以前にも預ける場所があっても良いと思う。子どもと1対1ではしつけなどもなかなか難しく、ストレスもたまり、虐待やノイローゼなども起こりやすいと思う。
- 幼稚園、保育園とも、必要なときに必要なだけ、保育を受けられるよう、かつ、幼稚園も保育園も、将来の立派な市民を育てる、という視線で存在して欲しいと思います。そのためには、幼児教育をもっと必要不可欠なものとして、思考や教養の土台を作る、位の視点で行って欲しいと思います。そうすれば、自然と、保育士、幼稚園教諭が、一生誇りを持ってできる仕事にならなければいけないし、それに見合った社会的地位が必要だと思います。
- 保護者の負担を軽減することが重要だと思います。たとえば、おむつに全部名前を書く、着替えを4着用意する、夏のプールの準備に、着替えとおむつをタオルでくるんで所定の場所にゴムバンドでとめて置くなど、細かな負担が大きいです。以前、引っ越し前に通園していた保育園では考えられないことです。お役人的な前例主義ではなく、どんどんと現場を改善していくような動きを期待したいです。
- 保育園の存在はとても大きいし助かる。0歳児のときは仕事をしているため預けることに抵抗もあったが、夜7時すぎまで預かってくれるのでなんとか仕事を切り上げて帰って帰ることができる。
- 保育園は親にとって、オアシスです。たまたまよい先生にめぐり合っているからかもしれませんが、子どもに自分気持の表現させる、いろんなことをやる気にさせる、社会生活の基本(マナー、相手の話をきく、相手の気持ちを考える、気持ちよく過ごす)など、本当に子どもを導くのがうまいと思います。親のお手本とも思えます。
- 保育園の良いところは、子どもの幼さや弱さを受容し、共感しながら、成長を促す、気の長〜い関わり方をしていること。福祉職と教育職の基本発想の違いを感じる。

(3) 保育園・育成室の整備・待機児の解消(19件)

- 働くお母さん達のためにも保育園や育成室を増園(もしくは先生の人数を増やし、現状園で預けられるようにする

＝待機児童を少しでも減らせる)。

- 保育園、育成室の待機児童をなくし、働く親をサポートして欲しい。
- できれば保育園や学童保育は希望すれば必ず入れるようにしてほしい。
- 公立保育園そのものの拡充（新規増設、敷地拡大などによる定員増加）。
- 待機児童は当然ゼロにする、途中入園も常時可能なように十分な保育施設を増設（民間委託はダメ）する。
- 保育園をもっと増やす。
- 保育園の数を増やすこと。
- 保育園、育成室の延長時間の拡大、受け入れ人数枠拡大を。
- 保育園の数を増やし、親がゆとりをもてるようになれば、少子化も防げ、虐待などもなくなると思う。
- 共働き世帯にとっては待機せずに、保育園に入園できることが望ましいです。保育園の良いところは異年齢交流が盛んなことです。一人っ子や長女、長男にとっては上級生を身近に感じたり頼もしく感じることができるし、上級生にとっては下級生に対して加減しながらの付き合いが学べる良い機会だと思います。何かと弱者に対する犯罪が多い世の中ですが、人と人の関わりについて、思いやりについて、学べる機会を増やすことは重要だと思っております。
- とにかく保育園の数が足りません。25%の整備率が妥当とは思えません。コストセンターとしてとらえるのではなく、将来に向けた先行投資という考えをまず保育課に持って欲しいです。逆に、その投資を怠るのは責任放棄であり、区民からみれば大きな機会損失となります。その責任を区にはもっと自覚して欲しいです。そうでなければ何も変わりません。
- 「待機児童の解消」は絶対必要だと思う。それだけでも、誇りに思える行政ではないかと思える。地区によってばらつきがあるかとは思いますが、これから入園を迎えようとされる園児達に対しては、現状に柔軟に対応できる増設や保育士増員することで、その年その年の必要な保育施設の数を是非確保してあげていただきたい。
- 保育園の数が少なすぎる。共働きの家庭は、今や半数を超えるはず。しかし、母が働くには保育園の存在が必須。元来子どもは授かりもの、そして育児休暇も1年あるにもかかわらず、保育園入園のために、計画出産をしたり、育児休暇を切り上げなければいけない現状はおかしい。区として働く母を責任もってサポートして欲しい。それが、少子化対策にも絶対つながるはず。
- 出産後の母親へのサポートや、子どもを安心して預けて働けるよう、保育園や学童保育の充実などを望みます。これらは、やはり行政が責任をもって行うべきことで子どもの育ちに関することに安易に市場原理を持ち込まないで欲しいと思います。また、最近では、子どもをまきこむ悲しい事件も多いため、防犯対策なども気になります。
- 小学校4～6年の間も、預かってもらえる機関が欲しい。
- 育成も小6まで必要！
- 育成室も待機児童がいるらしいが、今から不安。働く親にとっては、育成室に入れなければ、仕事をやめるしかない。仕事は今の時代、一度辞めたらなかなか再就職は難しい。核家族化している今の時代の働く母親を心底サポートしてほしい、と思う。繰り返しになるが、それが少子化にもつながると思う。
- 学童保育の終了時間が他の区よりも早く、働いている母親にとって精神的にも負担がかかるので、もう少しどうにかならないか。
- 育成室が、もっと「家庭」の代わりとなるような場所になるといいな、と思います。

(4)相談や交流できる場の整備・充実(15件)

- 各地域に、子育て駆け込み寺のような、悩んだり、困ったりした時に相談に行ける場が欲しい。そこには、世話好きのお仲人おばさんのような方がいて（団塊世代の知識や能力・経験を生かすことができる）、この相談にはこの方を紹介して、といったコーディネートをお願いできたら素敵だと思う。地域の教育力も上がるし、挨拶が飛び交う、不審者を地域でチェックするような雰囲気もでき上がるのではないかとと思います。
- どんなことでも話し合える場所がほしい。「お互い様」といえるような他人とのコミュニケーション作りができる環境。子育ての知識を高めたり共有できるような講座やサークルがあるといい。
- 子ども達同士が触れ合えて、ママ友達ができる場所や情報交換ができる場所が増えればいいなと思います。
- 育児においても様々な相談機関や利用しやすい施設がある。
- もっと、お母さんお父さんが駆け込みやすい場所があればいいと思います。
- 家庭で一日中育児をしていた3年間は、やはり密室育児になりがちだった。当時住んでいたのは文京区ではないが、公共の育児広場のようなものは、月に2、3回程度の開催だったので、いつでも利用でき、就学前児の子育てについての専門家が常時駐在しているような施設があればさらによいと思う。

- 子育て関連の悩みをメールで子育て経験者、保健師や保育士など専門家（OBも含む）などにいつでも相談できるサービスもあるとよい（日中決まった時間しか相談の電話ができないと仕事や子どもの相手などで忙しく電話しにくいので）。そういうメール相談で子どもの虐待などの恐れが見つかった場合には継続してサポートできる体制もあるとよい。
- 現在の保健センターでの「子育て相談」は最悪です。カウンセラーと1対1で相談するよりも、たくさん子どもたちと一緒にいる自分の子を見る、他の親と話をすることが、子育ての不安をなくすことになり、親の知り合いを増やすことが、密室での育児を防ぐことになると思います。
- 子どもは2人とも1歳から保育園に通園しているのですが、小さなうちから大勢の子どもたちと接することで、いろいろなことを覚えてきたり、刺激を受けることも多いようです。特に異年齢の子たちとの交流は、兄弟で遊ぶような感覚を味わえる、貴重な場だと思います。たとえば、保育園以外にも、小さな子どもたちが自由に遊べる場を多く提供してもらえると、子どもたちの交流にもなりますし、親同士の情報交換もできます。現在も子育て広場が区内数ヶ所にあるとは思いますが、大人だけの行動範囲としては近いものでも、小さな子を連れて行くには遠いかな・・・と結局利用できる人が地域限定ではもったいないですね。区内の空き施設を使ってもっと多くの場を提供してもらいたいです。
- 学校とは切り離れた児童館の充実を提案します。乳児期から近所のお母さんや子どもとの社交場として毎日でも行きたい場所です。通学路が暗かったり遠かったりする場合も多く、学校とは切り離して地域の中に場所を作るべきだと思います。
- 児童館での引き続き、午前の会だけでなく、午後も親子で楽しめるようなメニューを増やす。0歳児のお母さんも気軽に参加できるような会をもっと町内会の掲示板などに貼る（わらべうた・体操・絵本の読み聞かせなど）。区報にどんどん情報を載せる。びよびよ広場も良かったが、なんとなく閉塞感があった。保健所で離乳食作り・幼児食作りの会などを増やす。地域のボランティアさんに、もっと児童館や小学校の校庭開放で小さな子が遊べるような環境作り。ただ、どんなに宣伝しても、来ない人は来ないですね。保育園は異年齢で遊んだり、関わったりする機会があり、子どもは楽しいようです。先生も保護者のことをいろいろな意味で助けてくれるので本当に助かっています。
- 児童館などで赤ちゃん連れが集まりやすい企画を多くする。また、それらの情報をホームページ上で見られるようにする。
- 子育てが大変だと思うのは、人のうわさや雑誌の情報にまどわされることがあるからだと思います。また、どこにどういった相談をすればいいのかわからないのも不安をあおる原因だと思います。
- 母と子の集まりを政治的な婦人団体等に牛耳られないよう、区が主催する会を設けて欲しいと思います。根津の地域センターで集まっていた「ひよこの会」では、場所を借りるために会費を集めて集まっていましたが大変盛況でした。こういった集まりこそ区に率先して場所を提供していただきたいと思います。
- 子育てしている人が交流できる場を作るだけでなく、誰でもアクセスしやすいようなものにしていくことが必要だと思う。具体的には、物理的に拠点をたくさん作ること、またそういう場所があることがもれなく子どもを持つ人に分かるようにしていく、その場を適切に調整できるスタッフの配置（例えば保育士などのプロや子育て経験者等）など箱物や場所を設定して終わり、ではなく、運営面でのきめ細かさ、継続性も重要だと思う。

(5) 地域の理解や協力(12件)

- おもにセキュリティ面で、地域の人とのコミュニケーションをもう少し増やしたい。マンション暮らしなのであまり地元の人とはやりとりがないので、保育園などを通してもっと仲間を見つけたい。不審者や子どもへの犯罪は、互いに見知らぬものであることから発生すると思うので、皆がもう少し地元の人を知り合うことが大切だ。
- 地域にどんな子どもがいるか、どんな人がいるか、皆が関心を持てる町にしたい。子どもを持っていない人や普段かかわらない人とも、子どもがかかわったり、子どもに関わってもらえるような場があるといい。地元の人の仕事取材に行くとか、交流の場を設けるとか・・・。子どもを育てることは特別なことじゃないし、子どもは特別な存在ではない。皆子どもから大人になっていくんだから、大事な未来の社会の一員として考えられるようなムードがほしい。
- 地域ぐるみの子育てサポートシステム。
- 近所ぐるみでの子育てが理想です。安全安心の面から、子どもも顔見知りの多い町のほうが、どこに遊びに行っても安心できると思います。また大人の目が多いほど犯罪防止に役立つのではないかと思います。
- 顔の見える関係を築く。保育園への行き帰り、自然と言葉を交わすようになった近所の人達との、ほんのちょっとした子どもに関わるやりとりが、子どもにとっても親にとってもプラスになっている。顔の見える関係を深くするのがベスト。顔を合わせる機会を意識的に作っていくことが大事。例えば周辺商店街のお祭り・イベント情報を頻繁に保・幼・小に流す（以前、毎日通っている商店街のイベント情報が至近の人達にしか伝わってなくて、後で「ど

うして来なかったの？」と言われて残念だったことがあった)、もしくは至近の高齢者施設や自治会と合同イベントをするなど、“連携”を高める。

- 町内には、子どものこと、子育てのことを気軽に話したり相談できる人が身近にいてくれるとありがたい。保育園に通っていれば、先生方や他の保護者との交流を通じて、子育ての参考にしたり、癒されたりする機会が得られるが、そうでない場合、孤立した親たちはどのようにして機会を作るのか？お隣のおばちゃんのような人が、ときどき教えてくれたり助けてくれたりすると、本当にありがたいと思う。もっと、子どもをやさしく暖かく受け入れる雰囲気を作って欲しい。
- 地域のつながりがあるとだいぶ違うと思います。
- 子どもが1人で歩いていても安全な町にする為にも地域住民の活用がもっと必要である。
- 保育園では敬老の日の頃に祖父母の会を開くことになっているようですが、我が家以外でもおじいちゃんやおばあちゃんに来てもらえず寂しい思いをしている子どもはいると思います。いつもお世話になっている祖父母への感謝の気持ちを表すためのようですが、それは家庭でできることです。運動会もお祝い会も両親と同様に見ることはできますし、普段の様子を見たいということであれば保育参観の時にも祖父母の参加は可能だと思います。現状の祖父母の会よりも地域との交流を通して、お年寄りを敬う気持ちを教えては如何でしょうか？
- 普段から顔見知りになるように挨拶をする。
- 地域で子育てするという意識への広報活動→区の予算増。地域での子どもに関する行事（ボランティア）等を増やし、人と関係（面識）をつける→子どもを見守る目（人）を多くする。
- 大人が子どもの幼さ、弱さを、見守り、共感的に関わり、成長を待つ、という意識改革・啓蒙（特に教育委員会以下教育公務員、保護者を対象に）が必要。子どもを叱ったり、抑えつけたりして服従させることを是とし、強圧的なしつけをしない親を責め、孤立させる風土が、親を孤立させていると思う。

(6) 公園等遊び場の整備・充実(8件)

- 子どもだけで外遊びさせられるような環境づくり。
- 身近な公園・遊び場の提供。
- 子ども達が安全に安心して遊べる場の提供（公園も見通しを良くする）。
- 子どもが安全に遊べる大きな公園を作って欲しい。
- 子育てしやすい街のためには、公園の整備を切に希望します。公園こそ民営化して、隅にカフェを併設したりして、地域の人々がつい寄りたくなるような場所、そして子どもを安心して遊ばせられるような場所にして欲しいです。今の状態では場所の無駄遣いです。
- 子どもが安心して遊べる場所を確保する。遊べる場所とは、整備されたところだけでなく、ただの原っぱ（都内では厳しいですが）、広～い場所で走り回れるだけでもよいのだと思います。最近では廃校になった小学校などの跡地を、プレーパークとして活用している自治体もあります。
- 小さな子どもを連れていても危なくなくて遊べる場所がもっと増えればいいなと思います。大人も同時にゆっくりできるならなおいいですね。
- 文京区は意外と公園があり、子どもと楽しんで遊んでいるが、休日でも遊べる児童館がない。実家（埼玉県上尾市）には、休日でも遊べる児童館が充実していて、体育館もついていて幼児が遊べる大きくやわらかいボールなど、たくさん遊具も有る。最近2館目ができたそう。使い勝手もとてもいい。

(7) 医療費助成の拡充(7件)

- 乳児医療費を小学校終了時までにする。
- 子どもの医療費無料の年齢アップ。
- 例えば小学生の医療費を無料化。
- 医療費も小学校6年生まで助成してほしい。
- 小学校6年生まで医療費をタダにして欲しい。
- 他の区では実施していますが、医療費の補助の拡大（←これって大きいと思います）。
- 未就学児童の医療費が自己負担ゼロと言うのはとてもすばらしいが、それ以降も病気やケガは続く。義務教育終了までそうしてもらいたい。自己負担ゼロが家計も親の子育ての中の精神状態も安定させる。

(8) 地域環境の整備・充実(5件)

- 小学生が子どもだけでも安心して歩ける町にしてほしい。たとえば、挨拶運動の徹底、街灯を増やす、警察や地域の人のパトロール強化などを。
- 変質者が出たり、泥棒が出たりしない安全な街になれば子育てしやすくなると思います。
- 安心して赤ちゃん連れで出かけやすいようなまちづくりをしてほしい(例: 駅にはエレベータとおむつ換え場所を設置。今不便なのは三田線春日駅)。
- 通園・通学・通勤時のまず思うこと。それは、きちんとした歩道の確保。歩道に自転車が置いてあることも多く、その上、歩道そのものが狭く、危ない(歩道の幅や電信柱が歩道の真ん中にある)。
- 子ども連れで入れるよう、広い座敷のある喫茶店や飲食店がもっともっと増えるといい。子どもがいても親が楽しめる場所をもっと作ってほしい。

(9) 区政に対する意見(5件)

- 区長によい方を選ぶ。区議会議員も、党に流されることなく、しっかり考えをもってほしい。区の幹部にもまっとうな人を入れる。
- 区長の一曰せんせい体験。区の子どもに関わる部署の人はもとより、区民に存在をアピールしたいのなら、区長が「一日保育士(一日園長ではない)」「一日小学校の先生」など、年に最低1回ずつ、区内全園・全小学校で過ごすと思う。そこから、子育てしやすい町への何かが生まれるかも知れない。
- もっと住民の意見が区政に反映できるシステムを作ってほしいと切実に思います。区の職員のための行政ではなく、住民のための行政をやってほしい。
- 税金、医療をはじめとした制度の充実。保育施設や職員の柔軟性を切望します。前例踏襲ばかりで新しい試みをしていない、他の自治体を真似するだけの施策などでは意味がない。また、「文の京」自治基本条例に基づく協働協治というならば住民の意見は必要不可欠ではないのでしょうか？
- 本物の保育ビジョンを考えるなら特区申請ぐらいする覚悟で区には取り組んでほしい。

(10) 幼・保の連携・一元化(4件)

- 保育園、幼稚園、小学校、すべての管轄の部署が、縦割り組織を超えて繋がりあい、真剣にトータルに「子どもの育ち」を考えてほしい。たとえば、保育園・幼稚園から、小学校入学に際し「この子はこんな個性の子」のような申し送りがあったら、小学校の先生も、子どもの理解の役に立つのでは、とか。
- 保育園でも、保育にとどまらず、きちんとした教育を受けさせて欲しい(幼保一元化が良い)。保育園にも教諭を置いて欲しい。
- 公立よりも私立の幼稚園に人気がかたよっているように感じるので『公立幼稚園』撤廃。その分を私立幼稚園、公立保育園への補助にまわす。
- 幼保一元化。保育園ベースで。幼児教育は不要。それよりも看護師と栄養士の配置のほうがずっと重要だと思う。親以外の人(保育園の先生、学童保育の指導員)が、継続して子どもの成長を見守り子どもに長く関わってくださることが、親にとっても何よりも心強い。健康、遊び方、しつけ、食事の与え方についても、見知らぬその場限りのカウンセラーではなく、子どものことを日頃からよく見ている先生方や看護師さん栄養士さんに相談できることがどれだけ助けになっているかと毎日思う。母親の仕事の有無に関係なく、多様な大人がひとりひとりの子どもに継続的に関わる機会が、区内のすべての家庭に平等に保証されることを切に望む。

(11) 親の教育・意識改革(3件)

- 親に「親の資質」を身に付けさせる教育。
- 親は、子どもの生活リズム(朝起きて夜寝る)に合わせた働き方を。22時までの残業が可能な保育サービスを求めるのではなく、子どもと夕食を食べ、団らんし、その後、子どもが寝ている間に早朝というか深夜から働いても良いのではないかと親が要求するサービスに応える方向で、子どもの福祉を害する保育改革がなされることのないようにしてほしい。
- 保護者同士、我が子以外にも声を掛けたり、注意したりできる関係を築けたら良いと思います。人それぞれに考え方の違いがありますので難しいと思いますが、話をする機会を増やすことで少しは改善されるのではないのでしょうか？プライベートで、というのは人付き合いの得手不得手もありますので、保育園等の協力が必要だと思います。

(12)小児医療の充実(3件)

- 小児科専門医師のいる診療所の充実。小児科医の当直する病院の充実。
- 小児専門医院を増やすこと。
- 医療面でも診察時間の延長があると嬉しいと思います。

(13)学校環境の整備・充実(3件)

- 安心して子どもをその地区の学校へ通わせることができる環境が整っている町に住みたいと感じています(具体的には、先生の質が良く、学校設備が整っており、教育方針を保護者にわかりやすく説明してもらえるような学校)。
- 小学校1、2年生は区内全小学校全クラスで、2人担任制に加配する。これにより、ポーターの子どもも排除せず一緒に成長することができるようになる。「元気すぎる子」の親も肩身の狭い思いをしなくて済むようになる。全ての子どもについて、特別支援教育で導入される個別指導プログラムを作成し、障害のある子もない子も一人一人にあった援助(学力の定着、人とのコミュニケーション能力の向上など)を受けられる体制をつくる。
- 学校の配置見直しは困りものです。少人数が良くて今の学校に通っているのに見直されて大人数になったら先生がちゃんと見てくれるのかとても心配です。

(14)子育て支援情報の提供(3件)

- 文京区の保健所主催で3-4ヶ月の赤ちゃんを集めた交流会や離乳食講習をやっていたが、この告知を区報や文京区HPに載せてほしい。とにかく徒歩圏内に友達ができるのが重要だと思った。子どもが居るとなかなかPCを開けないので、携帯のサイトやメールに、交流会やイベントなどの情報があると嬉しい。児童館は行ったことないですが、児童館のイベントも載っていると利用したかも。
- 子育て支援関連情報は子育てポータルなどWebで一元管理・提供されていて、予約や申し込みもWebや携帯電話からできるとよい。
- 子どもがいる家庭に、その地域での子育て支援状況を妊娠時や出産時、転入時に教えてくれればいいのにと思いますが。調べるのもなかなか大変ですから。

(15)再就職・多様な働き方への支援(2件)

- 出産等で退職した女性の復職支援として保育サービス付研修サービスやeラーニングサービスなどもあるとよい。
- 時短やワークシェアリング、働き方を少しスローにできる環境があれば、子どもにも余裕を持って接することができると思う(←これは「子育てしやすい町」とはちょっと違いますが)。

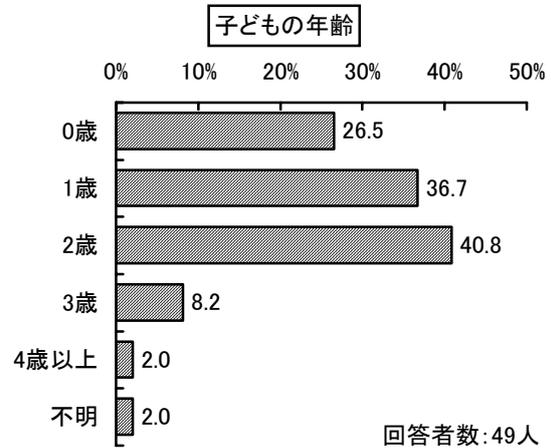
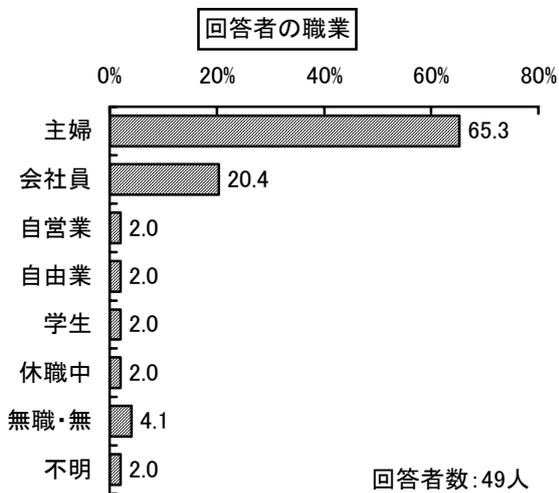
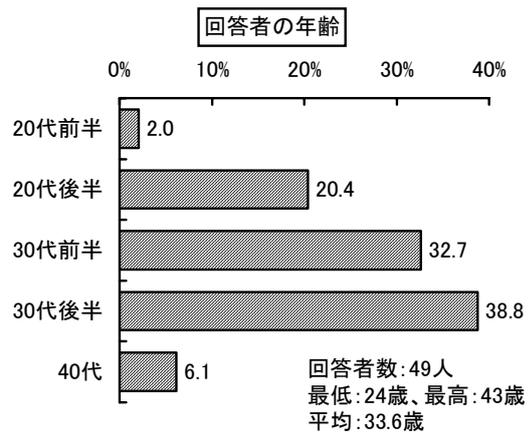
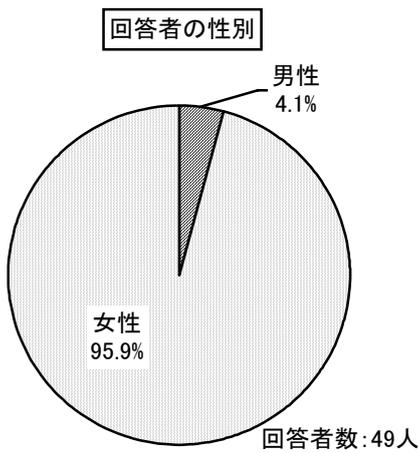
(16)その他

- 出産、子育てが「人生の中抜け」にならないようにしたいです。子どもを産んで育てるのが当たり前で、それがデメリットにならないよう、自分の選択肢が尊重される社会だといいですね。
- 会社がやらなきゃ区が手当てを出して父親の子育て育児休暇支援をするべき。父親の帰りがだんだん遅くなり、子育ての負担、家事の負担は母親に重くのしかかり、父親は家事・育児下手になり悪循環を生み出しています。
- 先日、配られた金券はそのときは嬉しいと思うけど単発なものなのであまり意味はないと思います。
- 行政、地域、保育園、すべてが「おもしろい」の気持ちで持てる余裕があることを望みます。
- 区が出産・育児をサポートする万全な体制をアピールできていれば、安心できるかと思います。体制というのは、金銭面(通院・入院の助成金など)や生活面(たまには親もリフレッシュできるように一時保育の充実、公園設備など)など色々あげられるかと思います。
- 保育園に行ったおかげで、子どもだけに友達ができたのではなく、親同士も友達になれ、育児の悩みや仕事の愚痴なども話したり、ストレスも解消できる。また、近くに知り合いがいなかったのが、知り合いができたことは色々安心です。小学校入学は心配だったが、友達がいることは子どもも親も少し安心になった。またそれほど規模の大きな学校でないのが、先生とも意思の疎通がはかれたのはよかった。

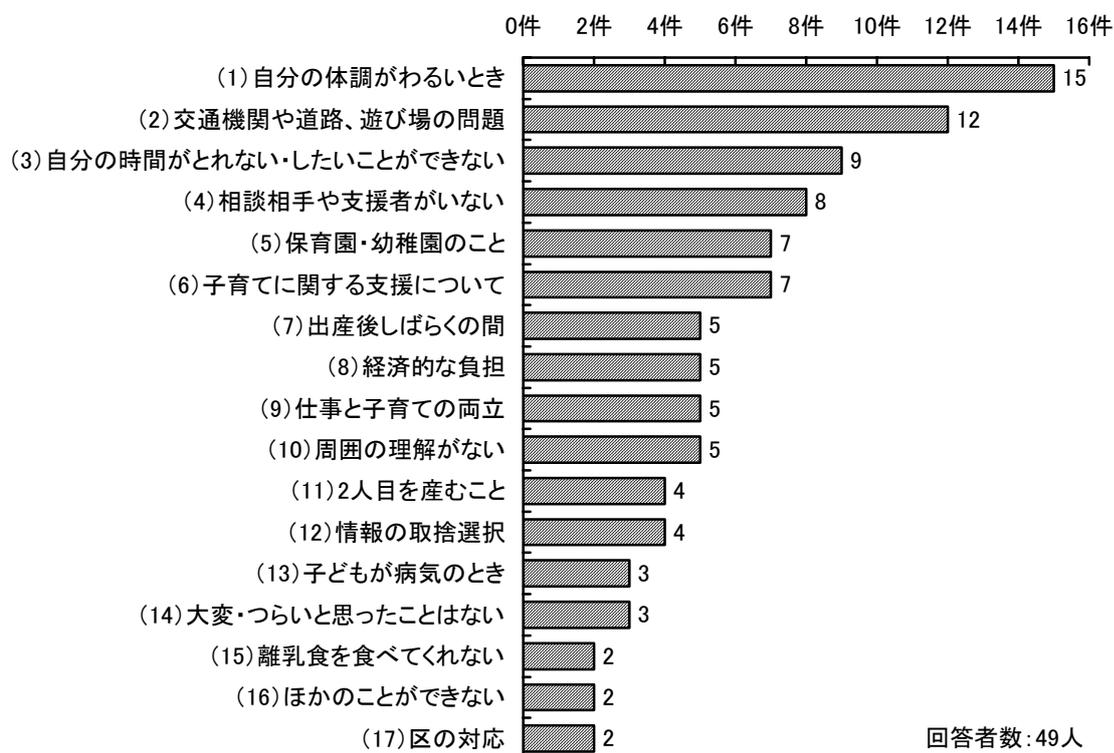
3. 回答結果②

[回答者の基本属性]

- 回答者数は 49 人。
- 回答者の性別は、95.9% (47 人) が女性
- 年齢は、約 4 割が 30 代後半で、平均年齢は 33.6 歳
- 職業は、65.3% (32 人) が主婦。
- 子どもの年齢は、2 歳が 40.8% (20 人)、1 歳が 36.7% (18 人)



1. 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)のはどういう時？



(1) 自分の体調がわるいとき(15件)

- ・ 風邪をひいてしまい、母乳のため薬も飲めず、夜中まだ何回か授乳してた時。
- ・ 子育てが大変つらいと思ったのは、自分が病気になったり、子どもが重い病気にかかったりして、育児に支障がでた時。我が家は、夫婦ともに実家が遠方で、両親の援助も望めないで、子どもの出産から約2年間、2人だけで何とか子育てをしてきた。私が病気になった時は、育児に支障をきたし、夫が会社を休む等して、何とか乗り越えてきた。
- ・ 体調をくずした時。子どもは、ようしゃなく色々要求している。
- ・ 最初につらいと思った事は、自分自身の体調が悪くなってしまった時。持病の腰痛(ギックリ腰)がひどくなり、全く動けなくなってしまった。その時は、実母が比較的近くに住んでいる為、全て母にお願い出来たが、もし、お願い出来ない状況にあったらと考えるととても不安になる。
- ・ 主人と3人家族のため、助けをお願いする人が近くにいない。自分の体調がよくない時などは、とても大変に感じる。
- ・ 病気をした時、どう対処していいか迷う事がある。
- ・ 実家が遠いため、子どもが病気の時や自分の体調が優れない時の不安が大きい。近くに頼れる親類がいない。
- ・ 自分の体調が優れなくても休めない。
- ・ 自分が風邪をひいたり、具合が悪いときに子どもの世話をする時が一番辛い。
- ・ 自分自身が病気のときの育児。
- ・ 子ども、もしくは自分が病気になった時。
- ・ 自分が病気の時、また引越しの時などに誰か1~2Hでもいいから、子どもを見ていてほしいと思っても気軽に預けることが出来ない時。
- ・ つらい時は、自分の具合が悪い時でも育児をしなくてはならないので、風邪をひかないよう注意した。
- ・ 自分の体調が優れない時。気軽に病院に行くことも出来ない。
- ・ 私の実家が名古屋で、主人の実家が大阪な為、自分が病気になった時とかに、子どもを預けられず、困ったことがあった。早朝から預かってもらえる施設があったら助かる。子育ては大好きなので2人目も欲しいが、そういう問題が解決できないとふみこみにくい。

- 自分の体調が悪いとき、誰も頼りにできず、子ども（2人）と3人になるときがつらかった。近場に両親はいるものの仕事をしているため、そうたびたびは見てもらえず、主人も仕事を家に持ち帰ることも日常茶飯事。ベビーシッターは1時間3,000円と聞き、なかなか預けるといいうのも自分に許しがたくて…。

(2) 交通機関や道路、遊び場の問題(12件)

- ベビーカーで移動が多くなり、歩道を通る時に歩道が傾いているので、とても押しにくく大変である。できれば平にしてほしいと常々思う。
- 駅構内に階段しかないところが多く、ベビーカーでの移動が大変（駅員さんで手伝ってくださる方はほとんどいない）。
- 交通機関で階段しかない所があり、ベビーカーで移動するには大変だった。
- 狭い道なのに車通りが激しい道を通らないといけない場所に住んでいるので、子どもが車にぶつからないか心配。
- 歩道に停めてある自転車が邪魔でベビーカーで通りづらい。子どもを歩かせても前後からくる自転車の人をよけるためにいちいち立ち止まらなくてはいけないし、危ないので迷惑な場所に停めてある自転車をもっと頻繁に撤去してほしい。
- 公園で遊ばせたいと思っていても、そこを家(?)のように使っている方が多いので、なかなか遊ばせることができない。
- 子どもを遊ばせる場に児童館がある。しかしこの児童館、未就学児は午前中の時間に限られているのがほとんどだ。子育て広場も利用するが、西片は急な坂の上であり、体調によっては行く事すらためられる。幼稚園を開放している所も、お弁当を食べたら解散か、お弁当を食べられる日にも限りがあるものばかり。隣接した千代田区、新宿区、豊島区には、幼児が一日過ごせる施設がある。
- 下の子が小さいときから上の子と2人を連れて遊びに行くところがあまりなく困った。
- 子どもが安全に遊べる場所を探すのが大変。
- 子どもが歩くようになって、家の中にいるより、外に出てお友達と遊ぶことが多くなったのは良いが、やはり、雨が降っていたり、これから冬になり寒くなってくるので、外出が困難。でも、だからと言って一日中家の中にいると泣くので天候によってつらいと思う事がある。
- 子どもとずっとふたりきりで家に閉じこもらざるをえない時（天気が悪くてお散歩に出られない。遊びに行ける場所がない）。
- 遊び場のこと。文京区の児童館は古い施設が多く、規定も多くて使いづらいので、私達は新宿区や豊島区の遊びやすい児童館をよく利用している。子どもがハイハイ～ヨチヨチ歩きくらいの頃は、公園にも行けず、曜日や時間を決められている児童館しか行けず、とても不自由だった。今でも夏休みなど大きい子どもたちが多い時期は、暗に“幼児は来ないで欲しい”という意味のポスターが貼られ、遊び場所に困る。

(3) 自分の時間がとれない・したいことができない(9件)

- 近所に家族がいないので、子どもを預けられず、歯医者や美容院など自分の用事を済ますことがなかなかできない。
- 自分の時間がほとんど、とれなくなったことが一番つらい。どこへ行くにも子どもと一緒になので、時々自分一人の時間が欲しくなる。
- 辛いなぁと思ったのは、自分の時間がなかった事。2歳になった今でも自分の時間はほとんどないが、乳児の時は母乳の時間などがあり、なかなかゆっくり出かけられなかったが、最近は子どもと一緒に出かけられるようになり、だいぶ気持ちが楽になった。
- 当然の事だが、自分の時間がなくなる事。
- 日々成長する子どもとの時間はとても楽しいものだ。しかし、専業主婦は子どもと離れる時間がないのも現実だ。働いていれば通勤電車の中で本が読める。ランチだって一人で食べられる、と仕事の大変さはともかく、うらやましく感じることもさえる。
- 周りの人々からは、落ち着いた育児をしているように言われるが、私自身は全くそのように感じることはない。子どもに対してどう言ったら（褒めたら、叱ったら）いいのか、何を食べさせたらいいのか、ダメなのか、落ち着いた考える時間もないので、その都度できる事をやっているが、正直自信があってやっている事はあまりない。でも子どもは元気に育ってくれているので、寝顔を見てホッとしている。自分のストレスの軽減ということもあり、仕事を少しずつやっていきたいと考えているところだ。現在は子どものお昼寝の時に少しずつやっている。また、夫の休日があれば、夫にも子どもと1日遊んでもらい、私の時間にしてもらうよう協力してもらっているが、限界がある。急に依頼があり1～2週間程忙しくなるという感じなので、急な仕事でも一時的に子どもを預ってくれる

保育施設を探し始めているのだが、自分に合ったものが見つからない。子どもとして学ぶ事もたくさんあるので、保育園に預けるのではなく自分の時間をつくるために（仕事、買物など）サッと対応してくれるような場所を見つけたいと思うが、病気や風邪の時でも緊急事態でも予約が必要との事で、子どもを預ける事は少しあきらめているところもあるが、子どもとやっていきたいと思う。

- 今でも大変と思うのは、一日中気が抜けないことである。少しでも一人で息抜きしたいと思う時がある。あとは、細かい悩みで（夜泣きや離乳食など）。同じ状況のお母さんなどと話せる場があれば、気が楽になる。
- たまには一人きりになりたいと思うことがある。いざ一人になると子どものことが気になって仕方ない。なんやかんや不平不満を聞いてくれるお友達（母、主人）がいるので、楽しみながら子育てしていると思う。
- 自由な一人の時間がまったくない。

(4) 相談相手や支援者がいない(8件)

- 自分一人で問題を抱え込んだ時、相談する相手（グチを言うだけでも）や時間がないと、辛くなる。
- 子どもが熱を出した時など外出できず、買物や家事など手伝ってくれる人がいないのが大変である。
- 仕事復帰する際に、一人で登録や手配をしたので、相談できる人がいなかった事。
- 自宅で絵を描く仕事をしている。出産までは体の変化に左右されていたが仕事はできていたのだが、出産してからはほとんどできなくなった。家での仕事なので出産後もできるものだと思っていたが、育児が生活のほとんどとなり、仕事をやる時間はほとんど・・・というかほぼできない状態になってしまった。妊娠中に子ども（赤ちゃん）をどうやってお世話するのか、育てていくのか、人から話を聞いたり本を読んだりなど自分なりに情報を集めていたのだが、いざ子どもが産まれて世話を始めてみると、本当に何から何まで自分一人でやらなければならない、想像よりもずっと大変だった。夫も毎日帰りは夜 12 時近くになるので、日常の中で一緒に子どもの世話をするという状況にはならず、1 日のほとんどの時間を子どもと 2 人で過ごす事になり、初め（出産してすぐ）はそれがとても辛く感じた。子どもは本当にかわいいのだが、辛い気持ちやイライラした気持ちは 1 日のうち何度かあり、今でもどうしたらいいのか、どうやってストレスを解消したらいいのか考えている。子どもは悪くないのにイライラして子どもに当たってしまう事もあり、後になって後悔しているが、その時は気持ちを止める事ができない。
- 辛いことは、1 人で子育てすることだと思う。核家族で夫の帰りが遅いと子どもとずっと 2 人きりで、何から何まで 1 人でしなければならぬのが大変。家族の協力は大事。昼間は、ピヨピヨ広場などへ行き、2 人きりの時間を減らし、気分転換をするようにしている。本当は、近所の児童館で過ごしたいが、乳幼児が遊べる安全な場所はほとんどなく、午前のみ使用とされているため、乳幼児の児童館難民がたくさんいる。
- 近くに頼れる人がなくて、ちょっと面倒を見てもらって用事をすませたり、ということが困難な時。
- 乳児のとき、急にどうしても外出しようと思っても、預ける人がいなかったために、主人に休みをとってもらったこともあったので、預けられる所があればいいと思った（ファミリーサポートは登録していないとだめだったので、急なものはできないとあきらめた）。
- 核家族で夫が仕事で帰宅が遅く、子育ての負担が自分（妻）にのしかかる時。

(5) 保育園・幼稚園のこと(7件)

- 保育園に入れるか不安。
- 学生だから、フルタイムの人より保育園入園、延長保育などの優先順位が低いとき（学生には有休がなく、経済的に厳しいにも関わらず）。
- 体を壊したため保育園への入園を申請したが、枠が限られており恒常的に付近の保育園を利用する事が難しいのが辛い。
- 保育園の問題。私のように出産前はパート勤務だった者は、出産を機に仕事を辞めざるを得ず、復職したくても出来ない状態にある。夫の収入だけでギリギリの生活を送っているのに、区立保育園はいっぱいで、保育料の高い私立の保育園をすすめる。どこからそのお金を捻出できるというのか。私の周りには区立保育園に入れている方々は、たいがい夫婦とも正社員で収入も高く保障もある。そんな人達ばかりではないと思うが、働きたくても働けないのに“専業主婦は気楽でいい”などと言われたり、区立保育園の待機の順番が後回しにされたりするのはひどいと思う。
- 保育園に入れるかどうかわからないとき。家から近い保育園に入れなくて、通いづらいと感じる保育園でも、入園できるだけでありがたいと思わなくてはいけないとき。
- 二人目を考えても、兄弟姉妹で別の保育園に通わなくてはいけない状況が当然だと知ったとき。
- 近くの幼稚園に入園させたいと思っているが、ここは 2 年保育。私立の幼稚園は 3 年保育だが、通園することを

考えると近所が一番だし、ここだと坂を登らずに通うことができる。区立幼稚園も 3 年保育の実施を検討してほしい。3 年保育にするのはすぐに無理なら、週 3 日でも午前中預かり保育を行ってほしい。

(6) 子育てに関する支援について(7 件)

- 気軽に預けることができず、病院に行くにもちょっと考えてしまうときがある。保育料の安い施設があると助かる。
- 仮に預けられても病気の時は迎えにいかなくてはならないので、病気でも預けられる施設が欲しい。
- 一時保育の問題。再就職のためにも大学や区の生涯学習講座などに通いたいとき、また 2 人目 3 人目を妊娠した時、自分が病気になった時など、一時保育の施設が充実していないと思う。あっても場所が遠い、保育料が高い、規定が厳しいなど、とても預けにくく感じる。
- 区の緊急一時預かりは、2 ヶ月前に登録が必要だという事で、急な発病には、対応できないし、民間のベビーシッターは費用がかかると聞いている。今は、まだ子ども一人なので何とか頑張れるように思うが、今後、第二子を考えた時、このまま何の支援もなしに子育てができるのか、とても不安である。特に出産前後に上の子が、確実に保育園等に入れるのか、産じょく期の育児、家事、自分自身の心身のケアについて、とても不安を覚える。
- 文京区には一時預かりできる施設が少ないと思う。シビックセンターのキッズルームも 3 時間を上限としているので、家からや目的地からの道のりを入れると 1~2 時間しか活動できない。場所、預け時間の選択がもっとできるようになると助かる。
- 専業主婦家庭では、保育園が特別な事情がなければ利用できず大変である。3 年以上間をあけるにも結婚年齢が高い(遅い)人にとっては、出産年齢も気がかりである。そのような事情から 2 人目をあきらめる人もいないかと思う。少子化に真剣に取り組むのであれば、子どものみならず、子育て当事者(専業主婦)の負担軽減も大きな課題であると思う。
- 出産後の産じょく時期のサポート(親の助けが求められない環境だったため)を手配するのが大変だった。出産後の大きな不安の 1 つだった。核家族化が進んでいるため、私のような環境の人は、たくさんいる。夫婦 2 人で産じょく期を乗り越えるのは、大変なことなので、福祉サービスや区の行政サービスを行って欲しい。もちろん有料で OK。

(7) 出産後しばらくの間(5 件)

- 出産してから 3 ヶ月健診までが、とにかく大変で全てにおいてつらかった。何もかも初めてな上に体調も良くないので、ノイローゼになった。私は、実家が近かったため、話し相手がいたから乗り越えられた。健診の時に児童館や図書館のイベントを知り参加。そして友人もできて気が楽になった。出産して 1 ヶ月、できれば、出産直前くらいの方に案内をするようにすると精神的に助けてあげられると思う。私ももっと早く参加したかった。
- 産まれてみないと、どんなタイプの赤ちゃんかわからないので、最初は行き当たりばったりで毎日が大変。特に産後明けの夜泣きは体力的にしんどかった。自分が具合が悪くなくても赤ちゃんのおむつや授乳は定期的にはやらなくてはいけないので、疲労がたまる一方だったし、赤ちゃんは具合が悪いと甘えて抱っこばかり求めるので、腰は常に痛む日々…。人見知り時期は誰を見ても泣くので、皆に謝りっぱなしでした。
- 子育てが大変だったのは、生まれて 10 ヶ月くらいまで。夜泣きで寝不足が続いた。
- 夜泣き、泣き止まない時。子どもと二人っきりで誰とも話さない日がある時。
- 新生児の時は、ちょっとしたことが気になり不安だったが、すぐ近くに相談できる人がいたので助かった。

(8) 経済的な負担(5 件)

- 病院の出産費用の高額さ。50 万円かかった。
- 経済的な事が大変。これから大きくなるにつれ、もっとお金がかかるので、頭を悩ませている。
- 私は文京区に越してきたとき、不妊治療をしていた。当時まだ補助金等もなく、経済的にも体力・肉体的にも相当追い詰められていたので、断念をした。その時、自分の心の整理をつけるため、自分自身に言い訳して「こんなに『お受験熱』の高い区で子どもなんかできて苦勞するだけだ」と思っていた。それから 1 年後くらいに、奇的に子どもを授かったが、その心配は今現在も引きずっている。もちろん今はそんな先の話よりもっと身近な問題がある。
- まだ小さいうちは、粉ミルク、紙パンツ、紙おむつ等、かさばる物、重い物が 2 人分一緒に必要であり、買物も大変だし、金額も一気に高額出費で大変。
- 医療費の事。せめて小学生までは無料化して欲しいと思う。

(9)仕事と子育ての両立(5件)

- 仕事を休む事が難しい時。子どもが風邪をひいていてお世話を頼める人がいない状況の時(身内が近くに住んでいないため)。
- 仕事との両立。自分は家事、育児、仕事、全てをきちんとするのが当然と思われる事。
- 保育園は夕方まで見てもらえるが、小学校に上がったなら自分で児童館へ行くか、高学年になるとそれも終わる。一方会社は概ね「子どもが小学校に上がるまで」は時間減もあるが、小学校に上がるとなくなるので、両立は困難になりそう。
- 仕事と育児のバランス。
- 心配なのは、仕事復帰後の両立。大変そうだ。保育園等の預けられる施設は空きがないと聞く。もっと枠を増やして欲しい。

(10)周囲の理解がない(5件)

- 駅にせっかくエレベーターが設置されていても、若い方や健康そうな方々がたくさん乗り、ベビーカーだと乗れず、次が来るまで待つことになることが多い(嫌な顔をされることもあるが、優先して下さる方は滅多にいない)。
- 街で出会う人々の意地悪な言葉や態度(ベビーカーを邪魔そうにしたり、露骨に嫌な顔をされる。勿論、優しい言葉をかけてもらうときもあるが)。
- 少し混み始めた電車やバスにベビーカーで乗れないのも大変である。荷物が大きい上に子どもを抱えてベビーカーを持つのは体力的に厳しい。たまに「狭いんだから乗るな」みたいなことを言われることもあり、悪いことをしていないのに肩身の狭い思いをすることもある。
- 隣近所の理解。
- 子連れの外出。子どもがさわいだときに白い目で見られるときなど。外食にも行きづらい。

(11)2人目を産むこと(4件)

- 下の子を産むとき、臨月近くになり上の子の面倒を見るのが大変で、産前産後預けられる保育サービスを利用しようと思ったが、空きがなく利用できなかった。
- 現在第2子を懐妊中。主人、私の両親共に60歳を越えているが仕事を持っているため里帰りもマンパワー不足で意味がない。そこで第1子の保育園入園で対処しようと考えたが、現実には厳しいものだった。区立保育園、認可保育園共に待機の状態、受け入れがない。フルタイムで働く人に比べ、出産は入園条件としての点数も低く、可能性はさらに低いものとなっている。少子化対策は働くママのためのもの?と疑問を抱かずにはいられない。専業主婦でも子どもを育てる、産むことにかわりはない。出産の時期だけでもサポートしてもらえるシステムが欲しいと思う。
- 現在は子どもが一人なので何とかなると思うが、2人目を産むことは慎重になってしまう。
- 子どもを産む決心については、1人目は仕事の状況で決めた。2人目は、どうしようか悩み中。妊娠すると自分の体調だけでも大変なのに育児も休めないと思うと、なかなか産む決心がつかない。シビックのキッズコーナーがもっと使いやすくなれば、もう少し安心して踏み切れると思う。

(12)情報の取捨選択(4件)

- 今は、いろいろな情報が手に入る時代。その中で、どの情報を自分の子育ての中に上手く取り入れていくかというのが難しいと思う。子どもを育てるということは、決して楽な事ではなく、毎日、毎日がこれでいいのかと考え、悩みながら子育てしている。自分も一緒に毎日成長しているような気がする。
- 初めての経験なので最初は何かから何まで大変だった。今は育児に関して色々な情報があるが、情報がありすぎて迷ってしまうときもあった。両家の母には事情があり子どもの世話を頼めなく、主人は自営業なので朝から夜中過ぎまで仕事なので、本当に一人で子育てをしている状態だった。
- 100人いれば100の意見・アドバイスがあるので、初めは自分がどれを選ぶかに悩んだ。
- 病院の情報。
- 利用出来るサービスがあっても情報が人から教えられる事が多く、使いたい時にすぐ利用できず大変だった。

(13)子どもが病気の時(3件)

- 風邪等、1人が体調が悪いと、まだ小さいので一日中私(母)にへばりつき、何もできないし、他の2人のこともあり、大変だ。
- 休日等に小児科などが近くにない場合などは、非常に困る。言葉が出来ない時期の子どもの病気は、親にとって一番の不安事である。
- つらいのはやはり赤ちゃんが風邪をひいて息苦しそうにしていたり、吐いてしまいぐったりしている姿を自分が見ることしかできないときかな。

(14)大変・つらいと思ったことはない(3件)

- あまり子育てで辛いと思ったことはない。主人が育児に協力的なので、家族一緒に楽しみながら子育てしている。ある程度、旦那様も育児に協力すれば、神経質になるお母さん方も色んな負担が軽減されるのではないだろうか。
- 子育ては大変そうと感じた事はあまりないように思う。確かに体力的には疲れたりして一日休みたいと感じるときもあるが、子どもといると、野菜を多く摂ろう、明日も早いからと、夜遅くまで起きることも少なくなった。でも子どもを持って近頃感じることは、「子育てって大変でしょう?」と言われる事(周りの人、近所の人)。その言葉を聞くと「はあ〜」と逆に疲れてしまう。「子育てって楽しいでしょう!!」この言葉だと「楽しい〜」と元気になると思ってみたり。メディアでも「子育てって楽しい」というニュースばかりだと、人間は単純なので、世間もそうなっていくのでは、とふと思う。
- 現在は育休中なので、子どもと向き合うのは苦ではない。

(15)離乳食を食べてくれない(2件)

- 育てて、はじめて直面する問題は、私は、完全母乳で育てており、6ヶ月過ぎから離乳食を始めたが、なかなか食べてくれない、これでいいのか〜と悩んだ。でも、いずれは食べるようになる。今は、2歳。まだ、母乳を飲んでるが、食事もわりと食べてくれる。
- 離乳食や食事を食べてくれなかった時。

(16)ほかのことができない(2件)

- 家事との両立。
- 2歳をすぎ昼寝をしない事が多くなり、最低限の事をするのが精一杯だ。もう少し時間があれば、掃除や片付けをしたい。

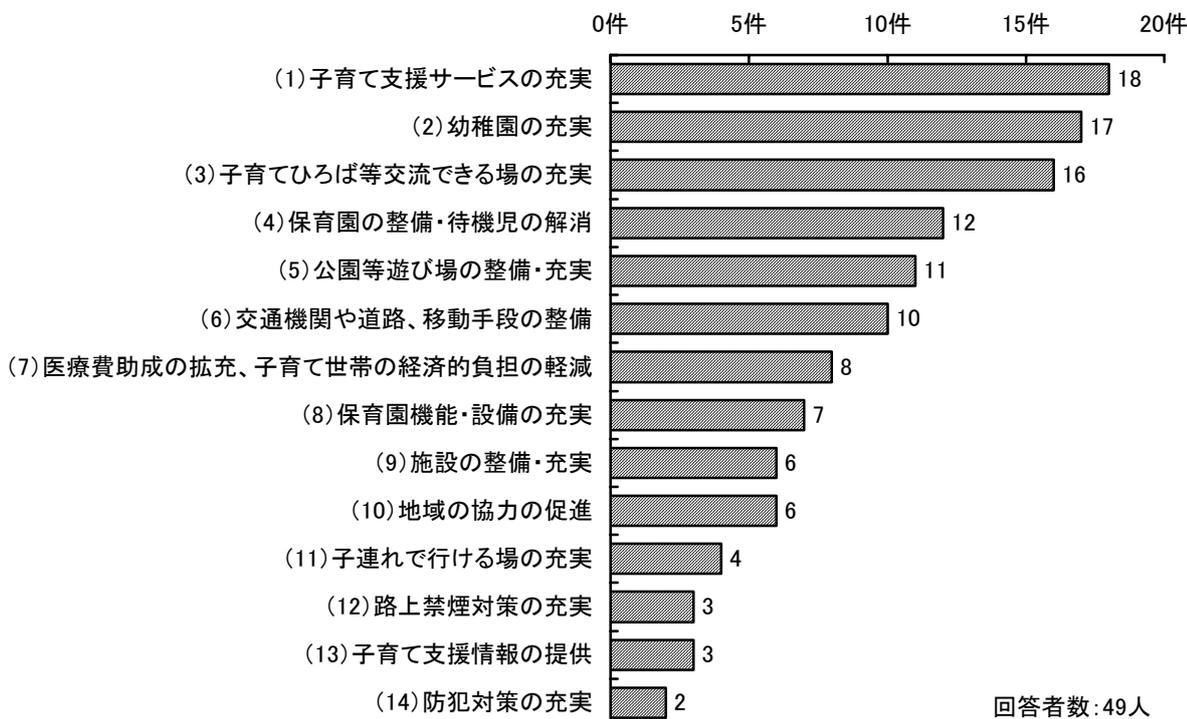
(17)区への対応(2件)

- 近年では核家族が増えてきているのに、区への対応はできてなさすぎると思う。私は2人目がおなかの中にいる時に文京区に引っ越してきた。家は、主人も私も実家が沖縄、千葉と遠いため、あまり手伝いにこれる状況ではないので、せめて風邪をひいた時にでも子どもを見てくれたりするところはないかなと思い、2人目を出産して出生届を出すのに区役所に行った時の事。まず区の職員の何人かに「こんな小さい子どもなのに外に連れて歩いて!」と言われた。来て来ていてはいいし、どうしてそんな言い方を区の方に言われなければならないのか疑問だった。その後、風邪の時に見てくれるようなものはないかを聞いたところ、風邪になって初めて預ってくれる施設に行き、登録手続きを踏む、といった内容のものを聞かされた。子どもがいて具合が悪いのに、どうやってその場まで行く元気があるのか、そんなに動く元気があるのならわざわざ預けない!!産んだ後というのはガクッと体力が落ちるので、実家に頼れない人は必ず産後何回も動けないくらいの深刻な病気になる。産後うつにもなりやすいし、周りに頼れる人がいないならなおさらだ。1時間でもいいから家に来て子どもの面倒を見てくれた事で救われる事もある。区の方たちの対応の悪さに正直びっくりした。関心がないというか、そういうところから改善しなければよくならないのでは?この話を保健師さんにしたところ、とても対応よく答えて聞いて下さって、下の人の声は区長にまで届かない、という事も言っていた。もっともっと言いたい事はたくさんある。形だけでなく行動に出してほしい。
- 子育てを祖父母が手伝ってくれるのが当然という対応をされたとき(子どもが病気の時、保育園のお迎えが遅くなる時など、うちは実家が遠方で手伝ってもらうのは困難)。

(18)その他

- 第1子の幼稚園へのお迎え(14時)のとき、第2子と3子は昼寝の時間で、(ほぼ毎日)誰もいなくなる家に寝ている2人を置いて、ダッシュで往復するのが大変。そして第1子が友達のうちに遊びにいくと約束している日など、泣きたくなる。寝ていた2人が戻る前に起きて泣いていたこともしばしばあり、トラウマにならないか心配している。
- 引っ越してすぐの妊娠だったため、病院を探すのに少し苦労した。
- 子どもの成長が遅いのではないか、どこか悪いのではないかと、不安な時。
- 年子で下の子どもは1ヶ月なので今はよいが、これから先は大変。いろいろな事を考えてしまう。また、今は働けないが、父親がお店を一人でやっているので手伝いたいと思うが、今のままでは不安である。今預けている子どもを半年後も預かってもらえれば、大変幸せと思う。
- 子育てはなるべく若いうちにと、今3人いてつくづく体力的(自分の)に感じている。
- 社会からとりのこされていると感じる時。
- 夫婦2人で出かける機会が全くもてないとき。
- 子どもを出産するまでは、無事に産まれれば“ゴール”のような気持ちがあり、そこから大変な事が“スタート”するとは考える余裕がなかった。今、娘は、2歳9ヶ月になり、だいぶ楽になったが、2人目を産む予定はない。子どもは嫌いではないが、かわいいと思えるのは、自分自身の精神状態がベストの時、病気の時看病していて、もし、自分が妊娠していたり、下の子がいたら自分でやる自信がない。自分の年齢を考えると体力的にも自信がない。近所に児童館、公園もあり、恵まれているが外出(電車に乗って)は、子連れは大変だ。

2. 子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか？



(1) 子育て支援サービスの充実(18件)

- 病気の時など、家事を手伝ってくれるヘルパーさんが利用できるようなになれば有難い。
- 病児保育ルームを利用している。病気回復期にとっても助かる。もっと増やしていただくと需要が高まると思う。
- 病児保育のできる保育園を増やしてほしい。
- 公的補助はベビーシッターさんなどを利用しやすくしていただけたら、と思う。
- 近くの幼稚園や保育園に一時保育の枠があるといいなと、どうしても思ってしまう。
- 子どもを気軽に預けられる場所の設置（例えば、全ての保育園で一時預かりをするなど）。
- 一時預かりについて（一度も利用した事はないが）、もう少し低料金で預ける事が出来るとうれしい。
- ふみちゃんのおうちは、3時間→4時間利用できるように変更して欲しい。3時間では、髪の毛を切りにも行けない。
- 一時預かり保育の休日への対応（月～金の勤務の人だけでなく、不定休勤めの人もいるので休日も預かってくれるとありがたい）。
- 育児の支援を増やしてほしい（これが一番の願いである）。これは、他のお母さん達とも話題になるが、シビックの一時預かりが使いづらい。預けたい時は、「美容院」「通院」という方が多い。でも「3時間だと足りないから預けられない」と皆さん口をそろえて言っている。「それなら目白に」と思われるかもしれないが、実際、子どもを連れていっただけで大変。仕方なくベビーシッターに頼む方も多い。せめてあと1時間延ばしてほしい。私も2人目を考えるにあたり、通院がすごく心配である。予約制でない所も多いので、あと1時間は、預かっていただくと間に合うと思う。あと3日前からの予約だが、せめて前日（できれば当日）とかにしてほしい。子どもは、夜泣きがつきもの。「1時間でも休みたい」ということがよくあるが、3日前からだと思えない。当日または前日なら利用しようと思う。よくびよびよ広場に行くが、いつもキッズルームは空いていてもったいない。「できれば一時預かりと1日預かりとの選択制、無理ならもう少し長く預かってもらいたい。あとは、1回3時間10日ではなく、1ヶ月30時間という規定にするとか。予約は、せめて前日まで受け付けてほしい。」これが、他のお母さん達とも一致する意見である。
- 子どもを預けるのに料金が高い。3時間で2,500円もかかると気軽に預けるのは、無理だと思う。
- 区役所のキッズルームを少し大きくして、6ヶ月くらいから預かってくれるととてもありがたい。
- 病児保育、ベビーシッター、一時預かりなどの充実。

- 子どもの一時保育や保育ママなどの制度があるが、事前に予約、登録が必要なので、急に今すぐ預って欲しい時にどこにもそういう場所がないので困る時がある。
- 地域センターの職員の方には申し訳ないが、一日中暇そうにしている方がいるのなら（そう見える）、一時預かり的なことをしてもらえるとありがたい。
- 過日、突然送られてきた子育てアシスト文京おかいもの券、とても助かった。今後も定期的に（年に何回か）続けて欲しい。
- 電車に乗って外出する時、サポートしてくれるボランティアがあれば、子連れでの外出が楽しくなる。自分が買い物している時、近くの公園で1時間ほど遊ばせてくれるなど・・・。
- 0歳児の施設がとても少ないみたいで、しかも料金が高いので、あずけたくても中々入れられないのが現状みたいなので、もっともっと補助金を増やしてもらえれば、出産をしようとする人も出てくると思う。少子化現象が、問題になっている今、真剣に考えて行かないと大変な事になると思う。

(2) 幼稚園の充実(17件)

- 幼稚園は、地元（近く）が良いのだが、抽選でなくなると良い。勉強のためだけでなく、身体作りもあるので、日当たりもよく、園庭で遊べるのがよい。
- 3年保育が主流の現在、区立の幼稚園は、2年の所が多い事がとても不思議である。それに加えて、3年幼稚園でも（小日向台町幼稚園）、入園出来る人数が少なく抽選、ほとんどが兄弟（姉妹）枠で埋まってしまうというのは、疑問に思う。区立ならば、希望すれば確実に入園できる制度に是非してほしい。
- 区立の幼稚園、是非3年保育にしてほしい。
- 公立の3年保育の幼稚園を増やしてほしい。
- 春日の付近では3年保育の幼稚園が少ないと思う。
- 公立幼稚園は2年保育なので近所にあっても3年保育を希望しているので、残念。平日、入園前の子ども達に開放していただいて、楽しく遊ばせてもらっている。
- 幼稚園は、もっと区立を増やしてほしい。できれば3年保育のものがいい。
- ぜひ区立幼稚園の3年制の充実公的補助を。少しずつマンションも建設されているので、子どもの数が増加してきているように感じるので検討してほしい。
- 区立の幼稚園が3年保育でたくさんあるといい。倍率が高く入園させるのが困難な上、選択肢が少ない。保育園もなかなか入れないと聞き、民間の保育園は保育料も高いので困る。もう少し安価の保育料で、気軽に預けられる施設がたくさんあると助かる。
- 幼稚園、保育園とも、その場所により入園できる子どもの年齢がまちまちなので、全部同じにしてくれたらいいと思う。家の近くに入園させたい良い幼稚園があっても、2年保育、3年保育などの理由で行けなくなってしまっている。
- 区立幼稚園の保育内容を充実させ（特色を持たせ）、私立と比較できるくらいにしてほしい。また、保育時間終了後も一部私立のように有料でも預かり保育や課外保育（英語や体操等）を実施してほしい。
- 幼稚園入園で仕事を持つことを考える主婦も多いが、幼稚園は受け入れ時間が短く、就職は現実的ではない。幼稚園に延長保育を設ける事で、保育園か幼稚園かの選択も広がり、保育園への児童の集中も緩和できるのではないだろうか。
- 地方のように、14時降園という中途半端な時間ではなく、16時～17時まで預って欲しい。
- 私立と区立幼稚園の保育料の差が大きいため、私立にもっと公的補助をしてほしい。
- 幼稚園など、園庭を開放して下さる所が多く、とても良いことだと思う。
- 幼稚園の未就園児開放はとても助かっている。公園は人がいないことが多く、安心して遊べる環境ではないこともあり、幼稚園をよく利用している。
- 今、子どもが遊びに行っている幼稚園では、園内で菜園をしたり、動物を飼ったりと、とてもいい経験ができている幼稚園だと感じている。

(3) 子育てひろば等交流できる場の充実(16件)

- ぴよぴよ広場のような衛生的で子どもが楽しく遊べて、母親同士も気分転換できる場所がたくさんあると嬉しい。ただ、1歳過ぎて歩くようになると、ぴよぴよ広場では充分遊べないので、もう少し広々と遊べる場所をつくって頂きたい。又、土日雨の場合の遊び場がないので、土日でも使用できると嬉しい。

- ぴよぴよ広場はとてもよいので、各地域に同じような施設が出来るとよい。
- ぴよぴよ広場のような施設の充実。ウレタンマットやすべり台等の遊具も設置し、プレイスペースがあるとよい(子どもが身体を動かして遊べるとよい)。
- 子育て広場、ぴよぴよも、もう少し広くスペースをとり、交流の場を持ちたい。そこで母親たちは学べる事も大切だ。そして具体的に訓練を受けた人がまた地域の子育てママとして、託児のサポートをしたり、相談にのる、遊びの提案など、社会にも参加出来ると嬉しい。
- 児童館や図書館以外にも親子で集える場があるといい。土曜日の過ごし方に結構困っていたりする。
- 児童館に乳幼児の部屋を設置して欲しい。現在児童館には、乳幼児を遊ばせる清潔で安全な部屋はなく、AMのみ使用となっているため、利用できない。AMは、家事等で外出できず、結局遠くにあるぴよぴよ広場まで通っている。あるいは、小学校などの空教室を利用するなど。
- 午前中は、児童館や幼稚園など遊ぶところはあるのに午後はほとんどなく、あっても3時、4時で終わってしまうので、5時半くらいまで遊べる場所がほしい。できれば、体育館ぐらいの広さがあって、滑り台など遊具がある室内があったら良いと思う。晴れていれば公園などに行くので、天気の良い時、午後からの遊び場所が全くないのが今の現状だと思う。
- 育児中の人達が集まる場や機会を増やす。他の区よりも児童館でのイベントが少ない気がする。リトミックや触れ合って遊ぶイベントが毎週ある児童館が増えたら嬉しい。ぴよぴよ広場がもう少し広い、または、ねんねの子と走り回れる子が分かれて遊べるスペースを作ってもらえると良いと思う。外遊びを安心してできる場が少なく、みんな悩んでいる。どこか建物の屋上とかにお庭でもできて、シビックみだいにオートロックがあれば、安全面、衛生面(犬のフンとか)も安心である。
- 幼稚園の園庭や児童館をよく利用している。大変助かっているのだが、夏休みなどの長期の休みの間や土日は利用できなかったり、児童館は学童保育が始まると、私のような1~2歳児を連れた親子は利用できない事がある。「小学生が来る事で幼児は安全に遊べない」という理由で入館を断られる事もある。色々な子どもや親子が安心して長時間利用できる(できれば安価で)施設があると本当に助かる。
- 区役所内ぴよぴよ広場に行くための手段がバスしかなく、そのためにたまにしか行けない。児童館の「0歳児あつまれ!」も週1の午前中だけなので、子どもの朝のお昼寝にぶつかったり、家事をしているうちに終わってしまったりでなかなか参加できずにいる。ぴよぴよのような施設をもっと各所に作ってほしい。子育てアシスト券も、豊島区に近い我が家は、ベビー用品を池袋で買うので活用できていない。金券よりも施設を充実させてほしい。もしくは、図書カードやクオカードのようなどこでも使える金券にしていただけると嬉しい。
- ぴよぴよ広場は0~3歳向けなのに狭く、動けるようになってくると遊びに行けない。シビックセンターの中に幼稚園前の子どもが遊べるスペースがあればいいと思う(例えば、空中庭園前のベンチのスペースの隅に室内のおすべりなどの遊具を置くなど)。
- 児童館等の場はとても素晴らしいと思う。こういったところにボランティアでいらなくなった(自宅での)玩具を提供すればいいと考えるが、受け入れの対策がまだされていないようだ。
- 文京区ママ達の現状。「最近どこで遊んでるの?」幼稚園入園までの子どもと初めて外に出て、そろそろ他のママ達と育児についての情報交換をしたいと思う大切な時期である。その頃に、子どもを連れて行っても良いなと思える所は、シビックセンターのぴよぴよ広場くらい。でも、スペースは狭いし、混んでいて、2歳くらいの子供達も走り回っていて、わざわざ行きたくなくなる程ではない。他のママとゆっくり子育てについて語れて、0歳児も赤ちゃんも静かにお昼寝できる広いスペースがある施設があればなあと思う。次に1歳児からは、ハイハイやヨチヨチ歩きが始まる。児童館はどこも床が汚いので、ハイハイは無理だと感じる。しかも小学校の終る頃に学童の子ども達も来るので、1歳児の遊び場はなくなり、帰らざるをえなくなる。西方の子育てひろばは、終園が3時なのでもう少し、延ばして欲しいし、施設を新しくして欲しいと感じる。という事で、文京区のママ達の中には、少しでも安全で、安心、きれいで落ち着ける場所を求めて、他区の施設にまで足を運ぶ人が少なくない。新宿区、豊島区、千代田区等の施設は、前述の項目をほとんど満たし、子育て支援の場として、とてもよく機能しているように思う。しかし、最近では他区からの受け入れに差別化を図る所が出てきている。遊び場とは、単なる子どもを遊ばせるだけの場ではなく、育児に行き詰ったママ達の息抜きのも場であったり、大切な育児情報の交換の場でもある。文京区にも、良い施設はあると思うが、本当に充実していれば、わざわざ遠い他区にまで足を運ぶママ達は、いないと思う。今ある現状の施設をもう一度見直して、他区に負けない子育て支援の場をママ達の声も取り入れて作ってほしい。
- 公的補助があればあるだけ助かるが、無料の親子体操教育やリトミック教室などをやってくれるといい。幼稚園や児童館でもやっているが場所が狭いので、広い会場などで月1回でもしてくれると他のお母さんや子ども達と知り合えていいと思う。
- 今年の9月から、児童館のなかよし体操と後楽幼稚園のなかよし広場を利用している。両方とも毎日実施してく

ださっており、子どもも楽しく過ごしており、なによりも母親同士の付き合いが広がることに喜んでいる。

- 小さい子が参加できる集まりなどの情報や公的な場での主催。同じような人達と知り合えれば話もできて立場を共有できる。

(4) 保育園の整備・待機児の解消(12件)

- 少子化といいながら、保育園の待機児童が多すぎる。枠をもっと増やせないのか。
- 保育園入園枠を増やし、核家族世帯の子育ての負担を軽減してほしい。
- 区立の保育園に入れていないので、認証保育所を利用しているが、料金面と交通の便が悪いので、できれば待機児童を解消してほしい。
- 保育園は待機児童がいなくなるよう、また、出産などの短期の預け入れに対応できるよう、施設の拡充を望む。
- 保育園の待機児童を減らしてほしい。
- 保育園の受入数及び延長枠を増やしてほしい。
- 駅に近い保育園がもっと増えれば便利。
- 駅周辺にもっと保育園をつくり（または民間保育園を誘致し）、働く親の送迎をしやすくする。
- 保育園を増やす。定員を増やす。
- 保育園について、100%入園出来る事が理想である。
- 待機児童ゼロへの工夫（大型のマンションも増加しているので、今後待機児童が増加すると思われる）。
- 保育園を増やしたり、幼稚園の延長をしたりはどうか。

(5) 公園等遊び場の整備・充実(11件)

- 子育て広場、児童館等遊べる場所があり助かった。でも、外での遊びとなると公園が小さく遊具が少ないのが残念。
- 他の地域に比べて公園の汚さが、目につく。私は、わざわざ車で別地域の公園に行っている。
- 近くの江戸川公園にある砂場であそんでいるとうんちのような、おしっこのような臭いが強くした。他のお母さん達もそのような話をしていた。日光があたっていたので（砂場）それで強く感じたのだと思う。夜になると野良ねこがトイレがわりに使っているらしい。子どもが砂場で遊ぶので、それ以来砂場遊びはやめた。他の公園（家からは遠い）では、砂場にネットをはっている公園があった。やはり、子どもを遊ばせられるいい環境を整えてほしい。
- 公園内の見まわりを昼間でもしてほしい（遊具の上で寝ている人やお酒を飲んでいる人がいると子どもを遊ばせられないので）。
- 公園の砂場の衛生管理をしてほしい（ネットが張ってあってもあまり効果がないので）。
- 公園の遊具が比較的小学生、幼稚園児向けのもが多く、小さい子が遊べるものが少ない。
- 子供とお母さんが安心して遊べる公園がほしい。ぴよぴよみたいに登録した人しか入れないようにして、多少お金を払ってもいいと思っている。
- 子連れで安心して行ける公園（ホームレス対策した）や、商業施設（映画館や子供用品店）、また使いやすい児童館を増やしていただくと、もっと子育てしやすいまちになるのではないだろうか。
- 公園は雑草が生えっぱなしになっていたり、ホームレスがいたりして、安全に遊ばせられない。遊具の数も少なすぎる。公園の数は多いのに、安心して遊べる所が少ない。
- 子どもが遊びやすい公園を整備する。
- できれば土日にも遊べる場所（雨に関係なく）室内があればいいと思う。雨の日はどこにでかけてよいやら。力がありあまっている。

(6) 交通機関や道路、移動手段の整備(10件)

- 水道端図書館前の道路の傾斜がきつく、ベビーカーはもちろん子どもも歩きづらそう。
- 最寄駅「江戸川橋駅」のエレベーター設置が中止になりとても残念。子連れでも駅使用がとても苦痛である。これは、子どもにも大人（高齢者）にも優しい街に必要な条件だと思う。
- 東池袋の駅にエレベーターがないのでとても不便。
- 江戸川橋の駅を利用している。役所のカだけではどうにもならない事は承知しているが、エレベーター設置のために何か働きかけをしていただけたら、と思う。子連れだけでなくお年寄りの方にもやさしい町であるために、必要

なものだと思う。

- 駅にエレベーターの設置がなく困る場合がある（例：江戸川橋）。このような駅は区で出資してでも設置すべきではないだろうか。子連れと高齢者が利用しやすくなる。
- 町について。子どもを連れて歩いていると、一人で歩いていた時には気付かなかった多くのことに気付かされる。ベビーカーは道路の段差でつまずき、放置自転車にはばまれる。この放置自転車、文京区は本当に放置しすぎだと思う。豊島区は池袋、目白駅が全国ワースト 1 位になったためか、シルバーボランティアの方を中心に連日撤去し、駐輪場を営み、現在は本当にすっきりした町に変わった。文京区もこれに倣うべきだと思う。
- 銀行や店など段差をなるべくなくす。
- 道ではよく自動車に直面する。
- 都営バスが走っていないような順路に区内の主要箇所（区役所、公園、病院等）を巡回するバスがあれば助かると思う。
- 文京区も他区のように園バスを走らせてほしい。

(7) 医療費助成の拡充、子育て世帯の経済的負担の軽減(8 件)

- 医療助成の対象を小学生まで引き上げて欲しい。
- 区内でも多くの区で医療費の助成を改正している。中学 3 年生まで医療費のかからない区もあるほどだ。文京区も改正を望む。特に歯は定期健診にかかるお金もバカにならない。大きな意味で医療費削減にもつながるよう、せめて健診費などは無料にして欲しい。
- 医療費助成期間の中学卒業までの延長。
- 医療費を小学 6 年生まで無料にして欲しい。
- 子育ては、非常に精神的にも大変である。特に子どもが病気になった場合は、大きな心配もある上、仕事の都合をつけなければならないなど、多くの困難を伴う。その上に、医療費は経済的、更に精神的負担となっている。是非、中学卒業時までの医療費の公的負担を希望する。
- 妊婦健診に保険がきくようになってほしい。
- せっかく「文京区おかいもの券」が支給されても、子育てに関係ない物を買うために使えてしまうため、地元商店街の地域振興に貢献するためのものという感がある。それならば、子育て世帯を直接減税した方がいいのではないか。
- 育休で保育園に入れず、民間の託児所にやむを得ず預けなくてはいけない人のために、せめて月に 5000~1 万円の補助をしてほしい。

(8) 保育園機能・設備の充実(7 件)

- 保育園は、親から離れて多くの子どもと時間を過ごすという意味で、非常に有意義な時間であると思う。また、親が他の事を行なう上で時間を作ることも出来る。この様な意味で非常に大切である。一方、共働き家庭等でなければ、常時利用出来ない事は、非常に残念である。もう少し、小規模で数が多く地域に根ざしている事が理想と考える。
- 公立保育園でも土曜日預かりを行って欲しい（有料でもよいので）。現在は、土曜日勤務の方などの利用のみになっている。同じく、延長保育も、事前契約者以外も臨時的に利用できるようになるといい。
- 保育園の施設を新しくきれいなものにする。
- 区立保育園の先生にゆとりがほしい（担任の先生は忙しすぎて、実際に子どもに関わっているのは非常勤の先生の方が多いように感じる）。
- 仕事復帰予定で育休中だが、上の子は保育園に行っている。上の子がいるときは彼が最優先になり下の子はほっておかれることが多かったり、自分の体調が悪い時に保育園は助かっている。生活のメリハリや対人関係を築く上でも良いと思う。
- 今、保育園に通っているが、大変良い環境で良いと思う。

(9) 施設の整備・充実(6 件)

- ~私が望む子育て支援のための公的施設~以下の項目にあてはまる施設を文京区在住者が、自転車、バギー、バス等で行ける場所に 2~3 ヶ所設置する。①幼児期（0~1 歳）、2 歳以上の幼児、小学生以上の子どもと年齢別の部屋を設置。②ハイハイ等するので、乳幼児が遊べる清潔で安全な部屋づくりとおもちゃの設置。③冷暖房、オム

ツ換え、授乳室、ミルクを作れる設備、昼食ができる施設、乳幼児用ベッドの設置等の環境充実。④自転車、バギー置き場の充実。⑤施設そのものが、子育て支援の場として機能し、レクリエーションやセミナー開催を企画し、情報発信の場となる。⑥子育てについて相談にのれるカウンセラーを常時置いて、育児相談ができる場を作る。⑦緊急時の子どもの一時的預かりを、当日でも受け入れられるよう実施。⑧子ども達が外遊びできるよう、野外に遊具、砂場、水遊び施設を作る。⑨1歳児、2歳児対象の育児サークルをつくる。⑩母親達によるイベントや催し物の運営における活動の場の提供。⑪施設は、年中無休で、どの区の人でも使用できる。

- 上と下が2歳しか離れていないので、2人を連れて遊びに行くことになるが、公的な施設でもトイレの整備がされてなかったり、遊ぶところが限られてしまう。児童館のトイレに補助便座もないのは、おかしいと思う（できればベビーキープもほしい）。
- 児童館や保健センター等、子どもの集まる施設をもっと明るい雰囲気、きれいにしてほしい。
- 本郷保健センターの場所が遠いし不便なので、もう少し便の良いところに移ってほしい。
- 公的な証明書等を発行してくれる出張所を復活させてほしい。
- 乳児健診や歯科健診を受ける保健センターを選ばせてほしい（せめて、初回に選び、その後は同じでもいいので）。
- 区営のプールを作ってほしい。

(10)地域の協力の促進(6件)

- 地域のおじさん、おばさんなど声かけをしてくださると助かる事（気分が楽になる）があるので、お母さんからも積極的に話しかけるのが良いと思う。子どもの遊び場に時間のある地域の人が入れる場があればいいと思う。安全管理の面で難しいかと思うが・・・。
- 各町内会で、幼児対象だけではなく、乳児も対象にした催しも行ってほしい。母子で一番孤独な時期が就園前の時期なので。
- 現在私もマンション住まいで、居住者、また近隣の方との接点がほとんどない。幼稚園や保育園をもっと地域に開放して人を集めたり、園のボランティア活動などで地域に密着させていくとよいのではないだろうか。
- 世間ではいかに長く保育をしてくれるところが（預り保育）いいと言われているようだが、本当にそうなのか。疑問に思う。もちろん経済的な事もあるが、家族のつながりが希薄になっている今、「みんなで家に早く帰って家族団らんしようよ！！」と思うのである。「手作りの料理を食べようよ」と思うのである。地域でお父さんの交流会、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども達の交流会、使用されていない児童公園を菜園にしたり、おいも掘りをできたりしたら、とっても楽しそうではないかと思う。埼玉などでは保育園とご老人の施設が一緒になり、子ども達とご老人達の交流の場がある。もちろん様々な問題もあると思われるが、文京区にはご老人の方々も多くいらっしゃる。おじいちゃん、おばあちゃんからわらべ歌を教えてもらったり、子ども達は肩を揉んであげたりなどなど、お互いが生きる力といたわりの心が学べるのではないかと思う。現代の子ども達は与えられるものが多すぎて、もちろん当たり前のようにもなっている。心が置き去りにならないように、将来自分からご老人や障害を持った方々に手をさしのべられるような、やさしい大人になれるように、小さな頃からの経験が大切なのではないだろうか。
*おじいちゃん、おばあちゃんは（自分たちの）何か買ってくれる人、おこずかいをくれる人ではなく。
- スーパーやバスでおばあさんに声をかけてもらえたりとチョイチョイお年寄りとの交流はあっても、結局その場限りなので、大塚フレッシュママみたいな感じで、地域のおばあちゃん達も集まってふれあいができれば理想的！同じママ同士の集まりも大切だが、色々なタイプの赤ちゃんを見てきた視野の広いお年寄りのアドバイスはとても役に立つと思うので。
- イベントや行事の際に、近所の方との共同作業をしたり、専門的な方との交流もあると、子どもも色々な体験ができてよいと思う。

(11)子連れで行ける場の充実(4件)

- 親が食事をしている時、子どもが遊ぶ場所（江戸川区西葛西にあるSKIPKIDS）のような所が文京区にもあれば、息抜きできる。
- 子どもを遊ばせながら、親はランチやお茶を楽しめる場があれば、とても嬉しい。
- 子ども連れで行けるレストランがほしい（禁煙で）。
- 子育て用品のリサイクルショップの大きな店があればいい。

(12)路上禁煙対策の充実(3件)

- まず、東京でよく見かける「歩きながらのタバコ」を廃止すべきだと思う。
- 文京区の禁煙も（区全体）お願い出来たら嬉しいなと思う。
- 歩きタバコを禁止する。

(13)子育て支援情報の提供(3件)

- 母子手帳をもらう時、妊娠中、産後に使えるサービスについて教えてほしい。
- 妊娠中、出産後に子どもの通える幼稚園や保育園（公立や私立なども含めて）を相談できたり、提案していただいたり、個別に相談してもらえる窓口があると、とても助かると思う。子育てのビジョンを自分なりに家計的にも組み立てたいと思っていたが、上手に情報を得る事ができずにいる。
- どこにどんな病院があるとかのマップがあるといい。

(14)防犯対策の充実(2件)

- 子育てしやすい町というのは、環境設備、公的補助などいろいろあるが、最終的に子どもや家族が安心して暮せる、犯罪のない町という事だと思う。幸いな事に今までそういう危険な目にあった事はないが、色々な話を聞くので、心配になる事がある。
- 防犯ベルを持ち歩かなくてもいいよう、地域の目が届く社会になるといい。

(15)その他

- 公的補助も大切だが、主人の帰りが早い方が精神的に楽。育児休暇を取得するのは、まだまだ少数だが、取得しない人が出せないなど、考えが変わらなければ少子化は止まらないと思う。
- 小学校の学区をなくしてほしい。
- 幼稚園・保育園に通う年代も義務教育にして欲しい。
- 最近の小学校の統廃合等の話を聞くが、子どもは色々な面で影響を受けやすく、大規模な体制で教育を行うより、地域と密着した小規模なものを公的な学校には求める。単純な経済性による統廃合には、反対である。公的機関の意味がない。削減するのは、他に先行するものがあると思う。

資料 6

家庭で乳幼児を育てている保護者に対する グループヒアリング調査結果

目 次

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 調査の実施概要..... | 125 |
| 2. 調査結果の要旨..... | 126 |

1. 調査の実施概要

調査目的	保育ビジョンの策定にあたり、保育園や幼稚園に通わせず、家庭で乳幼児を育てている保護者の子育ての状況、子どもの育ちや子育てしやすくするために必要としている支援等について把握する。	
調査方法	グループヒアリング調査	
対象グループ	第1回 2歳4か月～2歳9か月の子どもの 母親:7名	第2回 6か月～2歳2か月の子どもの 母親:9名(含む外国人2名)
実施日時	平成19年1月12日(金) 11:00～12:45	平成19年1月19日(金) 11:00～12:30
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てで苦勞していること・困っていること ・子どもの育ちのために・子育てしやすくするために、必要と思うこと 	

2. 調査結果の要旨

(1) 第1回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

◆養育サポートについて

○家事援助サービス

・家事援助サービスがあるといい。両親など気軽に頼める人は近くにいないので、自分の調子がちょっと悪いとき、時間がほしいときなど、家に来て2~3時間みてもらえると、1か月に1回でも楽。4~5か月のときはおむつがたくさん必要で、トイレットペーパーも買うときなど、ベビーカーを押して、とても大変だった。一時保育は預けられるのは1歳くらいからだし、6か月くらいの子どもを連れて外に出て帰る、というのは手間、負担。

○緊急一時保育・一時保育

・現在、2人目を出産間近で、実家（埼玉）に帰る予定だが、文京区の緊急一時のシステムは、1か月間、3つの保育園で各3人までしか預けられない。そのことを知らず、緊急一時保育に申し込みなかったら、家族が遠くにいる人は、上の子どもも含めて自分ひとりでみることになる。私が風邪をひいたりしたら、子どもも私もイライラして大変な状況になると思う。その日に言えば、半日でも1日でもみてくれるところがあるといい。

・台東区では、2か月間くらい、1日1000円前後でみてくれるシステムがある。そういうサービスを利用すると子どもも楽しく、親もゆっくり下の子をみることができ、健康的な子育てができると思う。働いているママさんだけでなく、子どもを産んだ後やつわりの時期など、高額でなく低額でみてくれるシステムがあるとよい。

・文京区の一時的保育は高い。自分は働いていないから2500円は大きい。2回利用したら洋服が買えると思ってしまう。どうしようもない場合は仕方がないが、息抜きのためには利用しがたい金額。息抜きできる時間が必要だが、自分がみればただ、と思うと結局息抜きはできない。

・両方の両親とも都内に住んでいるので来てもらうこともできるが、歳をとってきている。これからは「ちょっと助けて」と言えなくなってくるので、一時保育を充実してほしい。

・5日前に登録しないといけないのでは、緊急一時保育になっていない。夏に引越しをした際、両親も手伝いに来てくれなかったし、主人も仕事が忙しかったので、前日1日だけでも4時間くらいみてほしいと思い、緊急一時保育を利用しようとしたが、病気が冠婚葬祭でないとだめと言われた。目白台の一時保育所を紹介されそこに登録をと言われたが、まだ5日前だったが、土日は含まない5日前ということで登録できなかった。結局、徹夜して子どもを寝かせつけながら準備をした。結果的に対応できたからよかったが、それで倒れていたらどうするのかと思う。

・子どもが0歳児の一番手のかかる時期に、私は3回病気になった。そのときは、主人の会社が近く、すぐに戻って来てくれたのでなんとか乗り切れた。これまで一時保育、緊急一時保育など区のサービスを使ったことはない。みんなの話を聞いたり、そこまでしていいものやらと自分の中で歯止めがかかったりして……。ただ、サービスが使いやすいものであれば、もうちょっと気持ちも変わったと思う。病気などで育児できないことで不幸になるのは子ども。例えば、近くの保育園にその日の朝や前日電話すれば、受け入れてくれる体制があれば、すごく気持ち的にも楽になると思う。他区では、保育園全園で緊急一時保育を実施しているところが4区くらいある。文京区は3園だけ。なぜ文京区ではできないのかと、いつも主人とも話している。

・急なときに支援してくれる人がいない。母の時代は隣に鍵を預けて、「今寝ているからちょっとみていて」ということもできたが、今は隣にどんな人がいるかわからないし、わかっていてもちょっと怖かったりして頼むことはできない。まちのコミュニティもできていないので、頼れるマンパワーが近くにいない。

○2人目以降の妊娠・出産に対する支援

・今、2人目を産むかどうかで、毎日悩んでいる。両方の両親とも大阪だし歳をとっているのも、手伝ってもらってはみこめない。また、2人目を妊娠している人の生活をみていると大変だと思う。保育園もなかなか利用できない、ということも聞いたし、自分だとどうか考えてしまう。緊急一時保育の利用や、2人目を産むときは保育園に入れる優遇措置などがあれば、考え方も違ってくると思う。迷っている人もいっぱいいるのでは。

・2人目を産むときは、1対1から1対多数の関係になるわけなので、思い切りが必要。
・2月に第2子を出産予定。両家の両親とも仕事をしているので、1人目のときは里帰りしなかった。やはり2人目となると、1人目は外に出て走り回らないとだめなのに、新生児を連れて公園にも行けないし、寒い時期に出産することを考えると、2月、3月をどう乗り切るのが妊娠したときからの課題になっている。家族だけで子育てできるかと考えると、昼間だけでも2歳4か月になる上の娘を預けようと思い、産前産後5か月間は保育園に入る資格があるということなので、12月1日からの入園手続きをしたが、待機児童がかなりいるということで、全部断られた。また、2月、3月は年度替わりなので、出産による一時的な利用だとしても、保育園の新規入園受付は制度的に一切しない、と言われた。緊急一時保育で1か月を限度に預かれるかもしれない、と言われたが、私が住んでいる目白台からは、緊急一時保育を実施している3園はどこも遠い。結局、ぎりぎりのところで認可保育園に空きが出て、2月1日から入れることになったのだが、娘をみる人がいないから、2月まではどうあっても出産できない状態にある。主人と話すのは、今の段階で保育園の利用が決まっていなかったら、不安で精神的におかしくなったかもね、ということ。緊急一時保育しか利用できず、しかもそれがしおみ保育園だったとすると、遠いので何かあってもすぐに会えないし、怖いなと思って。妊娠中をずっと上の子の保育園の心配ばかりして生活していたと思う。そういう不安がないようにしてほしい。2月1日までに産気づいてしまった場合も、すぐに子どもを預かってくれる緊急一時保育があれば、主人が帰ってくるまで上の子を見てもらうことができるが、ひとりで産気づいたときにはどうしよう、というのがあって、今からすぐに連れてきてください、というところが近くにないと、本当の意味での緊急一時ではないと、身近に感じている。今回、出産を控えなければ、保育園について保育課の方とここまで話すこともなく、待機児童が多くて大変、ということもわからなかったと思う。これでは2人目を躊躇する方も多いただろうと思う。

◆保育園について

・1人保育園に入っていると、2人、3人産んでも兄弟も預けられる。共働きだと点数が高くて、優先的に保育園に入れるが、専業主婦はポイントは低く、妊婦でもなかなか入れない。裕福だから働いていない、というわけではないのに。1回入ってしまえば制限なしではなく、年度ごとに利用の見直しをするなどしてほしい。

◆医療費の助成について

・現在は、就学・までは医療費はかからないが、他区では、中学生までなど、どんどん広がっている。だんだん病気はしなくなるが、歯科検診などにお金がかかるようになる。これからどんどんかかってくるので、医療費の助成を充実してほしい。せめて小学生までにしてほしい。それも2人目、3人目の子どもを育てることにつながるのではないと思う。
・医療機関については、救急もちゃんとしているし、総合病院もあるので、充実していてよいと思う。

◆遊び場（公園・児童館など）について

・目白台に住んでいるが、朝から夕方まで安心して遊ばせられるところがない。現在、週に1~2回、みんなで集まっている場に参加しているが、毎日行きたいくらい。今は自転車に乗っているが、ベビーカーを押して出かけるのは大変だった。充実した児童館が身近にあるといい。

・文京区の公園は遊具が少なく、充実していない。子どもも楽しくない。児童遊園はたくさんあるが、住宅地の公園は静かで怖い。住処にしている人もいるし。大きい公園に行くが、遠い。他区の公園に行ってしまう。

・教育の森公園は、小学生むけなのか夕方は混んでいるが、午前中は人が少ない。遊具がいっぱいあるのに。ベンチのまわりや遊具のまわりにタバコの吸い殻が捨ててある。子どもは拾ってしまうので、すごく怖い。

・千代田区の禁煙条例のようなものに文京区でも取り組んでほしい。歩きたばこはちょうど子どもの顔にあたる。子どもは危険を察知してよけることはできないし、やけどではすまない。

・0~1歳のときはハイハイで、公園にも行かれない。児童館は、午後は大きい子がいるから危ないと、利用時間が午前中に限られている。夏休み・春休み・冬休みは午前中も行かれない。また、お昼ご飯が食べられず、午前中で帰ってくださいと言われると、午後どこで遊べばいいのか困る。結局、電子レンジやポットやお皿が用意してある、他区の児童館に行く。新宿区ではビルごと児童館で、フロアごとに利用年齢がわかれている。そこまで完備するのは無理でも、もう少し考えてほしい。

・児童館施設が老朽化している。アスベストなどの問題が心配。子どもがハイハイしている場所は、ストッキングだとひっかかりそうな場所だし、暖房がなくガスファンヒーターで十何畳を暖めていて、寒いのに子どもは滑るから裸足にして、と言われる。電子レンジも古いものでも1台あれば、夏、保冷したお弁当を持って行き、その場でチンできるのに、お弁当を持って行くこともできず、外で買ったりしている。そういう不便がある。

・在宅で子どもを育てている家庭は多いはずなのに、一生懸命外に出てきてコミュニケーションをとっている人は決まっているというか、いつも顔ぶれがいつしょ。その人たちに会うと、合言葉のように「どこで遊んでいるの?」と言っている。返ってくる言葉は、千代田区、新宿区、豊島区など。「私たち、ジプシーのようにさまよっているよね」という話になる。豊島区では、一時保育のほか、遊具も充実している、母親同士がレクリエーションできる場もある、ママサークルをつくれる場もある複合施設として子ども家庭支援センターがあるが、文京区にはない。予算をとる、税金を投入するのは難しいかもしれないが、そうした子ども家庭支援センターのような施設を、廃校にする小学校などを有効利用してつくってもらえたら、ぜんぜん違うと思う。

・文京区の児童館は使いづらい。「畳の部屋がありますから」と言ってくれるが、2歳くらいになると畳の部屋では遊ばない。ホールに出たがるのだが、お兄ちゃんたちが遊んでいる。児童館は学童のために建てられた施設だから、私たちが無理を言うのも引け目があり、言いづらい面もある。

・児童館ジプシーになっている私たちを救ってほしい。文京区の児童館に他区の人が来ていることはほとんどない、魅力がないのだと思う。他区の施設を利用する場合にはいい顔をされないこともある。税金を払っているわけではないので、向こうとしては使う権利はないですよ、ということになる。それは当然、仕方ないとは思いますが。

・年齢に応じて、安心して1日遊べる場所がない。「午前中ここの施設で遊んで、ご飯を食べたら、午後はどここの幼稚園の〇〇会に行こう」というのが1日の過ごし方で、はしごしないと1日が過ごせない。1日中さまよっている。自転車で坂道を移動しているので、一度雨がふると友だちに会えないし、子どもと2人でもんもんと過ごすことになる。

◆交流（コミュニケーション）・仲間づくりの場づくりについて

・夫がフリーランスで仕事をしており、子どもが生まれてしばらくはちょうど時間があるときで、水道児童館が近くにあるが、去年の6月まで行ったことはなかった。ふみちゃんのおうちには、友人が連れて行ってくれたのだが、職員の方から「おすわりのできない子はまだ来ちゃだめ、小さいのでまだ来るのは早い」と言われてしまい、それ以来、足が向かなくなりました。それで、夫に交代でももらったり、小石川後樂園の年間パスポートを買い、遊びに行っていた。友だちはいなかったが、主人がいたから助かった。6月にたまたま出会った人から「児童館に行こう」「幼稚園において」と誘われ、行くようになったら、子どもも楽しいので「行く、行く」と言い、それで初めて子どもから開放された。初めてのところに行くのは勇気がいるのに、ふみちゃんのおうちでは、最初のきっかけのときに、親切なのかもしれないが、あまり対応がよくないと感じてしまった。

・児童館に初めて行った日も、たまたまみんなでお出かけに行った後で写真を配ったりしていて、ひとりぼっちになってしまった。初めて来た人の自己紹介をする機会はないし、職員さんによってはみんなに紹介してくれる人もいるが、ない場合もある。私も、初めての人には声をかけてあげたいと思うが、すーっと帰ってしまう人も多く、外で会ってもなかなか声はかけられない。自分も拒否された経験があるので、逆に拒否されたように感じて児童館に来なくなってしまった人をみかけると、「いらっしやい」と言ってもあげたいがなかなか言えない。こうやって集まると、子育て世代はいっぱいいるんだ、と思うが、普段はわからない。

・近所に子育て世代がいるかどうか、同じマンションにいるかすらわからないのが現実。児童館で会って話して初めて、近所であることがわかることもある。そのくらい近所づきあいが希薄。

・地域に根付いた子育ての場がないから知り合う機会もないし、まわりのことがわからない。

・お祭りなどの行事も町内でやっているが、あまり知らされていないので参加できない。マンションに住んでいると町内会費を払っていないので通知は来ない。まち自体の関係も希薄だから、マンション住まいではなおさら。

・私が住んでいるマンションは規模が小さく、4組くらい週に1回くらい会うが、外に出ているのは自分だけ。1人は公園でだけ遊んでいて、あとの2人は全く外に出ない。行ってもなかなかなじめないよう。子育てをしていると同じ悩みを抱えているので友だちになりやすいと思うので、そういう場所があればと思う。小日向台の児童館を利用しているが、場がもったいない。なんとかお昼のスペースをつくってもらったが、それでも2~3時には帰ってくださいという感じ。2~3時くらいからまた会話が盛り上がってきて、色々な悩み相談も出てくるのに。お昼の時間はすごく重要な時間だと思う、情報交換ができるなど。

・水道児童館は、お弁当を食べる場所はないし、食べていいかどうか書いてないし、聞けない。

・久堅児童館の0・1歳の集まりに何度か行ったが、もともとの輪ができていて、初めて行っても紹介もない。受け入れ側の体制を考えてほしい。私は大塚ママができて、ようやく地域の近くの友だちに会うことができたが、それまでは同じ人とばかり遊んでいた。

・フレッシュママのような場・機会がいっぱいあるといい。みんなそこで知り合い・顔見知りになっているので。

・フレッシュママがあるから来てください、といっても、バスでとなると、2~3か月の子どもを連れて行くのは大変。また、月1回でなく毎週あるといい。それが楽しみだったので。

・フレッシュママで友だちができて、月1回しかないのも、各お家に集まろうとなるが、やはり限界がある。誕生会、クリスマス会、七夕会などをみんなですりたいと思うのだが、場所がない。

・地域センターも、場所は貸してくれるが飲食禁止でお祭り騒ぎはできない。パパも来れていい雰囲気になると思うのに。せめてもう少し集まれる場を貸してくれると、集まりやすい、遊びやすい。

・子ども家庭支援センターのような大きいものがあれば、すべてそこに集約できてよい。緊急一時保育も全園にあるとありがたいが、全部が全部保育園に、では保育園もアップアップになってしま

うと思う。区にセンターが2か所くらいあれば、今までの悩みは解決されるという気がする。

- ・高齢の方の病院や施設利用などとあわせてでいいので、巡回バスがあるといい。
- ・シビックセンターにあるびよびよひろばは、狭いし、部屋の感じが暗い。狭いから子ども同士が接触してしまって、1歳になるくらいまでが限度。このビルにあれだけのスペースしかないというのはもったいない。アクセスがいいところなのに。
- ・私たちはまだ子育て2年目、3年目。子どもが育って行くのと親が育つのは表裏一体だと思う。母親側からこういう施設を増やしてほしい、緊急一時を増やしてほしい、ということ言うと、昔はそうでなかったとか、親の便宜だけ図って子どもはどうなの、という意見もあると思うが、親が育つのと子どもが育つのはいっしょだと思うので、そこを切り離してはいけないと思う。こういうふうに話しているときに親が育つ、コミュニケーションする場を通して、「こういう考えもあるよ」ということで親も育ち、それがまた子どもにも返ってくると思う。もっとコミュニケーションの場を重視して考えてほしい。今は集まる場所もない状態だし、決まったグループだけで入園・までいってしまうのはもったいない。地域にはいいお母さんがいっぱいいるので。

◆子育て支援策全般について

- ・自分は高齢出産だったが、やっぱり体がきつい。産むのは産めるが育児がきつい。そういう人は自分くらいかと思ったが、顔ぶれをみているとそんなに年齢は変わらない。文京区のお母さんの年齢は全体的に高いと思うので、他の区に比べて子育て支援施策を充実してほしい。文京区のママさんは真面目で、母乳だけでなど、育児に一生懸命がんばっている人が多いので。
- ・教育がいいということで文京区に移り住んで来る人もいるが、文京区で産む人はどうするのか。都心回帰でマンションも増え、子育て世代も増えてきているので、支援を充実してほしい。小学校にあがるまでの支援が足りないと思う。
- ・これまで子育て支援というと働くお母さんへの支援だった。これからは在宅育児に関する支援を充実してほしい。在宅なのだから子育てが仕事、と言われればそれまでだが、24時間365日同じ相手と3年間いてごらん、と言いたい。働くお母さんは保育園に子どもを預け、お金は払っているにしても、その分自由な時間を得ている。私たちはコーヒー1杯飲むのにも苦労している。
- ・私たちはそもそも社会との接点がない。働くお母さんたちは社会との接点があるので、その点で不平や不満が表に出やすいのでは。私たちの不満はこういう場がないと訴える機会がない。

◆幼稚園について

- ・3年保育を実施する区立幼稚園を増やしてほしい。
- ・児童館での話題は幼稚園をどうするか、ということばかり。坂がないし、近いのは区立幼稚園なので、区立幼稚園に入れたい人が多い。私立幼稚園が定員割れでつぶれては困るという理由で、区立園を増やせない、という話を聞くが、それはどうなのかと思う。区立幼稚園は定員が少ない。小日向台町幼稚園は兄弟枠の関係で、4人しか募集しなかった。
- ・青柳幼稚園は2年保育だが、10人以上集まらないとその年度はスタートしないらしい。区立なのだから、行きたい人がいれば何人でも運営するのが当たり前ではないか。
- ・区立幼稚園でも子育てひろばのようなものがある。それもいいが、まず幼稚園運営をきちんとしてほしい。
- ・児童館の仲間で結託して、「今年はこの幼稚園に申し込もう」としないと、幼稚園運営自体がされない可能性がある。みんなの意向を聞かないと幼稚園が決められないこと自体、おかしいと思う。
- ・私立は3年保育が多く、みんな早く手を離したいので私立幼稚園に入れてしまう。4歳から区立保育園に編入という子どもも慣れているのにかわいそう。そういう人もけっこういるらしいが、幼稚園はとりあえず3歳は私立に入れておくか、というところではないので、編入するというのでは

意味がない。区立を全部 3 年保育にすればいいのでは、と思ってしまう。しかも、人数が少ないと運営されないなんて、まったく意味がない。

・後楽幼稚園に入れようと思って、3 歳児の間 1 年を過ごしているのに、受け入れない、ということになったらどうするのか。また一から幼稚園探しで、今度は幼稚園ジプシーになってしまう。悩みはつきないが、そんなことで悩まないといけないのはおかしい。9 月から 11 月は、幼稚園の問題でみんなぴりぴりしている。

・区立幼稚園は近いので、区立幼稚園に入れたい。小学校といっしょになっているところもあり、小学校にあがったときも友だちと馴染んでいてよい。

・それが地域、地域に根ざした教育だと思う。遠い幼稚園に入れて、小学生になったら学区があるからと近くの小学校に引き戻されるのでは、地域のつながりがない。中学校は希望で行けるので、またぶちっと切れてしまう。何か一貫性がない。その一方で、小石川中学と小石川高校がくっついて一貫性を求めていたり、どこに一貫性を求めているのか、区がやりたいことがわからない。住んだ地域で、安心して幼稚園から中学校まで行けるようにしないと。いつも次どこに行こう、とそればかり悩むことになる。

・知り合いは、上が小学校で下が 2 歳。将来礪川小学校がなくなるが、金富小学校も 2 クラスなので礪川と合同になるかもしれない。下の子のことを考えると、これからどうなるかわからない学校に行くより、マンモス小学校に行った方がいいから、4 月から引っ越すということだった。安心して幼・小・中まで行けるようにしてほしい。

・私立に入れるわけではなく公立に行くのに、進路に迷うのは困る。常に行き先を見極めないと、安心できないしあぶれる可能性がある。早く動かないと、という脅迫観念がある。

・子どもが減っているからこそ、区立幼稚園を充実してほしい。文京区は教育がすごい、と言われるが、現実には幼稚園すら困っている。

(2)第2回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

◆相談・情報について

・子どもを産んでから、どこになががあるのか、どこで遊ばせたらいいのか、どこに行ったら同じくらいの月齢の子どもをもつお母さんに会えるのか、子どもが0~1歳の間はキリキリして過ごしていた。そういうときに駆け込み寺的な、相談できる場が身近にほしい。子どもを産んでからは体調を崩すことが多くなったが、夫も仕事が忙しく、そういうときにどうしたらいいかわからずとても困った。あらかじめ相談できるところがわかっているとありがたい。

・私は保健師さんに電話して聞いている。親身に相談にのってくれる。私は子どもを産む前に体調が悪くて、不安定な時期があった。そういうときは保健師さんに電話して相談にのってもらった。保健師さんは忙しくて、つかまらないこともあるので、ホットラインのようなものがあってもいいのかなと思うこともある。

・他の区では、どこどこで不審者がいたというメーリングリストによる情報発信があるらしい。子育てについても、そういうものがあればいい。

・メールなら携帯を使った情報提供がいい。携帯で見れるか、地域の掲示板とか、紙のものがいい。パソコンに向かう時間はなかなかとれないので。

・子育て家庭向けの区報があったらいい。区報は色々なことが書いてあって見にくい。シニア向けの話題が多く、子どもの情報が少ない。

・情報は、児童館でママさんから聞いたりというくらい。サービスはよくわからない。児童館に行くようになってわかるようになった。

・新宿区では区のサービス以外のものも含めた、いろいろな子育て関連情報が載っている冊子がある、という話を聞いた。文京区でもぜひそういうものを作ってほしい。

・悩みはたくさんあるが、保健師さんからは、話を聞いてくれるより、言われてしまう。アドバイスをたくさんしてくださるが、それよりも、こっちの話を聞いて、いっしょに考えてくれる人がほしい。話してしまえば、楽になるので。相談することに対して、10くらいの課題を与えられてしまうことがあるが、それだとかえって不安になり、相談しなければよかった、となってしまう。相談の場では、私たちの話をじっくり聞いてほしい。自分の子育てをほめて認めてもらいたい。そういう機会を健診のときなどにつくってほしい。けなされるより、ほめられたい。方向を示してくれるのもいいが、まずは、ほめて、安心や励ましがほしい。そうであれば、親も励みになる。

・保健師さんでも子どもがいる・いない、年配・年配でないがあり、人によってアドバイスや態度がぜんぜん違う。保健師さん教育も必要。私たちは聞いてほしい、ストレスがたまっている、といことを前提に話しをしてくれると、すかっとして帰ることができると思う。

・保健師さんに、実はいろいろ相談したいことがあるのだが、電話も苦手だし、直接ならなんとかなるが、行かないとできないから相談できない状態。勇気を出してお母さんに話しかけて聞いて…という感じで情報を得ている。情報はなかなか入手できない。外国人なので電話は苦手。

◆養育サポートについて

○緊急一時保育・一時保育

・子どもを産む前に想像していたのと違い、現在は自分の時間が全くもてない状況。自宅でできる仕事をフリーでしているが、子どもを産んだ後でも少しでもいいから仕事を続けていないと、復帰が難しいと感じている。保育所に預けることは考えていなかったが、一時的に預かってくれる保育場所があるといい。一時的な保育場所が自分の仕事等にあったところと思っている。

・週2日程度の日数で預かってもらえるところを探しているが、今は預かってもらうところが見つからない。結局、保育園にも応募したが、フリーであるがゆえに、条件的には難しい状態にな

っている。

・フリーで仕事をしており、自宅で作業できたらいいと思っているが、子育てをしながらだと時間が取れず、仕事はできない。軽く家で仕事してみたが、子育てをしながら仕事をするのは、体力的に困難。しかし、ずっと保育園に預けるという決心はついていない。私の場合は、1日のうち2～3時間程度、保育してもらえる場所で、仕事にも対応できる。そうした予約ができる一時保育の場所がほしいと思っている。預けないで家で仕事するのはきつい。

・一時的に預けられる先を確保すること、生活に補助がないことをどうにかすること（児童手当もほんの少しである）、そのあたりをどうにかしてほしい。緊急一時保育は冠婚葬祭などの理由に限られている。気軽に預けられる場所がないと、大変という気持ちがあり、気持ちの面であせってしまう。

・都会は、実家とはなれて暮らしている家族が多い。夫と2人で子どもを育てるとなると、本当に大変。自分が風邪を引いたときとか、大きな病気ではないときに、子どもは休ませてくれないし、夫も仕事は休めない。簡単に預けられるところがあればいい。

・託児はとても大事と考えている。1日中ではなく、半日でもいいから託児できるところがほしい。半日ならば、もっとたくさん子どもが入ることができるのではないかな。

○2 人目以降の妊娠・出産に対する支援

・仕事をしないと、環境は裕福というわけではないから、2人3人はこのままでは産めない。

◆医療費の助成について

・不妊治療に対する経済的支援もしていくべきだと思う。やっと1人産んで働こうとしているところでいっぱいなのに、2人目、3人目をつくらうなんて絶対にありえない。経済的な支援という、もっと見せかけではなくて、子どもをつくるというところから考えていかないといけないのではないかなと思う。

◆産じょく期について

・子どもが産まれてから2か月くらいは、気合で乗り切った。だれも手伝ってくれる人もいないし、今だけだからがんばるしかないと思い、がんばった。

・私は乳腺炎を繰り返したり、なかなかおっぱいが出なかったりして、週に1回くらい、子どもを産んだ病院に行っておっぱいマッサージをしてもらったり、いろいろなアドバイスをもらっていて、それでとても助かった。子どもが2～3か月のときは、どこにも出かけられないお母さんが多いと思う。私は、親も近くにいなかったのも、病院の看護師さんが親代わりようになってくれ、病院に行くのが楽しみだった。

・文京区の辺りでは、おっぱいマッサージなどは有料。入院しているときは相談にのってもらえるが、予約制だし有料だし、見ていただく、という感じでつらかった。

・私が乳腺炎になったときは、子どもを産んだ病院でないところでは、産んだ病院に相談をして、と言われ、対応してもらえなかった。

・私は逆におっぱいが出なくて、おっぱいが出るようにマッサージをしてくれるところに行ったが、30分のうち20分くらいはずっとしゃべりまくり、ずっとぐちを聞いてもらった。つらかったが、その人のおかげで乗り越えることができた。

・おっぱいの問題はけっこう大問題。出るなら出るで大変かもしれないが、おっぱいが出ないことで、母親として失格なんじゃないか、と感じてしまう。

・母乳が出づらくて苦勞した。母乳をあげないと自分自身にも罪悪感があるし、まわりも何気なく「おっぱいな？」と聞くが、出ない人にとっては、プレッシャーだったりする。

◆保育園について

・保育園については、保育園が少ないという印象。保育園数、募集人数の少なさなどにびっくりしている。復帰するのに、預かってもらえないということになると、自分が追い詰められるような気がする。

・今は、保育園が一番の課題。実家や勤務先が近いため、保育園にはなかなか預けられないのではないかという不安がある。実家が近くても、親が高齢だったりして、実際には面倒をみてもらえないことがある。親に預けられない家庭の事情があっても、それを考慮してもらえないというのは問題。保育園の入園は点数で判断するのであろうが、私たち一人ひとりの深刻さを反映できていないと感じている。

・実家の近くに住んでいるには、それなりの理由がある。文京区は家賃も高いし、家を借りて住むことが大変。それで子育てしてくださいといっても、困難。親の近くに住まないと、生活面で成り立たないということもある。親が近くにいるからといって、保育園に入りにくいというのはおかしい。

◆遊び場(公園・児童館など)について

・公園で遊んでいるときに、怪しい人がいることがある。話しかけられたりなど、怖い思いを何度か経験した。子どもは公園で遊びたがるのが普通であり、安全な公園が必要。安全対策としては、見回りをするとか、とにかく何かしてもらわないと困る。

◆交流(コミュニケーション)・仲間づくりの場づくりについて

・外国人として、同じくらいの子どもをもつママさん同士でコミュニケーションできる機会がない。言葉が同じママさんたちと話せる場・交流できる場がほしい。

◆幼稚園について

・現在、苦労しているのは、文京区の幼稚園について、園の送り迎えのバスがないこと。私の場合、上に子どもがいるが、上の子の送り迎えをするにも、下の子がいるので本当に大変。園バスをつかってほしいと願っている。

◆労働環境について

・夫婦で子育てしている我が家では、夫が頼り。いつも5時半になると夫に「迷惑メール」をしている。夫は行政の仕事をしているのに残業がある。みんなのお手本になって、早く帰ってこないといけないよ、と言っている。パパは残業をしないということにすれば、本当にいいのにと思う。

・私は休職に入る前に人事部門にいたので、休業される方が復帰できない、という話を聞いたりしていたが、いざ自分のことになって、こういうものなのかと実感した。会社では、○曜日は○時に帰りましょうということをやっているが、実際には難しい。事実、いつも帰りは遅い。会社は、社会のために子育て支援する、子育てしている家族を支援する姿勢をだすべき。

・一時預かりは夫の代わりのようなもの。会社も変わらないと、夫は育児ができない。

・私の場合、上司には子どもがいないし、子育てについて困っている状況をどこまでわかってもらっているかが不安。

◆まちづくりについて

・子どもと行きやすいレストランや喫茶店などあればいい。コーヒーを1杯飲んでいる間だけでも、子どもをみてもらえるところがあるとうれしい。

・子どもを育てる基盤がない、と子どもを産んで初めて感じた。文京区は坂が多いので、幼稚園への自転車での送り迎えさえ危ないと思う。子育て支援の目線をどうしたらいいのかなと思う。自分が子どもを持たないと駅の大変さも体験できなかった。区だけの問題ではないが、なんとかしてほしいという気持ちがある。ベビーカーを押してブロックは歩きにくい。生活の基盤を整備する視点が、すべて大人の目線・大人中心で決められてしまっている。もっと子どもの目線で考えてほしい。

・文京区は坂道が多いので、ベビーカーが斜めになったりして危ない。道を整備すること、歩道を確保することが希望。

・ベビーカーを押してトイレに行きたいときは、ベビーカーもいっしょに入ってしまったほうが私も。公園などでも多目的トイレを整備してほしい。女子トイレでなく、多目的トイレであることが重要。

◆家族や周囲の理解・協力について

・年配の方のさりげない一言に傷つくことがある。アトピーでしっしんになっていたりと、かわいそうね、などと言われる。相談する相手がいないこともつらかった。

・おじいちゃん、おばあちゃんにも教育を受けてほしい。今は風邪でもお風呂に入れてもいいとお医者さんに言われることがあるが、逆に上の世代の人におこられたりする。

・自分の母親でもギャップを感じることもある。予防接種してくると今日お風呂に入れちゃだめよと母は言う。医者は入れてもいいと言う。育児の方法や常識もどんどん変わっているので、夫も含めて、家族教育をしないとだめかなと思う。

・うちは離乳食をおばあちゃんがチェックする。励みでもあり、ストレスでもある。離乳食を6か月から始めたのだが、おばあちゃんからは5か月で始めなさいと言われ、その1か月間は、すごくストレスがたまった。同様に、おばあちゃんは、おやつはバナナがいいというが、保健所では南の果物はできるだけ後でと言われた。でもおばあちゃんはバナナをすすめる。

・子どもに日焼け止めを紫外線対策としてぬっていたが、義理の母がそれを見て後になって言われて、そのときは「ずれ」を感じた。これからも「ずれ」は出てくるし、今もそれを感じている。

・老人会などで子どものこと、子育てのことなどを勉強してほしい。孫に好かれるための本があるくらいだから、おじいちゃん、おばあちゃんの「子どもの子育てに参加したい」という気持ちを活かすことも重要。

・子どもが生まれる1か月前に母がなくなり、夫と2人で子育てをしている。生まれた後、どうやって乗り切ったのかは忘れたが、つらかった。夫がいるとき、珍しく子どもがニコニコと機嫌のよいときがあった。そのとき、夫は「今のうちに、家事をやったら」と言った。すごく頭にきた。夫は子育てのことをわかっていない。

・夫教育をしてほしい。夫に悪意はないが、子育てについて理解してもらうのに時間がかかる。

・両親学級に夫をひっぱっていった。子育てに関する家族教育を区でやってほしい。

・家族や夫は、子育てについてわかっていない部分がありすぎる。まずは夫に理解してもらう教育が大切。

・我が家では、子育てをしていく中で夫が変わってきた。子育てをする、ということが私の仕事で、大変なことをしている、ということを認めてくれるようになった。そうなることで、自分も子どもに優しくなれ、がんばれていると感じる。

資料 7

保育士アンケート調査結果

目 次

原稿追加

資料 8

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ

目次

はじめに ―― 保育ビジョンの基本的な考え方	143
第Ⅰ 保育ビジョン作成の背景	144
第Ⅱ 文京区保育ビジョンにおける保育とは.....	145
第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ.....	145
第Ⅳ 文京区の保育がめざす将来像	145
(1)子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち.....	145
(2)めざす将来像を実現する方向性.....	146
Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障.....	146
Vision2 子育て支援・親の支援.....	152
Vision3 親の就労・多様な生き方の支援.....	157
Vision4 保育機能の中核としての保育園.....	159
第Ⅴ 保育ビジョン実現の推進に向けて.....	164

はじめに ―― 保育ビジョンの基本的な考え方

子どもは未来の希望です。その子どもたちを豊かにはぐくむまちはまた、だれもが希望をもって生活できるまちでもあります。しかし、私たちを取り巻く現実には厳しいものとなってきました。私たちの希望であるはずの子どもたちは、今、子ども同士や異年齢との交流や、社会性を身につける機会が減少し、かつてよりも社会の一員として育ちにくい環境の中で、児童虐待やさまざまな問題の被害者として、心身ともに傷ついてもいます。また、豊かな人間関係を体験できないまま、いじめや犯罪の加害者となる子どもたちもいます。一方、今の親の暮らしからは、子どもをはぐくむことに喜びを見いだす余裕も失われかねない状況です。経済的、社会的に厳しい状況に直面する親たち、子育てと就労との両立で疲れている親たち、育児の大半を一人で担い、心身の負担に苦しむ親たちもいます。

この現実に対し、子育て力・教育力の低下として親個人や家庭内部の問題にとどめるのではなく、子どもを生み育てることを社会がもっと大切に思い、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力に推進していかなければなりません。

そこで、今、求められるのは、これまで以上に子どもたちを豊かにはぐくむまちなありようを大胆に描き、その未来像に向けて一歩でも踏み出すことです。また、そこにおいては、いたずらに効率を追い求めることや画一的な家族像、ライフスタイルを強調することであってもならないと考えます。

その認識に立って、私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会は、「文の京」にふさわしい子どもを豊かにはぐくむまちなありようを提示することとしました。ビジョンにおいては、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、その具体的な方策をまとめています。

私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会はこれら具体的な方策を一日でも早く実現し、全国に先駆けて、子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障する「子どもを最優先するまち」づくりを、区民、地域、企業、行政がそれぞれの責務を果たし、ともに協働することにより達成することを切に願い、ここに区長に答申するものです。

第 I 保育ビジョン作成の背景

(1) 文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過

文京区では、地域福祉計画の中で、子育て施策を子育て支援計画と位置づけ、施策の推進を図ってきました。さらに、少子化対策の総合的な取り組みを推進するため、平成 15 年に次世代育成支援対策推進法」が制定されたことを受け、平成 16 年度に、子育てに係る施策を総合・包括・拡充した「子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）」を策定し、地域における子育て支援の取り組みをすすめてきています。

しかしながら社会環境の変化のスピードは速く、文京区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていないのも現実です。

一方、国においても、少子化の背景にあるさまざまな要因についての分析、それに基づく対策に関する議論がなされるとともに、少子化に歯止めをかけるべく、さまざまな施策が実施されてきています。こうした国の制度も年度によって大きく変化しています。

(2) 子育てを負担に感じる人の増加

平成 16 年 3 月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、子育てに不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。

就学前児童の保護者からは、「自分の時間がとれず、自由がない」、「子どもの健康、性格や癖などについて心配である」、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」、「近所に子どもの遊び友達がいない」などが多くあげられています。こうした子育てへの不安や負担の軽減を図ることが求められています。

(3) 就労支援の充実の必要性

働きながら子育てをする人たちが増えてきています。働き方の多様化に伴い、「延長保育のスポット利用」、「認証保育所の増設」、「病後児保育」などの充実を望む人が増えていきます。

今後とも、保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくことが必要となっています。

(4) 多様な家族支援が必要となってきた

近年、児童虐待に関する相談件数が増えてきています。また、重度の障害だけでなく、軽度発達障害の子ども一人ひとりの課題を把握した個別の支援の充実、さらには、外国籍を持つ子どもたちへの支援などの充実が求められています。

第Ⅱ 文京区保育ビジョンにおける保育とは

思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、その機能を強化することを、文京区の保育ビジョンとします。

第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ

就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とします。

第Ⅳ 文京区の保育がめざす将来像

(1) 子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち

子どもを最優先するまちづくりを達成するためのまちのありようを、

Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障

Vision2 子育て支援・親の支援

Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

Vision4 保育機能の中核としての保育園

の4つの方向性から示します。

(2)めざす将来像を実現する方向性

Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障



子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

将来像

子どもをあたたく包み込むまちのありかたが問われています。思春期を見通した子どもの育ちを考えると、家庭や地域で基本的な生活習慣を身につける機会が重要です。同様に、文京区ならではの人的資源や施設、ネットワークを最大限生かし、安全安心に子どもたちが遊び、学ぶことのできるまちにすることも必要です。そのためには、その力を生かす工夫がまちづくりにも求められます。

目標

1. 基本目標—子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ

子どもの心身の健やかな成長にとって、「食事」「遊び」「睡眠」は非常に大切であり、十分な配慮が求められます。子どもにはのぞましい生活リズムがあること、「食事」「遊び」「睡眠」が子どもの心身の成長にとって極めて大切であるということについて、改めて見直し、子どもがのぞましい生活習慣を身につけられるように支援していく必要があります。

また、「しつけ」や「教育」の前提として、まず子ども自身が受け容れられていることを実感できていなければなりません。そのためには、他人とふれあい、交流していくことが重要であり、このことによって思いやりや信じあう関係、いたわりの心や愛情、社会性が芽生えることにつながります。そして、自然の中でのさまざまな体験を通じて、子どもは、本来の姿をみせ、考える力をはぐくみ、感性豊かで心身ともにたくましく育つことができます。このようなふれあいの中から、子どもたちは好奇心や探究心をはぐくみ、さまざまなことを身につけ、学んでいきます。

(1) 子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣を確立していく

- ・自然で安全な「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」を子どもたちに。
- ・早寝・早起き → 朝食摂取 → 身体を使った十分な遊び → 早寝・早起きの、のぞましい「生活のリズム」を確立する。

(2) 子どもたちに、ゆたかな人間的ふれあいや、自然とのふれあいを保障する

- ・子どもが自分を好きと思える心の土台づくりをすることが大切。そのために、まず、保護者をはじめとする大人とのゆたかなふれあいを通じて、大人に対する基本的な「信頼」（自分は受け容れられているという感覚）を確立する。
- ・同年齢・異年齢の友だちと遊べる環境・ふれあう機会を確保する。
- ・動物や植物など生き物とふれあう機会を確保する。
- ・自然の中で肌のふれあいや声のかけあいのできる外遊び、野外活動体験の機会を確保する。

(3) 電子メディアの過度の視聴・利用の危険から子どもたちを遠ざける

- ・長時間にわたる電子メディア（テレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等）の視聴・利用は、生活リズムの乱れ（夜更かし）や運動不足の原因となり、ゆたかな人間的ふれあいを阻み、その結果として言葉の発達の遅れをもたらすともいわれる。

(4) 子どもたちの日常生活に根ざした、内発的な「知」の成長を支えていく

- ・形式的な「知育」に偏ることなく、日常生活や人・自然とのふれあいの中から自然に湧き出てくる、子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切にし、それを支える環境を整えていく。

2. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する

思春期を見通した子どもの育ちを考えていくためには、文京区で子育てに直接・間接に関わっている主体（行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、地域住民等）が、絶えず「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要があります。

- ・定期的に（できれば3年くらいごとに）「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
- ・「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにすることが望ましい。

3. 区を取り組み—長期的で公共的な視点から、子どもの育ちの場の環境整備をしていく

3-1. 公園を遊びとふれあいの場にしていく

文京区には大小さまざまな公園があります。四季折々の自然に親しむ場であり、また、地域の人々が集う場でもあります。そうした公園を一層、子どもたちが地域の人と交流し、楽しめる場として整備していくことが必要です。

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区はビルや住宅が立ち並び、空き地が少なく、交通量も多いため道路での遊びは危険です。子どもが外遊びできる場として、インフラの整備が必要です。区内には児童遊園も多くありますが、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがわくわくするような遊具に設置し直すことを検討すべきです。

また、保育園・幼稚園に通わせていない在宅保育の子どもが遊べて、かつ、親同士が交流できる場をつくる必要があります。

(1) 公園の整備・改良

- ・公園の一角に、子どもたちが生き生きと遊べる「はらっぱ」型のスペースを設ける。
- ・公園の遊具は、子どもたちがわくわくできるような、発達・安全を考慮したものを設置し、定期的な点検を行う。
- ・専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園づくりをすすめる。

(2) 子どもの遊び場や親同士が交流できる場としていく仕組みづくり

- ・「私の公園」という意識をもてるよう、「ロードサポート」のように近隣住民に公園の清掃や樹木の剪定をしてもらったり、夜は不審者等が入ってこないような工夫や配慮をするなどして管理をし、コミュニティを大事にしようとする意識をはぐくむことにつなげていく。
- ・子育てに関する情報掲示板などを設置して、人が集まる場にする。

3-2. メディアとの関係—「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ

長時間にわたる電子メディア視聴については、生活リズムの乱れ（夜更かし）、運動不足、双方向のコミュニケーションの阻害、言葉の発達の遅れをもたらすなどの危険が指摘されています。

文京区には多くの図書館があります。電子メディアが氾濫している今、幼い子が絵本に親しむことは貴重な経験であり、また、子どものゆたかな心の成長に欠かせません。とくに、絵本の読み聞かせは、子どもに読み手との直のふれあいをもたらし、子どもが他者の話を集中して聞く練習ともなります。そして、絵本に描かれている静止面に親しむことによって、子どもたちの想像力が磨かれます。子どもたちは、お話を聞きながら、絵と絵の間の実際には目に見えない「絵」を、自ずと心に思い描けるようになるのです。

(1) 電子メディアの過度の視聴の弊害についての啓発

- ・長時間にわたる電子メディア視聴の危険性について保護者・地域住民に情報提供する。
- ・茨城県東海村、鳥取県三朝町、島根県雲南市久野地区で行っている「ノー・テレビ・デイ（ウィーク）」などの取り組みを参考にして、生活習慣の改善・親子のふれあいの時間を呼びかける。

(2) 図書館の活用

- ・図書館に、親が子どもに読み聞かせをできる専用スペースを設ける。
- ・平日の幼稚園降園後の時間や土・日曜に、親が子どもの年齢別に読み聞かせグループ活動をできるようにする。
- ・地域に読み聞かせボランティアを育成する。
- ・出版社などの協力により、親子向けのブックイベントなどを行う。
- ・平日の午前中など、在宅の親子が利用しやすい時間帯に、子ども向けのイベント（エプロンシアター、人形劇、紙芝居など）を行う。
- ・外国人の親子にも親しんでもらえるよう、英語をはじめ外国語の絵本の読み聞かせや絵本等を充実させる。
- ・児童館においても、図書を活用を図っていく。

3-3. 子どもたちが豊かに育ち、育ちあう場としての保育園を大切に守っていく

現在、区立保育園は、子どもたちがゆたかに育ちあえる場を提供しています。保育園で子どもたちは、基本的な生活習慣を身につけ、先生や友だちとのゆたかなふれあいを経験し、母乳を含む安全で自然な食事を提供され、形式的な「知育」に偏ることのない保育園ならではの生活に根ざしたはぐくみを保障されています。この、文京区の「財産」である区立保育園を維持・拡大し、次世代に継承していくことが望まれます。また、それを財政的に支えるために、高額所得者の保育料負担の引き上げなどを検討することも必要でしょう。

また、区立園と同様に、子どもの育ちにとって好ましい保育を実践する私立園や認証園への補助の拡大について検討することも必要です。

(詳細については、「保育機能の中核としての保育園」2(1)、3(1)(3)を参照)

3-4. まちの環境整備—長期的な視点から、子どもの安全安心な育ちを保障する

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」によると、子どもとの外出の際に困ることとして、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」(66.6%)、「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」(58.7%)など、まちや施設がバリアフリーになっていないことがあげられています。また、「みどりや広い歩道が少ない等、町並みにゆとりとuringおいがない」(40.3%)など、まちの空間に、子どもが安心して過ごせる場が少ないこともあげられています。子どもの安全安心を視野に入れたまちづくり

が急務です。

- ・歩道のバリアフリー化、電柱の地中化、ボーンエルフ・スネーク道路などの設置。
- ・高層建築規制などを中心とした都市計画のあり方の検討。
- ・歩行者天国の実施：子どもたちが集える場の拡大。
- ・禁煙条例の制定。
- ・「子育てにやさしい店」ステッカー運動。

トイレや授乳場所を提供するなどしてもらえる商店等にステッカーを貼ってもらう。

- ・「子どもの安全に配慮したまち」への取り組み。

狭い道路での営業車両（フォークリフト等も含む）の往来・荷さばき・歩道への商品のはみ出し陳列などは、子どもにとっては危険・・・指導を行うとともに、安全への協力・配慮をする企業には「子育てに配慮した事業所」ステッカーを貼ってもらう。

- ・エレベーターの表示の工夫・・・「子育てにやさしいエレベーター」。

公共施設のエレベーターでの実施と、同様の配慮を区内の事業所に協力を呼びかけていく。

＝子育てにやさしい企業

4. 家庭の取り組み

ー子どもにとっての第一番目の社会として、現在の子育てのありかたを見直す

子どもにとっては、家庭が第一番目の社会であるといえます。しかし、現実には父親は仕事に追われて、結局母親だけが一人で育児の責任を負わなければならない「密室育児」が、母親の孤立感・負担感を高めているともいわれています。家事や育児に協力できる、もっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴える必要があります。

また、夜更かしなどで、無意識のうちに子どもを大人の生活につきあわせてしまっていないでしょうか。子どもの成長にとってのぞましい生活習慣を再認識すべきです。

- ・家事・育児負担の夫婦間の偏りを是正し、子どもと父親とのふれあいを確保する。
- ・就労している親（とくに父親）は、自らの働き方（サービス残業などを含む長時間労働や、不必要な「つきあい」など）について見直し、子どもとのふれあいの時間の確保に努める。
- ・「父子健康手帳」を配布し、父親として必要な知識や役割について学ぶ機会をつくる。

（妊娠期間 40 週の赤ちゃんの成長と母親の体の変化にあわせ、父親ができるサポート、家事、妊婦体操、ベビー用品の準備、出産の兆候から産後までの出産のプロセスにそった具体的な夫のサポート、3 歳までの赤ちゃんの心と体の発達、我が子への関わり方等が具体的に書かれているもの）

- ・大人のリズムに子どもをあわせるのではなく、子どもにとってのぞましい基本的な生活リズムを確立する。
- ・子どもの食生活を見直す。とくに、食品添加物の危険を考慮し、過度の間食を見直す。
- ・子どもを、過度の電子メディア視聴・利用の危険から遠ざける努力をする。
- ・薄着での外遊びの励行。現在、快適な環境の中でばかり生活するため、汗をかかず、一日の

うちに体温が1℃以上も変化する子どもが増えている。薄着での外遊び → 四季折々の気候の刺激を経験・体感 → 自律神経の発達 → 体温や血圧の調節機能の獲得、が大切である。

5. 職場の取り組み—子どもの育ちに配慮した労働環境を整備する

職場での労働環境の改善なくして、家庭環境の改善はありません。職場にも子どもの育ちを考えた環境整備が必要です。とくに、親（とりわけ父親）と子どもとが十分なふれあいの時間をもてるよう、過度に長い労働時間を是正する（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）ことは急務です。

また、病児のための看護休暇の充実も重要です。子どもにとって、病気になってつらく心細いときにこそ、親とのゆとりのあるふれあいが必要です。

そして、母乳保育の持続のために、搾乳・昼休みの授乳の容認を職場に求めることも重要です。母乳が乳児にとって重要な役割を持っていることは、科学的にも明らかです。職場の雰囲気によって母乳育児をあきらめてしまう母親がいるとしたら、それは憂うべきことです。

（詳細については、「親の就労・多様な生き方の支援」1（2）を参照）

6. 地域住民の取り組み—子どもを育てる地域の一員として、できることから始める

子どもが安全安心に暮らせるまちづくりのためには、行政の取り組みがもっとも重要であるのは当然ですが、そのための住民の自覚も求められます。例えば、子ども連れで外出するとき、狭い道路に侵入してくる自動車や、歩道を猛進する自転車はとても危険です。路上での喫煙も、受動喫煙の危険性を考えれば気がかりです。そして、大人から子どもたちに積極的に挨拶や声かけをすることは、子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていることを実感できる第一歩にもなります。住民が地域の一員として、お互いに気を配り、ルールやマナーを守って生活していくことも大切です。

また、お寺の多さは文京区の特色です。安全上の配慮は必要となりますが、地域における子どもたちのふれあいの場としての活用も考えられます。

- ・挨拶・注意など、子どもたちに対して声かけを行う。
- ・路上禁煙の実行。
- ・自動車・自転車の運転マナーの改善。
- ・お寺などのスペースを、子どもたちのふれあいの場として活用する。
- ・「団塊の世代」をターゲットにしたネットワークづくり。
- ・さまざまな団体・個人の連携と地域における交流の場づくりの支援。
- ・子育てサロン等、地域資源を活用した取り組みの拡充。
- ・民生・児童委員、NPO、ボランティアなどの制度・活動の周知。
- ・文京区の企業がNPOに助成、協賛する形で支援する仕組みづくり。

Vision2 子育て支援・親の支援

将来像

子どもの発達、健康、しつけは子どもの年齢に関係なく、親の不安としてあげられています。平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、「子育ては親の責任といわれ、不安や負担を感じる」とする親が、就学前の子どもを持つ親の4分の1にものぼっています。また、さまざまな事情により、緊急の支援を求める家庭も増加しています。

子どもの成長を保障する上で、子育ての負担を個人や家庭だけに押しつけていては、子どもたちが犠牲になってしまうことになりかねません。さまざまな事情で配慮を要する児童、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分です。未来の社会を担う子どもたちの成長を社会全体で支えることを通じて、親の子育て力の向上を図ることが求められています。子どもの幸せを支援することは、決して親の利便性を優先することではありません。

そこで、親と子どもが豊かな関係を結びあい成長していくために、子育て支援・親の支援を提供できる体制づくりが求められています。

目標

1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を

文京区には、さまざまな親子がいます。①妊娠中の女性及び産褥期の母子、②一人親世帯、③子どもが障害や病気等を持っている家族、④親が障害や病気等を持っている家族、⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の被害にあっている母子（疑いがある場合も含む）、⑥外国籍、日本語を理解できない家族、⑦その他緊急な対応を迫られるケースなどです。

業務が縦割りのために、窓口が散らばっている行政の体制では、こうした親や子どもが必要なサービスを受けるための情報を得ること自体に困難を伴い、手続きの煩雑さのために、必要なときに必要な支援を受けにくくなりかねません。

子育て支援、子育て支援に関するワンストップ・サービスがぜひとも必要です。1か所に足を運べば、専門的な知識を持った職員が相談に応じ、受けられる支援内容をコーディネートしてくれるとともに、一度の手続きで必要な関連作業を終えることができる。そんなサービスが待ち望まれています。

(1) 窓口一元化を推進する

- ・緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、複数の課にまたがっている支援について庁内窓口の一本化をすすめる。
- ・相談内容に適切に対応できる専門性を持った職員を配置する。

- ・千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」のように多様なサービスの案内を一元化し、利用者にサービス利用プランを提案する制度を整備していく。
- ・「子ども」や「子育て支援」に関連することをすべて取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設する（「子ども課」の検討）。

（２）専門的支援ができる職員の配置・育成をすすめる

- ・相談ごとに適切なサービスをコーディネートできる専門職員を配置する。
- ・児童相談所など他の機関との連携ができる能力を持った人材を採用・育成する。
- ・とくに家庭で育児をしている専業主婦・主夫層向けの、子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を行う地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーを配置する。

2. 子育て情報の効果的な提供

子育てに関する情報誌はたくさん発行されています。しかし、子育て真っ最中の世帯は多忙で、生活している地域の情報が得られることを求めています。そこで、地域の子育て情報がまとまって手軽に入手できるように、情報を集約し、発信していくことが大切です。

- ・1か所に行けば、必要な情報が一括で閲覧できたり、入手できるようにしていく。
- ・子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食づくり・料理講座などさまざまな「子育て」に関する、区からの情報やNPO等民間からの情報などをまとめた冊子・ペーパー・ホームページなどを作成する。
- ・パソコン・携帯電話で利用できる「子育てメール」により情報を発信する。
- ・だれでも書き込める「子育てかわら版」を作成し、区民の間での情報交換の場を設ける。
- ・役所に関係のないネットワークを活用した情報発信を活用する（メディア、口コミなど）。
- ・さまざまな団体のネットワークを活用した情報発信を支援する。

3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援の推進

子育ては家族を中心としつつも、公共的な営みとして位置づけていくことが必要です。そのためには、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして区民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべきであるとの共通認識が必要です。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまうことにもつながります。それぞれの家族が必要とする支援に対して、きめ細かに対応できる体制が求められます。

- ・既存の支援体制の連携を強化していく。

地域でのニーズを発見し、適切な支援を行うために、保健師、保護課ケースワーカー等、行政の専門職と主任児童委員（民生・児童委員）等、既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、区民からみてわかりやすい体制とするため、長期的には現行の担当地域割りを見直すことも検討する。

- ・関連する機関のネットワークづくりをすすめていく。
区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化をすすめるとともに、区のサービスの委託などを行う。
- ・既存の区有施設を活用して、子育て活動団体の自主的な活動を支援していく。
- ・子育て支援に関わる団体・個人間の信頼関係の醸成をすすめていく。
保育園、幼稚園、学校などの子育てに関連する機関、町会などの組織が話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。そのために情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめる。
- ・子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援の開始。
一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるよう、NPOの立ち上げ時の助成や活動継続のために助成などを行う。

4. 養育サポートの充実を図る

核家族化の進展に伴い、子育ての不安を気軽に相談したり、いざというときに助けてもらえることのできる人が身近に少なくなっています。そこで、地域の中で安心して子育てができるよう、行政をはじめ、さまざまな団体や個人が相談や支援を行う体制を整備していくことが大切です。子どもたちの成長を社会全体で支えることが求められています。

▶ 子育て相談の充実

地域の中で、子育てに関する相談を気軽に受けられる体制を整備していく。

▶ 子育てひろばの拡充

とくに、幼稚園・保育園に通わせていない親子に、安心して子どもを遊ばせることができるとともに、必要な情報提供と相談を受けられる場所として整備していく。

▶ 児童館機能の充実

新たなニーズに対応することで、機能の充実を図っていく。

▶ 緊急一時保育の抜本的拡充

国の予算の拡充状況等を踏まえつつ、全園での実施を検討する。

▶ ショートステイ（短期間の24時間保育）

親と子どもが豊かな人間関係をはぐくみ、安全安心に過ごすために、区の事業として、ショートステイの実施を検討していく。

▶ 病後児保育の拡充・要件の緩和

病後児保育実施施設を増やすとともに、感染性等の病気にかかった家族がいる場合に保育園で預かるというような、多様なニーズへの対応を検討していく。

▶ 産褥期の支援

親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変である出産後3か月くらいまでの時期の支援体制を構築する。

- ▶ 「2人目」を妊娠したときからの支援
第2子以降を妊娠した際の、親や第1子の子育てに対する支援体制を構築する。
- ▶ 本当に支援が必要な家庭への支援
4か月健診等の場を、家庭で一人で子育てをしている人への支援・フォローの機会とする。
また、出張による健診を実施し、同時にカウンセリングも行う。
看護師による事前カウンセリングにより、支援メニューの提示とサービスの提供を行う。
- ▶ ネグレクトや育児放棄など、問題のある（になりそうな）家庭に対する予防と早期対応
地域で見守ってくれる人たちやそのネットワークと行政との連携を図るとともに、制度・サービスのPRが行き届いているかのフォローアップについて検討する。
- ▶ 子育て支援施策の実施にあたっては、利用者の声を生かしながら制度の改善を図っていく。
(ファミリーサポート制度の充実、在宅で子育てしている人でも気軽に預けられるベビーシッター制度など)

5. 医療体制の充実

子育て中は、母子ともに医療にかかることが多い時期です。安心して医療を受けられることが、子育て中の不安の軽減につながります。

- ▶ 母親への医療費控除、良質で安価な治療のあっせん
乳腺炎の保険外治療など、保険がきかない医療費の補助の実施などを検討する。
- ▶ 予防接種の補助
おたふくかぜやインフルエンザの予防接種への補助は、子育て中の親の支援のみならず、子どもの健康、感染予防にもつながる。
- ▶ 4か月健診、集団予防接種の実施場所の拡充の検討
健診、予防接種等を、保健センターや小児科以外の場所で行える可能性を追求する。

6. 施設の整備

(1) 大型施設の整備

区の支援サービス一元化のひとつのあり方として、窓口やさまざまな施設が集約された、子育て・子育て支援の核となる新たな総合的施設の整備の検討を行うことも考えられます。

①施設に必要と考えられる主な機能

- ・ 個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援。
- ・ 必要なサービスの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム。
- ・ 年齢にあわせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設。
- ・ 親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に係る市民活動団体も利用しやすい研修室、

会議室、ホール、事務スペースの配置。

- ・保護者の事情で緊急に保育が必要な場合にも対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス。
- ・区内の保育、教育、福祉に関係する専門職やボランティアが区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関。

②その他考慮すべき点

- ・区内のどこからでもアクセスしやすいこと（十分広く安全な駐車場の確保及びデマンド型交通などによる移動手段の確保）。
- ・建物はバリアフリーや建材の安全性にも十分配慮し、子どもの育ちを支えるような観点からの工夫がされたもの。
- ・基本的には区の直営施設として、個人情報保護に配慮し、一貫したサービスを提供する。

なお、保育園・児童館・子育てひろばなど、従来からある子育てのための施設についても、引き続き充実・整備をすすめていく必要があります。

(2) 国や都の関連機関の誘致をすすめる

文京区は地下鉄網が充実しているなど、交通アクセスに恵まれた便利な地域です。このような地理的条件を生かして、渋谷区の東京都児童館や江東区東部医療センターなどのような子育てに関する都や国の施設・関連機関の積極的な誘致をすることで、子育て環境の整備を図っていくことも考えられます。

(3) 子育て支援の視点からの施設整備の取り組み

区が施設を設置する際に、文京区独自のガイドライン（施設設置基準など）をつくることも有用と思われます。

- ・親と子、障害のあるなし、性別の違い等、多様な視点に配慮した施設整備をすすめる。

Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

将来像

社会の成熟化に伴い、人々の価値観も多様になってきました。しかし、それぞれの価値観に基づいた生き方を選択し、これまでの人生の中で自らが培ってきた経験を生かしながら能力を発揮することは、子どもを持っていては望めないことなのではないでしょうか。

それぞれの置かれた環境の中で、生活を充実させながら働き続けることは、特別なことではなく、だれにでも保障されるべきであり、そのための環境整備とあわせて、再び社会に参加できる道を開くなど、多様な生き方を選択できるよう支援していくことが望まれています。

目標

1. 従業員の生活条件を踏まえた雇用・就労のあり方を支援する

だれもが自分らしい生き方ができるような、子育てや家庭生活との両立ができる就労環境が求められています。生活のあり方に応じたさまざまな就労形態や、仕事と生活を両立できるような制度の充実が急務となっています。

(1) 特に中小企業が行う取り組みへの支援を充実させる

- ・ 育児休業制度導入などに取り組んでいる企業への補助金や入札制度での優遇措置。
- ・ 就学前の子どもを育てている母親を採用した場合に優遇する制度。
- ・ 先進的な取り組みをしている企業への税制面での優遇等の制度導入の検討。
- ・ 先進企業に対する文京区独自の認定制度や表彰制度の創設。
- ・ 区内企業のみならず区民が勤務する区外企業についての支援の検討。

(2) 支援策などの導入に関する積極的な情報提供・啓発を行う

- ・ 国などの助成制度の周知、活用を呼びかける。
- ・ 企業も区民とともに安全なまちづくりをサポートする立場にあり、子育てしやすいまちをいっしょにつくろう・子どもを連れている人にやさしくしよう、手伝おう・・・と呼びかける。
- ・ 長時間労働の解消（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）を呼びかける。
- ・ 子育てをしている人が働きやすい・仕事と子育てを両立できる環境をつくることで、結果的に企業の利益につながることを周知し、さまざまな制度の導入を呼びかける。
(病児のための看護休暇、搾乳・昼休みの授乳の容認など)
- ・ 男女の役割分担的考えの払拭・男性が育児に参加することへの意識改革への働きかけを行う。

(3) 国に対して、一層の支援施策の充実と法令等の整備を求める

- ・子育て支援に関して企業に制約力のある目標を示すよう要請する。
- ・就業規則等の届出について、もっと定期的に申請させ、精査するシステムにしていくよう要請する。

2. 働くことへの支援

それぞれの生活条件にあった働き方を選択でき、働き続けられる環境であるとともに、出産・育児等でのブランクを越えて、再び社会に関わりたいと願う人たちが、それまで培ってきた経験や能力を生かすことができるための支援が求められています。親たちがより多くの選択肢を持てるような支援をしていく必要があります。

(1) もう一度社会に参入したい、接点を持ちたい人を支援する仕組みづくり

- ・技能習得のための講座。
- ・子育て中で短時間働きたい人向けの就職説明会（ハローワーク以外の場づくり）。
- ・企業への情報提供・働きたい人への情報提供。

働きたい人を登録したメーリングリストの作成、説明会やセミナー情報・関連ニュースを流す仕組みづくり、インターネットでの求人状況案内。 など

(2) それぞれの状況に応じて働ける場を得られる環境づくり

- ・中小企業団体等に働きかけ、再就職を願う親に対して採用等の情報提供を行う。
- ・出版関連業務、大学の仕事（学会誌の編集等）、留学生の通訳・アパート探しの支援等の、文京区ならではのニーズに対応した地域密着型の雇用・ボランティア情報の提供。 など

Vision4 保育機能の中核としての保育園

将来像

子どもの心身ともに健やかな成長を保障するまちのあらゆる場所、あらゆる部分に広がるさまざまな保育機能を統括し、中心となるのが保育園です。文京区の保育園はすべての子どもたち、あらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点となります。子育てが困難になっている社会で生きる子育て家庭に必要な情報発信、親と子が心豊かな人間関係と暮らしを実感できる多様な支援の提供、都会での地域ネットワークの再構築など、保育機能の中核にふさわしい質と人材、設備を備えることが重要です。同時に、保育機能の中核としての保育園を行政、地域全体でもりたてていくことが必要です。

目 標

1. これからの保育園の担うべき機能と役割

少子化・核家族化の進展、さらには働く女性の増加に対応するため、従来の「保育に欠ける」状況への対応に加え、子育てをするすべての家庭を対象とした子育て支援を充実していく必要があります。そこで、これまでの、保護者の就労や疾病に対応するという保育園の機能に加え、さまざまな子育てニーズに対応した子育て支援を行うことで、地域の子育ての拠点としての役割を果たすことが必要です。

(1) 地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割

保育園は、子育てを専門に行う施設です。子育てに関する相談を行うことで、安心して子育てできるまちづくりの役割を担っていきます。

(2) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための役割

保育とは、子どもが人として生活できる基礎を身につける支援を行うとともに、さまざまな遊びを通して知的な成長を保障することです。こうした視点から、子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための役割を担います。

(3) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割

地域では、町会、民生・児童委員、保健師、子育て支援NPOなど、さまざまな団体や個人が子育て支援の取り組みを行っています。こうした活動がつながりあい、点としての活動から線や面としての活動へと広がっていくことで、効果的な子育て支援の輪を広げていくことが大切です。そこで、地域の保育園がそのネットワークの中核としての役割を担うことが有効です。

(4) 親の就労支援のための役割

働く女性の増加に伴い、保育園入園を希望する人が増えています。また、働き方も多様化しています。そこで、延長保育や延長保育スポット利用、年末保育などの都市型保育需要に対応していくことが求められています。

2. 保育園の具体的役割

保育園が現在果たしている役割を充実するとともに、新たな子育て支援を効率よく、機能的に行うためには、保育園が現在持っている人的資源・物的資源を活用していくとともに、その充実を図っていくことも大切です。

(1) 子どもたちに対する責任を果たす

- ・家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任を持ってその向上に努める。
- ▶ 基本的な生活習慣の保障
（生活リズムの維持・ゆたかな遊びの提供・電子メディアからの解放など）
- ▶ 先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障
- ▶ 安全で自然な「食事」の提供
- ▶ 知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではのぐくみの提供
- ・産休明けからの子どもたちを対象とした施設であり、子どもたちの命と安全を保障する。
- ・保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用を図る。
- ・小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。
（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加など）

(2) 「子育てと仕事・社会的活動の両立」の支援

- ・保護者の就労支援により子育てを支える。
- ・待機児童の解消に積極的に取り組む。
- ・延長保育などの長時間保育の取り組み（スポット利用）を充実する。
- ・病児・病後児保育、年末・年始・祝祭日保育への対応を図る。

(3) 家庭・地域の子育てサポートの実施

～家庭での子育てを支援し、子育てに関する知識や情報を提供・共有化する～

① 具体的な子育て支援と相談を実施する

- ・出産予定者への援助、相談。
- ・出産後の相談、援助。
- ・子育ての悩みへの相談、援助。
- ・母親のリフレッシュへの援助。

- ・乳児を中心とした子育て体験学習（離乳食づくりなどのノウハウの積極的還元）。
- ・園庭の開放・図書の貸し出し。 など

②子育て支援ネットワーク

- ・「ひろば」「支援センター」などとのネットワークづくり。
- ・子育て支援のボランティアのネットワーク。
- ・子育てに関係するサークルのネットワーク。 など

(4) 災害時の防災拠点としての位置づけを

現在、災害時の防災拠点については、学校等を避難所として整備をすすめています。しかし、乳幼児にとって、大型の避難所は病気にかかりやすく、成人の避難者との生活リズムの違いからストレスを受けたり、体調に異変をきたしやすくなります。保育園を防災拠点として明確に位置づけ、耐震構造、避難に備えたゆとりのある園舎や職員配置、ミルク・食料・紙おむつなどの保管スペースなどの整備が必要です。

(5) 保育園の社会的・公共的資源（役割）としての活用

- ・園庭の開放。
- ・小・中学生の体験学習、ボランティア活動の場とする。
- ・地域の高齢者（施設）との交流と子どもたちが伝統を学ぶ経験活動。
- ・幼児教育大学・専門学校等の学生の乳幼児体験と研究教育へのフィードバック。
- ・行事などを通して、家庭のみで子育てをしている親子と保育園に預けている親子の交流の実施。

(6) 地域の文化の伝承 ～子どもを介した地域コミュニティとの接点として～

- ・散歩、園外保育などを通じた地域を知る機会の提供。
- ・伝統的な遊び、地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加・協力。
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する。
- ・文化伝承のネットワークをつくる。

(7) 親が多様な生き方を選択できるような支援

- ・親の就労を支援する。
- ・専業主婦も孤立せずに子育てができるように支援する。

3. 保育園の機能を高めるための方策

保育園が行う子育て支援策を有効なものとしていかなければならない一方、子育てをする上で子育て家庭や子どもが抱える課題も複雑になってきています。こうした課題に的確に対応していくためには、文京区全体の保育の質の維持・向上を図っていくことが大切です。

(1) 必要な人員の確保と資質の向上

- ・新たな人材の育成をすすめる。
- ・年齢の偏りのない人員配置により、高い「保育の質」を次世代へ継承していく。
- ・保育士、ボランティアなどの研修システムを確立する。

(2) 新たな子育て支援の役割を担う体制の強化

- ・ソーシャルワーク体制の確立。
- ・幼稚園・小学校等との連携と地域における支援の場づくり。
 - ▶ 小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどとの連携
 - ▶ 小学校の先生、保健師、民生・児童委員など地域の人たちが保育について話し合える場づくり
 - ▶ 小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会の新たな創設 など

(3) 受け入れ体制の整備

①希望すれば保育園に入園できる体制を目指す

- ・保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。
- ・保育園入園の待機児をなくす。
- ・育児休業後に、年度途中でも保育園に入れる制度。
- ・通園距離への配慮、きょうだい別の保育園に通わざる得ない状況の解消。
- ・潜在的な待機児童の解消のために、更なる施設の新設なども検討する。 など

②公設公営保育園の維持

- ・現在 17 園ある公設園については、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ・保育士が現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し、配置基準通りに配置していく。
- ・適切な人員の配置についての検討・目的に則した配置基準の見直しを行う。

(役割の増加に伴う負担への対応)

③良質な民間の保育園・保育施設の参入に対する支援

④幼稚園や小学校等の区有施設の余裕教室や園庭・校庭を保育園が活用できるようにする

⑤「保育の質」の内容と基準の明確化を検討する

⑥保育園の利用に関しては、高所得者については保育料の費用テーブルの改定も、聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。ただし、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下につながるような変更でないように十分に配慮する。

4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目

(1) 「文京こども園」設置を検討していく

- ①2歳から幼稚園に通わせられる制度
- ②幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障する制度
- ③幼保一元化という既成の概念でなく、①②を実現するための方策について、これまでの事例の検証を踏まえた上での特区申請の可能性
- ④幼稚園と保育園の職員採用時に、保育士・幼稚園教諭両方の資格をもっている人を採用

(2) 保育園のクラス人数を減らす

日本のクラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きいのが現状です（ここでは、先生と園児の割合ではなく、一つの教室で生活をともにする園児数のことを指します）。クラスの園児数を減らすことは、ゆとりある保育につながります。

また、保育園利用者の最大の悩みの一つが、子どもが病気のときの対応です。海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、感染症の予防につながる事が検証されています。クラス人数を減らすことでも、病気にかかる園児が減り、結果として子育て支援につながります。

第V 保育ビジョン実現の推進に向けて

1. 保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく。
2. (1)妊娠中の女性及び産褥期の母子、(2)一人親世帯、(3)子どもが障害や病気等を持っている家族、(4)親が障害や病気等を持っている家族、(5)DV、虐待の被害にあっている母子(疑いがある場合も含む)、(6)外国籍、日本語を理解できない家族、(7)その他緊急な対応を迫られるケース等の問題を抱えた親子へのきめ細やかで俊敏な対応ができるシステムの構築の検討を行う。
3. 文京区の保育機能の拠点である保育園の機能維持と強化に向けて、保育園職員、保護者、専門家等をまじえて「保育の質」についての検討を行うことにより、文京区としての保育の質に関する指針の策定をすすめていく。
4. 予算措置の確保・予算の適正配分を図っていく。

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要がある。

わが国の子育て予算は、経済の規模との比較（対GDP比等）で見た場合、先進国の中でもっとも少ない方ですが、文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれる。
5. 文京区の内外に対して積極的なアピールをしていく。

文京区において先駆的な試みが実現されるのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきである。国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこでできる余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となる。そうした実利面のみならず、自分の区にさらに誇りを持てるものとなり、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにもつながっていく。
6. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する。
 - ・定期的に（できれば3年くらいごとに）「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
 - ・「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにすることが望ましい。

7. 地域のネットワークの再生

地域で安心して子育てをしていくために、地域全体で子どもを見守り、子育てを支えてもらえる環境が求められていることから、町会などの従来からの地域活動・ネットワークに加えて、商店や事業所・NPOなどに、積極的に子育て支援の取り組みに加わってもらうよう働きかけ、支援していく。

8. 保育ビジョンの見直し

本保育ビジョンも、国、自治体の今後の保育・育児支援政策の変化により、また育児世代が抱える課題の変化により、将来時代にあわなくなっていく部分が出てくることが予想される。そこで、本ビジョンを適宜改訂して、時代の変化に即応できるようにしていくことが望ましい。

資料 9

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめに向けた議論の整理

目 次

第1グループ(子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障)	169
第2グループ(子育て支援・親の支援).....	172
第3グループ(親の就労・多様な生き方の支援)	182
第4グループ(保育機能の中核としての保育園)	186

※本資料は、「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ」の作成に向け、4つのワーキンググループで議論した内容を、とりまとめたものです。

第1グループ(子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障)

【スローガン】子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

*子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣の保障を！

- ・ 自然で安全な「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」
- ・ 早寝・早起き→朝食→遊び→早寝・早起きの「生活のリズム」の確立
(理由：以上のことは、子どもの心身の健やかな成長にとって不可欠な要素)

*子どもたちに、ゆたかな人間的ふれあいの保障を！

- ・ 自分を好きと思える心の土台作りをするために、ゆたかなふれあいを通じた、大人に対する基本的な「信頼」(自分は受け入れられているという感覚)の確立(理由：これがあってはじめて、「しつけ」や「教育」も意味をもつ。)
- ・ 同年齢・異年齢の友だちとふれあう機会の確保(理由：これを通じてはじめて、友だちどうしのあいだに、思いやり、信じあう関係が芽生える。)

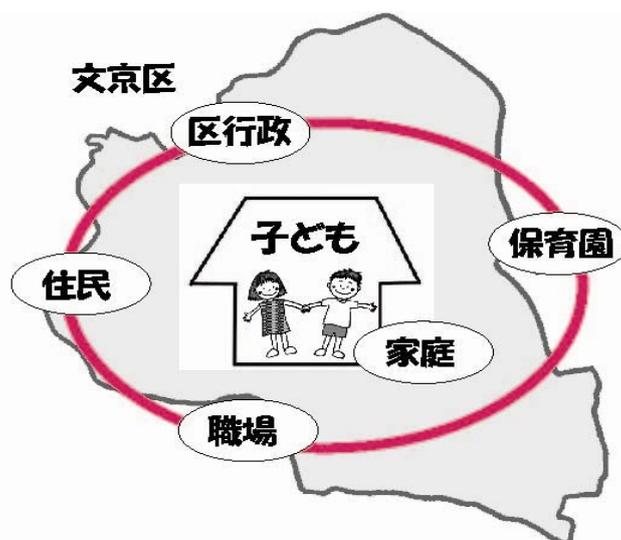
【区全体での取り組み】

「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査と、それを踏まえた議論の場の設定を！

- ・ 文京区内の子育てに直接間接に関わる主体(区行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、地域住民など)が、絶えず(今回限りでなく)、「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要がある。
- ・ そのために、①今回限りではなく、定期的に(できれば3年くらいごとに)、「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握すること、そして、②その都度、問題の解決にむけて、各主体が対策について話し合う場を設定すること、を提案する。
- ・ なおこれと併せて、「子育て支援策」に関する実態調査と議論などが行われることが望まれる。

→WG 2

- ・ また、この実態調査と議論が、小中学生をも対象に含めたものになることが望まれる(「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために)。



子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

【各主体の取り組み】

①区行政：長期的かつ公共的な視点から、「子どもの育ちの場」の環境整備を！

(ア) 禁煙条例の制定を！

(理由：受動喫煙の危険性は明らか。子どもたちを受動喫煙の害から守るために必要。千代田区の例を参考。)

(イ) 遊びとふれあいの場の確保・拡充を！

- ・公園の整備：観光のためではなく、子どもが楽しく遊べる場として。
- ・図書館での絵本の読み聞かせ：親たちが子どもたちに読み聞かせられるスペース・時間（特に、平日の幼稚園降園後の時間や土日）の確保。
- ・歩行者天国の実施（例えば、播磨坂などから始める）：子どもたちが集える場の拡大。

(理由：とくに未就園児や幼稚園児は家庭で過ごす時間が長い。家の中での長時間にわたる電子メディア視聴は、子どもの健やかな育ちを妨げる大きな要因となる。外に出て、身体と五感を使って遊び、良質の絵本を大人に読んでもらい、多様なふれあいを獲得する機会はとても重要。)

(ウ) 現行の区立保育園が担う公共的機能を認識し、区立保育園の維持・拡大を！

(理由：現行の区立保育園は、子どもたちに、望ましい基本的な生活習慣や、豊かなふれあいを保障する重要な場となっており、その意味で高度な「公共的機能」を担っている→③(ア)参照。この文京区の「財産」である質の高い区立保育園を、維持・拡大していくべきである。また、区立園と同等の「公共的任務」を果たす私立園や認証園への補助の拡大も重要である。)

→なお、この目的との関連で、高額所得者の保育料負担の引き上げを検討することも必要である。この「累進制の強化」は、「格差社会」を是正するための一助ともなろう。

(エ) 子どもの健やかで安全な育ちを守るための、保護者・地域住民への啓蒙を（長時間にわたる電子メディア視聴の危険性についての情報提供など）！（理由：長時間にわたる電子メディア視聴は、生活リズムの乱れ（夜更かし）、運動不足、双方向のコミュニケーションの阻害、言葉の発達の遅れ、をもたらす。自治体による啓蒙活動により、この問題の改善に効果が現れている例あり。例えば、茨城県東海村・鳥取県三朝町・島根県雲南市久野地区の「ノー・テレビ・デイ（ウィーク）」などが、子どもの「電子メディア漬け」生活の改善に効果を上げている。)

(オ) 特に配慮の必要な家庭への積極的支援を！→WG 2

(カ) 子どもの安全を視野に入れた街づくりを！

- ・歩道のバリアフリー化、電柱の地中化、ポーンエルフ・スネーク道路などの設置（理由：子どもの交通の安全のために）
- ・高層建築規制などを中心とした都市計画（理由：強いビル風などの危険から子どもを守るため）

②家庭：子どもにとっての第一の社会であるという自覚の下に、子どもの育ちにとって望ましい家庭環境を！

(ア) 家事・育児負担の夫婦間の偏りの是正し、子どもと父親とのふれあいの確保を！

(理由：母親の密室育児が母親の孤立感、負担感を高めている。協力できるもっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴えるべきである。)

(イ) 大人のリズムに合わせるのではなく、子どもの基本的な生活リズムの見直しを！

(理由：子どもが遅寝になっている原因として、大人と一緒にテレビを見てしまう、父親の遅い帰宅を寝ないで待つなど、大人のリズムに合わせていることがある)

(ウ) 子どもとのふれあいの時間の確保を！これ以上の「延長保育」を保育園に求めるのではなく、自らの働き方（サービス残業などを含む長時間労働）の見直しを！

(エ) 子どもの食生活の見直しを！→③(イ) ⑤(ア)などの機会も利用

(理由：「食育」は子育ての基本。食べ物が子どもの身体を作る。)

(オ) 動物とのふれあいも！（理由：自分が「世話をする」＝「与える」ことを子どもが学ぶために）

③保育園：子どもが育ち、育ちあうとても貴重な場。現在の高度な機能と質の維持を！さらに地域への発信、次世代への継承を！（→WG4）

（ア）現在担っている高度な「公共的機能」の維持を！

- ・基本的な生活習慣の保障（生活リズムの維持・ゆたかな遊び・電子メディアからの解放）
- ・先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障
- ・母乳保育を含む、安全で自然な「食事」の提供（3歳児クラスに上がるまでは、おやつや補食に、既製品のお菓子類を利用しないのが望ましい。）
- ・知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではの育みの提供
- ・伝統的な遊びや行事の継承
- ・散歩などを通じた地域を知る機会の提供

（イ）地域への還元・地域との連携を！

- ・子育て、離乳食作りなどのノウハウの地域への積極的還元
- ・小中学生などとの交流（異年齢間のふれあいの促進）

（ウ）高い「保育の質」の次世代への継承を！そのために、年齢の偏りのない人員配置を！

④職場：子どもの育ちを考えた労働環境の整備を！

（ア）労働時間の短縮（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）を！

（理由：労働環境の改善なくして、家庭環境の改善はありえない。職場にも子どもの育ちを考えた環境整備が必要。）

（イ）病児のための看護休暇の充実を！

（理由：子どもを持ちながら働き続ける親にとって、大きな不安材料が、子どもの病気。このことは、父母連が実施したアンケートの結果にもよく現れており、回答者の約3割がそう記述している。）

→なお、この関連で、「病後児保育の充実」をWG2で盛り込んでほしい。

（ウ）搾乳・昼休みの授乳の容認を！

（理由：母乳が乳児にとって重要な役割を持っていることは、科学的にも明らか。職場の雰囲気によって母乳育児をあきらめてしまう母親がいるとしたら、それは憂うべきことである。）

⑤地域住民：子どもを育てる地域の一員としてできることから！

（ア）「子育て情報誌」の発行により情報交換の機会を！：子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食作り・料理講座など、「子育て」に関する様々な情報をまとめた情報誌の発行。区に財政的支援をしてもらうことも検討。（理由：現状では、情報の流通が極めて不十分）

（イ）挨拶・注意など子どもたちへの声かけを！

（理由：子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていると実感できる第一歩。）

（ウ）路上禁煙の実行を！

（理由：上記のとおり、受動喫煙の危険性はあきらか。条例ができて、地域住民が自覚しないと改善はない。）

（エ）自動車・自転車の運転マナーの改善を！

（理由：子ども連れの親子の外出にとって、自動車や、歩道を猛進する自転車は不安材料のひとつ。ちょっとした気遣いで改めることのできる簡単な協力の例として。）

（オ）お寺の、子どもたちのふれあいの場としての活用を！

（理由：お寺の多さは文京区の特徴。子どもたちのふれあいの場としての活用を）

*注：なお、区立保育園保育士の先生方を対象として行われたアンケート調査（子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境や、保育園のあり方に関するもの）については、現在集約中で、これから分析に入る。その結果については、文京区保育ビジョンに関する最終的な答申に反映させることとなる。

第2グループ(子育て支援・親の支援)

1. 子育て・親育ち支援における重要な視点・前提条件

子育て・親育ちの支援という、いきおい、親の視点に立ちすぎて、子どもの育ちを無視してしまうおそれがあります。親が求める支援やサービスは、必ずしも子どもの健全で豊かな育ちを見据えたものとは限らないので、子どもの育ちに不可欠な支援と、大人の都合で「あったらいいな」と思うサービスを区別する必要がありますと思われる。保育園であっても在宅であっても、「子どもの幸せ、子どもの育ち」を大前提とする視点を忘れてはなりません。そうしないと、親寄りのサービスに偏ってしまう危険があるものと思われる。

しかし、他方で、多様化する価値観と働き方を是認せざるを得ない現代社会の中にあっては、「子育てはかくあるべき」といった一定の価値観を示すことはできても、それを押し付けるようなことは避けなければなりません。様々な事情で配慮を要する児童、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分です。

本WGでは、上記のような考え方のもと、大きく分けて(1)「子育て・親育ち支援一般について」と(2)「要配慮児童およびその家庭への支援」、の二本の柱を立てました。どちらもこどもの幸せ、子どもの育ちを前提といたしますが、(1)では、子育て・親育ちの支援一般について検討し、(2)では、一般的な施策のみではカバーすることができない様々な事情で配慮を要する子どもとその家庭、助けを求めている親や家庭をどのように支援するか、について検討しております。¹

このような考え方にたち、まずは、個々の内容を検討する前に、子育て・親育ち支援における重要な視点・前提条件を以下に挙げてみました。

1) 子育て支援にも子育ちの視点を

乳幼児期の子どもは、生活のすべての側面において大人に完全に依存している一方で、自らの欲求を大人に完璧に伝える手段を持たない、弱い立場にある。それだけに子どもの利益が損なわれていないかどうか、細心の注意を向け意識しなければならない。

一般的に「子育て支援」は親支援の側面が強い。親が求める支援やサービスは、必ずしも子どもの健全で豊かな育ちを見据えたものとは限らないので、子どもの育ちに不可欠な支援と、大人の都合で「あったらいいな」と思うサービスを区別しなければ、子どもの利益や権利が損なわれかねない。親子の絆を強めることにつながるかどうかの一つの目安となる。

2) 子育ては公共的な営み

子育てとは 子育ては私事ではなく公共的な営みであり、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして一般市民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべき営みである。この共通認識がなければ、地域に根ざした子育て支援体制を築くのは難しい。

¹ なお、必ずしも容易に区分できないものについては、メモにおいては、便宜上以下のように取り扱っています。

① 親や兄弟・姉妹が病気の子どもに対する支援は、要配慮児童に対する支援として扱っています。その子どもに対して、保護者が十分なケアをできない状態に一時的ではあるが陥るため、「要配慮」に分類すべき。そうすることにより、その緊急性・切迫した状態をより反映しやすいものと思われる。

② 親が就労している子どもが病気になった場合も、要配慮児童として扱っています。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまう。とくに0～2歳児のスポット的な一時預かりサービスが文京区では極端に少なく、拡充が求められる。

3) 親の育児力アップには、指南役が必要

健全で豊かな育ちを子どもに保障するには、時には大人の意識改革が必要となる。子どもの生活習慣が社会問題となっているが、大人が自分の生活習慣を律することができないことが、多かれ少なかれ原因の一つである。

核家族化が進み、親の指南役をいったい誰が果たすのか。働く親には、保育園という心強い支援体制がある。家庭で育児をする親に対しても、同様な支援体制が求められる。

その機能は、さまざまな主体で果たすことができる。保育園もそうだが、たとえば地域に根ざした子育て支援センターを拡充し、「地域保育士」やファミリーソーシャルワーカーを配置し、専業主夫・主婦世帯向けのプログラムを開発する。また、区内には、事実上、保育園・幼稚園機能や一時保育機能を果たしている民間の英会話教室などが存在する。こういう地域の多種多様な主体との連携を通じて、できるだけ多くの家庭に支援を提供する体制作りが求められる。

4) 行政と親・家庭・住民・地域との協働、信頼関係の醸成

行政の縦割りの弊害がこの分野にも深刻な影響を与えていると考えられます。福祉の担当か子育て支援の担当かあるいは教育の担当かを問わず、有機的な連携と専門的な対応が望まれているにもかかわらず、なかなかこれは実現していません。行政側に一元的対応の窓口の設置や専門性の向上が求められています。

5) 現状問題点の正確な分析と把握が、施策実施の基本であり前提条件

保育園の待機児は、公式には50名以下と言っていますが、他区の公設園や、区内外の認証保育所・民間園に紹介・斡旋されるケースが多く報告されており、潜在的には非常に多くの待機児がいるものと思われます。特に昨今のマンション建設ラッシュ、再開発によって区内全体の就学前幼児・就学児童の絶対数は明らかに増加しているにもかかわらず、保育所や子育て広場のような子育て関連施設が設置されていないか非常にアクセスが悪い地域が広範囲かつ複数存在する懸念があります。

区は、常に地理情報学や都市計画の専門的手法に基づく人口動態調査を定期的に行い、まずは何よりも問題点を正確に把握し、その上で、問題点の解決策を考えていくという、基本的な政策立案プロセスを愚直に実施することが必要です。

6) 支援策の質の向上、量の増大

支援策の内容に関しては、子どもの立場、親の立場、地域社会での重要性などの視点に立って広範に議論され、企画される必要があります。利用者、専門家、現場、多くの人々の声が生かされることが望まれます。

次に、その質の維持・向上のためには、PDCAのサイクルをしっかりと回していくことが重要な課題となります。これを実行することは行政機関では決して容易なことではありませんが、文京区においてもその実現を図ることは、それ自体がチャレンジングなことですが、あきらめることなく、臆することなく、取り組んでいくことが期待されています。

また、量の拡大も重要です。他の様々な施策、とりわけハード面、平たく言えばハコモノへの資源の投入と、子育て関連の施策と、いずれを重要と考えるのか、この点が厳しく問われていることは間違いありません。政策間のプライオリティをどうつけていくのか、そのプロセスを健全なものとするため

には、また、説明責任を果たしていくためには何が必要なのか、こうした点も決して忘れてはならないところです。

7) 予算措置の確保・予算の適正配分

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要があります。

残念なことに、わが国の子育て予算は、経済の規模との比較（対GDP比等）で見た場合、先進国の中で最も少ない方です。文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれています。

人的・物的資源の投入を実現するためには、政策間のプライオリティ付けのメカニズムの改善を行うことが重要と思われまます。

8) 文京区の内外に対する積極的なアピール

文京区において先駆的な試みが実現していくのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきです。それにより、国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこで出来る余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となります。そうした実利面のみならず、自分の区にさらに誇りを持てるものとなり、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにつながります。

9) ビジョンの継続性、実効化・施策の検証

今回のビジョン策定の作業は、住民を中心とする多くの人々の真摯な努力により進められてきています。結果として、その内容に誇るべき点が少なからず存在するようになることと考えておりますが、実際の作業時間は、実質的にわずか数ヶ月であり、かつ、資料、データ等の提供は不十分であったことは偽らざるところです。ですので、今回のビジョンはあくまでこの時点での一応のまとめという存在であり、今後の一層の拡充、改善が必要とされていると考えられます。定期的（できれば毎年あるいは二年毎）に、内容の実現度の検証と内容の見直しを不断に行っていくことが大切であると考えられます。それにより、はじめて、実効性のあるビジョンとなることが可能となります。

2. 子育て・親育ち支援一般にかかわる提案と施策について

1) 専門的・一元的対応の推進、区の子育てに関する窓口の一本化

現状では子育てに関する情報がいろいろな課にまたがっている。使う側からすればみんな区の設備なので、子どもを中心とした情報は一元化すべきと考えます。

たとえば、「子ども課」。「子ども」や「子育て支援」に関連することは全て取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設したり、また、千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」制度のように多様なサービスの案内を一元化し、「サービス利用プラン」を提案する制度のようなものが参考になります。とにかく、区民が問い合わせを行う窓口を一本化すべきです。

特に、緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、庁内窓口の一本化およびファミリーソーシャルワーカーを配置することが必要です。また、現状での窓口の対外的また対内的な明確化、窓口間の連携の強化、単なる窓口業務という役割ではなく、導入アセスメントをする面接員のような役割を担う人材を現在の散らばっている関係部署に必ず配置するといったことも検討するべきと思われまます。

なお、このような一元的な窓口を設ける前提として、部門間の調整を行う権限を認め、かつ、部門間でのたらい回しを避けるために、各部門と調整部門の責任の明確化が必要です。

2) 地域や「まち」ぐるみの支援体制、地域・子育てに関するネットワークの構築・積極利用

地域ごとの子育て支援体制の再編が急務です。保健師、保護課ワーカー、民生児童委員、社会福祉協議会、小学校、幼稚園、保育園等すでに地域で支援に関わっている専門職の地域割りを見直し、区民からみてわかりやすい体制で、地域でのニーズ発見と支援に関わってもらうことが必要です。都の所管する児童相談所との連携も必要です。

また、町会の世代交代に伴い、地域によっては町会や住民の地域活動が停滞している現状も報告されています。上記のような地域で支援にかかわっている方々と町会、ひいては住民との関わりを強化することで、防犯や環境面で社会生活上の安全と安心を与えるだけでなく、地域ぐるみの子育て環境を整え、かつ、様々な情報と施策の浸透と共有を向上することに繋がります。公園の整備、夏祭り、各種ボランティア活動、子育ての相談など、様々な子育てに関連する活動が「まち」や地域を基盤にしていることを改めて見直し、積極的に支援することが必要です。

また、町内会等に民生児童委員のノウハウを提供したり、トレーニングするなどして、地域を見守る役割を与えるというアイデアも今後検討すべきです。

また、区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化の促進と区サービス委託・共同提供等の実施の是非についても検討を要するところです。

3) 子育て情報の効果的提供・情報アクセスの改善

いまの子育て世代は携帯で情報交換しており、情報源としてウェブを活用しております。そこで、電子媒体をもっと活用する努力としくみ、具体的には、一斉メール配信サービス、ホームページや冊子などを活用した子育て支援情報を一元的に提供しつづけることが必要です。

せっかく刷新した文京区のホームページですが、利用者の立場に立ったものとは言い難いようで、さらなる改善が必要です。また、ぶんきょう安心メールのように「子育てメール」は有効な情報伝達手段として早期に導入を検討すべきです。登録者のみに情報発信できるため、区の考えていることや生のこえが区民に伝わり、単なる情報伝達のみならず区と区民との信頼関係向上に繋がります。

他方、区民の中にはホームページにアクセスできない方々も多く、紙媒体の一覧性と伝達力は改めて見直されるべきです。文京区でも子育て情報誌を作成されている中かと思いますが、そもそも存在自体が十分に知られておらず、また、発行部数も極めて少ないようです。そこで、子育てというくくりで何でも載っている情報誌、すなわち、区からの情報に限らず、NPO、民間の情報、必要な情報が全て入るものが有用です。

また、ブログ・くちこみの組織や、役所に関係のないネットワークを活用して情報を発信しようという試みは、区民との距離を縮めることに繋がります。

子育てマップは情報が集まっていた好評でしたが、認知度は必ずしも高いものとは言えなかったようです。このような情報の集約が必要ですが、これと同様の情報がウェブでみられれば、いつでも情報にアクセスできて便利です。

4) 専門的支援ができる人材の採用と育成

子育て・子育て支援の成否は、人材如何で決せられると言っても過言ではありません。その意味において企画立案する人材、現場を担う人材の両面において、中核を担う人材として福祉職を計画的に採用し、不断の教育・研修を実施することが不可欠です。

現在、文京区がこのような仕事をする人材として福祉職を採用しているのか判りませんが、児童相談所や様々な関係先との連携・調整ができる能力を持った人材を区としても採用していく必要があります。

5) 区民との協働協治による子育て・子育て支援の推進

これまで区が立案し進めようとしてきた施策は、区民にとっても良かれと思って企画されたものかもしれませんが、必ずしも利用者の立場と気持ちを十分に理解したうえで出来たものと評価することは

きません。区民が真に必要とする施策を実施するには、区民から生の声を聞く機会を増やし、また、それを個々の施策に活かすための不断の努力が欠かせません。これは、今回のビジョン委員会や子育て支援策に限る話ではありませんが、今後、区が重要な施策を立案し実行するにあたっては、区民に参加と意見陳述の機会が与えられ、これを個々の施策に反映させるような仕組みを設けることが必要と思われる。区民の参加と信頼関係の醸成は、個々の施策の実効性を高めることは明らかです。

子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援を実施することも、有効な施策となりうるものと思われます。他の自治体と比較しても、この部分は文京区が非常に遅れている部分です。一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるような、例えば、立ち上げ助成、活動継続助成、多様性対応助成などさまざまな仕掛けが必要と思われます。

6) 子どもと親が安心できる遊び場と交流場所の確保、遊べる環境としくみ作り

(ア) 児童遊園や公園の整備

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区は空き地が少なく、交通量も多く道路では遊ばせられません。子どもが外遊びできる場のインフラの整備が必要です。

現状では、文京区内には児童遊園が多くありますが、極めて老朽化して壊れる危険のある遊具が多く、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがワクワクする遊具に設置し直すことを検討すべきです。

保育園・幼稚園に通わせていない在宅保育の子どもが遊べて、かつ、親同士が交流できる場を作る必要があります。また、公園に子育てに関する情報の掲示があれば、情報交換もしやすくなります。

(イ) 地域の公共財としての公園、その意識付け

公園は、単に行政がハードを作れば自然に人が寄ってくるものではありません。専門家によれば、海外の大都市においては、公園は周辺住民の公共財という意識が高いようですが、日本人の住民の公園（ひいては地域環境）に対する意識は、非常に低いようです。また、子育てしやすいまち作りと地域環境の向上にとって、このような公園に対する意識付けは非常に重要であり、かつ、有用であるようです。

たとえば、周辺住民が定期的に清掃したり剪定をする取り組み、夜間は浮浪者・不審者・不良少年のたまり場にならないように公園にフェンスを設け鍵をかけるなど、住民が自主的に管理していく取り組みなどが紹介されています。

このような住民の取り組みを促すことは、公共財産・コミュニティは宝という意識の植え付けにもなり、かつ、子どもの遊び場や親同士が交流できる場・コミュニティを大事にしようとする意識を育むことに繋がるようです。行政は、このような意識を育むためにも、専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園作りを進める必要があります。

文京区は、歴史があつてこどもの遊びや親の交流の場を提供する潜在力を持った公園が多くありますが、これらを次々に廃止し、また、これからも廃止しようとしています。子育ての視点をもって見直せば、全く異なる考え方が生まれるのではないかと思います。

また、公園は設置より維持に費用がかかるものと言われてはいますが、このような住民の取り組みを進めることは、維持費用の大幅な削減をすることとなります。

7) 異年齢が遊べる環境・しくみ

異年齢が遊べる環境を作ることは、こどもが安心して遊べて、子育てしやすいまち作りに繋がります。このような環境は、それを促すしくみがあつてはじめて出来るものと言えるので、しくみを考え、広げることが必要と思われます。

親同士の関係があることが、異年齢の子どもが仲良く遊ぶことに繋がります。例えば、保育園、幼稚園、育成室などの父母会、PTAなど既存のネットワークだけでなく、子育てひろばやその他施設利用者の相互交流や、各種子育て関連の親睦会や集まりなどを促すしくみ作りも重要と思われます。

また、公園、集会所において、親同士が交流できて、親が子どもを安心して遊ばせられるハード・ソフトが必要です。

8) 既存施設の拡充・施設の新設

保育園や幼稚園に通わせているか否かを問わず、子育てに関する情報交換と支援を受けられる場を設置し、拡充することが必要不可欠です。

繰り返しになりますが、保育園の待機児は、公式には50名以下とされていますが、他区の公設園や、区内外の認証保育所・民間園に紹介・斡旋されるケースが多く報告されており、潜在的には非常に多くの待機児がいるものと思われます。

区は、常に地理情報学や都市計画の専門的手法に基づく人口動態調査を定期的に行い、問題点を正確に把握したうえで、適正な施設の配置と定員見直しを行う必要があります。

また、施設の設置について検討する際に、一般的に考慮すべき点として以下のようなものが考えられます。

- a. 区内のどこからでもアクセスしやすい（十分広く安全な駐車場の確保およびデマンド型交通などによる移動手段の確保）
- b. 建物はバリアフリーや建材の安全性にも配慮し、子どもの育ちを支えるような観点から工夫されたものである
- c. 個人情報保護および一貫したサービスを責任を持って提供するため、基本的には区の直営施設とする。

① 子育てひろば

特に、幼稚園・保育園に通わせていない親の支援とその子どもの育ちのためには、子育てひろばのように安心して子どもを遊ばせ、また、必要な情報提供と相談を受けられる場所は必要です。現在、文京区には、子育てひろばは3か所しかありませんが、子育てひろばは登録制なので安心、保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できるということで利用ニーズは非常に高く、早急に新設し、そのサービスを拡充すべきです。また現在すでにある施設も、空調の完備、利用時間の延長など、サービスの改善をするべきです。

② 子育て支援、子育て支援の核となる総合的な施設の整備

子育て支援、子育て支援に関するワンストップサービス拠点（ここにすれば、一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられ、しかもサービス自体もこの施設内でほとんど受けられるような拠点）として総合的な大型施設を新規に建設することは重要であると考えます。

文京区が子育て支援に力を入れ、子育てしやすい住みやすいまちであることを印象づける意味でも、区において是非検討すべきと思われます。

この総合的な施設においては、以下のような機能を付加することが考えられます。

たとえば、

- 個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援
- 必要なサービスへの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム
- 年齢に合わせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設
- 親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に関わる市民活動団体も利用しやすい研修スペース
- 保護者の事情で緊急に保育が必要な場合に対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス
- 区内の保育、教育、福祉に係る専門職やボランティアが区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関

③国や都の関連機関の誘致

文京区独自で前記のような子育てに関する総合的施設を建設できないとしても、例えば、渋谷区の東京都児童館、江東区東部療育センターなどのような子育てに関する都や国の施設、機関の積極的な誘致を行うことは出来ないでしょうか。とかく、子育て中の親は、子どもを安心して遊ばせることができ、情報交換やほっと一息つくことが出来る場所を求めています。

④児童館の抜本的な見直し、改善

良質なスタッフの厳選、確保（そのための魅力的なパッケージ（待遇））、プログラムの改善（午前中のプログラムの充実）、空間の有効的活用が必要です。

⑤例えば、地域活動センターや交流館を子育て支援センターに

地域活動センターを子育て支援センターとして活用する工夫ができないだろうか。赤ちゃん連れには重宝である和室があり、かつ平日昼間の利用がしやすい。出張所時代の名残で、1階は事務所となっているが、その1階をもっと和める雰囲気改装し、地域保育士やソーシャルワーカーを配置し、子どもを持つ親の集いの場にするとか。

子育て関連の情報をここに集約し、かつ住民が自由に掲示できる掲示板を設置すれば、情報の流通にも繋がります。母親学級、4ヶ月健診やポリオの摂取なども、ここで実施すれば、近所に住む仲間づくりに役立つのではないのでしょうか。民生児童委員や地元町会関係者もまめに足を運べば、失われつつある世代間の地域のつながりも再構築できるのではないだろうか。文京区に移り住んできた人が、新しい地元をつくるための足がかりにすることが可能です。

安全で、安心して小さい子どもを連れて集える場所に生まれ変われば、地域に大きな貢献をもたらさず。知り合いのお母さんに「ちょっとだけ子どもをみてもらい」、その間に所要をすませ、住民参加の一時預かり機能を持たせることもできるような気がします。

9) 基準・ガイドライン等の策定

区が、施設を設置し、個々の施策を策定する際のガイドラインをつくることも検討に値するものと思われまます。

フィンランドをはじめとする欧米では、行政の個々の施策や施設設置の基準作りが進んでいるとのことであり、子育てに関する分野でもこれらの海外の事例は非常に参考になります。

現実に文京区が施策や施設設置する際、現実の状況や予算と時間の関係上、行動目標に対してハードルを落としたものになるかもしれないが、目標や理想像があるかないかは大違いです。この意味において、文京区独自のガイドライン（施設設置基準や行動目標等でもよいので）を策定することは有用と思われまます。

3. 「(広義の)特に配慮を要する子どもおよびその親・家庭への支援」

特に配慮を要する子どもとその親・家庭への支援について、ここでは、子どもを持つ親・家庭であれば、誰にでも起こりうる事態についてどのように対応・支援するべきかという問題として、広く捉えて考えることとしました。このような観点から、この支援を考える際の視点としては、単純に特に一定の特性を持った「方々」に対する支援と考えるべきではなく、単に、子育て中の親・家庭であれば特に配慮が必要な「状況」に対していかに支援をするかということと見え、誰でも陥る可能性のある状況を有する親と家庭に対し、子どもの育ちに十分配慮した、手厚い支援が保障されるべきであると考えまます。

もっとも、単なる状況を脱するための物的な支援だけではなく、精神的なケアも含む複合的な支援を要し、また、専門的な知見も必要であり、本ビジョン委員会で深く検討するには限界があることから、専門家が参加する検討委員会を別途設置して、特に重点的に検討すべきものと思われまます。また、これらの問題は、至急の支援が必要な場合でありますので、この検討委員会は、即時に設置、開催すべきです。

特に配慮を必要とする家庭は以下のようなケースです。

- (1) 妊娠中の女性および産褥期の母子
- (2) 一人親世帯
- (3) 子どもが障害や病気等を持っている家族
- (4) 親が障害や病気等を持っている家族
- (5) DV、虐待の被害にあっている母子（疑いがある場合も含む）
- (6) 外国籍、日本語を理解できない家族
- (7) その他緊急な対応を迫られるケース

また、利用者・親の立場から検討が強く要請されている事項としては、以下の事項が挙げられます。

1) 緊急一時保育の受け皿の検討

緊急一時保育の整備は急務です。

全保育園での緊急一時保育、現在すでに行っている区立保育園での緊急一時保育の定員を大幅に増やす、子育て広場、児童館といった保育施設で緊急一時保育を行うといった、これまで文京区で行われてこなかった新しい形の緊急一時保育が必要です。

2) ショートステイ（短期間の24時間保育）

核家族では、親の急病、やむをえない事情があると保育が大きく欠けます。区の事業として、ショートステイの実施が必要ではないでしょうか。（区内で協力会員を募り、厳選、トレーニングを行い適切な人材を確保し、同時に都立の乳児園などへの橋渡しを行う。）

3) 病後児保育の拡充・要件の緩和

病後児保育実施施設を増やすのはもちろん、家族に感染症にかかったものがある場合、幼児への感染防止のために、保育園で預かるといった多様なニーズに答えていく必要があります。また、保育園の利用者が当日いない場合、保育にかける要件の有無にかかわらず、必要に応じて利用を認めてははいかがでしょうか。

4) 産褥期の支援

赤ちゃんが生まれてから3か月くらいは、親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変ですので、特に配慮が必要です。

5) 2人目を妊娠したときからの支援

第2子（第3子以降も同様ですが）がお腹にできたときから、親と第1子の子育てへの配慮と支援が必要です。

また、第2子が保育園に通園できる年齢に達したとき、保育園の入園については特に配慮が必要です。第2子が保育園に入れない場合や別の保育園に通わせざるを得ないケースもあり、核家族では通園と養育が大変で、過大な負担を強いることとなります。

6) 本当に支援が必要な家庭への支援

家庭でひとりで子育てをしていて、どこにも出ないで、相談もできなくてという、本当に支援が必要な人がおられますが、そのような状況をどのようにフォローするかは重要な検討課題と思われます。

どのような機会に見出すかについて、例えば、4ヶ月健診等の場（保健所）が挙げられます。また、健診を土曜日の保育園とするなどのアイデアも検討に値します。これによりカウンセリングも可能となります。また、小児科などで、看護師からの事前のカウンセリングがあると有り難いという声もあります。

す。このようなカウンセリングによって、支援メニューの提示とサービスの提供が可能となり、また、鬱積した気持ちや精神的不安のガス抜きにも繋がるものと思われます。また、保健センターの保健師さんなどからの積極的なアプローチも必要です（文京区の保健師さんはフットワークが軽く、機能しているとの評価もあります）。

7) 問題のある（になりそうな）家庭を早めに見つけて対応

ネグレクトや育児放棄などについては、予防の視点が重要であるという指摘がありました。

また、地域のネットワーク、地域を見守る眼や専門家との連携、制度、サービスのPR、広報が行き届いているかのフォローアップ、周知度の調査等が必要であるとの指摘があり、これらの具体策については十分に検討すべきであると思われます。

8) ファミリーサポート制度改革、在宅で気軽に預けられるベビーシッター制度

現在、文京区ではファミリーサポート制度を導入しておりますが、これは十分機能していないとの指摘がありました。理由は、提供会員が少ないし、毎回面接が必要など使いづらい面があるとのこと。

しかし、このような取り組みは、民間だと2000円/時間で3時間単位、1回6000円はかかってしまうこと、また、資格があり相談にも乗ってくれるので有用であることは間違いないようです。

本WGでの議論のなかでは、具体的には、以下のような指摘・提案がありました。

- ・ 有資格で現在は働いていない人を活用して、半官半民型の、ファミサポ以上のものがないか。
- ・ ぴよぴよの一時預かりがもう少し質が高く、利用しやすいシステムづくりが必要。（食事の用意、良質なおやつを用意など）
- ・ 人と質の問題が課題。それなりの報酬が必要。区が一部補助することも考えられる。
- ・ 必ずしも有資格でなくても、経験者を活用できればよい。ボランティアということではなく。
- ・ 行って預けるのではなく、来てくれる、ということも重要。
- ・ 産褥期ヘルパーの派遣。1年間といった長い期間を設けての利用。
- ・ 女性の雇用を確保するためにも、区民を活用できるようにしたらよい。

9) 母親への医療控除、良質で安価な治療のあっせん

たとえば乳腺炎といった、保険がきかない妊婦、乳幼児の母親がかかる特殊な病気があります。民間の治療施設で治療を行うと、治療一回4,000円～5,000円かかり、頻繁に行わなくてはいけない場合もあり、経済的な負担を強いられます。母乳育児を推進すべく、こういった病気にたいする医療控除、区からの良質で安価な治療のあっせんといった支援が必要です。

10) 予防接種の補助

現状、文京区においては、おたふくやインフルエンザの予防接種は自費で補助がありませんが、病気になると親は大変です。これらの費用を補助することは子育て中の親の支援になるのは勿論のこと、子どもの健康、伝染予防にもつながることから、予防接種の補助の拡充が必要です。

11) 地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーの採用と配置

家庭で育児をしている親を支援するために、地域保育士やファミリーソーシャルワーカーを採用し、専業主婦・主夫層向けの子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を担当してもらうような取り組みも検討に値すると思われます。大阪府吹田市の事例などが参考になります。

1 2) その他の取り組みのアイデア

(ア) 4ヶ月健診、集団予防接種を子育て支援の機会として活用

4ヶ月健診やポリオの予防接種を児童館、保育園、地域センターなどで実施し、他の子育て支援サービスとの連携をはかる機会として活用できないだろうか。たとえば、保育園と同じ建物内の児童館で実施すれば、離乳食の指導がしやすいのではないのでしょうか。

(イ) 保育園のクラス人数を減らし、子どもの病気の発症・感染自体を予防

保育園利用者の最大の悩みの一つが、子どもが病気の時の対応です。海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、感染症の予防につながる事が検証されています。日本のクラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きいのが現状です。ここでは、先生と園児の割合ではなく、一つの教室で生活をともにする園児数のことを指します。クラス人数を減らせば、病気にかかる園児が減り、結果として子育て支援につながります。

第3グループ(親の就労・多様な生き方の支援)

1. はじめに

課題に対して、なぜ出来ないか、を中心に考えるのではなく、どうすれば出来るかを考えていくことを基本的姿勢とする。細かい事情はいろいろあると思うが、ビジョンにそういうことが望ましい、考えるべきと入れていくこととする。直ちに実現すべきということばかりではないかもしれないし、活用するのは簡単ではない場合もあるだろうが、柔軟な工夫はできないか、ということを考えていく。

それと同時に、たんなるお話としてつまみ食い状態にならないように、今回のビジョンは、ビジョン2006として、今後の検証を定期的に行っていくことも大切である。

2. 保育園のあり方

- ①親が希望すれば保育園に入園できる体制を目指すということ、理念としてうたうこととする。保育園に入っていないと就労できない、就労できていないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。認可園で対応して、待機児をなくすということ。また、育児休業後に、年度途中でも保育園に入れるしくみも必要。
- ②親の多様な生き方を選択できるような社会をつくらうということであろう。専業主婦も孤立せずに社会とつながりをもっていこうという。実際に、緊急一時で預かる子どもは0~2歳児がほとんどだが、1歳児の発達はどうか、言葉が遅れているけど大丈夫か、0歳だとミルクのみが遅い、離乳食をどうしたらいいかなど、保育園からみると初歩的な質問をたくさん受ける。そういうことをなかなか聞く人がいないのであろう。今の状況では難しいだろうが、働いてない人にも保育園で対応していくことは必要。
- ③危険が多いから公園で遊ぶのも親がつきっきり、家に帰るとマンションでは騒ぐと言われる。住宅事情も治安も悪くなっている。小学生でもひとりでお使いにやるなど生活上の訓練をすることが難しくなっている。こういうことでは子どもが大丈夫なのかと不安になる。親が育児に不安をもち、ノイローゼになるのも無理はない。そういう環境ということからも、親が希望した場合には、保育園を利用できることをめざす、ということも、すぐには実現は不可能でも、ビジョンとして理想を掲げてよいのではないか。

3. 文京こども園構想

- ①2歳から幼稚園に通わせるようにしても良いのではないかと考える。親の選択もいろいろできる方がいい。少子化、核家族化で親子1対1の時間が多くなると、子どもにとってもよくない。慣らし保育的な意味でもいいのではないか。(区立幼稚園は3年保育がないので、3歳のときは私立、4歳から区立に入れている人もいる。)
- ②幼稚園か保育園かという区切りになってしまうと、2歳児をどちらに入れてもいいのだが、現実的には、幼稚園で2歳児まで受け入れる施設的な設備、職員のノウハウはない。それよりは、やはり幼稚園でも保育園でも同じ子ども。幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障できるのが理想であろう。今の一元化の方法はよくないと思われるが(柳町こどもの森は、あまり成功していない、お母さんたちは評価していない、という話も聞こえてくる。)幼とか保とかいう言葉自体をなくしたい、というところ。
- ③目玉の政策として、幼保一元化という既成の概念でなく、上で述べられていることを実現するための特区申請をすることを提案できないか。厚労省にも文科省にもしぼられないものと考えていく。もっとも、言うのは簡単だが、制度を調べ、財源措置もからめて考えていかないと実現性は低いままなので、特区

申請するにも知恵と時間が必要である。

- ④以上を踏まえて考えてみると、採用のときから両方の資格をもっている人を採用することも必要である。但し、現実には、両資格をもっている人がほとんどだが、意識の問題がある。幼稚園教諭は保育園を低くみていると思われる（幼保一元化のプロジェクトでも、4・5歳は幼稚園児となるため、担任は幼稚園教諭だけで保育士は担任にはなれない。）
- ⑤仮に、労使間の問題（採用職種を変えない等）があるのであれば、相互に併任を掛け合うというような現実的対応策も考えられる。
- ⑥幼稚園や小学校ということではなく、区のもっている施設を有効活用することも検討に値する。空いているリソースをもっと活用して、保育園を充実するべきだと思う。

4. 子育てひろばの拡充

- ①子育てひろば、3か所しかないので拡充すべき。
- ②現在は3時までだが、来年度から4時まで延長する予定である（4時だと、帰って夕飯の準備をするのにもちょうどいいとのこと）。子育てひろばのいいところは登録制なので安心。保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できる。

5. 公園づくり

- ①区の人がハードだけつくってはだめで、周りに住んでいる人の公共財という意識をもってもらうことが重要であるという話を聞いた。まわりが清掃する、夜は浮浪者が入ってこないように鍵をかける、剪定をするなど、住民参加で管理していく取り組みなど。公共財産、コミュニティは宝、という意識の植え付け。
- ②公園に対する意識は住民間でも希薄だし、行政はもっと希薄。新しくしようというときにモダンなものに変えようとするが、人の交流を頭に入れていないという話である。公共の公園はすごく大事。
- ③市民の子どもに対する意識も大事。近くに児童遊園があるが、子どもの声がうるさいでしょ、という人がいる。駐車場よりずっといいと思うが。そういう人がいることにびっくりしたが少なくないかもしれない。その意識は少しずつでも変えられると思う。

6. 働き方について

- ①オランダなどでは、ワークシェアリングがうまくいっていると言われている。女性を職場の中でうまく活用することはできないか。パート志望者というのは、OJTのような気分ですまずパートで働いて、という人も多いし、ドクター、マスターをもっているがためにかえって職業がない人もいっぱいいる。潜在的な希望を吸い上げることができれば、夫の扶養控除も減るから、所得税も増えて、地方税にもはねかえる。
- ②長時間がどれくらいか一概にはいえないが、保育園で夕飯まで食べる夜間保育は、子どもにとってどうなのか、という思いはある。家族で一日の出来事を語り合いながら、楽しく食事をする方がいい。保育園で保育士と食事をするのが毎日という生活で、子どもがどう育っていくのか危惧をもっている。そういうふうにしなないといけない家庭もあるのかもしれないが。それは、もう少し家庭的な雰囲気の中でフォローできる制度、しくみが必要。集団でみるのではなく。
- ③長時間労働を解消しようという目標をたてること自体は間違っていないが、そこに本当に何年間で行けるのかなあ、と考えてしまう。10年、20年かかるのとしたら、その間の子ども達を放っておく訳にはいかない。現実の中で何が一番いいのかを考えないと、変な対立がおきるし、長時間労働をやめさせよう、というスローガンだけになってしまう。企業の立場からいうと、生き残りをかけて正規社員を基本

的には減らしてきたので、残った人の負荷は増えていて、早く帰ろうと思ってもなかなか無理。そのためキャリアを半分あきらめて短時間労働を選択している女性が多い。そこまで踏まえてどう考えるかという視点が必要。

- ④言い続けることはもちろん重要であり、保育時間が長いというのは、親の生活にとっても良くないことであり、何より、一般的に言って子どもにとって良くないことであろうから、その方向性で声を上げていくことには賛成である。但し、ちゃんと9時-5時で勤めて子育てに時間をかけていないのはおかしい、という議論にのみなってしまうことは避けなければならない。無用な対立、論争を生む。フルタイムかパートタイムかということで待遇とかペイが決まらずに、同一労働同一賃金ということの実現が大切。正規というコンセプト自体がゆらいでいかないと、ワークシェアリングは実現しない。文京区で独自にそういうものを出しても悪くないが、文京区がひとつの産業をもっていればいいが、そうでないとなかなかできないものではある。
- ⑤フェアなバランス感覚が必要ではないか。子育てを最優先で考えましょうということは、目標としては正しいが、それがドグマになってしまうと、親に対する支援をすること自体、長時間預かること自体がいけないこととなってしまう。個別の事情を踏まえた対応が大事であろう。子育てしている親がある程度安定した精神状態、肉体状態であることがまず必要なのだから、それを支えるという視点も考えると、おのずとバランスが取れるのではないだろうか。
- ⑥今回は、日本の社会はこうあるべきだ、ということを示すことにとどめて、それに矛盾しないかたちで施策の種を並べるというのがひとつのまとめ方。深く考えるのもひとつの方向であるが。(文京区の保育は7時15分までで、8時まで延ばそうということは検討していないし、現時点で計画はないと思う。保育園の後、ベビーシッターに預けている家庭もあるので、夜間保育の需要はあるかもしれないが、少数と思われる。)
- ⑦長時間労働をなくす、ワークライフバランスをとるように、と企業に呼びかけることも重要。それと同時に、文部省と厚労省をやめ、子どものための省をつくる、というのはどうか。生き残りをかけて行動している企業に単に呼びかけるより、中央政府に子どものための省を実現してくれ、と言う方が、実現の可能性はあるのではないか。そこから、企業に対するメッセージ、社会に対するメッセージを強く出していく。

7. 企業の取り組みの支援・企業による社会貢献の支援

- ①企業に対する支援として、表彰制度は簡単だが、効果があるかどうか不明。企業はメリットがないと取り組まない。区が実施する中小企業向け子育て支援事業も、実際に費用をかけて支援をしないといけないので、申請がない。
- ②区内の企業もそうだが、文京区民が行っている企業なら区外でも支援してもいいのでは。すばらしい取り組みをしていて、区民がその制度を利用していたら通勤費を1万円補助する、等である。但し、こうしたアイデアはありえなくはないが、区に法人税を納めている企業にメリットを与える、というのは頭の整理がしやすいが、このままでは個人が対象になるし、不公平も生じる。一工夫必要ではないか。
- ③第2グループで出た意見：子育てにやさしい店ということでステッカーを貼ってもらう取り組み。トイレや授乳場所を提供するなど。企業による子育て支援活動の啓発になる。
- ④印刷工場のリフトが歩道を往来するので、子ども連れが歩けなくて困るという意見があった。そういうことに対して指導はできないか。あるいは、指導といわずに、子育てに配慮した事業所ですよ、という方向で、ステッカーを貼ってもらうのはどうか。指導と応援を組み合わせればいい。
- ⑤エレベーターの開くと閉まる表示が、メーカーによっても違うし、わかりづらく、ベビーカーを押して乗る人は大変と聞く。一目でわかるように、シールを貼るなどマークを統一するのはどうか。子育てに

やさしいエレベーター。また、公共施設のエレベーターへの実施と、区内の事業所に協力を呼びかけていくことも考えられる。

- ⑥子どもを連れてくる人にやさしく、手伝おう、という啓発活動も必要。企業も安全なまちづくりをサポートする、企業もまちの構成員として、子育てのしやすいまちをいっしょにつくろう、というコンセプトである。
- ⑦民営化という方向性を単純に進めると利益追求型となり、想像もつかないような事件も起こりかねない。企業の税務調査同様、定期的な査察が必要であろう。
- ⑧現状のままでは、企業は多様な雇用を進めることになかなかならないのではないかと。やはり行政がルールを作り、負担と助成をうまく組み合わせて、企業が動かざるを得ない状況を作ることが必要。環境問題同様、口ばかりスタイルばかりとなってしまうことを避けるためには、ある程度、制約力のある目標を国として示すことも重要。
- ⑨この関連では、就業規則を労働基準監督署に届出するルールにしても、ルーズすぎて、正直者が馬鹿を見るようなことではシステムとしておかしい。もっと定期的に申請させ、また、精査すべきである。

8. 情報へのアクセス

- ①セミナー等のPRは、区報のほか、ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示などでPRしているが、残念ながら、チラシは置いてあるだけでは目につきにくい。どこかの窓口にいけば、一括、一覧できるようにしてほしい。(今回の公募委員についても、区報がなんとなく目に入ったから応募したが、他の情報といっしょに羅列されているだけなので、目につきにくかった。ホームページも頭の方であればわかるが。) 区の施設等に行けば分野別に整理されているなど、ホームページに載っているというだけだとわからない。アナウンスメントの仕方が住民に届きにくい。
- ②対策としては、次のようなことが考えられる。
 - ・くちこみの組織をもっと活用すべき。メールを活用するなど。文京区の女性は、文京区で育った人が多い。ちょっとした立ち話、メールなどですぐに広がる。
 - ・役所に関係のないネットワークを活用して発信しようと試みが、区民との距離を縮めることにつながる。広報や政策を認知させるための手段。メディア、草の根、くちこみなど。ファイルがあれば、費用もかからず、メーリングリストに流したり、ホームページやブログに載せることも可能。
 - ・子育てというくくりで、何でも載っているペーパーがあるとよい。区からの情報、NPO等民間からの情報、必要な情報がぼんと入るものがあるとよい。予算はどうするんだ、という問題はあるかもしれないが、あったらいいな、ここをめざすべき、というところから、それを実現するためにはどうしたらいいか、というアイデアを出していく方向で議論したい。
 - ・安心メールのように「子育てメール」があってもいい。限定したグループの中で情報を共有するしくみ。登録者に情報発信できる。そういうものが浸透すると、区の意識が区民にすごく伝わると思う。(混乱を避けるためには、問い合わせの受け皿は別に。URLをつけるなどの工夫をすればいい。)
 - ・健診などの機会で、そういうものがあることをアナウンスするとよい。
 - ・だれでも書き込めるかわら版のようなものも考えられる。

第4グループ(保育機能の中核としての保育園)

1. 「保育とは何か」について

まず我々は、「保育とは何か」について話し合った。以下のような諸点について、意見の一致を見たところである。

保育と教育が区別され、幼稚園では教育を実施しているが、保育園では教育が行えず、保育のみを行っているという、誤った考えが流布しているのではないか。他方、学校教育法においても、幼児期について「教育」ではなく「保育」という表現を用いているが、その理由は何であろうか。一つの回答は、以下の通りである。

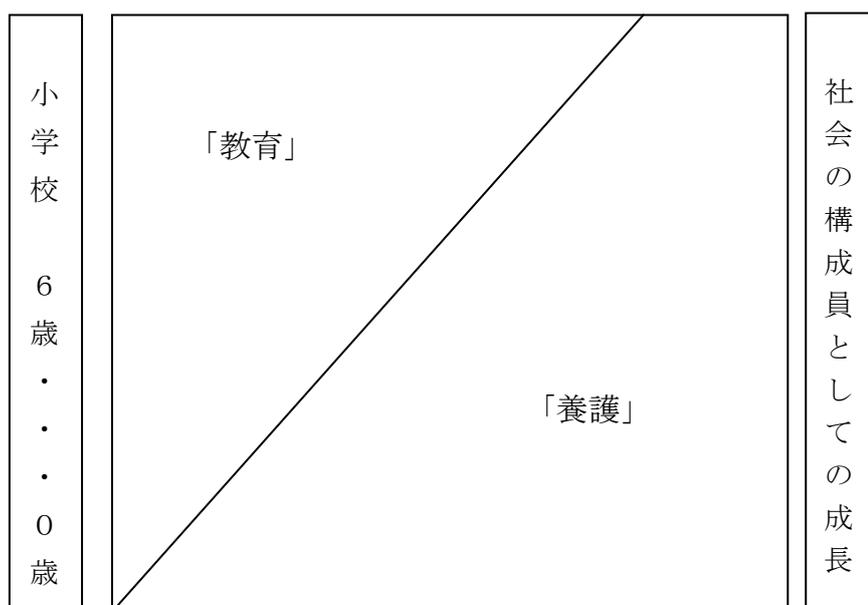
幼児期の子ども達に必要なものは、①基礎的な生きていく力の形成等(即ち、「生活習慣の確立(排泄、食べること、着脱、健康な体、生活力) & 社会性の獲得」=養護)と、②個々がその個性を発揮し社会で活動していくための知力、能力、技術の向上等(=教育)の両者であると考えられているからではないか。

もちろん、この両者は密接かつ有機的に関係しており、それゆえ、幼児期においてこの両者を区分して実施しようとするのは無益ではないか。こうした基本的な問いかけは、就学前児童に関して、人数的に保育園の関与(210万人の子ども達)が幼稚園のそれ(170万人の子ども達)を上回り、その差が拡大の一途をたどっている現状に鑑みても、一層重要な課題となっていると考えられる。

さらには、この両者の重要性は、就学前の乳幼児期に限定されるものではなく、義務教育期、さらには、高校以降においても認識されるべきではないだろうか。

以上の認識は、今回の保育ビジョン2006及び保育園の機能について考えるに際しても、また、より広く、保育方法の形式知化とその受容性のアピール、保育に関連する研究の抜本的拡充、保育所保育指針の位置づけの向上、望ましい幼保一元化の実現等を考えていく際にも、基本とすべきものである。

(概念図)



2. 「保育ビジョンの基本となる考え方」

保育ビジョンのエッセンスを現すものとして、こどもを大事にする街、こどもが元気に安全に育つ街、こどもを育てやすい街、安心してこどもを育てられる街などがキーワードとなるのではないか。その具体的な表現に関しては、最終報告までの期間で議論、決定していくこととする。基本的な考え方として、保護者にとっても、地域にとっても、行政にとっても「こども」が大切な存在であるという、合意が出来たことを示す表現が好ましいと考える。

3. 「保育園の基本的機能と役割」について

少子化の原因のひとつとして、子育てを行う環境の変化とそれに対する子育てサポートの未整備が考えられる。核家族化の進展が、家庭での子育てを困難なものとし、これが結果的には、少子化の一因となっている可能性がある。少子化による1家庭あたりのこどもの数の減少は、子育て経験の欠落と、一層の核家族化の進展をもたらし、将来世代に渡って、家庭での子育てをより困難なものとしていく、という連鎖も想定されよう。少子化の原因については様々な考え方があるであろうし、また、そもそもこれを問題であると考えべきかどうかについても異なる見方もあり得よう。但し、それはそれとして、待機児童の存在など、設備や態勢に関する問題はもとより、虐待や子供にまつわる様々な事件など、子供を生み育てることを決意する際、躊躇せざるを得ない状況や情報が満ち溢れているように感じられることは事実である。

このような状況の中、こうした問題のいくつかを解決できる、子育てサポートを提供できる場所として保育所に期待する役割は重要であると考えられる。なお、子育ての重要性と子育て支援を対立的な概念ととらえるのではなく、親、保護者が健全でなければ、子どもにとって安心できる環境が実現することは臨みがたいという事実に基づいて、今後について考えていく必要がある。

従来の「保育に欠ける」状況への救済施設とする発想から、様々な子育てニーズに対応した子育てサポートを提供できる拠点としてその役割を考えていくべきであり、保育園の基本的機能と役割について、次の通りの整理を行った。

- (1) 少子化、核家族化の進展の中で家庭での子育てが難しくなっている状況のもと、地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割を明確にしていく。
- (2) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための保育園の役割を明確にするとともに、保育の質的向上を図る。
- (3) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割を担っていく。

4. 保育園の具体的役割

- (1) 以下の具体的役割を充足していくことにより「地域の子育て力を高め」、「地域の子どもの育ちを見守る保育園」として認知されることを目指す。
- (2) また、これを効率よく、機能的に実現するため「保育園が現在持っている人的資源・物的資源を活用する」ことも重要となる。
- (3) ただし、これら役割の増加に伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることなく、施策と紐ついた人的・物的資源のさらなる投下を検討、実施する必要がある。
- (4) また、何をもって許容範囲を超えるかを判断するためにも「保育の質」などの基準を明確にすることが大事である。

(5) 具体的役割の各項目は次の通りである。

①子どもたちに対する責任

- ・家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任をもってその向上に努める。
- ・保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用をはかる。
- ・小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加など）

②「子育てと仕事・社会的活動の両立」の支援（＝仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの提供拠点としての保育園）

- ・保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくといった保育園の機能は重要な柱である。
- ・保育所待機児童の解消は当然の目標。として、
- ・潜在的な待機児童の認識とその解消にも努力する必要がある。そのための、十分な保育園の数の確保。
- ・延長保育スポット利用、病後児保育への対応、年末、年始、祝祭日保育等も検討課題となろう。
- ・通園の距離や、兄弟が別の保育所に通わざる得ない状況の解消など、細かい問題、ニーズの調査と具体的な対応策の検討も欠かせない。
- ・月1回くらい先生と親がフランクに議論できる機会ができるとういのではないか。そうしたところから、みんなで子育てをする雰囲気につながっていくのではないか

③「家庭・地域の子育てサポート」の実施

未就学児童では、これから子どもを生む人・家庭のみで子育てをしている人・幼稚園に通わせている（通わせたい）人・保育園に預けている（預けたい）人、を具体的にサポートする施策やしくみが必要になる。これらを的確に捉え、解決策や具体的な子育てサポートのメニューを考えていくことが重要である。例えば、子供を介しての地域コミュニティとの接点の構築や、広義の子育て支援のインフラとして、家庭のみで子育てをしている親と保育園に預けている親との接点や、子供同士の交流などを目的とした、メニュー作りも大切なテーマとなる。より具体的には以下の通り。

A) 具体的な子育て支援と相談

- ・出産予定者への援助、相談 ・出産後の相談、援助 ・子育ての悩みへの相談、援助 ・母親のリフレッシュへの援助 ・子育て体験学習（乳児中心に） ・校庭の開放 ・図書貸し出し

B) 子育て支援ネットワーク

- ・「ひろば、支援センター」などのネットワークづくり
- ・子育て支援のボランティアのネットワーク
- ・子育てに関係するサークルのネットワーク
- ・家庭内の子育てサポート機能を援助する拠点としての保育園
- ・子育てに関する安心を提供できる「保育の質」を根拠として運用される保育園
- ・子育てに関する知識や情報を提供、共有化できる場所としての保育園

④保育園を社会的・公共的資源（役割）として活用する 各地域に根ざした保育園

以上の他、高齢者との交流や地域の祭礼などへの参加を通じた文化の伝承、社会教育機能（ボランティア、小中学校職場体験、）さらには、行政と区民との情報交換の場としても今後、重要な役割を果たすと考えられる。

- ・校庭の開放
- ・小中学生の体験学習、ボランティア活動に活用
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する
- ・地域の老人（施設）との交流（老人生き生き運動）と子どもたちが伝統を学ぶ経験活動

- ・ 幼児教育大学（専門学校）等の学生の乳幼児体験と研究教育に生かす地域の文化の伝承
- ・ 地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加、協力
- ・ 伝統文化のネットワークをつくる

5. 保育園の機能を高めるための方策について

以上のような施策を実施するに際して、保育園の役割と機能を高めていくためには、ソーシャルワーク体制の確立、保育士、ボランティアなどの研修システムの確立、ネットワーク、サークル担当、コーディネーター等の講習、研修システムの研修等が重要な課題となる。また、人員の原状回復、増強も喫緊の課題である。

- ① 保育園の機能が拡張されることに伴い、新たな人材の育成や、より多くの人員の保育園への配置を適切に検討していく必要がある。目的に則した配置基準の見直しも必要である。
- ② 子どもたちの成長を保障していくためにも「保育の質」の内容を明らかにし、適切な「子育てサポート」の内容を検討して新たな役割を果たせる仕組みづくりが大切になる。
- ③ 「保育の質」に留意しながら、顕在、潜在的な待機児童の解消のため更なる、施設の新設なども検討する。
- ④ なお、現在17園ある公設園すべては、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ⑤ 事業の効果を最大限に引き出すために、現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し配置基準どおりに保育士を配置していくことが重要である。

6. 保育ビジョンを実現するための前提条件について

- ① 「子育てサポート」の具体的内容に関しては、子供の立場、親の立場、地域社会での重要性などの視点に立って広範に議論され、企画される必要がある。
- ② 「保育の質」に関しては、より具体内容とこれを維持していく仕組みも含め、審議、検討し続ける必要がある。
- ③ 今回の委員会内でも「保育の質」を検討していくが検討項目の積み残しが生じる場合は、継続して審議する必要がある。
- ④ これら「子育てサポート」「保育の質」は、専門家と実際の現場の声として、さまざまな立場の保護者や保育園の現場の先生を交えた仕組みの中で話し合われるべきである。
- ⑤ 保育ビジョンに基づき、具体的な施策を実施していく。このとき、必要となる費用の調達に関しては、そのサービスを享受するために、文京区民になろうとする人からの税収などを考慮して、総合的に判断していく。
- ⑥ 保育園の利用に関しては、受益者負担として保育料の費用テーブルの改定も、聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。但し、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下に繋がるような変更で無いように十分に配慮する必要がある。公立保育園関連予算は既に一般財源化されており、これまでのところは従来の積算基準通りであり、大きく削られているということはないものの、今後、保育料が上がった分の使い方が他の部分に回ることのない様に、きちんと保育にまわるようにしないといけない。そのためには、会計の仕組み等をしっかりとつくる必要がある。また、具体的方向性としては、全体としての保育料値上げということだけでなく累進制をきつくすることで、負担できる人が負担する、という考えが適当ではないか。第2子、第3子がいる場合は、軽減措置を担保すること等を忘れずに、最高額の部分の所得階層と保育料を上方に向けて拡大していくこと等が考えられよう。

7. 関連する重要な課題について

- ①保育方法の形式知化等を通じて、その価値、重要性を明らかにしていく。

そのための研究の充実は重要かつ早急に対応が望まれる課題である。また、これは、「保育の重要性のアピール」のみならず、保育の質の維持・向上との関係でも極めて重要なことである。実際、幼稚園に関しては、研究としてまとめられることも少なくないが、保育園に関しては少ない。その一因には、研究機関は文科省の管轄のものが多く、厚労省には系統的にまとめる、という研究機関がなかったということもあるのではないか。

- ②また、保育所保育指針の位置づけは、現状、法律体系上必ずしも明確ではないと考えられる。保育の重要性の確認のため、位置づけの明確化やその向上を実現する。

- ③幼稚園・小学校等との連携、また、地域における場造りと巻き込み

小学校の先生、保健師、民生委員など、地域の人たちが保育について話し合える場を創っていくべきである。小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会を作っていく。さらには、地域の子育て力に課題があると言われる今、もう一度ここで、小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどの地域、そういったひとつの地域のコミュニティが連携した協議会をつくっていかないといけない。具体的には、小学校の単位でつくるのが一番良いと考えられる（概ね、1小学校あたり、1保育園、1幼稚園くらいであろうか。）また、小学校の単位を核に、幼・小・保、地域、親が入った場をつくろうという意見を前提とした上で、もう少し小さな、幼・小・保の先生だけが集まる場なども必要であろう。

- ④望ましい幼保一元化の実現を図る。

冒頭で述べたように、教育と保育という用語により不必要な分断がなされることのないようにしていくべきとの考え方に立てば、この両者が「一元化」の対象となっている現状自体が問題であるとされよう。幼稚園関連施策、保育園関連施策は、あくまで手段であり、これらの区分に拘泥することなく、幼児期の子ども達にとって大切なものは何か、そのことを最優先に考え、より良い保育をしっかりと実現することを第一に考えていくべきである。また、文京区内には既に定員割れしている幼稚園もあり、一般に施設面では、幼稚園は保育園より基準も高い。地域で子どもの育ちを考えるのであれば、幼稚園もいっしょのものとして、独自の制度をつくっていくことも可能である。「文京こども園」の特区申請等である。こうした方向性で歩みを続ければ、保育園と幼稚園の先生同士の交流ももっと自然に進んでいくと考えられる。

- ⑤地域の中での保育園の役割

大人の都合でいろいろ考えることも多いが、本当はものを申せない子どもが主役であり、いい保育士さんがいて、いい食事が食べられて、地域と交流して、ということができるよう、需要が多くなる中で、保育園を核として地域のコミュニティづくりをしていくべきではないか。但し、それに際しては、議論のなされ方が開かれたもので、関係する多くの人や、せっぱつまった親の立場も考慮したものである必要がある。開かれていてどなたでもきてください、という関係づくりが大事であろう。また、子どもの幸せのためには、親も幸せでないと良い環境で育っていけないので、保育園が親を気持ちの上も支えられるといいのではないか。実際、園庭開放に来ている親も、園庭開放が目的ではなくて、悩みを聞いてほしかった、という事例があった。保育園が開いていくこと、来やすい環境をつくるのが大事であろう。公園でお母さん同士で話しても、同じ世代であり、同じ経験しかしていないが、保育園は多様な経験の宝庫である。経験に基づいた話をしてくれると説得力もあるし、不安の解消につながる。それはとても大切なことであり、親の精神が安定しないと子どもの精神は安定しないので、保育園の質の向上がすごく重要である。

資料 10

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめに対する区民意見

目次

1. 区民意見の募集について..... 193
2. 中間のまとめに対する質問・意見・要望..... 194
3. 事務局に対する質問及び質問に対する事務局回答 <区民説明会>..... 227

1. 区民意見の募集について

(1) 区民意見募集の概要

1 意見受付期間	平成 18 年 12 月 25 日～平成 19 年 2 月 28 日
2 意見募集方法	①「中間のまとめ」区民説明会(4 回開催)における意見聴取 ②区報ぶんきょう「保育ビジョン中間のまとめ特集号」添付のハガキ ③電子メール ④「中間のまとめ」区民説明会で配布した意見シート ⑤その他(保育課あてファックス・封書等)
3 意見件数	①区民説明会 24 件 ②区報ぶんきょう添付ハガキ 64 件 ③電子メール 70 件 ④意見シート 9 件 ⑤その他 13 件 合計 180 件

(2) 区民説明会開催状況

日 程	開催時間	会 場	出席者数
平成 19 年 1 月 14 日(日)	10:05～11:50	シビックセンター4 階 シルバーホール	19 名
平成 19 年 1 月 15 日(月)	10:05～11:10	シビックセンター21 階 2103 会議室	10 名
平成 19 年 1 月 15 日(月)	19:05～20:20	シビックホール地下 1 階 多目的室	14 名
平成 19 年 1 月 16 日(火)	19:15～20:25	汐見交流館 2 階会議室 A・B	10 名

2. 中間のまとめに対する質問・意見・要望

■ 全体について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	目標としていろいろな項目がアイデアを並べたレベルで並んでいるが、切りわけがまったく不十分である。「こういうものをめざします」と遠くに目標を置くWhatと、「今、こういうアクションをしましょう」「こういう課題を共有しましょう」あるいは「Whatに向かってどうアプローチしていくか」というHowが入り混じっている。遠くに向いているものと、今いる地点からどっちに向くか、という話がごちゃ混ぜで、全体の論理構造がわからない文章になっていると感じる。	説明会
2	目標設定の前提となる事実関係の確認が、どういう前提でそういう話をしているのか、ファクト（事実）があるのかわからないところが散見された。例えば、2頁の背景、就労支援の充実の必要性の中で、「延長保育のスポット利用」「認証保育所の増設」「病後児保育」があげられているが、私の認識では、認証保育所の増設を望む人が本当に多いのか、非常に疑問。認可保育所、公営の保育所の増設と切り分けて認証保育所があがっているのは間違っているのでは。バックデータがあるのなら教えてほしい。	説明会
3	全体的に、子育てに対する見方が暗い。子育ては大変、大変とうたっていて、将来像も大変だから手を打たなくちゃ、というようなところが多い。子育てのポジティブサイド、本来豊かで喜びがあって・・・というところを整理して、ところがそれに対する阻害要因、欠けているところがあるから、そこを補うべく支援する必要がある、というストーリーにしないと、ビジョン全体の構成が暗くなってしまう。ビジョン1の方には基本目標に、ポジティブサイドがかなり書かれているが、この基本目標の内容は目標なのかが疑問で、文章の論理構造がおかしいと思う。	説明会
4	細かい施策に関して、ビジョンに載せてよいものかどうか、疑問がある。細かい施策を実行すればビジョンの指針にのっとって施策を進めた、という安易なとらえ方ができてしまう、という危惧がある。	説明会
5	「子どもを最優先するまち」であれば、まず健康、自動車の排気ガス大幅減（ぜん息の子どもが減る）、高層ビル建設中止（ビル風による歩行危険排除）、路上禁煙完全実施（千代田区のように罰金設定）、歩道自転車乗入制限及び車道減による自転車道確保などやってもらいたいことが山ほどあるが、全く反映させようという意欲のない厚生省系の「たてわりビジョン」であるということが一目瞭然である。 大型施設や国や都の関連機関も不要だし、防災拠点として小中学校、大学、公園があり、文化伝承するには保育園では年齢が低すぎる。保育園後に民間保育に預けたり、ベビーシッターを雇ったり、子育てサービスがもっとあれば・・・という家族はいるはず。区内の子育て世代のニーズを把握後にビジョンを作成して下さい。一部公機関の生き残りのためのビジョンというのが露骨すぎです。 幼稚園との関係は棚上げし、「長期ビジョン」としては全くなっていない。	はがき
6	理念としては良いと思うが、具体像が見えない。「ビジョン」の策定に際しては、実際の施策を明示して、区民にとって納得のいくものかどうか、明らかにした上で進めてほしい。	はがき
7	あらためて当たり前のことをビジョンとしたというのが率直に感じた事です。これをどう実行、実現していくかが一番大変で、大切だと思うので、区民の声を聞きながら実現してほしいです。あの5千円の券みたいに、たいして満足感のないお金の使い方はしないでほしいものです。	はがき
8	理念はわかりますが、結局、何がどうなるのかが見えてきません。保育園もどうしたいのですか？夏休みに働いている親の幼稚園児を受け入れるとか？！（考えるだけでも恐ろしい！）まだ中間ですので仕方ないのかもしれませんが、良いものを作っていただきたいです。	はがき
9	「支援・応援」等の言語が多数出ていますが、具体策はあるのか。要するに予算・マンパワーはどうやって作り出すのか？ 最終まとめでは、具体策の提示、予算編成、目標期限等について明記を！絵に描いたモチに終わらないよう望みます。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
10	<p>項目がもりだくさんだが、何をどうしたいのか、具体的に記述されていない。ビジョンとは、その程度のものなのかと、がっかりさせられる。区が実行するためには「金」が必要。どうやって、予算をとるのか。区の中で行なわれているムダな支出をへらして、こういう有意義な事業がキチンと実行できるようにしてもらいたい。</p> <p>文中の「ワンストップ・サービス」とは何のことか？</p> <p>区長は、このビジョンをどこまで実行するつもりなのか？</p> <p>これを作らせて、区民を安心させておいて、裏では、保育園民営化をすすめているのではないかと思うと腹が立つ。</p>	はがき
11	<p>先日の区民説明会に参加し、「中間のまとめ」の冊子を読みましたが、今後いったいどのように具体的検討がなされ実施されるのか見えてこないのが第一印象。あと、二回の委員会のみで終了としてしまっただけの話しになってしまうのではないかと思う。この三月で終了にはせず、具体化を目指し、検討委員会を継続はしないのでしょうか？</p> <p>また、就学前の子どもたち全てを対象としておきながら、幼稚園について検討されないのは、なぜでしょうか？「保育」という観点から保育園を対象にしたとしても、現在の施設では手狭で、一時保育等を求められても物理的に難しい園もあるのではないかと？幼稚園や他にも区の空き施設を利用するなど、対象を広げるべきでは？</p>	その他
12	<p>とにかく予算がないと“なにも”できないと思います。理想だけでは“なにも”動きません。本気で“子育て”をどうにかするのなら、十分な予算を立て、質の良い人材がこの問題に対応できる体制を構築すべきです。</p>	はがき
13	<p>今回の保育ビジョンについてですが、非常に抽象的な内容であり、もう少し具体化して各論に落ちないと、評価を下しづらと思います。一方で、「総論のみ区民を交えて議論、各論は区の内部で決定」といった状況にせず、各論をも区民を交えて決定していくという意思表明を保育ビジョン自身に入れていただきたいと思っています。(区民参画による検討、ではなく、区民参画による決定、です)</p>	メール
14	<p>①何を作りたいのか良く分からない。完成イメージが湧かない。作っている側にもそれが無いのは大きな問題。</p> <p>②資料を見ると、保育＝保育園だという印象がある。ビジョンなのだから縦割り行政にとらわれず検討に児童館や幼稚園を使う子どもやその施設もきちんと入れて欲しい。</p> <p>③3月までにまとまるとは思えない。日程ありきの進め方は非常に遺憾。区民にもっと興味を持たせ、腰を据えて取り組んで欲しい。例えば幼稚園、保育園、児童館に説明をして歩き、もっと現場や区民の意見も聞いて、地に足のついた、かつ希望のもてるビジョンを作って欲しい。</p> <p>④委員の方々にはとても尽力頂いていると思うが、進め方、完成イメージについては妥協しないで取り組んで欲しい。</p>	メール
15	<p>今回の中間のまとめは、レポートとしての完成度が低いことが大いに不満である。</p> <p>a) 例えば形式的な点だが、会長の名前が記載されていないことからおかしい。また、区報の要約版には、会長名を「委員長」と書いているが、設置要綱には、会長と規定している。</p> <p>b) いたるところに散見される悪文。例えば、「はじめに」の第4段落、「ビジョンにおいては、...まとめています。」の文の意味がわからない。「その具体的な方策」とは、何を指すのか。(p.3) また、「第II 文京保育ビジョンにおける保育とは」。先の文と類似した文で、意味がわかりません。(p.4) 「保育とは」というタイトルからすれば、保育を定義するはずだが、文章は「保育ビジョンとします」と書いてあるので、保育ビジョンを定義しているようでもあります。(また実際には定義されているとは、思えない。)</p> <p>c) 「はじめに」の第2段落 (p.3) や、「第IV 文京区の保育がめざす将来像」では、「まちのありよう」を描く、示す、としているので、ビジョンは、「まちのありよう」なのでしょうか？保育ビジョンとまちのありようとの関係がよくわかりません。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
15	<p>d)12 ページ vision2 目標1. 「文京区には、さまざまな親子がいます。」と書いて、①から⑦までの類型が書いてあるが、大半の家庭が属する類型が抜けているので、おさまりの悪い文章になっている。表現力の問題だと思います。</p> <p>e)13 ページ vision2 目標3. 「既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、」。主語がないので、誰が連携するのかわかりません。</p> <p>f) vision1 将来像「そのためには、その力を生かす」とは、どの力のことでしょうか。「そのため」もどこを指すのか、わかりにくい。</p> <p>g) vision1 の目標 (4) 「子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切にし、それを支える環境を整えていく。」具体的にどういう環境を整えると、「それを支える」ことになるのか、もっと丁寧に説明してもらわないとコメントできない。</p> <p>h) vision2 目標4「児童館機能の充実 新たなニーズに対応する」新たなニーズとは何のことか。どういう理由で、どういうニーズへの対応が必要という結論を導き出したのか、わかりません。</p> <p>i)10ページ「子育てにやさしいエレベーター」いくら読んでも、意味がわからない。PDF版後半のWGのレポートを読んで、やっと意味がわかった。でも、説明会等で配布の冊子体だけを入手した人には、意味がわからないままである。</p> <p>以上、例示したように、この中間のまとめは何を伝えようとしているのかもよくわからない、難解な文章が多く、説明不足でお粗末な文書である。この完成度でコメントを求めよう、ということ自体に、そもそもの無理があります。区民感情としてはこういうものでコメントを求めるのは失礼ですし、経済的に見れば税金を有効に使っているとは言いがたい。誤解に基づくコメントも多く生じることと思う。</p>	メール
16	<p>裏づけが不明</p> <p>a) 本文 2 ページ 第I 保育ビジョン作成の背景 (3) には、「認証保育所の増設」(中略)などの充実を望む人が増えています。との記載がありますが、これまで、父母連でのアンケートなどを通して得られている認識とは、大幅に異なるものです。認可保育園ではなく認証保育所の増設が望まれているという記載の裏づけを示していただきたい。</p> <p>b) 本文 2 ページ 第I 保育ビジョン作成の背景 (2) も、見出しには「子育てを負担に感じる人の増加」とありますが、そのあとの本文では、1回のアンケート結果で、「不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。」とあります。しかし、どのようなアンケートの設問で得られた結果なのか、また多いとは、どの程度の比率なのか。この結果を何と比較して見出しの「増加」としたのか、具体的な裏づけが不明である。</p> <p>c) vision1 の目標 (3) 「電子メディアの過度の視聴・利用の危険から子どもたちを遠ざける」長時間にわたる電子メディア(テレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等)の視聴・利用は、生活リズムの乱れ(夜更かし)や運動不足の原因となり、ゆたかな人間的ふれあいを阻み、その結果として言葉の発達の遅れをもたらすともいわれる。」何が長時間なのか、過度なのかというガイドラインも、データソースも示すことなく(「いわれる」)、ただただ親の不安をあおっているだけの文書ではないか? これでは検証不能であり、「目標」にできないのではないか?</p> <p>d) vision2 目標 5「良質で安価な治療のあっせん」今の保険治療の制度下で、「良質で安価な治療」とそうではないものがある、と言っているように読めてしまいます。良質ではない医療も提供されている、という事実があるのでしょうか? また、「乳腺炎など」の「など」の中身として、3つ以上の保険のきかない疾病を具体的に提示できるか?</p> <p>e) vision4 目標 4 (2) 「クラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きい」「海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、」検証できる形での記載を。また、海外がどうであれ、自分たちで議論して、よいものはよい、ということでビジョンを作るのが筋ではないか。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	<p>基本となる子育て観のトーンが暗すぎる。 例えば vision2 の将来像が、「不安」の話から入っている。vision3 でも、将来像に「再び社会に参加できる道を開く」という記載があります。裏をかえすと、就労しないで育児をしていると、「社会に参加していない」と規定しているわけです。これは、あまりに暗い子育て観ではないか、と思います。あるいは、「はじめに」の第1段落も、語りだしこそ明るいですが、その明るさを具体化しないまま、直ちに厳しい現実突き落とされてしまいます。また、vision3 の将来像も、「～生き方を選択し、～能力を発揮することは、子どもを持っては望めないことなのではないでしょうか」とある。生き方の選択や能力の発揮にたいして、子どもが妨げになることが、所与の前提であるような内容であり、このように暗い前提で将来像を描いてほしくない。</p> <p>まずは、子育ての中でどこに喜びがあるのか、何が幸せなのか、どういう子育てが望ましい子育てなのか、理想像や黄金の瞬間のようなものについて語る必要があるのではないのでしょうか。そしてそれに対して、現実の生活の中では阻害要因もあるので、そこに必要な支援によって解決していこう、というふうに話を組み立ててはいかがでしょうか。</p> <p>現状のまとめでは将来像について、ネガティブサイドでしか語っていないので、基本の軸があいまいなままである。そのために中間のまとめ全体が、大変なことは全て支援してほしいという子育て世代のわがままな要求の羅列と受け止められかねない。また、その支援がどうして必要なのか、ということの説得力が弱いものとなっている。</p>	メール
18	<p>提案の整理が不足 各ビジョンの目標という項目の下にアイデアがたくさん並んでいるが、遠くにかかげた目標とするべきことと、直近の取りくみとの仕分けが不十分ではないか。あるいは、何をするかという what とどういう方法ですかという how との整理が不十分ではないか。さらには、そのアイデアは実施可能なのか、効果を検証可能かという視点での議論をするべきではないか。</p>	メール
19	<p>ビジョン 2007 への継続 説明会においても、これはビジョン 2006 として策定、という経緯が紹介されたので、最終報告ではきちんと、ビジョン 2007 への継続を明記されたい。</p>	メール
20	<p>今回の検討項目の名称を「ビジョン策定」と置いたことについて 実は「ビジョン」という名称は、ある目標を共通に理解して作業を進める上では、あまりよい言葉ではないのではないかと、思っている。仕事の上で議論をしても、ビジョンが何を指すのか、人によって指すものが千差万別だなあ、と思うことがたびたびある。「ビジョン」と「ミッション」とどちらが上位の先に来る概念か？と聞いても、見解はばらばらなので。</p> <p>マスコミにおけるビジョンとミッションの混同の例： http://techon.nikkeibp.co.jp/guide/nano_sample.html http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20061218/125560/?P=2 現在想定しているビジョン 2007 においては、まず「ビジョン」という言葉をどういう言葉に言い換えるとクリアな議論ができるのか、検討することからはじめるべきであろう。</p>	メール
21	<p>斜に構えて読まざるを得ない。下に理由を示します。 1. 保育に関して興味を持つ区民が一番知りたいことは「保育園の民営化」について。今回の内容では現在ある園の民営化は無い？と取れますが、さんざん話し合いを重ねた民営化についての結果をこんなわかりにくい形で報告するのか？「保育ビジョンは民営化が最終目標ではないので」という回答が予想されるが話し合いに時間を費やした区民に対して失礼極まりない。常識から外れている。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
21	<p>2. すばらしい構想は理解できた。では具体的にどこに何を造るのか、そのプロセスはどんなものなのか、民営化の際に区の財政難を理由に挙げた文京区であるが、この素晴らしい構想のために一体何ができるのか。具体案が挙がるまでは意見が出しづらい。</p> <p>最後に。私は文京区を愛しています。文京が将来良い方向に向かってゆける明確なビジョンがあるならば、たとえ少しの痛みを味わおうとも区と協力して前進させて行きたい。保育や環境の転換期で我が子が負ってしまうであろうマイナス影響も、親である私が100%サポートしていこうという決意を持っています。検討委員会の方、区役所の方にはそんな決意が感じられない。良いものを創り上げる自信が本当にあるのだろうか？区民が「なんとなく」反対ムードをとるのはそんな頼りの無さからである。（保育園民営化・小中学校の合併どちらにも共通する意見です）</p>	メール
22	<p>区報ぶんきょうを拝見しましたが、かなり細かな内容となっており、ビジョンというものはこのような具体的な内容となるものでしょうか。</p> <p>特に、路上禁煙の実行など、この中でうたうような内容とは思えませんし、仮にうたっても効果のほどは疑問です。このような問題は別の場所で議論したり考えるべき問題ではないでしょうか。</p>	メール
23	<p>全体的にいえることだが、具体的なことが記載されていなく、イメージがわからない。つまり、何が言いたいのがわからない。</p>	メール
24	<p>保育ビジョンの中間のまとめを拝見しました。少子化の時代、子育てに力を入れるべきということは理解できますが、このビジョンが文京区のみさまざまな施策と整合性をもった「ビジョン」とすると、子育てをしている人だけ（特に保育園を利用している人たち）のためだけのビジョンのように感じます。たとえば「子どもを最優先するまち」とありますが、高齢者や障害者はどうなのでしょう。そもそも、行政で誰が「最優先」ということはあるのでしょうか？たとえば公園や大型施設の整備など、子どものためだけにお金を惜しみなく使ってしまうのでしょうか？また、行政に「やってもらう」あるいは「やらせる」、地域のひとに「みってもらう」「やってもらう」という部分が多く、子育てしている人同士の協働という視点が弱いのではないかと感じます。細かく具体的な要望ばかりが目立つのが気になります。子育てをしていない人にも「なるほど」と共感できるビジョンにまとめてください。</p>	メール
25	<p>子供が二人いる親ですが、報告書をざっと読みました。色々なことが書いてありますが、やることを羅列している感じです。基本指針と書いてある割には、長期的な視点を感じません。もっと大きい観点から考えをまとめるのが、ビジョンというものだと思いますが？</p>	メール
26	<p>子供が小学校の高学年になり、やっとゆとりがでて来ました。二人とも働いているので、たいへんでしたが、子育てということで充実していました。今回のまとめを読むと、たいへんだから、助けるということばかりです。検討委員会というのはそういうことばかりを話しているのでしょうか。もっと子育てが喜びだということをはっきりさせる、親はもちろん周りの人にとっても子供の声がするということが楽しい、ということを出しては、どうでしょうか。子育ての楽しさを、親や住民が共有する。その前提で、一人一人が努力をしていく。役所がやるのがメインというビジョンには賛成できません。</p>	メール
27	<p>名称が「保育」ビジョンとうたっているのが変ではないか。保育園についてのビジョンととらえてしまう。「未就学前の子ども」を対象としているのだから、「子供ビジョン」「子育てビジョン」とうたうべきではないのか。「子供」とすると範囲が広範になるというのであれば、副題で未就学児対象とでも入れればよい。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
27	<p>そもそも「就学前のすべての子供」を対象としていると言っているにもかかわらず、実際の対策は、保育園児、未就園児（0から2歳の家庭で保育されている子供）に対してしか示されておらず、幼稚園児はこのビジョンの中から省かれていると思う。特に vision4 は保育園のことだけに触れており、なぜ幼稚園については触れないのか。これでは幼稚園保護者の反発を招くのではないか。「保育園が子育て家庭に開かれた保育拠点となる」とあるがどうやって幼稚園に通わせている家庭を取り込むのか。完全に矛盾している。幼稚園児の親が保育園に育児相談に行くのか。ビジョンの中で保育園の役割が書かれているのと同様に「幼稚園の役割」をしっかりと位置づけなければ幼稚園児に対する政策が抜け落ちてしまうと思う。そうでなければビジョンの目的は達成されないのではないか。保育園に通う子供たちに対してだけ子育て政策を行っても十分に機能するとは言えないと思う。幼稚園は教育機関だから保育の点から論ずるのは意味がないと考えているのか。健全な発達の保証がなされなくて良いと考えているのか。それともすでに保証がされているから必要がないと考えているのか。教育機関である幼稚園、福祉施設である保育園という枠組みを乗り越えて保育（こども）ビジョンが語られなければ実効性がないものになってしまう。別々の施設であっても統一した目的で政策がなされているなら効果は上がると思うがこれでは意味がない。子どもの数が減っている今、わざわざ別の部署で、別々の予算をつけて子どもに対する政策を別々に行うのは本当に非効率的であり、将来的には保育園幼稚園が融合していくことを望んでいる。</p>	メール
28	<p>保育ビジョンで取り上げる項目があまりにも広範にわたっているため、どこから手をつけるのか分かりづらい。すべてを実現するのは難しいだろうから優先順位はあるのだろうが、予算の都合上すべては実現できないので、とりあえず、皆さんの要望が多かった「認証保育所」を作ってみました、入所人数を増やすために民営保育所を増やしてみました、なんてことには絶対にしないで欲しい。うがった見方をすれば、そうするために手順を踏んでビジョンを作っているだけなのかと疑いたくなる。</p> <p>保育ビジョンがうたうもの、その方向性にはとても共感し、子供に優しいまちづくりを望んでいる1人として委員の皆さんが相当な力を注いで作られたものがより良いものになるようがんばっていただきたい。</p>	メール
29	<p>書いてあることをやるためのお金をどこから持ってくるのか。子供最優先とは、子供にしかお金を使わないことか。民営化とかやることはやっているのか。バランスがとれていない。</p>	メール
30	<p>時々5階の会議室を利用しています。</p> <p>昨年、文京を作る区民検討会（名称に自信はありません。24階の部屋だったと思います）を傍聴しました。ゆっくりながら行財政改革が進んでいるとの感想を持ちました（不十分という人もいましたが）。しかし、この報告書を見て驚きました。官が金と人をかけてやることのオンパレードです。このような内容がでることが改革を遅らせているのでしょうか。大型施設整備だの、公設公営保育園維持だのは時代錯誤です。特定分野の専門家をまとめ役として利害関係者を中心とした検討会で議論したということですが、その結果、「就学前の子供にかかわる基本理念」のまとめでなく、「保育園の親がやって欲しいこと」のまとめになっています。このようなやり方で、各分野の人が要求を出していけば、我々文京区民はどれだけ税金を取られるのでしょうか。指針というなら、保育の分野でも官の仕事を質を高める民（公益団体、企業、NPOなど）に渡すということを明記すべきです。ビジョンというのは要求の羅列でなく、多くの人を受け入れられる考え方をまとめたものです。今回の内容は参考資料程度のものでしょうか。また、最初に書いた区民検討会との合同会合などの、すり合わせもしてください。保育園にかかわりのない親、子供を持たない住民など、いろいろな人が受け入れられるものを望みます。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
31	この保育ビジョンは文京区として策定するのですか。もしそうであるならば、文京区はいつから子どもを最優先するまちになったのですか。少子化が叫ばれている昨今、子育ての大切さは分からないではありませんが、偏りすぎていると感じます。また、保育ビジョンとは就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示すと書いてありますが、内容は具体的な施策であり、ビジョンとは程遠いように思うのは私だけでしょうか。	メール
32	ビジョンに対する優先順位がなく、まるっきり空想の話にしかみえない。本当に実現できる項目、するものがあるのかが、ドキュメントからみえなかった。	意見シート
33	人間は「義務」と「権利」があると思います。人間生まれてきた以上、子孫を残すことは「義務」、よって大変かもしれないがやるべきこと、また、それをいきがいにすることだと思います。それに対して、公としてよりよくするための手助けが「権利」だと考えます。その明るい権利がわかるようにしてもらいたい。	意見シート
34	様々なアイデアが並べられていて、全部実現できたら面白いだろうと思うが、そのへんの実現可能性をどう考えているのかが疑問。この先 vision を実現していく道すじもある程度示していただけないと、このままおわるのではないかと不安が残る。	意見シート
35	“基本的な考え方”に疑問を感じます。区長はどのように考えられているのでしょうか。ビジョンができた後、それに基づいて区政が行われるのか、誰が計画するのか、誰がチェックするのが不明です。行政中での位置づけを明確にしてください。	意見シート
36	保育園関係者による、保育園利用者のためのまとめになっている。子どものいない独身の納税者にも税金を還元してもらいたい。	はがき
37	今回の中間のまとめは、保育園関係者の既得権を守るためにつくったのではないか。お金のかかる要求ばかり並べ立てており、福祉予算を全部自分たちの思いどおりに使いたいというわがままな気持ちでつらぬかれている。高齢者は寿会館の風呂をなくされても、区がお金がないのがまんしている。医療費がかかるのは子どもより高齢者の方なのだから、あまりわがままばかり言わないで皆でゆずり合っていく気持ちをもってほしい。	はがき
38	保育園の父兄は、払っている税金以上の恩恵を受けているのに、まだお金をよこせというのか。こんな一部の人たちだけで税金を使うのは反対。いい加減にしろ。	はがき
39	保育園の民間委託は新行革の区民会議で決まったはずなのに、保育ビジョンの中で議論するのは筋違いな話だと思う。見直すのであれば新行革の区民会議に議題としてあげてから行うべきである。保育ビジョンの検討会は、その役割を超えている。高層建築の規制は都市計画の会議だと思うし、禁煙の問題は安全安心条例で歩きタバコの禁止区域を設けてやったと新聞にのっていた。何でもかんでも保育ビジョンの検討会で決めるのはおかしい。ビジョンなら将来像をまとめるだけでよい。	はがき
40	保育ビジョンは区の保育行政のあり方を示すはずなのに、個別の要望や具体的な方法まで決めてしまっている。これではビジョンではなく、要求や苦情の一覧表であり、区民共通のビジョンとはいえない。もっと大局的・長期的な立場からまとめないと、一般の区民はついていけない。要求した者勝ちになってしまう。ちゃんとした形で作り直してほしい。	はがき
41	①「子どもを最優先するまち」を達成するためのあり様を、“保育園”“福祉”の側からだけ検討され、答申されるのはおかしい。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
41	<p>②保育ビジョン策定委員が主に保育園の立場の人で構成されている。文京区には幼稚園や幼稚園に在園する幼児が保育園以上にいます。“保育機能の中核”が“保育園”とはいえません。文京区の子どもの保育のあり様を語る時、幼稚園のメンバーをはずしては考えられません。幼稚園と保育園が共に意見を出し合っこそ、“文京の子どものあり様”が真に検討できると思います。委員の中に幼稚園教諭や幼稚園の保護者、PTAも是非加えてほしい。</p> <p>③答申内容がハードにかたよっている。子どもを優先するまちづくりをめざすのであれば、何よりもまず、“どんな子どもを育てるのか”という求める幼児像についてもっと検討を深め、明らかに明示してほしい。その上で、それを達成するために何が必要かを考えるべき。</p>	はがき
42	<ul style="list-style-type: none"> ・実効性の伴わない単なる夢の羅列のビジョンでは意味がないと思います。ぜひとも実現に向けた道を模索してください。それには、現状の把握と、的確なニーズ分析、人口動態の認識が不可欠になると思います。 ・働く親たちは「認証保育所」の増設を求めています。保育の質の伴わない保育所ばかりが増えても安心して働きません。多少の費用負担が増えたとしても、あくまでも質の伴う保育施設と、何よりも、質が高く、相応に処遇されている経験豊かな保育士さんたちが十分な人数いることが必要だと思います。それには、予算の確保が欠かせません。 ・箱もの行政は必要ありませんが、現状の保育園は、園庭も教室も狭いのが実情です。あいている幼稚園園舎を利用するなど、柔軟な対応を求めます。(なお、就学前児童すべてが対象になるといいながら、幼稚園関係者が今回のビジョン策定に関与していないのは片手落ちです。) ・今後のビジョンの実現遂行に際しては、ぜひとも保護者を含む一般区民の共同参画の道を確認してください。 	メール
43	<p>子育て環境をより充実させるために、区が先頭に立ち、保育ビジョンを策定することは良い試みであると思います。我が家は共働きのため、これまでに3人の子は、社会福祉法人運営の保育園を利用してきました。公設の園と比較した場合、はじめはサービス面での不安がありましたが、実際には公設園よりも融通が効き、対応も早く、サービス面では恵まれていると思います。育成室の民営化も保護者にとって良くなったという話を耳にしております。よって、今後も、区認可という形で良いので、民間の力も積極的に取り入れて、子どもたちのことを第一に考えたビジョンにして頂けたらと思います。</p>	はがき
44	<p>子育て支援で何ですか？保育園を増やすだけです。では、学校教育の面はどこへ行ったのでしょうか。学校を統廃合し、保育園を増設する。学校教育の切り捨てとも受け取れます。保育園は乳幼児を預かります。でも幼稚園という幼児教育の機関もあります。保育ビジョンの充実なら、幼稚園も取り入れないと片手落ちだと思います。まず幼保の一元化があつてこそその保育ビジョンではないでしょうか？子どもの立場、これからの人材育成を考えるとこのなら、まず、乳幼児教育機関としての一本化がなされてから言って欲しい。今のままで子育ては教育機関でなく、福祉機関になってしまう。学校は子育て福祉なのか？！我が子を我が手で育てようと頑張っている世の母親には、幼稚園にも目を向けて欲しい、我が子を我が手で育てられる幼児期だけでも、母親の子育て時間を子ども達に返して欲しい。</p>	はがき
45	<p>何故幼稚園について今回のビジョンで議論されないのか？子どもが育つ公共施設は保育園だけか？</p> <p>今回の保育ビジョンは「就学前の子どもの分野の基本理念・基本目標」を示すものとされているが、その中で議論されている保育の拠点が保育園に限定され、幼稚園が対象になっていないのは何故か？夢を語るビジョンを謳うのであれば、行政の縦割りを前提とした議論は不適切と思われる。従来からの「保育園は福祉で幼稚園は教育」という考え方や、今回のビジョン策定検討委員会の事務局が文京区役所のどの課か、などということは「就学前の子どもの分野の基本理念・基本目標」という高次元の議論をするのであれば、一旦はおいて議論すべきではないか。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
45	<p>例えば中間のまとめVision1の3-3の冒頭で示されているような機能は、幼稚園ももっているもののはず。Vision4「将来像」でいうところの「保育機能」とは何か定義し、それを担う主体を特定していくことが必要ではないか？また、Vision4の3(3)①で述べられているように、「希望すれば保育園に入園できる体制を目指し、「就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を断つ」のであれば、幼稚園と保育園の差異は尚更無くなってゆくはず。また、現在、文京区の認可保育園の地域的分布には偏りがあり、かつ、人力的・施設的に余裕がない状況と思われる。そうした中で、「すべての子どもたち、あらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点（Vision4「将来像」）として、保育園だけにVision4全般で述べられているような様々な機能を担わせることに、どれだけの実現性があるのかは疑問。また、Vision4の1(3)で述べられているように、「地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割」を保育園に担わせるのであれば、現在、一部の保育園で実施している子育て相談などについて、現状の総括が必要ではないか？現時点で保育園のこうした機能が子育て家庭・保護者に良く活用されているとは、必ずしもいえないのではないか？であるとすれば、それが活用されていない要因をまず分析しないと、今後の試みも絵に描いた餅に終わってしまうリスクが高いのではないか？</p>	その他
46	<p>子供を預けて働きつづけるために、文京区に引越してきました。その際、品川区なども考えました。区が子供の育成について分かりやすく宣言していたからです。今回保育ビジョンを作る際は、区が主体となって子供の育成について実行する、ということについての宣言を盛り込んでほしい。子供を育てる環境を探し求める親達、今そこで育てている親達にとって安心感があります。保育園の安易な民営化はほししないと明確に断言してほしいと思います。</p>	はがき
47	<p>保育ビジョン策定検討委員会の趣旨がよくわかりません。</p>	メール
48	<p>なぜ、3月末までにまとめなくてはいけないのでしょうか？</p>	メール
49	<p>まず、今現在の保育、育児環境においての問題点のピックアップがどのように行われたのか、疑問です。「就学前の子ども」とひとくちに言っても、乳児と幼児、親の就労形態、家族構成、経済状況など様々で、種々の立場・経験からの悩みやニーズをどのように感じて「保育ビジョン」というものを策定しようということになったのでしょうか？いろいろと理想や夢を語っても画餅に終わってしまいませんか。私たち区民の日々の生活は止まってはくれません。税金を納めているものとしては具体的な施策につながっている確かなものが欲しいです。また、委員会の事務局は「保育課」で、委員構成も「保育園」関係者が多く、文京区全体として、子どもたちの将来を考えるならば、教育、福祉各方面からの委員構成が必要ではないでしょうか。問題点をピックアップしてから、今後何十年も先につながるビジョンを考えるには、委員会の設置方法、検討期間、区民への広報など、拙速の感がぬぐえません。文京区は、交通の便も良く、寺院や公園などの史跡も多く、病院や教育機関も充実しており、住みやすい環境にあると思いますが、「子育て」においては、施設も行政サービスもまだまだという感があります。</p>	メール
50	<p>委員会のメンバーが圧倒的に保育園関係者が多いですが、文京区の保育ビジョンを策定するのであれば、幼稚園の先生や保護者、入園前の保護者などもメンバーに入っていないとバランスを欠いていると思います。</p>	メール
51	<p>この「中間のまとめ」や「保育ビジョン策定検討委員会」を理想論や形式だけで終わらせないでください。 説明会で「今年度中に報告書をまとめなくてはいけないから～」という事務局からの説明がありましたが、終わり有りきで議論するだけでなく、もっと時間をかけて充実したものができあがることを希望します。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
52	<p>子どもの育ち、保育園のすばらしさなど、保育ビジョンにかかわることを語り始めると一冊の本にもなりそうなボリュームです。文京区の保育園との出会いが、私たちの家族にそれほどまでも豊かなものをもたらしてくれ、ただただ感謝しています。</p> <p>このようなことをパブコメにはとても収容しきれません。そこでビジョンに欠けていると思われる重要な要素に焦点をあてて意見を述べます。</p> <p>今回の「中間のまとめ」は、現状のままではアイデアやメニューの寄せ集めに過ぎないと多くの方が指摘しています。森の中の水にとらわれすぎて、森全体の様子がまったく見えてこないのです。そもそも、森の現状がどうなっているのかがわからないまま、将来の森の姿を描くことにどれほど意味があるのでしょうか。</p> <p>今、文京区で子育て・保育環境は危機的な状況に直面しています。その現状がどれほど深刻なのかをまず、見極めないことには、ビジョンを策定する意味がないような気がします。人口動態、生活実態、需要調査など、データに裏づけされた現状分析をしないまま、ビジョンの策定がどんどん進んでいくことに強い懸念をもっています。第1回委員会を除き、すべての委員会を傍聴し、ワーキンググループに2回、代理出席しましたが、データに基づいた議論がなされていません。</p> <p>現状分析の過程で、「子育て危機はない」ということが明らかになれば、私たちも安心することでしょう。しかし、公開されたデータを素人の私が分析しても、現実には甘くないことがわかります。そうでなければ豊かな育ちを保障されないまま、子どもたちは成長し、小・中学校でさらなる問題に発展しかねないと心配です。</p> <p>2005年国勢調査一つをとっても、区のお寒い現状が見えてきます。1月末に発表された2次集計の結果は、区内の働く女性を落胆させる内容です。文京区は、全国に比べて「仕事と家庭を両立しにくいまちになってしまった」という状況がはっきりと表れているからです。両立のしやすさの主たる指標の一つに、女性の労働力率があります。労働力率が高いほど、女性の社会進出が活発で、両立が実現できていることになります。</p> <p>女性の労働力率が下がる最大の要因は、子育てによる退職です。文京区の場合、1995年、2000年の国勢調査では全国を上回る女性の労働力率を維持していました。ところが、2005年に全国の女性労働力率が上昇する中、文京区はほぼすべての年齢区分で逆に低下、全国平均（15～64歳）の60%を3ポイント下回る57%に落ち込みました。</p> <p>しかも、文京区の場合、30～34歳の年齢区分は、前回調査に比べて4.2%ポイント低下しています。全国的にはこの年齢層の女性でもっとも顕著な上昇がみられたにもかかわらずです。</p> <p>就労に対する日本の女性の意識もここ10年あまりで急激に変化しています。2006年の労働経済白書によると、「子どもができてみずと職業をつづけたい」と思う女性は1992年、26%でした。それが2004年には42%に達し、初めて「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい（同37%）を上回りました。つまり、女性の8割が子育て中でも仕事をしたいということです。もともと文京区は保育園や保育サービスの絶対量が東京の中では少ない区です。保育園の整備率は東京の平均を下回り、就学前児童の4人に1人しか入園できません。しかも、文京区では98年以来、乳幼児人口がほぼ一本調子で増えています。女性の就労意識の変化と重ねると、認識されている以上に深刻な保育サービス不足に陥っている可能性があります。例えば、こんな試算ができます。上記の統計では、子どもが生まれても働きたい女性が全体の4割を占めています。2006年の乳幼児人口は7416人（1月1日現在）。その4割に相当する約3000人が、保育の潜在需要を示しているともいえます。これに対して保育園の定員は認証、私立、区立とあわせて約1900人強です。幼稚園に子どもが通いながら働くお母さんや父子家庭などを考慮しないで単純計算すると、1100人が潜在的に保育園を利用したい人数です。正式な待機児童数49人（2006年4月）とのギャップがいかに激しいかわかると思います。これらの数字は何を意味しているのか。専門家ではないので何ともいえませんが、少なくとも保育サービスの整備が遅れて、就労したくともできない女性が、大勢存在していることが統計上、見て読めます。</p> <p>今のペースで保育園の定員を増やしても、待機児童は一向に減らず、むしろ増えていくと推測されます。さらなる調査・分析が必要なのは言うまでもありません。保育需要の地域的な偏在も問題です。保育施設は区の外周に点在する、いわゆるドーナツ型の配置になっているため、地域によって保育園不足はさらに深刻さを増しています。水道や春日地域では、近くの保育園に入れず、遠くまで通わざるを得なかったり、兄弟姉妹を異なる園に預けざるを得ない家庭が急増しています。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
52	<p>こういう事態を放置するとどうなるのでしょうか。間違いなく、区民の間に「子育て格差」が生まれます。外勤の正社員同士の共働き世帯は、質の高い、保育料が相対的に安価な認可保育園を利用できます。入園審査でも最も点数が高く有利だからです。一方、経済的に余裕のないパート労働者や病気や介護などで保育園を利用したい家庭は、入園審査で点数が低く、外勤世帯で枠が埋まってしまい入園が難しくなります。保育料が割高で、職員の離職率や利用者の回転率が高い認証あるいは民間保育サービスを利用するか、極端な場合は区から転出するしかありません。保育に欠ける子どもは保育を受ける権利があるのに、その権利を行使できず、結果的に子どもの育ちに悪影響が及びかねません。</p> <p>少子化も進みます。女性の労働力率は、少子化と密接な関係があります。猪口前少子化担当大臣が文京区で開催した「子育てシンポジウム」で発表した資料によると、15～64歳の労働力率が65～70%くらいに達すると、少子化が止まり、出生率が上昇に転じることが各国の事例で検証されています。国内でも労働力率が高い都道府県ほど出生率が高く、正の相関関係が存在します。</p> <p>文京区の水準では、現在のような他地域からの人口流入が続かない限り、少子化は確実に進みます。実際、文京区内の乳幼児人口は98年以降、増え続けているのに、出生率は低下しています。国勢調査が実施された2005年時点では0.79と、前回調査の2000年の0.85からさらに後退し、過去最低水準で推移しています。</p> <p>保育サービスの量を増やす中で、質を犠牲にするわけにはいきません。その保育の質について、保育ビジョンで触れていないことにも疑問を持ちます。</p> <p>保育と託児は違うということを、文京区の認可保育園に子どもを預けて初めて思い知りました。文京区の認可保育園は、世界に誇れる保育園です。子どもが現在、2人区立保育園に通っています。入園前は「保育」と「託児」の違いを考えたこと子どもの利益を最優先し、子どもの育ちを見据えた保育を子どもたちに享受させたく、仕事をやめたくてもやめるわけにはいきません。</p> <p>保育の質は、決して特色の質ではありません。つまり、延長保育や一時保育、そのようなメニューをたくさん用意している保育園が質の高い保育園ではないのです。「保育の質は生活の質。生活の質は人間関係の質である」と保育の質の研究者である大宮教授は語っています。その保育の質を維持・向上するには、条件の質、つまり保育園で働く保育士などの労働環境などが極めて大事であることは、日本内外の研究者が唱えています。</p> <p>ところが、ここでも文京区の保育政策には疑問があります。財政悪化で退職者不補充策を一時期とったため、区立保育園の場合、調理師や栄養士を含む正規職員（産休、育児休業取得者は除く）1人あたりの園児数は2000年の1対4人から、2005年には1対6人に増えていきます。それでも質が大きく低下していないのは、先生方が休みなどを削って精一杯がんばっていらっしゃるからです。</p> <p>保育園の民営化問題で最大の焦点となったのが、保育の質です。お金をかけなければ、質は担保できません。ならば、区民を納得させ、その財源を探していかなければなりません。また、保育園だけでなく、幼稚園の有効利用をも視野に入れなければ、需要に追いつくことは到底無理です。</p> <p>「文京区は子育てによさそうだから引越してきたけど、保育園に入るのも大変だし、入っても民営化されてしまうかもしれない。しかも、小学校も大変なことになっているから、引越そうかな」と真剣に考えている人がにわかに増えています。若い世代と子どもが住民として定住しなければ、区は活力を失うことはいうまでもありません。仮に財源が不足するならば、保育料の見直しも必要です。質を担保するためならば、保育料の引き上げもやむをえないと感じている保護者は大勢、存在します。保育の質に関する保護者のアンケートでもこのことは明らかになっています。せつかくの危機を見逃すのはもったいないです。当該利害者のみならず、区民の豊かな生活を20年、30年保障するためにも、真剣に保育改革に取り組んでほしいと思います。保育園保護者が活動がんばっているのは、自分の子どもたちの権益を守るためだけではありません。文京区にずっと住みたいから、そして文京区のすばらしい保育園をもっと多くの人に利用してほしいからこそ、自分の子どもとの貴重な時間を削ってでも活動を展開してきました。ただ、ここにきて文京区の行政には落胆することが多すぎます。我が家もそろそろ真剣に転出先を模索し始めています。</p>	その他

■ はじめに～第三について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>「子どもを最優先するまち」このビジョン10文字に反感。特にセンターポジションをとっている3文字最・優・先に関しては疑問符！</p> <p>区民として存在する人間に等しく〈最優先〉してほしいし、それが筋では??</p> <p>未だ結果として(周囲の大人のねがい、思い、期待はあれど)何も・何ひとつ区民・区に対して残していない、やっていない人間(子どもたち)に、最優先の恩恵を与えるのはいかなものか。むしろ、文京区に区民として何十年も存在し、納税義務を果たし、区に貢献し続けている人間にこそ、その恩恵は提供されて然るべきではありませんか?!</p> <p>長年、何十年も区民として存在し、区の財政に貢献している人間こそ、本当の区民、結果を出している有難い人間でしょう。</p> <p>子どもは未知、せつかく多大なる税をつかっても、何の財政貢献もせず、他所の人間になることもあり、文京区というふるさとの存在に何一つ貢献しないことも当然のことながら推測すべきでしょう。</p> <p>子ども最優先はあやまり、さっかくでしょう。長年働いて貢献している功労者をもっと大切にすべきです!真に大切に有難い存在、区が区として存在していただける訳を、委員の方はもっと自然に考えるべき。</p>	はがき
2	<p>「子どもを最優先するまち」という表現について</p> <p>なぜ「子ども」だけが最優先されなければならないのか。「障害者」や「高齢者」は後回しでよいのか。どうして平等に尊重されなければならない区民の間に順位づけを行わなければならないのか疑問です。これでは到底全文京区民が共有すべき「文京区の子育てビジョンであるとは言えない。将来を担う子どものことを考えることはよいと思うが、表現としては「子育てに優しいまち」とか「子育てを区民全体で見守るまち」ぐらいの表現で十分だと思う。</p>	メール
3	<p>「保育ビジョン作成の背景」にある「認証保育所の増設」を望む人が増えている…と言う文章には、違和感を感じた。認可ではなくあえて認証を求めるのはどうなのか?本当に調査を行なった上での「望む意見」なのか説明願いたい。</p>	その他
4	<p>保育ビジョン作成の背景(3)就労支援の充実の必要性 「認証保育所の増設」、…などの充実を望む人が増えています。→なぜ「認証」保育所か。増えているとする根拠となるデータやアンケートがあれば出して欲しい。そうでなければビジョンとしてうたうのだから現在のところ一番保育の質が高いであろう「認可保育所」と書くべきではないか。この一文を根拠にして「認証保育所」を作るなどという政策を打ち出すつもりなのかと思ってしまう。絶対に削除して欲しい。</p>	メール
5	<p>文京区では、なぜ子どもを最優先するまちをめざすのですか。寿会館の廃止や介護保険料の値上げなどは冷たい仕打ちです。子どもだけにお金を使うのではなく、高齢者や障害者にも目をむけてください。</p>	はがき
6	<p>「保育ビジョン作成の背景」について</p> <p>背景とされているものの根拠が示されるべきではないか?例えば「認証保育所の増設」を望む人が増えていると言い切るのであれば、その根拠は何か?この点に関して言えば、良質の保育施設の増設を望むが、それは認証保育所に限ったものではない、というのが一般的意見ではないか?(※これの統計的根拠もないが、私を知る限りの保護者の意見として)</p>	その他

■ Vision1 「子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	6頁「公園を遊びとふれあいの場にしていく」に公園の整備という項目があるが、現実的には、公園の数を減らしているのでは。また、はらっぱ型のスペースを設ける、という具体的な中身を知りたい。	説明会
2	「公園を遊びとふれあいの場にしていく」をモットーにしているが、新大塚公園の問題など、公園は少なくなってしまうと聞く。保育園の散歩コースにもなっている公園が無くなる、茗荷谷周辺の桜の木が伐採されてしまう。それでこんないいことをうたっているのか、と思った。	説明会
3	公園が減らされている現状がある。ふやしたり、なくす園の代替案が明らかにされていないのに、“公園の整備・改良”と示されている。現実をもっとみてほしい。	はがき
4	公園について（須藤公園の現状） 犬をはなしている人がいる。ゴルフの練習をしている人がいる。具体的な対策が必要。	はがき
5	公園の整備・改良を議論するより、まず公園の廃止を撤回する方が先です！公園の絶対数が減っては、残る公園を多少改良しても、マイナスの方が遥かに大きいはず。うちの3歳の子供は新大塚公園が大好きですが、こういう子供に、大好きな公園はなくなってしまう、そこに今は別のところにある学校が引っ越してくる、その学校の跡地は子供に全然関係ない建物（マンション？オフィスビル？）が建つ、なんていう無茶苦茶な話を、いったいどうやって説明しろというのですか？ビジョンに書かれているような方針で、本気で公園を整備するというのなら、どうせつぶす公園なのだから新大塚公園の既存施設をグラウンド含めて全部潰して「はらっぱ型」の公園に作り直すくらいの気合を区側に見せて欲しい。	メール
6	公園をより良いものにしてゆきたい、というのは賛成ですが、それより現在ある公園の廃止を撤回させることの方が先決だと思います。今ある公園を維持する、というのも、是非ビジョンに入れていただきたいと思います。だいたい、いまだ公園を減らそうなんていう素っ頓狂な計画が真顔で進められている区は23区内でも数少ないはずで（たぶん文京区だけ）、選挙を控えた区長の見識を問いたいです。	メール
7	「公園の整備・改良」（6ページ）について 公園は区民全体の財産であり、子どもだけが排他的・独善的に使用できるものではありません。高齢者が増えているのは明らかですので、むしろ、高齢者が筋トレできるようなものも必要になってくると思います。あまり「子ども」ばかり強調すると、子育て世帯以外の大多数の区民の共感は得られないのではないかと。また、公園の近くの人がすでに公園の自主管理を行っているので、子育て世帯の人たちもこうした活動に積極的に関わることで、地域とのかかわりを大切にしてほしいと思います。	メール
8	母子家庭の助成金がカットされたり、定率減税廃止など、子育てにはますます厳しい現実がやって参ります。家族形態も変化していく中で、共働きが当たり前になり、子どもが孤立しがちになってきますが、保育園がそれを補えるかといえば答えはノーです。保育というと単純に子どもに関わる施設に資金投入しがちですが、やはり核家族化が当然の時代にあっては、社会的な広範囲な視野に立って、極力他人任せにしない、特に子育てを商業的ベースに巻き込まないことなども肝要と存じます。町内の老人との接点を設けてみるのも一役となると思います。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
9	<p>かつての地域社会では、子どもたちは親や先生ばかりでなく、近隣の大人たちに「ほめられ」「はげまされ」「叱られ」「教えられ」て育ちました。</p> <p>子育ては家庭や学校教育の改善、保育施設の充足ばかりでなく、住みよい街づくりに対する大人社会の意識改革こそ大切と考えます。</p> <p>「うっかり注意できない」大人たち、「よその大人はこわい」と思う子どもたちの社会は不幸です。</p> <p>保育ビジョン策定についてぜひ上記視点を盛り込み、「ほめ方、叱り方」上手のセミナーやキャンペーンを具体策に取り入れ、「ありがとう」が交わされる地域社会を目指してください。</p>	はがき
10	<p>I-1 (2) について</p> <p>統廃合によって産出する広大な土地を、公園にしたりする努力が必要。安易にマンション団地にはしないよう。</p>	はがき
11	<p>I-5 について</p> <p>取り組む職場に対して、予算や病児保育施設の設置。その保育士・看護師をあっせんしたりする事が必要。旗ふってガンバレというだけでは何もならない。</p>	はがき
12	<p>文京区には、行政としてビジョン I 3-4 にある「まちの環境整備—長期的な視点から子どもの安全安心な育ちを保障する」を目に見える形で実行してほしい。それは道路を整備してガードレールをつけることではなく、子どもが育つ街なみを保存することである。ゼネコン偏重の建築ではなく、古い家、歴史のある公園や樹木の保存である。今の区長は新しいものをつくることに偏っている。今あるものは、壊してしまえば、そこにあった歴史もなくなってしまう。今の区に欠けているのは、落ち着いた安心感。子どもに必要なのは、のびのびと遊べる環境である。無理な小中の統廃合計画などもビジョンの検討にいれてほしい。管轄違いで扱われなければ、結局このビジョンも無になってしまう。</p>	はがき
13	<p>「高層建築規制などを中心とした都市計画のあり方の検討」とありますが、土地の高い都心にある文京区ではある程度高度利用もやむを得ないと思います。現実に高層マンションで子育てしている家庭も多くいます。また、防災の観点からも木造が建て込んでいる地域の対応は必要と思います。</p> <p>もっと文京区全体を見据えたまちづくりの視点を持つべきではないでしょうか。</p>	メール
14	<p>食品添加物、メディア、生活リズムなど、家庭にあった提案、指針のような、戻れる場所がほしい（本などを参考にしているが、かたよりがでてしまっているように思う為）。</p>	意見シート
15	<p>私は私立幼稚園5年、社会福祉法人の保育園で10年働いているものです。</p> <p>(3-3) 子どもたちが豊かに育ちあう場としての保育園を守っていくという所で、“区立保育園は子どもたちがゆたかに育ちあう場を提供しています”とありますが、私が働いている社会福祉法人の園でも子ども達一人ひとりの事を考え、豊かに成長できるように職員は努力しています。ですので、この場で“区立保育園”とだけ書くのではなく、社会福祉法人も含めた書き方をしていただきたいと思います。区立保育園だけでなく、社会福祉法人園も文京区の大きな財産ではないかと思えます。</p>	はがき
16	<p>公園を強化するという一方で公園が減るのは何故か？</p> <p>現在、新大塚公園の廃止も議論されているが、そうした中で公園機能を強化することはできるのか？まず公園廃止の計画を撤回するのが大前提ではないか？まずそこに公園がある、ということが何より大事であり、残る公園の機能強化で失われた公園を超えて余りある機能が提供される、というのは詭弁ではないか？都心部ではバブル崩壊以来初めての本格的な地価上昇局面を迎え、マンション業者ですら開発コストがカバーされるか逡巡する状況で、一度失われた公園と同等の規模・機能の公園が区内の別の場所で将来確保されるとは到底思えない。区の財政改革を考えるのであれば、こうした、失われた戻らない「資産」に手をつけるより、まず「コスト」の圧縮を徹底して考えるべきではないか？また、本ビジョンの中でも大型施設の導入なども想定されているが、そうした大金のかかる事業を検討する前に、今あるものを大事にしてほしい。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	電子メディアからの解放。絵本好き。具体案を期待します。 外国人の問題ですが、彼らにはまず日本での慣習を教えるべき。生活習慣をまったく変えろと言ってもムリな話ですが、こっちで生活していくならそれなりに努力してもらわないと。その手助けもしてあげるべきだし。本とか用意するなんて言葉があったように思いますが、そんな必要はない（ニューカマーのコミュニティはしっかりしているの）。いろんな意味で迷惑している人もいるし、逆にこまっている人もいるはず。もちろん日本の子たちも「外国人」を差別しないようにするし。	はがき
18	3-3の本文より。「現在、区立保育園は（以下省略）」とありますが、私立保育園でも同等かそれ以上の豊かに育ちあえる場を提供しています。「区立保育園は」と限定しない方が良いです。たとえば「現在、文京区の保育園は…」との文章に変更を希望します。	メール

■ Vision2「子育て支援・親の支援」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	10 頁の窓口の一元化の中身を、もう少し説明してほしい。地域保育士やファミリーソーシャルワーカーについて、具体的にどのようなことを考えているのか。	説明会
2	ビジョン 2 の目標 3 の協働・協治。ここでうたわれている内容は、これまで議論されてきた協働・協治とはかなり違う内容で違和感がある。ワーキンググループのまとめの文章を読むと、ここに書いてある協働・協治とはかなり違う協働・協治が書いてあって、どうしてまとめの文章をつくる時に変わってしまったのか疑問。その内容について委員がオーソライズしているのかが気になる。	説明会
3	協働・協治について 協働・協治についての記載（vision2 目標 3）が、これまで言われていた協働・協治から変質してきている。中身が 5 項目ぐらい書いてあるが、修飾として動詞だけ並べると、 + 連携を強め、地域割りを見直します + ネットワーク化をすすめ、サービスの委託を行う + 子育て活動団体の自主的な活動を支援 + 話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめる。 + NPOへの計画的かつ継続的な支援の開始 となっている。これが、「区民との協働・協治」でしょうか？PDF版でついているWGでの議論内容とも乖離しているように見えます。37 ページ (4)、39 ページ (5) の議論内容などを参照。	メール
4	13 頁「施設の整備」に、大型施設の整備とあるが、これは新たにつくると捉えてよいのか。なぜ大型施設が必要なのか。小さなものがあちこちにある方が子育てには必要ではないかと思う。保育園に入れていないお母さんからは、気軽に行ける場所、という声をよく聞く。いくら交通の便がいい文京区であっても、あえてこれを出してきたところが、この説明ではわかりにくい。	説明会
5	施設の整備について。大型施設の整備を考えていこうというところで、それは時間もかかるので、代替的に国や都の関連機関の誘致を進める、というご説明だったが、直感的に関連機関の誘致を進める方がよほど時間がかかるのではないかという気がする。代替手段にはならないのではないかと思うがいかがか。 14 頁に 2 行だけある内容が、今あるものをどう使っていくか、ということで、時間もコストもかからない部分。バランスとして、お金のかかることに集中していて、本当にやるべきことがたった 2 行なのはおかしいのではないか。	説明会

No.	質問・意見・要望	受付方法
6	相談窓口が一元化されるのは非常にありがたいが、相談して使わせてもらうサービスは、どこか区に1か所ある大きな施設にあるというよりは、地域にないと使えないと思う。窓口の一元化の議論とサービスを提供する場の一元化の議論はまったく別で、後者は、時間・お金がかかって、結局使い勝手のよくないものになってしまうのではないかという懸念をもっている。	説明会
7	大型施設について。こういうサービスは必要で、センター機能的なものがあり、なるべく1か所で利用できるというとは思いますが、ハコをつくらないとサービスを受けられない、ハコがないからサービスはできない、というのは逆転している。また、まず大型施設があつて、あまったら、従来からある子育てのための施設の整備もした方がいい、という書き方になっているが、これは逆だと思う。まずはサービス機能が使いやすいといい。区役所の会議室や図書館など、小さい子どもがいっしょに集まれるような整備を考えるのはいいと思うが、大型施設ありきというのは違和感がある。大型施設のサービスは必要だが、ハコがないとできない、でなく、まずサービスを充実した方がうれしい。 国や都の関連施設の誘致を進める、とある。都の児童館は老朽化しているので建て替えもあるかもしれない。東部医療センターは、東部療育センターのことか？これは重症心身障害児の施設であり、誘致を進めるというのはアイデアかもしれないが、順番としては最後だと思う。	説明会
8	大型施設の建設が検討されていますが、ハコの建設にかかる費用よりも、サービスの充実にお金をかけていただきたい。文京区でもその施設に近い人ばかりでなく、メリットを享受しづらい。医療体制、保育園の受け入れ体制、親の就労支援など、（施設への移動をしなくても）区民として誰もが享受できるシステムづくりを優先してほしいです。	はがき
9	「大型施設の整備」は新たにつくるのか、現実の施設を活用できるようにするのか、不明確である。新たに作ることには疑問がある。	はがき
10	大型施設の整備が必要なのかも疑問。区内でアクセスしやすい・・・などあっても、所詮、交通機関を使って行かなくては無理な場所では、利用者は限られる。小さな子どもを連れて、電車やバスに乗るだけでも大変なのに、日常的に通うなど考えられない。窓口が一本化されるのはいいが、日常的施設が一本化されるのは困る。「従来からある子育て施設も充実・整備を進めていく必要…」ということのほうが、より身近で具体化しやすいはず。是非、今回集まった意見を踏まえ、委員会を継続して欲しい。早急な結論を出しても、絵に描いた餅になってしまっただけでは意味がない。せつかく、委員の皆さんが時間と労力を費やし協議しているものであるからこそ、実りあるものになることを望む。	その他
11	何か（特に大型施設）をつくりたいというように受け取れる箇所がいくつか見当たる。予算を確保されていると聞いてないが、現実的になるのか？シビックセンターそのものの建設だけでも、区民にしわ寄せがきているのに、それ以上に負担がかかると非常に困惑する。	メール
12	大型施設の建設の必要性について 現段階で、大型施設を区内に建設するよりは、なお書きにもあるように、従来からある施設を充実整備し、あるいは現在児童を対象とはしない施設を整備して子育て支援に活用できるようにしたほうが実効性があると思います。どんなにすばらしい施設であっても、実際に小さな子供をつれて乗り物を使って利用することは大変困難です。必要とされるのは、身近にあつて、多機能の使いやすい施設ではないでしょうか。もちろん、この大型施設で提供すると提案されたサービスについては実施する必要があるとしても、それと、大型施設を建設することは別の問題だと思います。あたかも、大型施設を建設しなければ上記サービスが実施できないとすれば、かえって、子育て支援サービスの充実を遅らせることになりかねません。さらに、文京区の財政状況を鑑みれば、大きな建物をこれ以上建設することはよほど慎重に検討すべきだと思います。	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
12	また、国や、都の施設の誘致については、相手方から要望があればともかく、区に求められる機能を考慮すれば、そんなに優先度が高いとは考えられません。そのような施設は広大な敷地を要するので、それだけの場所があれば、他の施策との比較の上で、利用方法を検討するべきでしょう。	メール
13	「大型施設の整備」(vision2 目標 5) 何で箱物行政が出てくるのか、理解できません。将来にわたって区財政に一定の負担を及ぼす大型施設の整備については、極めて慎重に議論すべきと考える。区内の交通機関の接続形態を考えても、どこか1箇所に大型設備を整備することで、区内どこからもアクセスが容易で小さな子どもを連れての移動が便利な施設にはならない。例えば、緊急一時保育などは、公共交通を使わなければいけないような場所では不十分。	メール
14	6. 施設の整備 (1) 大型施設の整備 大型施設の必要性が理解できない。文京区は下町方面から山の手方面へのアクセスが悪く(今度バスが通り少しは良くなりますが)たとえば区役所方面に大型施設ができて少しも子育て支援になるとは思えないし、行かない。子育て支援施設は近所であって、アクセスが良く、地域とつながっているからこそ有効に働くと思うので、大型施設などは全く必要がないのではないかと。何億もかけて大型施設を作るより、子育て支援の専門の職員を何人か雇う方がよっぽど有効に機能すると思う。子育てひろば、地域の交流館など既存の施設を拡充する方向で考えた方が無駄な税金が使われずに済むと思う。	メール
15	「施設の整備」として「大型施設の整備」とあるが、新たに大型施設を整備することはいかがか。ハコモノを新たに作ることに税金(税金)をかけるのではなく、現在あるサービスを有機的に結びつけ、必要なサービスを的確に提供できるような「ソフト」を構築することが一番必要だし、現実的なのではないか。ネットワークは大きく、施設は身近に、というほうが「地域を巻き込んだ子育て」には近道になるのではないかと。	メール
16	ショートステイについて。ショートステイの需要は非常に少ないし、使わない方がいいと思うが、必要ときに使えないというのは、逆に非常に不安が高い。現状でいえば、親が入院したときや、子どもの入院の場合も小児科病棟は親がつきそうように、ということが多く、兄弟がいたらどうなるか。祖父母も働いていたり、その親の介護という場合もある。安心して子どもを育てるためには、万一のときにはいつでもバックアップします、ということがあると、大丈夫だと、負担感がものすごく小さくなると思う。もし今、文京区の子どもがショートステイが必要になった場合、0~1歳だと乳児院に措置になるが、乳児院は都内にいくつもないし、どこも満員。どうしてもという場合には町田、東青梅、ということもある。2歳以上だと石神井か立川で、満杯だったら足立、八王子という場合もある。これでは安心して、とはいえないと思う。 「区の事業としてショートステイの実施を検討していく」では、ずっと先の話に思える。区内に乳児院や養護施設があればベッドを借り上げればよいが、施設がない文京区で具体的にどうしていくか。難しい問題と思うが、実施を検討でなく、すぐにでも実施できる、という施策を何とか考えていただければ、今子育てしているお母さんたちの重荷を軽くすることができ、それだけ文京区が本気であることがよくわかると思う。	説明会
17	ショートステイの早期実施について まとめでは「実施を検討していく」とありますが、すぐにでも実施すべき事業だと思います。現状では、主たる養育者、特に母親は、病気になっても十分療養できず、入院することもできない事例もあります。家族の病気等ばかりでなく、二人以上の子供がいて一人が入院した場合、家族の付き添いを求める病院も多く、その際子供の病気以外にも保護者に多大な負担がかかります。安心して子育てするためには、万一の場合の保障が必要で、例え数は少なくとも是非早急に事業を実施してください。 実施方法としては、独立した施設を設置できなくても、取りあえず、区外の施設との契約、区内の日中保育施設(保育ママ等を含む)のサービスの拡大、子供の自宅への保育者の派遣等々考えられます。	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
18	ショートステイ（短期間の24時間保育）（vision 2 目標 4） ショートステイを24時間保育でおこなわなければならない理由、またコストとベネフィットのつりあいがわからない。個人的には区の事業として行う必要はない、と考える。	メール
19	私は9歳、4歳、3歳の3人の子どもを育てている。一番上の子を育てているときシングルマザーだった。当時つきあっていた人にDVにあい、保育園関係には相談できず、区役所の福祉課等、いろいろ相談できるところを訪れたが、たらいまわしだった。結局、男女平等センターのカウンセリングルームで相談をしたが、その後もDVは収まらず、最終的には相手は警察に逮捕されてしまった。そのとき、娘はそういう事件があったにもかかわらず保育園に行きたがり、私は事情聴取があり、仕事も24時間体制のフリーのために1度断ると2〜3か月は入ってこないし営業もしないといけない、とパニックになってしまうという状態が娘が5歳になるまで続いた。 今は結婚しているが、下の4歳、3歳の子が熱を出したりすると、どうしても仕事を休まないといけない。フリーが仕事を休む際は代役が必要で、その代役との打ち合わせに行かなければならない。文京区は病後児保育の施設が少なく、いつ問い合わせても利用できず、結局、茨城の離れた実家から母を呼んで見てもらう、という手段になってしまう。病後児保育のできるところがあるといいな、と思う。	説明会
20	他区に比べ、一時保育をする施設が少ないと思います。フルタイムで働いているお母様方以外にも、保育園に預けられるような支援をお願いします。	はがき
21	私は現在のところ主婦として育児をいたしております。数年前、流産のため緊急入院する際に、当時の「目白台緊急一時保育所」に3歳の子どもを預けましたが、職員不足のため、午前中に誰かが迎えに来るように言われました。私共夫婦は地方から大学進学で上京し、その後文京区に住所を定めましたので、大切な子どもを託せるほど信頼できて、かつ時間の余裕のある知人は近くにおりません。だからこそ、公的施設に頼むしかなくて連絡しているのに、何のために高い住民税を払っているのかと、流産の悲しみと合わせ、涙が止まらないほどの情けない思いを致しました。結局、夫が職場を午後早い時間に早退することができ、職員の方も待っていてくださったので、本当にありがたいことでした。 2006年秋から、同所は「目白台一時保育所」となり、職員の方々の体制は整いましたが、「利用日の3日・までに書面で利用申請」「利用時間は4時間または8時間の固定制」と、非常に使いにくいシステムになっています。親の通院やそれこそ流産等の緊急時に役に立ちません。せめて「利用当日までに利用申請」にするなど、改善をお願いいたします。	はがき
22	産後の主婦に介護保険からヘルパーを派遣してください。特に核家族で体のあまり丈夫でない人をお願いします。	はがき
23	理想的な目標が掲げられているが、それでは目標を実現するために実際何をするのか、というところまで話が進んでいないので、実現はまだまだ先のことになりそうだと思ってしまう。公園や保育園を充実させる試みは期待できるし、現在行われている公立幼稚園の園庭開放や児童館・図書館の幼児教室には私も大いに助けられている。ただ、乳幼児をもつ母親は、外出するのも困難であることも考慮に入れてほしい。離乳食やお昼寝等のタイミングがうまく合わないと、外遊びもできずに家にこもってしまう。この“母子カプセル”を解消できる支援も考えてほしい。	はがき
24	母親学級を土日開催にしてほしい。	はがき
25	夜7〜8時くらいまで開いている産婦人科医院を地域に1つは設置してほしい。	はがき
26	施設の整備として、年長児には安全な遊具がそろった公園を、赤ちゃん世代にはスウェーデン方式ともいわれる子育てシェルターを作ると、親同士の交流も深められ、孤独な子育てをしている親子の心のよりどころとなるのではないのでしょうか。ポーネルンドが安全性にも優れていると感じます。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
27	<p>「NPOや市民活動団体を支援」(vision 2 目標 3)</p> <p>NPOや市民活動団体にも、ピンからキリまであって、しかも制度的に質や客観的な評価が担保されているわけでもないと考える。NPOだから、という理由で支援するのは、おかしいのではないかと考える。どう評価するかが、重要と考える。また、ここでいうNPOは、広義のNPOなのか(であれば、保育園の父母会も該当)それとも、NPO法人のことなのか不明。なぜ、NPOを支援するのか、論じてください。</p>	メール
28	<p>vision2 子育て支援・親の支援 将来像のなかにある、「子どもの幸せを支援することは、決して親の利便を優先することではありません」という一文は、親自身、忙しい生活の中で楽なことを考えがちで、ふと忘れてしまうのですがとっても大事なことだと思うのでもっと強調していただきたい。そして、区としても「多様なニーズに応えるという」ということを理由に親の利便だけを考えた政策を決めてしまう傾向があるので、「子どもの幸せを最優先する」ことを忘れないでいただきたい。</p> <p>目標(2)は保健所をもっと有効に活用できないか。保健師の方などフットワークも軽く専門職員としても適していると思う。</p>	メール
29	<p>4. 養育サポートの充実 「子育てひろばの拡充」</p> <p>利用した経験から、利用が時間がもう少し長く、4時くらいまであいていると良いと思う。児童館などでやっているような「ふれあい遊び」といったイベントのようなものも行われると良いと思う。アクセスが悪い人もいるのももう少し数が増えるとよい。</p>	メール
30	<p>病児看護休暇を会社が与えることも重要ですが、病児保育施設をもっと用意して頂きたいと思います。</p>	メール
31	<p>家庭で保育していると、他のこどもたちとの接触、遊びが少なく、これでよいのかと不安に思ってしまう。こどもどうしのフレイイの場、もまれる場を提供してあげたいが、こどもにとって良い、あう方法がわからなくて、悩んでしまうことがある。こどもとずっと一緒にいたい、につまってしまうことがある。</p>	意見シート
32	<p>幼稚園、保育園に通園していないこどもの定期的に集まれる場所を増やしてほしい(定員制の為入れないこともある為)。</p>	意見シート
33	<p>大型施設の整備と書いてあるが、ゼネコンと癒着したハコ物行政はごめんこうむる。そんな金があるなら障害者や高齢者のためにもっと使ってほしい。だいいちゼロ歳児の保育には1人当たり何百万円かかっているのか明らかにしてから話しを進めてもらいたい。税金は区民に公平に使ってほしい。</p>	はがき
34	<p>子育て相談について</p> <p>積極的に外に働きかけができる人とそうでない人がいると思います。後者は相談を受けられる体制が整っても独り悩み続けるのではないのでしょうか。その方策はありますか。</p>	はがき
35	<p>大型施設の整備は必要か?</p> <p>Vision2の6(1)で述べられているような大型施設の導入が必要かは、コスト面も考えれば慎重に検討すべきではないか?支援サービスの一元化にあたり、まず支援を求める保護者・子どもが相談できる窓口が幅広い機能について対応できることは重要であり、それに関して中央集約的な組織・施設を配置することの意義は理解できるが、一方で、日常的・恒常的なサービスは、出来る限り自宅に近いエリアで受けたいのが実際ではないか?窓口の一本化とサービスを実施する場所の一本化は、別の議論。保育機能を担う中核施設である保育園保育士の削減すら最近とってよい過去において議論されたような厳しい財政状況を考えれば、まずは相談窓口を一本化し実際のサービス提供については今ある施設をどのように強化・活用していくかを考えるのが、コストを抑えながら必要なサービス水準を確保するために取るべき本筋のアプローチではないか?6(1)の末尾に、従来からある施設の充実・整備について一文のみ付加されているが、それまでの大型施設設備の議論とのバランスがおかしいのではないか?第2ワーキンググループの「議論の整理」には、こうした既存施設の拡充が相当に議論されたことが記載されているが、これと中間のまとめ本文のVision2の内容の間には乖離があるように思われる。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
36	<p>まずは、策定委員会の皆様、お疲れ様です。中間報告を拝見して、これが全部実現したら、ものすごく子育てしやすい社会になるだろうなあ…、と思いました。Vision2に掲げられた、区役所の窓口の一元化はぜひとも実行していただきたいもののひとつです。区役所の窓口で、専門的な相談ができる保育士さんやプランナーさんが常駐してくれると、母子手帳をいただくとき、出生届を出すとき、保育園の申し込みのとき…、と折々に相談ができそうです。</p>	メール
37	<p>現在の専業主婦の立場から言えば、乳幼児が午後でも安心してあそべる施設をもっとつくって欲しいです。児童館は午前しか利用できないので困っています。ピョピョ広場のような小さい子ども専用のあそび場があれば、子育てのネットワークも広がります。つい自宅にこもりがちになるママの味方になってください。お願いします。</p>	はがき
38	<p>残念ながら、今後の保育ビジョンでは具体策は何も見えてきません。ここで文京区が早急に取り組むべき課題をあげます。</p> <p>ビジョンでは何も挙げられていませんが、仕事をもつ母親にとって最も必要なのは病児保育であることをはっきり申し上げます。保育園、ベビーシッターは37.5℃以上の熱では預けられません。しかし一方、その間、仕事を休める訳でもありません。保育ママは発熱時に対応できないため、現実の要求に応えるものとなっていません。文京区にはたしかに病児保育はありますが、区全体で定員が4名とは絶望的です。毎日ウェイティングリストには、希望者のお名前がずらりとならんでいます。もっと現実を直視した区政を行ってください。</p>	はがき
39	<p>「親の育ち、子の育ち」の観点から区立保育園全園での緊急一時保育を実施して下さい。そして在宅ママ達が生きていく上で語り合える場を提供して下さい。</p> <p>親が子育ての中で育つとはどういうことなのか？現在二歳になる息子を持つ在宅ママの視点から述べさせて下さい。今までの短い子育ての経験から感じた事は、時の流れるままに親も子も如何様にも育つという事です。</p> <p>私が今まで出会った文京区在住のママ達は一様にまじめで責任感のある方が多く、子育てにも真剣に取り組んでいる印象が強いです。なんと文京区では0歳～3歳までの子供達の七割以上が家庭内養育されているらしいので、まだ会っていない在宅ママは区内にはたくさんいるんですね。</p> <p>子供が生まれて二カ月の頃、家に二人っきりで閉じこもっているのが苦痛で、保健所のおしゃべりルームに参加しました。これはとても有意義でした。ただ同じ月齢の子供を持つママ達とおしゃべりするだけなんです、グチや不満を言い合えたり、情報交換などもできたりして、楽しかったです。帰り道はタクシーも使わず、子供をスリングに入れて鼻歌まで歌って帰りました。</p> <p>次に参加したのは、先のおしゃべりルームで仕入れた目白台図書館での「はじめのいっぽ」。乳幼児対象の読み聞かせの会でした。未知の世界の絵本…これにはとても惹かれました。早速図書館で年齢別対象の絵本冊子を頂き、今では毎日の読み聞かせは我が家の日課となりました。読み聞かせの後はまたまたおしゃべりタイム。ここで近くに住むママ友達をゲットする事ができました。</p> <p>六ヶ月頃には新宿区にある榎木町の児童館に、知り合いのママ達と連れ立ってよく通いました。ここは各階ごとにフロアが別れていて、それぞれ乳幼児、就学児と使用する部屋が違っているので、安心して子供を遊ばせる事ができます。施設も清潔で、安全な部屋づくりも成されていて、何よりも居心地がいいのです。</p> <p>この場所でまだ知り合っていないママ達と、育児の悩み事以上にいろんな話をしました。よくみんなで大声で笑って話していました。そんな中で子育てに順調そうなお母さんが意外な悩みを抱えていたりしてビックリした事があります。自分も含めて結構みんな悩んでるんだな～と度々感じました。</p> <p>子供が元気に遊んでる側で、ホントよく朝から夕方まで語り合いました。そういえばこの頃から育児雑誌は買わなくなりました。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
39	<p>ちょうどこの頃、二ヶ月頃から始まった息子の湿疹がピークを迎えます。病院に行っても一向に改善されず本当に毎日悩みました。もしかしたら自分の母乳のせいなのではないかと、ストイックなまでに食べるものを制限したり、石鹸・水・ハウスダスト・空気清浄など肌に良いと聞くとすぐに生活に取り入れたりしました。</p> <p>今思い返してみると自分の世界の中だけでどんどん落ち込んでいくという感じでした。そんな時あるサークルに参加していたところ、あるお母さんから息子がしんどそうな顔をしていると言われました。そこでハッと我に返りました。息子の湿疹しか見ていなかったの、体の状態まで目がいってなかったんです。きっとこの頃は一生懸命に私に笑顔に向けていた息子の顔も見逃していたに違いありません。肌のきれいな他の子と息子を比べたりして、彼のあるがままの発達や姿を見ていなかったんです。</p> <p>二歳になると突然息子はイヤイヤボーイに変身しました。私も負けじとダメダメママに変身です。ある年配の方から「これは正常に発達している証拠です」と言われて少し気持ちが楽になりました。でも自分が精神的にゆとりがない時は息子を怒鳴りつけたり、時には手が出たり・・・そして大きな後悔の波がきた後自分の育児に自信がなくなっていきます。何で私ばかり～が心の中でこだまします。主人に話してもこちらの気持ちがヒートアップしていたり、無気力に陥っていたりで、素直に意見を聞くことができません。そんな時、今よく通っている豊島区の児童館でママ友に相談すると、明るく笑われて言われました。「うちもそうだったよ。でも怒る前に10数えるの。はじめはできないけど段々と気持ちが落ち着いてくるから」。その言葉でその時を乗り越えれたと思います。なぜなら息子の笑顔が確実に増えたから。以上は私自身の親として少しでも階段を上れた瞬間の中のいくつかです。先述の通り、子供の成長に沿って親も親として育ちます。しかし親がどのように育っていくかで子供の育ちは大きく変わっていくと思います。もちろん何が良くて悪いのかなんて言うつもりはありません。自分の子供の成長や発達を喜んだり、他の子供と我が子を比べて喜びを感じたり、反対に不安に感じたり、自分の子育てに自信が持てた時や反対に行き詰まって先が見えなくなったり、友人に相談に乗ってもらったり、グチを言い合ったり、しんどい時は子供とゆっくりお昼寝したり、子供の笑顔で元気になったり、年配の人に自分の育児の件で意見されて憤りを感じたり、病気でフラフラになりながら子供の相手をしていたり、泣いている子供を怒鳴ったり無視したり…これすべて育児です。そして親育ちの瞬間です。そしてその横には親を信頼している子供がいるんです。</p> <p>在宅ママの抱えてる悩みは思いのほか深刻です。私は育児とは悩んで当たり前と思えるまで二年かかりました。中には問題を抱えたままで、以前の私のように自分の中でだけでどんどん沈んでいく人も多いです。まじめで責任感のあるお母さん程、自分で解決しようとするので無理がたたって反動がきます。</p> <p>自分だけでは解決できない問題が育児にはたくさんあります。だって子供の身体の成長や心のあり方なんてまだまだ先の事だから。ママは可哀想なくらい毎日毎日一生懸命です。でも子供と正面から向き合っているから安心です。子供と向き合えなくなった時、そしてあるがままの子供の姿を見れなくなった時、子供はどう成長していくのでしょうか。</p> <p>子供って誰が育てるものなのでしょう？</p> <p>文京区の保育園の保育士さんはとても質の高い保育をなさると聞いています。ぜひ緊急一時保育ができる園を一園でも増やして下さい。親の利便性だけでいいものではありません。理由はどうであれ本当に困っているママを助けてあげてください。そして子供を救ってください。</p> <p>たまたまその日に一時預かりできた子供とそして親と本音で話してあげてください。プロの目で本質を見てあげてください。そして親の育つ力を引き出してあげてください。</p> <p>子供って誰が育てるものなのでしょう？</p> <p>ママが子供と気軽に行ける、安全で清潔で居心地のよい場所をいっぱいつくって下さい。子育てについて悩みや不安、喜びを語れる場をつくって下さい。子供が安心して遊べて、楽しめる場をつくって下さい。頑張るママはそんな場所があれば遠くでもお隣の区まで自転車で行くんです。なぜ隣の区にあって文京区にはそんなすばらしい施設がないんでしょう。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
39	<p>子供って誰が育てるものなのでしょう？おじいちゃん・おばあちゃん・保育園の先生・隣のおばさん・病院の先生・保健センターの保健士さん・飼っている猫・ママ友・パパの会社の人・今日道であったおじさん・犬の散歩をしている人・図書館の人・大好きなお友達・ちょっと苦手なお友達・八百屋のおばさん・児童館の方々・管理人さん…。日々いろんな人から息子は育てられています。どうか親が親としての育ちができる空間と場所をいっぱい提供してください。どうか親が子供の周りにいる人とコミュニケーションを取れる場を増やして下さい。親が子供と向き合い、そしてそれを見守る人たちと子育てに限らず本音でいろんな事を語り合えた時本当に良い意味での親育ちが実現されるのではないのでしょうか。そして育った子供は社会の財産となるのではないのでしょうか。最後に親の利便性について現在では子育てにおける親の利便性というのは必要不可欠な問題ではないのでしょうか。「利便性」にもいろいろな意味合いがあると思いますが、子育てを本当に頑張っているママたちにとってはとても大切なことです。どうか親の利便性を追求してください。それによって子育てに日々頑張っているママは救われますし、子供に目を向けずに自分の利便性だけを追求しているママを社会の中で見つけることができます。</p> <p>子供に温かいお弁当を食べさせたい。夏や冬に遠くの児童館まで自転車に行きたくない。自分がノロウイルスに襲われた時、子供のために緊急一時に預けたい。子供を緊急一時に預けてパチンコに行きたい。</p> <p>親の考える利便性は様々だと思います。子供の幸せに繋がる利便性とそうでない利便性。それは利便性を訴える親の考え方の問題です。どうか親の利便性を追求してあげてください。そして子供と向き合わないで、自分の利便性だけ考えている親を見つけたら、親育ちの観点から気づいた人が語りかければとよいと思います。例えば緊急一時保育で一人でもそんなママが見つけられたら、その親子を救えるのではないのでしょうか。</p>	メール
40	<p>いつもお世話になります。育児中の意見を言わせて頂ける場があるという事に、とても感謝いたします。ありがとうございます。</p> <p>私は、在宅で子育てとフリーランスの仕事をしておりませんが、両立の厳しさを感じています。</p> <p>出産してから、仕事を減らしたり、逆に（子供がいるという理由で）仕事を断られたりと、出産前の仕事の仕方では対応できず、仕事も育児も一から始めるといった感じですが、子育てがあるからこそ、仕事ができる喜びはとても大きいものになりました。</p> <p>しかし、夫は平日は深夜まで仕事をし、土日出勤も多く、両親は遠方なので協力は得られず、子育てと仕事を1人でこなすのですが、自分1人では体力的にも精神的にも限界を感じています。</p> <p>また、時間通りにできない子供に対して強く叱ってしまう事、テレビを見せつづけるなど、子供にとってもよくない状況になりがちです。仕事中は「子供を一時的にでも預かっていただけたら」と、保育施設等を探しますが、仕事が急に来たり変更になったりと変則的で、対応して頂ける施設を探すのに苦心しています。</p> <p>わがままな望みかもしれませんが、「柔軟に一時保育をしてくれる施設やサービスがあれば、どんなにいいか」と仕事の度に感じてしまいます。</p> <p>これだけ多くの会社が集中する文京区だからこそ、ここに住んでフリーランスで働く人は、私を含めたくさんいるのではないのでしょうか。子供を産んだからという理由で仕事ができないのは、これだけ仕事の間がある文京区に住んでいて、とても残念でなりません。育児は今一番大切な事ですが、自分の技能を生かし築いてきた仕事も失いたくありません。思い切り仕事ができないとしても、仕事につなげるための、何かできる事を（キャリアアップのための講座参加、資格取得など）育児中の今だからやってみたいと感じます。色々な状況にあった、子供を一時的に預かってもらえるシステムがあればどんなにいいかと感じます。もう一つの理由として、共稼ぎをしないと、生活が苦しいという経済状況もありますが、子供と一緒にいても働きたい母親への支援を、どうぞよろしくお願い致します。</p>	メール

■ Vision3 「親の就労・多様な働き方の支援」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	ビジョン3の将来像の文章の中に「再び社会に参加できる道を開く」とある。子育てをしていると社会に参加していない、という文章になっているが、それはありえないと思う。子育てしていても社会に参加していると思うが、そういう議論があったのかどうか、非常に疑問。	説明会
2	働く妊婦・母親への支援をより充実させていただきたいです。	はがき
3	Ⅲ-1 ①育休中の看護師や保育士が、本格的に職場復帰する前のトレーニングとして、病児ルームや保育ママ、学童保育等への短時間パートとしての雇用はどうか。 ②たとえば、準保育士などの育成を区が行う。	はがき
4	親の就労・多様な生き方の支援 今の社会では、女性が男性と同じように働くと、子どもを誰がみるのか。10年後、将来像のようになると思えるといいが、変わると思えないのはなぜか。	はがき
5	vision3はとても大事だと思う。母親の孤立感や不安感といったものが一番強いのが未就園児の保護者だと思う。しかし、保育園や幼稚園に通わせていればその保護者は育児に対する悩みがないのか、子育ては困難でなくなったのかと言えばそうではないであろう。保育園にしる、幼稚園にしる、平日（中に週末も）は育児のほとんどを母親がみているといった状況が改善されなければ 母親の負担感といったものは減らないのではないか。たとえ将来的に保育園の数が増えて希望する人がみな入所できたとしても今の働き方が見直されなければ子育ての困難な状況はいつこうに改善されない。現在の長時間労働が是正され、女性も男性も家庭責任を果たせるような社会に変えていかなければ子育てしやすいまち、社会にはならない。 区単独では限界がある項目だが、子育て支援のためには絶対に欠かすことのできない項目であると思われる。 労働者が安心して働ける社会を作ることは、安心して子育てをできる社会だと思うのでその観点から以下の要求も入れていただければと思う。 ・短時間勤務制度のさらなる拡充。 ・短時間労働＝パートという位置づけをなくし、同一価値労働同一賃金の原則を徹底する。 ・これから子供を持つ人たちのために、不安定雇用者を減らす。	メール
6	職場の取り組みについて 時短や看護休暇などの制度ができていても取得しにくいのが現状です。職場の意識改革が必要であると思います。	はがき

■ Vision4 「保育機能の中核としての保育園」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>ビジョン4「保育機能の中核としての保育園」に、「保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ」、とあるが、そうなると幼稚園と保育園の差は何なのか、というところに議論がいくと思う。ビジョン策定検討委員会が始まる前の説明会でも、なぜ今回、幼稚園が議論の対象にならないのか、という質問があったと思うが、いよいよ幼稚園もある程度視野に入れていかないといけないのではないか。保育園に期待される機能がどんどん増えている一方で、文京区の公設の保育園は地域的な分布に偏りがあるし、人員面・施設面でもリソースに限りがある。その中で、これだけいろいろな機能を盛り込んでいくときに、保育園だけを対象としていって本当にできるのかが疑問。文京子ども園については、やはり中長期的な問題で時間がかかるだろうから、その間どうするかについて何らかのアイデアが示されないと、結局絵に描いた餅になってしまう。</p>	説明会
2	<p>文京区で育ち、子ども2人を育てた。その際、保育園には大変お世話になり、保育園が単なる預け業ではなく、親への支援も基本にしていることを実感した。私が子育てをした25年、30年前は、働いている親以外は入れなかったもので、逆にこういうサービスを働いている親だけが独占してよいのかと思った。保育のベテランである保育士に子どもの育て方について、子どもの毎日をみてもらいながらアドバイスしていただけたことはありがたかった。</p> <p>保育園を子育て支援の場とする発想は大変よいことだと思う。親たちも望んでいる。文京区は子育てがしやすい、教育環境がいいということで転入者も増えていると思うので、区のやっているよい試みを外に発信することで、区の人口も維持・発展できるのではないか。こういう方向はよいことだと思う。安ければいい、という発想で保育園を運営したために大混乱、という区もあることを知っているの、そこのところは維持してもらいたい。</p>	説明会
3	<p>利用者の視点に立ったサービスをすすめるなら、働く/働こうとしている母親の要望をもっと汲み取ってください。出産のため退職しなければならなかった人が、出産後就職しようとして一番困っているのは、就職してからでないかと公立保育園に入れられないことです。そのため認可外に入れざるを得ないのです。働きはじめてから申請がやっとでき、次の4月から入園できればラッキーな方。預ける側にとって兄弟等がいた場合、同じ保育園でなければ預けられません。公務員は出産後、育児休暇をとるのは簡単でしょうが、私企業に勤める人は休暇後も働き続けられる保障はないのです。目標を掲げるのはけっこうですが、その・に現状を早くなんとかしてください。まず「申請すればすぐ保育園に入れられる」体制をつくって下さい！</p>	はがき
4	<p>希望すれば保育園に入園できる体制をめざす。早期実現を！！</p>	はがき
5	<p>保育園は入園する条件をゆるめるべきです。例えば、アルバイトの母親は、1日4時間しか働かないので子どもが入園できない。0～3歳の小さい子どもをもつ母親には厳しすぎる条件でした。母親の1日4時間のバイトでも、社会に大きな貢献です！これからの高齢化社会に欠かせない労働力です。主婦自身も社会に進出した方が子育てにプラスが多くて、孤立の防止にもなります。その上に、経済の面でも少し楽になります。</p>	はがき
6	<p>働き方が多様化したとはいえ、それがまっすぐ「認証保育所の増設」という要望につながっていないと考える。まずは区立保育園が増やされることであり、その保育園が様々な保育要求を受け入れる母体となった方がよい。職員は区職員であることも明記してほしい。</p>	はがき
7	<p>ビジョンに書かれていないので安心しましたが、他区などで行っている保育園の民間委託は絶対行わないでください。区が区立としてしっかり運営してください。お願いします。</p>	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
8	<p>保育ビジョンに本来必要な大きな論点にまったく触れられていないことに違和感を覚えます。それは「区立保育園の民営化」です。</p> <p>「新行財政改革推進計画」において議論されてきたものですが、今回の委員会報告では「論点としてすら」記載されていないようです。たとえ一部の区民による反対があったとしても、文京区で保育ビジョンの議論をするときに「区立保育園の民営化」にまったく言及しないという態度は、行財政改革に対する区当局の決意を疑わせるものです。コスト意識のない委員会がまとめた、誰からも反対されない奇麗事だらけの「中間のまとめ」に多くの区民の支持が集まるはずはありません。是非とも、民営化についての前向きな記述を追加して頂きますよう期待しております。</p>	はがき
9	<p>保育園の質については、ぜひお金と労力をかけて保ち、維持向上させていく必要があると考えます。保育士さんの教育や、意欲の増進に努める、保育士さんの経験を生かすような人事的な制度も必要と考えます。</p> <p>保育を担当してくれる人への信頼がなくては、保育業は成り立ちません。ハード面のみならず、ソフトの面もぜひ重点を置いてほしいと、親の1人として希望します。効率や経済的効果も大切ですが、それで切り捨てられてしまう面についてあるのでは、と今後の方向について危惧しています。</p>	はがき
10	<p>どんなに立派なビジョンがあっても、それを受け入れる場（保育園）がなくては話になりません。子供が今いて働く事を諦めている人がどれだけいるか、現状の改善（待機児童、延長枠等）を早急に願う日々です。</p> <p>そして地域での子育てをビジョンとするならば、保育園として区切らず、育成室のない4年生の受入れを夕方5時以降にするなど広い視野で考慮すべきだと思います（園で5時頃までお迎えに来る人もいるので不可能ではないと考えます）。</p> <p>保育園、育成室に預けて、お迎えが2~3か所になったり、自宅に高学年の子が待つ親が悩んでいる現実をもっと知っていただきたくて書かせていただきました。将来の区の子育てが、よりよくなる事を願いながらも、それまで待てない私は来年退職する予定です。</p>	はがき
11	<p>保育料は値上げしないでください。税金や保険料が上がって大変です。</p>	はがき
12	<p>ビジョン4の4(2)、保育園のクラス人数を減らしゆとりを持たせるのは結構だと思いますが、その・に待機児童を解消するようにお願いします。</p>	はがき
13	<p>保育ビジョン策定検討委員の皆様、中間のまとめの作成お疲れ様でした。「夢」が盛りだくさんで、本当にこの通りの将来像が実現したら素晴らしいと思いましたが、いくつか気がついた点について意見を述べさせていただきます。</p> <p>1. 「保育の質の維持向上」に関する項目を独立させてください。</p> <p>現状では「保育園の機能を高めるための方策」の中に散見されるのと、Vの「実現の推進に向けて」に指針の策定についての記述が見られます。Vにあるのはいいとしても、保育の質は、公立保育園に限らず、幼稚園、これから登場するであろう認定こども園、認証保育所などすべての施設において保たれるべき重要な項目です。すでに保育園に関しては、第三者評価のための国や都の「基準」が示されており、幼稚園にも自己評価の制度があり、また認定こども園も評価基準策定の動きがあると聞きます。こうしたものに準じてもいいし、あるいは文京区独自に、区ならではの保育の質の指標化、基準の明確化をまずは行うべきでしょう。そのうえで、自己評価、利用者アンケート、第三者の専門家による実地調査など、必ずしも現在ある第三者評価制度でなくても、できる範囲で現在の質を評価する。そして改善する。目標を立てる。次世代に継承する。そういうしくみを整える必要があると思います。ビジョンとしてどこかに「保育の質の維持向上」を高らかにうたっておく必要があると思いました。それは保育園だけに限ったことではないので、ビジョン4の保育園の項に入るものではないと思います。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
14	<p>2. 「第三者支援体制の構築」の項目の追加を 前記の保育の質にかかわりますが、すでに3年前と現在では、人員削減の影響で公立保育園の保育の質が低下しているとも言われています。応急処置的に導入された人材派遣保育士はどう評価されているのか。あるいは「柳町こどもの森」の保育の質はどうか。あるいは、保育士の入れ替わりが多いという公設民営園や認証保育所の保育はどうなっているのか。PCDAサイクルを促進するためのしくみが必要です。どのような支援体制が文京区として望ましいかを検討することも必要です。そしてそれは、公立保育園保護者と区のこれまでの協議の中での合意事項であったはずで、検討する場を設ける、という文言もどこかに入れてほしいです。</p>	メール
15	<p>3. その他、慎重に検討したい項目、になると思いますが、「既存の保育園・幼稚園の改革の必要が生じた場合、客観的事実に基づく明確な理念、目的を提示して利用者と協議の場を持ち、十分な合意形成のもとで進める」といった項目をたてていただきたいと思ひます。</p> <p>区長はじめ現在の区の方々はお忘れになったようですが、区と公立保育園保護者が平成16年から約2年間、45回もの会合（通称「あり検」）を重ねたことはまぎれもない事実です。そこでは、客観的データに基づくシミュレーションで、民営化によるコスト削減効果はないこと、団塊の世代の保育士退職により、改革をしなくても今後20年、コストは右肩下がりの傾向にあること、むしろそれによる保育ノウハウの断絶が懸念されることがわかりました。横浜における保育園民営化に関する裁判では、行政側の主張する「多様なニーズにこたえる」は理由にならず、保護者との合意形成が十分にされない拙速な民営化は違法との判決が出ています。あり検で行った他自治体における民営化園の視察では、「成功」の鍵は保護者の合意と協力であることも明らかになりました。</p> <p>民営化は改革の一手法に過ぎません。今後、保育士の人数の削減、認定こども園の設置といった幼稚園の改革も、必ず課題にあがってくると思ひます。行政と利用者（区民）の協働は欠かせません。ぜひとも、ビジョンの中に盛り込んでいただきますよう、よろしくお願ひします。</p> <p>以上長文となりましたが、ご参考にしていただけたら幸いです。よりよい「まとめ」になることを期待しております。</p>	メール
16	<p>vision4 保育機能の中核としての保育園 「保育園はすべての子どもたち、あらゆる子育て家庭にひらかれた保育拠点となります。」とあるが、幼稚園に通う子ども、家庭をどう取り込んでいくのか。ここに挙げられた方法では取り込みは困難と思ふ。</p> <p>また、子育て相談や緊急一時保育も何でもかんでも保育園へという流れにも危惧を感じる。これはそれに対応する人員、物的スペースがちゃんと補充されるということが大前提となると思ふ。個人的には、保育園にも一日、一週間、一ヶ月単位で保育の流れや行事があると思ふので、一時保育所と通常の保育所は別にした方がよいのではないかと考える。狭い園舎で緊急一時の子のためのスペースも格段あるわけではないのにかなり無理がある事業だと思っている。</p> <p>区がすすめようとしている保育園政策と全く相容れないと感じる vision4 であるが、安易な実現（認証保育所増設、公立保育園の民営化など）にならないよう望む。 区立幼稚園での預かり保育の実施は検討されていないが可能性はないのか。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	<p>本駒込南保育園・5歳児クラスに子どもを通わせている保護者です。先日、日頃はあまり会うことのない、他のクラスの保護者のかた数名と、保育について話をすることがありました。その中に、二人目を生むことに対しての不安について話をされているお母さんがいたのですが、そのときの数名での結論は、「保育園の力を借りれば、二人目・三人目がいても大丈夫！」ということでした。子どもたちは、家の中では「一人」かもしれませんが、保育園では「大勢のお兄さん・お姉さん、弟・妹」に囲まれている大家族の一員なのです。自分よりも年上の子どもたちを見ていつかは自分もあんなふうになろうと憧れ、自分よりも年下の子どもたちには、自分がこれまでしてもらったように親切にしようと思う、そういう気持ちがわずか1歳児クラスの子どものにも生まれる、そういう素晴らしい教育が作られなくなされる場、それが今の保育園の果たしている「子どものため」の役割であると思います。保育園というと、いきおい親の就労支援という観点から語られがちですが、子どもの育ちにとって、これは大きな財産です。子どもの育ちを定量的に測定することは難しい(*)というのは分かりますが、効率優先でそういったことがないがしろにされることがないように、今後も公立保育園を大事に守り、さらに、現状の保育士の欠員状態も元に戻して下さるように、強くお願いしたいと思います。ひいては、「親の就労にかかわらず、誰でも希望すれば保育園に入ることができる」というくらいの施策があってもよいと思います。そうなれば、さすが文教のまち文京区、ということにも繋がると思います。(*)子どもの育ちと保育園との関連性を追跡調査する試み等があってもよいと思います。</p>	メール
18	<p>2歳の娘が「かごまち保育園」を利用させていただいています。また現在第2子を妊娠中です。「中間まとめ」を拝見し、文京区が乳幼児の保育に積極的に取り組んでいこうとされている姿勢が分かり、大変嬉しく思います。同時に、壮大な計画を練ることに時間をかけすぎることなく、現状改善が少しずつでも確実に進むことを切実に願っています。</p> <p>初めに書きましたように、かごまち保育園を利用させていただいておりますが、園を利用する保護者が何年間も区にお願いし続けていることがあります。①保育スペースの拡充、②小学校の校庭開放です。</p> <p>当然ご存知とは思いますが、ベネッセが運営する同保育園は、駕町小学校敷地内に併設されており、保育園自身の園庭はないという特徴を持っています。園の雰囲気はとてもよく、園長先生はじめ先生方には大変感謝しておりますが、上記①②の問題は是非とも改善をお願いしたい状況です。</p> <p>駕町小学校は各学年1クラスですので余剰教室もあろうかと思われませんが、再三の保育園保護者からのお願いの甲斐なく、園庭・体育館などは保育園側はほとんど利用できない状況です。</p> <p>区からの回答では、安全確保が難しいなどの理由を挙げられたとも聞きますが、校庭・体育館・音楽室などを年度始めの時間割編成の段階で保育園利用枠を割り当てていただくことはできないのでしょうか？例えば1学年3クラスある小学校でも時間割を組むことが可能であることを考えれば、決して難しいことではないとおもいます。やはり、全ては管轄官庁が違うということで進まない問題なののでしょうか。しかし、保護者としては、そのような理由では納得できるものではありませんし、今回の「中間まとめ」に掲げていただいた取組みが進むとも思えません。</p> <p>幼保小の連携した保育への取組みを本当にお考えいただいているのでしたら、是非先進事例として「かごまち保育園」「駕町小学校」の連携から示していただけたらと思います。私事ですが、長女を保育園に預け、家族のサポートを受けながら何とか育休前の仕事を続けることが出来ました。第2子出産後もできれば文京区に住み続け、仕事に復帰したいと考えていますが、正直、本当に両立していけるか不安を感じています。</p> <p>そんな時期にこの文京区保育ビジョンを知り、今後どうなるのかと楽しみにしております。そして何よりも、「計画」より1日も早い「実行」を願っています。かごまち保育園と小学校の連携の件、是非ご検討お願いいたします。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
19	<p>vision4 4.その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目</p> <p>(1) 子どもが少なくなるこれから、保育園希望者が増え、幼稚園は存在意義がだんだんと減ってくると思う。親の就労、不就労で別々に預かる意義が無くなりつつあるのではないか。</p> <p>(2) クラスの人数を減らすというのはとても良い。海外の具体的な数字を載せて欲しい。その根拠も海外が「その基準だから」「感染症の予防になるから」というよりも1人1人の子どもの目が行き届き、よりよい保育ができるということを理由にして欲しい。現在の保育園の幼児クラスの人数は多すぎると思う。担任と園児1人1人と接する機会が少ないのでもっと時間が取れるよう1クラスの人数を減らす必要があると思う。</p>	メール
20	<p>現在の保育園の1クラスの人数を減らすのは、入園できている人たちが自分達だけじゃなければいいということでしょうか。保育園入園を待っている者のことも考えて欲しい。子どもを大切にすることは理解するが、入園を希望する者がたくさんいる状況で、とても現実的な提案には思えない。保育園に入れない保護者の視点からぜひ、話し合ってもらいたい。また、民間企業では様々な工夫をして努力をしていることをもっと考え、効率的な運営をして、今の保育園でのサービスをもっと増やして、子育てに困っている人に対応していくべきだ。</p>	メール
21	<p>保育園は就労支援のための施設だが、家庭で育児をしている人たち（両親とも働いていない世帯）にも、子育てに関する支援をする施設であってほしい。孤独な子育てをせざるを得ない人たち（核家族で夫が仕事、妻が育児というようなケース。こういうところが実態としては多いと思う）への支援もする施設として、位置づけてほしい。</p>	メール
22	<p>近くに区立保育園がありますが、気軽に遊びに行ける雰囲気ではありません。通園している人たちには、いいのですが、同じに子育てをされていて、何か気軽に利用できるようなにはならないのでしょうか？文京区の保育園の質は高いと聞きます。通園していない子育てをする私たちにも、保育園のノウハウを提供してください。</p>	メール
23	<p>私は私立保育園を2か所経験してきた保育士です。このビジョン1の3-3で「区立保育園は、子どもたちがゆたかなに育ちあえる場を提供していきます」や「文京区の『財産』である区立保育園を維持・拡大し、次世代に継承していく」などとあり、それを受け、「公設公営保育園」を推奨していくというようなことが書かれていますが、文京区には、区立保育園だけでなく、私立保育園も存在します。私立保育園には私立保育園の良さがあり、臨機応変に対応できたり、色々な親のニーズに応えることが特徴でもあると私は考えます。私立の良さをもっとわかっていたいただきたいと思います。とてもすばらしいビジョンではありますが、ご再考願います。（私立＝社会福祉法人など）</p>	はがき
24	<p>保育園の必要な人員確保について 現状では不足を感じます。保育士はいつも忙しそうに相談したくてもできません。職員に余裕のない状態が続けば、将来的に安全面や育ちに不安を感じます。</p>	はがき
25	<p>保育園配置の地域的偏りをどのように是正するのか？ 現在、文京区の認可保育園の地域的分布には偏りがあるが、「待機児をなくし」、「通園距離への配慮」を行い、「きょうだい別の保育園に通わざるを得ない状況の解消」を目指すのであれば、細かくエリア分けを行った上で、現在の保育園に対する潜在的な需要を持つ家庭・児童の実数と、区内の大型開発なども踏まえた将来の需要予測を行い、保育園の適正配置をどのように実現するのか具体的に議論する必要がある。こうした議論は、今後、どのタイミングでどのような場で行われるのか？こうした情報は、どのように一般に公開されるのか？なお、平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査報告書」において、文京区を5つの地区に分割した情報は公開されているが、実際に通園する場合の日常的な負担を考えれば片道15分を超える通園時間は大きな負担となるため、もう少し細かいエリア設定を行ったうえで保育園の適正配置を考えるべきものと思われる。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
26	<p>Vision4の「2. 保育園の具体的役割」に掲げられた(3) 家庭・地域の子育てサポートの実施については、保育園に子供を通わず親としては、できれば保育園とは別の支援施設を設立して欲しいなあ、と思います。確かに、保育園には保育の専門家が常にいらっしゃり、また、園庭やおもちゃといった保育には欠かせないものが揃っているため、地域の子供をもつ方にとっては、頼りにしたい場所だと思います。ですが、果たして、常に正規の先生が欠員状態で運営している保育園で、そこまでやる余力があるのだろうか、とってしまいます。ただでさえ、厳しい状況の保育園に、地域サポートまで任せたとして、本来保育の必要な親が就労している我が子のような子達は、これまでどおりの手厚い保育を受けることができるのでしょうか？心配になってしまいます。できれば、地域サポートのための施設を新たに作っていただければ、と思います。区役所内にある、ピョピョ広場のような形がよいのではないのでしょうか？また、児童館にそのような機能を持たすことはできないのでしょうか？</p> <p>また、(4) 災害時の防災拠点には大賛成です。確かに、乳幼児を連れて学校で避難生活を送るよりは、保育園のほうが子供生活に向いていると思います。</p> <p>以上、簡単ですが、中間報告に意見を述べさせていただきました。最終報告を楽しみにしております。委員会の皆様、どうぞよろしくお願い致します。</p>	メール
27	<p>現在10ヶ月の子どもの母親です。来春から再び働きはじめる予定です(保母です)。非常勤(フルタイムでない)為に、区の認可園に入るのは難しいと区役所の担当の方に言われました。自分は認可園で働きながら、子どもは無認可なんて切ないです。区の保育園に入れるのは、選ばれたごく一部の方だけです。毎年のように保育園は増えていますが、現状に満足しないで欲しいです。質はもちろん大切ですが、それを利用する人が少数では意味がありません。</p>	はがき
28	<p>保育園の機能を高めるという所で、区有施設の余裕教室や校庭などを使えるようにというのがありました。長女が入園当時、運動会はホールで行うため年長さんは限られた演技しかできませんでしたが、汐見小の校庭をお借りできるようになり、本当に有難く思いました。進級お祝い会は相変わらず参観の父兄でいっぱいになりますが、のびのびした子供を育てるためにも、空いているスペースをたまの行事の時に使わせてもらえると助かると思います。</p>	メール
29	<p>ビジョン4に関わる問題として、認証保育への補助金の充実をあげます。現在の多様な働き方のニーズに答えているのは認可保育園ではなく認証保育所です。しかし認証保育は土地を所有せず補助金も少ないため、高額な保育料を払うこととなります。保育の質は認可保育園や幼稚園よりも勝るものであります。これら2つとの補助金の格差を縮小化していくべきです。</p> <p>保育ビジョンが掲げているように、文京区が子育てで支援と親の就労支援等で真に先駆的な試みを内外にアピールするならば、是非とも実現してゆくよう切に願います。</p>	はがき
30	<p>「公設公営保育園の維持」とありますが、「文京区全ての保育園の維持」に変更を希望します。私立保育園、認証保育園についても「子育ての拠点として機能する保育園として、よりいっそう大事に維持していく」との一文を加えてください。文京区の全ての子ども達に目を向けてください。</p>	メール
31	<p>保育料が聖域ということですが、誰が決めたのですか。保育の充実を掲げるのであれば、1人あたり、現状いくらかかっているのか、負担額はどのくらいかを示してほしい。また、それが保育の充実によりどう経費が増えるのかを示してほしい。民営化をせず、保育の質を維持するのであれば、保育料を上げるべきです。受益者負担の原則は、保育でも例外とすべきではないと考えます。一方で保育に頼らず子育てをしている世帯は多く、日本の雇用環境からは、その世帯の生涯収入は、継続して働く世帯とは大きな格差があるのが現実であり、生涯収入の視点から保育を利用する世帯と利用しない世帯とのバランスを考慮し、保育料の負担額を検討すべきと考えます。</p>	はがき
32	<p>「公設公営保育園の維持」は絶対にそうして欲しいです。文京区以外の保育園や区内の認証保育園を利用したこともあり、文京区の公設公営保育園を8年近く利用してきて、十分に良さを実感しています。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
32	<p>数年前から民営化するという話も出てきていましたが、何のためにするのか、することによってどういう影響が出てくるのかを十分に検討していただきたいです。</p> <p>また、現在の保育士の定員割れの早期解決をよろしくお願いします。</p> <p>2階建て要員の撤廃による保育士削減以降、目に見えて、先生方の忙しさが増えています。朝夕は特に正規職員より非常勤職員が圧倒的多く、話をしたくても、忙しそうで声をかけていいものかとためらってしまいます。</p>	メール
33	<p>先日2/23の傍聴も致しました。極めて遺憾な最終報告への流れの為、区民として以下のとおり意見を提出致したく存じます。</p> <p>1. 待機児童数について 添付資料にあった待機児童は基本的に「断られても必要性が高く待ち行列に並ぶ緊急性の高い要請」の数です。表どおりに読んでも保育を受ける権利を得られない待機児童が3割居る現状がああビジョンまとめでは区長に届かないと思います。 区役所窓口行政手順では、待機しても意味のない（保育を受けられる可能性が低い）場合は待機待ちさせていません。従ってその現状を基準に考慮すれば、半数以上の保護者が不満に思っている状況で、「美しい日本」ならぬ美しい「夢の文京区政」を繰り広げる事自身が行政への信頼を失わせます。ああビジョンのままでは、住民と区政の乖離はさらに大きくなります。本来の緊急保育も用意できず、ああ認識のままですら進められるなら、文京区で「赤ちゃんポスト」を設置したほうが良いと思います。</p> <p>2. 税収基本の姿勢 出産者がたとえニートであれ脱税者であれ、子は親を選ぶ事はできません。そして、子には人権があります。本来受けられる保育が十分でない場合、将来の納税者（子）は区政のみならずすべての行政に対して大きく失望すると思います。何卒、論ずる相手の気持ちを考えてみてください（母親のみではありません）。また、行政に救い（保育）を求めに来た区民で「待機」と言われる時点で、そして、言葉を信じて「緊急保育」を受けようとして「事前登録」にぶつかった場合、著しく行政への不信が高まります。言葉遊び・単語による偽装でしかない「緊急保育の提供」だの「十分でない保育所」の現状を現区長や新着任区長に報告するのが御委員会の勤めであると最後の信頼を致しております。 生と死は人間の意図通り予定できないものです。焼き場は冷凍して待機させる事があるうとも予測できない「生」に対する保育の提供は行政の最低要件です。十分な保育が提供できない自治体（待機児童が居る時点）が語るどのような美しいビジョンも区民には逆効果だと意見させて戴きます。 また上述のとおり、実質の伴わない緊急保育（擬政）も区長の意図したいものとは思いません。委員会のメンバーの皆様が、事実・実態を報告しない限り悪循環が進行すると考えています。皆様の本当の保育の理念が「政」に反映されます事を期待しております。</p>	メール

■ 第V「保育ビジョンの推進に向けて」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>「保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討を進めてゆく」とありますが、「具体的な検討を行う場合は」と書いてあるということは、今すぐ具体的な検討は行わず、今後このビジョンのうちの何かを検討する場合に限って区民参画が実現されるということですか？実際に区民参加の下で実現されるはずのビジョンが、なんだか最後のところで骨抜きにされているような気がしてなりません。</p>	メール
2	<p>子育て予算の増額は、国にこそ要求していくことではないでしょうか？文京区の高齢者がいきいき健康で暮らすためにも、予算を使ってほしい。子どもにたくさん配分するというのは納得できません。寿会館のおフロをなくすなど高齢者も少ない予算の中でガマンしていることをわかって欲しい。予算の適正配分というが、子どもに予算をたくさん使えということにしか読み取れません。高齢者も大切にしてほしいです。</p>	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
3	保育ビジョンの推進にあたっての「具体的検討」とは何を指すのか？ 保育ビジョンの推進にあたっての「具体的検討」とは何を指すのか？今回の保育ビジョンは、「就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針」とされており、子育てに関する様々な事柄が議論されている。言うまでもなく現在でも文京区において子育て支援に関する行政が形で行われているのであるから、この保育ビジョンの具体化は現在進行中の事柄のはず。どのような形態で、区民参画により検討を進めるのか、今すぐ具体的な枠組みを決定する必要があるのではないかと懸念される。これを文理的に読めば「具体的な検討を行わない場合もありえる」とも読める点が懸念される。前述の通り、この保育ビジョンの具体化は現在進行中の事柄であり、具体的な検討を行わない場合、というのはいり得ない。また、保育ビジョンが実現されるのかを継続的にモニタリングできる枠組みを確保することが、保育ビジョンの実現に必須と思われるので、保育ビジョンの策定と同時にその実現の具体的な枠組みが決定されることを期待する。	その他
4	「保育の質に関する指針の策定」の進め方 どのように策定するのか、具体的な提示が期待される。現時点で具体案はあるのか？	その他
5	「保育ビジョンの見直し」の具体的な手続きは？ 保育ビジョンが将来において見直される場合も、今回の保育ビジョン策定検討委員会と同様の審議を経て、見直されるのか？	その他

■ 区報・区民説明会・パブリックコメントについて

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	区民説明会の流れとして、区民側の意見を区が聞き、それを委員会の委員に伝えるという段取りになっているが、委員の方と区民が直接話すことができれば、話が早いのでは。より密度の濃い話し合いができるのではないかと思います。	説明会
2	今日の説明会で、事務局としてできること、委員でないから答えられないことが強調されていることに違和感を感じる。それでは伝言ゲームになってしまうし、通常このような報告書の文章は事務局がつくるのであるが、事務局がつくるプロセスと座長にオーソライズして連携して進めていくプロセスがどのくらい真面目だったかが見えにくくなってしまふ。	説明会
3	説明会はシビックばかりでなく、もっと全区的に行ってください。遠いに行かれませんか。お願いします。	はがき
4	区報の配付について この区報のみ、なぜ新聞折込みなのか説明する事。新聞の契約者のみ配付されるのは疑問だ。その他の家には報じる必要がないという事か。	はがき
5	パブリックコメントとして意見募集をするという話が委員会の場で事務局からもあったのを聞いた覚えがありますが、パブリックコメントで寄せられた意見には公開資料の上で個別の回答がされるのが常識だと思いますがいかがですか？	メール
6	もう少し説明会の回数を増やして欲しい。説明会の目的は何なのか、ただ説明会を開いたという既成事実を残すだけなのか。3月までに本ビジョンを形式のみでもいいからまとめることしか意識しておらず、何が最大のゴールなのかまったく無視しているような気がする。内容を是非重視して欲しいので、引続き検討委員会を続行して欲しい。	メール
7	意見の書込みフレームが小さすぎて記入しづらいので大きくしてください	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
8	説明会の意味がわかりません。何で事務的なのですか。もっとビジョン作成に対して前向きにしてほしい。例えば、事務局で説明できない部分は、委員会の方から説明できるように用意していただければよかったですのではないですか。	意見シート
9	2か月の乳児を持つ母です。本日は報告を聞かせて頂き、どうもありがとうございました。区報の記事、「中間のまとめ」もそうなのですが、全体的にわかりにくいです。「わかりにくさ」＝「とっつきにくさ」があげられ、今回の説明会の参加者の人数のように、利用者の声を集めることが難しいのではないのでしょうか？ 「区民の声を聞きたい」とのことですが、いったいどのような声が聞きたいのかもわかりません。区・事務局がどのような声を求めているのか、また、他の区民がどのような意見を出しているのかがわかれば、区民も声をあげやすいと思います（たとえばアイデアを求めているのか、要望を求めているのか、苦情を求めているのか）。	意見シート
10	本パブリックコメントの取り扱いについて 区報においては「お寄せいただいた意見は、整理したうえで、個人情報を除き公開します。」となっているが、想定されているのはどのような「整理」か？また、保育ビジョン策定検討委員会の議事録などを読むに、今回の意見聴取は「パブリックコメント」として行われたものと考えられるが、一方で文京区ホームページ上の「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめについてのご意見」のページに「個別の回答はいたしません」とあるのは大いに疑問。パブリックコメントに寄せられた意見は公序良俗に反するものでない限り全て公開され、それに対して何らかの回答が為されるべきであり、意見聴取から回答までのプロセスに意見を聴取した側の忖度が介在するのは不適切。また、今回は、議論されているトピックそのものが多岐にわたりかつ相互に関連するものであり、加えて、自由記述で意見が聴取されているため、寄せられた意見を今回の保育ビジョンの構成に合わせて分類することすら難しいはず。似たような意見が重複することも当然想定されるが、そうした場合は、「～については意見X番に対する回答をご参照ください」などとすれば、意見を整理せずとも回答内容の整理は可能と思われる。	その他
11	区民説明会に参加しましたが、回数も少なく、告知からも日が浅かったためか、参加者も少なく、区民への周知不足を感じました。 説明会で、メールやはがきでも意見が届いているので、十分に意見は集まるようなことを事務局の方はおっしゃっていましたが、委員会としても同じ意見なのではないでしょうか。	メール

■ その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	3人子どもがいると子育てに追われてしまい、なかなかこういうところに来る機会もなかったが、昨日の第1回の説明会では、あまり幼稚園のお母さん方が来ていなかったという話を聞いた。娘の幼馴染のお母さん方から、幼稚園の集まりで煙山さんが来た新年会があったという話を聞き、煙山さんは保育園には関心をもっただけなのに、私立・公立幼稚園のお母さん、役員の方々には甘いのかなとも感じた。 親としていい保育ができるよう望んでいるので、子どもたちのためにいいビジョンをつくってほしい。	説明会
2	認証保育について。委員会を傍聴しているが、発言した方は認証保育を望んでいるといった訳ではなく、民営でもいいので良質な保育園を増やすべき、という発言をしていたと思うので、事実を確認してほしい。	説明会
3	0・1・2歳で保育園に通っていない家庭にどのような支援をするかが大きな課題、ということであるが、その方々の意見を聞くためには、幼稚園に行かれている方に0・1・2歳の頃はどうかを聞くのが、普通のストーリーではないかと思う。	説明会

No.	質問・意見・要望	受付方法
4	<p>密室育児をしている。家で絵を描く仕事をどうしても続けたくて、育児をしながら家でもできるのではと言われたが、実際に出産をしてみると、まったくできる状況ではなかった。親を呼び寄せることをせずに、家で何とか仕事を続けることができないか、自分なりにいろいろ試してみたが、現実にはうまくいっている状況ではない。フリーで絵を描く仕事は、いったん仕事が途絶えると、次の仕事が来なくなる現実があり、なるべく少しでも仕事をして実績を残したい、という気持ちだけで今はやっている。仕事はどんどん減り、このまま今まで自分がやってきたことがなくなってしまうのではないかという不安がある。仕事がいつくるかわからない場合でも、子どもを預けられるところがないか考えているが、結局すごく難しく、無理なんじゃないかと思っている。保育所に申し込み、ファミリーサポートにも申し込んでいる。不安はあるが、それでもチャレンジして、何年か先でも、復帰したときに仕事を続けていけるんじゃないかという夢をもちながら子育てをしている。</p>	説明会
5	<p>子どもとの時間が長いので、外でどのようなことが起こっているか、実際、よくわかっていない。社会の中で子育てをしようという感覚が、ビジョンを読んで逆にすごく新鮮に感じた。どのように社会と関わっていけばいいのか、社会にお世話になったらいいのか、自分以外の密室で子育てしているお母さん方も思っていると思う。児童館では、みんなが一時保育やファミリーサポートなどの噂をしているが、実際に、上手に試したり、上手に使っている、という声は実はあまり聞いたことがない。上手に使っている人はいるのかな、という感じ。</p>	説明会
6	<p>世田谷区の小学校では、放課後に事前申し込みも費用の負担もなく、毎日17時まで学校で遊べる「ポップ」というシステムがあるそうです。文京区でも是非同様のシステムを早急に開始していただきたいです。</p>	はがき
7	<p>保育園卒園後の支援事業として、また地域の保育機能として、児童館と育成室は重要な位置を占めている。この点についても一節を設けて言及し「ビジョン」を示すべき。その場合には、小学校校内での育成事業の展開と、6年生までに対応した育成室機能の強化を盛り込んでほしい。</p>	はがき
8	<p>厚労省から支給されていた母子家庭に対する援助金が段階を経て削られるが、そのような国の政策のケアなども自治体で取り組んで欲しい。</p>	メール
9	<p>学童保育も、保育園同様、時間延長を検討していただきたい。</p>	メール

3. 事務局に対する質問及び質問に対する事務局回答 <区民説明会>

No.	質問	事務局回答
1	区報ぶんきょうには、意見を2月16日までにお寄せくださいとあるが、2月1日に意見をとりまとめるというのはどういうことか。詳しいスケジュールが決まっていたら教えてほしい。	次回の委員会が2月1日開催なので、1月中に出された意見については、そこで報告する。それ以降に出た意見については、随時とりまとめの期間を定め、最終のまとめに反映できるよう、委員に報告する。 最終のまとめは3月中に作成の予定であり、日程は調整中。
2	1月のいつまでに意見を出すと、2月1日に開催される策定委員会で反映されるのか。	資料を委員に事前送付する期間を考えると、1月25日くらいが一定の目安と考える。
3	中間報告のまとめの文章に、会長の名前がどこにも書いていないが何故か。	区報特集号では冒頭示している。最終のまとめで明記したい。
4	率直に、まとめのレベルが低くて非常に不満なのだが、会長とのやり取りの中で、このレベルで出しているという議論があったのかどうか。この内容で会長はオーソライズしているのか。	会長のお考えは、中間のまとめの時点ではワーキングで出た意見をできる限り生かす、ということであった。4つのグループでまとめた中間のまとめを元に、区民の意見を反映し、最終のまとめにしていこう、と提案を受けている。
5	中間のまとめの公表が12月25日で、区民説明会は4回開催されるが、すべて周知から1か月以内である。子どもを2人保育園に預けていて小学生もおり、保育室は就学前しか利用できないとなると、今日しか時間がとれなかった。今日のことも気が付いたのが先週で、調整してやっときた。日程もすごく少ないと思うし、内容も保育園だけでなく、区民全体の保育に関わることで、すべての保育園・幼稚園で説明会をするような内容ではないかと感じている。このような日程を設定した理由を教えてください。	日程については、年末年始をはさんだため、1月初めを避けて落ち着いたところで、ということで、14～16日に設定をした。遅くなると委員への情報提供が遅れてしまうため、この時期に設定した。説明会の回数が少ないことについては、ホームページ等でも内容を公表し、メールやファックス、ハガキ等で意見を募集していく。
6	ビジョンは「文京区地域福祉計画、文京区子育て支援計画の具体化及び計画見直しの際の基本指針」となっている。ビジョンに対して、戦術・戦略として、現状がどうなっていて、目標はこうで、達成可能性はどうか、問題点は何かあって、最低限何ができるか、いつまでにやるのか、予算はどうするかという、具体的なプランまで落とし込んでいかないと、漠然としていて、指針としても活用の仕様がないうと思う。そのようなことを3月までにしようとしているのか。 22頁「保育ビジョン実現の推進に向けて」に予算措置の確保・予算の適正配分、とあるが、ここは、具体的に実現への道筋を明らかにしてほしい。それがなされないのに3月にビジョンが策定されると、指針としても使いようがないと思う。	文京区では、基本構想の実施計画が、唯一、予算を伴った計画として策定されている。ビジョンは計画の指針となるもので、プラン、実施計画をどうするかということについては、計画で策定する、という仕分けになると考えている。ビジョンは、計画を方向づけて、区民の方と共通理解に立つ、という性格のものとしてご検討をいただいていると考えている。

No.	質問	事務局回答
7	<p>そもそも委員のメンバーに幼稚園の関係者が入っていない。結果的に保育園に対する過大な責務が負わされていると思うが、幼稚園については何も言及されていない。ビジョンは、就学前のすべての子どもに関わるものであるし、幼稚園もすばらしいところがたくさんあるので、幼稚園に関して何も議論されていないのは不十分だと思う。バランスを欠いているので、最初から考え直すべきではないか。</p>	<p>公募委員にはお子さんを幼稚園に通わせている方々があり、そこで意見をいただけるということでメンバー選定をしたところもある。幼稚園の責務については、最終のまとめの中で検討していきたい。</p>
8	<p>幼稚園関係者は、委員選定の段階から入っていなかったと思う。それはなぜか。</p>	<p>0・1・2歳児の保護者の負担感は切実なものがあり、そこへの支援のあり方や、保育の中心を担う保育園のあり方、という部分では、幼稚園とも連携は必要であるが、という認識であった。幼稚園の機能も変わりつつあり、果たすべき役割も高まっているという認識はもっている。</p>
9	<p>区が委員会の事務局として説明するときに、委員会の意見を代弁できることが十分に可能である立場として住民に対応していくのか、それとも事務局はあくまで事務局であって、今日の説明会のようにできる範囲で説明する、あるいは委員に伝えるだけのつもりなのか。今後文京区はどちらの説明を続けていくのか、区としての統一見解を伺う。</p>	<p>区としての統一的な見解は私が答弁するところではない。保育ビジョンについては、区民の方のワーキングを中心に検討がなされ、そこに事務局が入って意見をとりまとめているという位置づけである。今回の説明会では、このような性格の中で、事務局がきちんと皆さんの意見をうかがい、委員会に報告をする、という位置づけを明確にした方がよいだろう、と考えているところ。最終のまとめをどのような形で示すかは今後の課題と考えている。</p>
10	<p>パブリックコメントはどのような形で区民に開示されて、まとめられるのか。最終のまとめに添付された形になるのか、提出されたパブリックコメントがいつでも検索できるような形で、ホームページなりで公開されるのか。その扱いを教えてください。今回、1月末、その後2月16日までと2段階で扱うという話があったので、その扱いが区別されることなく最終のまとめに反映されるかが不安。</p>	<p>説明会等で区民の方々からいただいたご意見については、個人情報を除いて委員会へ全て報告する。その後、ホームページや公共施設に配備するなどして公開する形を考えている。時期によって意見の扱いを区別することは無い。最終的な報告書にどのような形で添付をするのかについては、今後検討する。</p>
11	<p>23頁の最後、保育ビジョンの見直しのところで、「適宜改訂して時代の変化に即応できるように」とあるが、適宜改訂していくときに、区だけで改訂していくのか、またこういう委員会を立ち上げて改訂していくのか、教えてください。ビジョンの策定検討にあたっては、できるかできないかわからないけど夢を語ってください、ということであったが、全部ができるとは思っていないが、できる部分に関しては、ピックアップされたものが出てくるのか、それとも区民にはわからず、区の方だけで進めていくのか。</p>	<p>ビジョンに限らず、区は区民参画を進めてきているし、今後も進めていくことが基本となるので、区の独断で何かを進めることはない。</p>

No.	質問	事務局回答
12	私は子どもを保育園に通わせているので、保育という保育園をイメージするが、この内容は、保育園に通っている子どもだけでなく、就学前児童のことについてとなっている。しかし、委員の構成をみると保育園の関係者が偏っていて、幼稚園の先生や児童相談所の方も入っていない。ビジョンの構成をみても、3や4はいわゆる保育園の親や子どもを中心に据えた内容にみえる。対象や検討内容、委員構成、すべてがアンバランスな気がする。	委員構成は、各種団体については保育園に限らず、幅広い視点で団体推薦をお願いしているし、公募委員については保育園にお子さんを預けている方は対象外にした。事務局サイドとしては保育園関係者に偏った人選という認識は持っていない。DV、児童虐待等については、関連部署の意見を聞くことが十分可能と考えているし、公募委員でお子さんを幼稚園に預けていらっしゃる方もいる。
13	今後保育ビジョンの具体化をどのように進めていくのか。22頁に「保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく」とあるが、この文章は非常に幅の広い意味がある。ビジョンができた後、違うことが起きた場合は、その時々に応じて検討するという意味にとれる一方、保育ビジョンが地域福祉計画や子育て支援計画の具体化を図る際の基本指針という位置づけがされている以上、子育て支援行政が日常的に行われているのであれば、今日この日も保育ビジョンを実現しているとも解釈できる。ビジョンの具体化の音頭をとるのは保育課が中心となると思うので、現時点で想定されている具体的な検討を行う場合というのはどういう場合なのか、どういう形で区民参画を行うことが想定されるのかを教えてください。	保育行政は現在進行中であるので、どのような形で事業に力を入れていくべきなのか、保育行政を担う我々が真摯に受け止めて施策をつくっていく、もしくは計画にない事業についても、予算要求に反映させていくことが、大事な姿勢になると認識している。検討を行う場合どのような形で、ということについては、これまでの区民参画の手法を踏まえ、区民の皆さんに納得いただける形での進め方をしていきたい。
14	パブリックコメントの取り扱いについて。募集された意見は、公序良俗に反するものを除き、原則的には公開され、それに対して個別に回答がなされる、という通常のパブリックコメント的な取り扱いになると理解してよいか。	個人情報を除いてすべて委員に示すので、委員会資料として、ホームページや公共施設への配備により公表する。保育ビジョンは策定検討委員会がまとめたものに対して区民意見を募集し、それをもとに最終のまとめを検討するという位置づけになっているので、個々の提案・意見に対してコメントを付すという形にはならないと考えている。
15	保育ビジョンは、どのように委員会ができて、検討が始まったのか。	24頁の要綱のとおり、文京区の保育行政全般に係る指針となる文京区保育ビジョンに規定する内容を検討するため。なぜ今、保育ビジョンなのか、ということだが、例えばいわゆる密室育児などにより子育ての負担感が高まっていることや、子育て支援の充実が掲げている重点施策の1つであるとともに、この5年間は少子化対策に重点的に取り組むべき、というのが全国的にも共通認識ともなっているため、改めて小学校入学前の一番子育てにとって重要といわれている時期に、どのような支援を行っていくのかの指針をビジョンとして策定しよう、というところ。

No.	質問	事務局回答
16	<p>ビジョン1は、子どもの視点に立って子どもの育ちを保障するという内容で、18頁は親の就労支援のための役割として、都市型保育需要に対応する、とあり、これは親の都合。4つのグループで検討したということだが、視点がばらばら。これが、保育行政全般に係る指針となるものなのか、非常に疑問がある。4つのグループにわかれて検討した結果というのはわかるが、それをとりまとめる必要があるのではないか。</p> <p>文京区が子育てをいっただいどういうふうにしていくのか。まちはこう、子どもにとってはこう、親の支援はこう、企業にとってはこう、とばらばらに出てくるだけで、全体を通して、いっただい子どもをどう育てていくまちなしていこうとしているのか、その一番大事なところが抜けている気がする。そういう意味でまだまだ検討する必要があると思うが、どうしても3月までにまとめをする必要があるのか。</p>	<p>中間のまとめに対しては、こういった視点で検討をしたらどうか、こういった内容をいれたらどうか、というご提案をいただければと思う。</p> <p>3月までというのは、委員会の中でオーソライズされている。中間のまとめは委員の皆さんに時間がない中で大変な作業を担っていただきまとめたものだ。まとまっていない部分については、今後検討・整理をしていければと考えている。</p>
17	<p>区長は中間のまとめに目を通してしているのか。</p>	<p>庁議で中間のまとめを区長に報告しており、目を通してしている。今後区民の皆さんの意見をもとに最終のまとめをするということであるので、ひとつひとつのことに対しては意見はいただいていない。</p>
18	<p>・2頁の(3)「就労支援の必要性」で、認証保育所の増設を望む人が増えている、とあるが、個人的には、認証保育所と認可保育園の違いをわかっている親が、認証保育所の増設を求めることはありえないと思う。委員会もほとんど傍聴したが、認証保育所を増設してほしいという声は一切聞いた記憶はない。この記述はどこから、どのようにして、どなたがおっしゃって、どなたが記述したのか。</p>	<p>中間のまとめは、4つのワーキンググループでの検討内容を事務局が整理し、まとめている。2頁は会長、副会長を含めて事務局が作成し、委員の皆さんにご確認いただいたもの。事務局が整理している段階で、この文言を入れたということになる。委員ひとりひとりがこの文言を認めているかどうかは、確認をしていないが、事務局として、中間のまとめについて了解をいただく手続きはとっている。</p> <p>今のご意見は、策定検討委員会にあげて検討していきたい。</p>
19	<p>対象が就学前の子どもとなっていながら、子どもビジョン、子育てビジョンというタイトルにならなかったのはなぜか。</p>	<p>子どもというと一般的には18歳までであり、就学後の放課後の問題、居場所づくりの問題も含め、幅広くなってしまう。また、子育ては就学前の時期は非常に大事といわれており、就学前の子どもの健やかな成長を考えていこう、ということ。幼稚園にも保育園にも行っていない保護者が子育てにとっても不安・負担感を持っているということで、そうした方々に、保育の視点からの支援を掲げることが大事、ということで就学前の子どもを対象にすることで、保育ビジョンとした。</p>
20	<p>就学前の子どもが使う公共施設として、児童館、幼稚園などある中で、保育園が中核として定義されたのはなぜか、説明してほしい。</p>	<p>委員会での議論で、幼稚園は3～5歳の子どもに教育的な役割を果たすところで、0～2歳児への支援は難しいという話もあり、保育所が中核機能を果たすことが大事だという議論があった。また、保育については大きな柱の1つであり、保育の機能の充実・拡大という視点で検討いただいた、ということもある。</p>

No.	質問	事務局回答
21	<p>中間のまとめ特集号は新聞折り込みで案内をいただいたということだが、学校の将来ビジョンのときは、折り込みでなかったように記憶している。区の中で、配達の方法に違いがあったのはなぜか。</p>	<p>区報は10日と25日発行の通常号は町会に委託して配布している。特集号の場合は、新聞折り込みで配布する形になっている。教育ビジョンも新聞折り込みで配布した。</p> <p>区内施設にも配備はしているが、最近、新聞をとっていない家庭も増えているということで、今後は、区民の皆さんすべての手元に届くようなあり方を徹底していきたい。</p>
22	<p>保育ビジョンの取り上げている内容が広すぎる。親の就労のことや公園のことは、保育のあり方からずれているという気がする。もう少し具体的に、子育てに関して掘り下げて検討したのかと期待していた。これに関して意見を、といわれても、何の意見をどう言っているのかかわからない。区の中で、特に何を優先的に、という優先順位、目標があれば教えてほしい。</p>	<p>委員会では、現実的に子育てをする中で必要な施策やニーズからの議論が多かったことから、こうした内容とした。区民の皆さんからの意見を踏まえて、どういう形で大きな目標にしていくか、今後取り組んでいく必要があると思う。</p>
23	<p>3月末までにとりまとめをすることは、時間的に可能なのか。</p>	<p>委員会でも日程についての議論はあったが、3月までということ委員の合意を得ているので、3月の最終的なとりまとめに向けて努力していきたい。</p>
24	<p>今日の説明会に、事務局以外に、会長、副会長、区職員である大角部長以外の委員がいらっやっていないのは、どのような理由からなのか。</p>	<p>事務局の立場から、区報特集号と同じ位置づけで、こうした説明会を開催して、ご意見をうかがっていく形で設定をしたものである。今回は、中間のまとめに対して広く区民の意見を募集し、最終的なものを検討するということが、会長、副会長の意向でもあり、こういった説明会を事務局として開催した、ということである。</p>
25	<p>この報告を4月までにまとめるということで、4月から何かしらのことを実行していくことも含んでいると解釈したいと望んでいるが、ビジョンに対する予算はどのくらい含む予定なのか、今後公表するところがあるのか、教えてほしい。</p>	<p>ビジョンは保育に対する指針、ということで検討いただいているものであり、保育ビジョンの予算という形では明確には定まっていない。但し、どのような施策に力を入れていくのかという方向性を示すものであるもので、計画にない事業でも実施が必要な場合は、年度ごとの予算の中で予算要求をし、議会で審議していただき、実施をしていく形になると考えている。ビジョンは、こういった施策を実行するのか、ということに対して、方向付けをするもののご理解いただければと思う。</p>
26	<p>22頁の1「具体的な検討を行う場合は、区民参画によりすすめていく」とあるが、具体的な検討とは、例えばどういうことなのか。区民参画とは、具体的にどのような形で区民が参画するのか。</p>	<p>具体的な検討の内容については、これからの議論を待ちたい。</p> <p>区民参画の仕方については、画一的な形態はない。区民の方のご意見を何らかの形で取り込んでいくために、これまでも区民との協働で区政運営をすることを基本に掲げている。公募委員を募るなど、その都度相応しい区民参画の手法を取り入れて、検討する形になると思う。</p>
27	<p>中間のまとめということで全体的に詰めきれていないのと思うが、整合性がとれていないところがある。その部分に関して、2か月の期間でまとめることができるのかという疑問がある。</p>	<p>整合性をどのようにとったらよいか、といったご意見をいただければと思う。</p>

No.	質問	事務局回答
28	<p>指針としての位置づけがよくわからない。ビジョンの内容を読むと、具体的な項目まで提案としてあげられている。これは、何か施策を提案するものなのか。それとも子育て支援計画等の計画の優先順位付けをしていくものになるのか。</p>	<p>施策レベルの提言をいただいている部分もあるが、2～3頁にあるように、子育て支援計画の方向性、重点的に何をするかを示すものとなる。</p>
29	<p>子育て支援計画において、この指針に基づいて優先順位がつけられるとしたら、それはどのような形で検証ができるのか。ビジョンだけでは検証できないのではないのか。</p>	<p>単年度ごともしくは次期の計画策定の際に区民の皆さんに示し、検討していく。また議会にも報告する。そういった場面で、ビジョンがどのような形で生かされているかが検証できると考えている。</p>
30	<p>最終のアウトプットのイメージがまだないようだが、最終のまとめの後も、今回のような会やパブリックコメントをとるのか。いろいろな経緯を経て、最終的にどのようにまとめたのかを示していただけるとよいと思う。</p>	<p>今後の方向性については、会長、副会長と詰めて進めて参りたい。</p>

文京区保育ビジョン策定検討委員会最終報告に向けた委員意見

○保育ビジョン修正希望箇所 P14-1、P28-2(1)

P14 1、の文京区には、さまざまな親子がいます。とあり、

①妊娠中の女性及び産じゅく期の母親と以前は「親子」とあったのが、「母親」となっています。ちょっと長い説明になりますが、私自身、ずっと支援がほしいと訴えています。それは厳密に言えば、「親」に対してというより、「子供」に支援がほしい、ということ。

母親は、病気でも、乳腺炎でも、なにか事情があっても、大人だからなんとでもなるんです。しかし、困るのは、大人がこういった事情で保育ができないことなんです。

委員会の中でも、日本語は主語がいまいなので、わかりにくかったと思いますが、私が訴えているのは、自分の事情をなんとかしてほしいのではなくて、自分が事情があって子供のオムツかえや外遊びや暖かい食事を用意してやることができないので、自分にかわって、子供をなんとかだれかに世話をしてほしい、とお願いをしているつもりです。妊娠中の女性及び、産じゅく期の母親をなんとか支援してほしいのではなく、妊娠中のおなかの子供の安全、安心（＝母親の安全、安心）、産じゅく期の、生まれたばかりで繊細なのに、肝心な母親が出産で弱っていて十分な世話もできない状態なので、支援が必要なのだと思います。

在宅ママたちは 24 時間子供といっしょなわけですから、子供が救われることと、母親が救われることは常に一体なのです。ちょっと長い説明になってしまいましたが、①は妊娠中の女性及び産じゅく期の親子とオリジナルにもどしていただけないでしょうか。

P24-2(1)、(2)、と支援が必要な母子が続きますが、これに「2 人目 (3 人目) の妊娠～出産 3 ヶ月くらいまで」と、2 人目以降の出産後の大変さで上のお兄ちゃん、おねえちゃんの保育ができないケースも支援が必要なケースとして盛り込んでいただきたいと思っています。

○事務局案 vision1 の構造修正の方向について

先日の委員会の議論をふまえて、Vision1 の構造に変更が加えられることになると思います。具体的には、3-3（保育園）と5（職場の取り組み）の内容を、それぞれ、vision4 と vision3 とに移すこととなりますが、残りの部分をどのような順序で並べるかについては、委員会では議論できずに終わりました。

その点につきまして、少し考えましたので、以下に提案させていただきます。

Vision 1

1. 基本目標—子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ
2. 「子どもたちの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する
3. 家庭の取り組み—子どもにとっての第一番目の社会として、現在の子育てのありかたを見直す—（現行案では4）
4. 公園を遊びとふれあいの場にしていく（現行案の3-1）
5. メディアとの関係—「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ—（現行案の3-2）
6. まちの環境整備（現行案の3-4）
7. 地域住民の取り組み（現行案の6）

大筋、このような方向でいかがでしょうか？

基本的な考え方は、1，2について述べた後、まず3で、基本目標の「すべて」に関わる場としての家庭について述べる。その後、その家庭を、「それぞれ」の目標について、まわり（区や区民）がどのようにサポートしていくのか、について4～7で述べる、というものです。

また、こうすることで、Vision 1 にのみでてきた3-1 とか3-2 という下位区分を消し、Vision2-4 に体裁を合わせることも可能になるかと思います。

○保育ビジョン修正提案

P8 中頃 2

- ・「主体（行政・・・）」の中に「小児科医」を追加しては。

P9 下から6段目 「・・・図書館があります」のところ

- ・「真砂中央図書館、目白台図書館では『はじめのいっぽ』読み聞かせの会があり、このような読み聞かせは、」子どもに読み手との直のふれあいを・・・と、続けてはどうか。

P14

- ・②「一人親世帯」に「(父子家庭・母子家庭)」を書き入れては。
- ・「地域保育士・ファミリーソーシャルワーカー」に「保健師」を追加しては。

P17

- 「育児放棄やネグレクト」に「虐待」が入るのでは。

P18

- ・「障害者」に「外国籍の人」を追加しては。

P21 (3)

- ・「町会・・・」に「小児科医」を追加しては。

○保育ビジョン修正提案

P28 第Ⅶ 保育ビジョン実現の推進に向けて 6

- ・「出来れば3年くらいごとに」を削除する。
- ・「・・・小・中学生をも対象に含めたものにすることが望ましい」との表記のうち、「望ましい」を削除し、言い切りの表現にする。

○保育ビジョン最終まとめへのコメント

2月23日（金）に開催された第8回委員会で提示されました「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書」の事務局案（資料第25号）につきましては、委員会終了後さらに保育園父母委員を中心に検討した結果、以下の追加的なコメントと提案が寄せられましたので、最終案に反映していただきたくご連絡申し上げます。

汐見委員長には最終文案の調整にあたり、以下の趣旨につきましてご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

なお、第8回委員会で副委員長よりご指摘のありましたデータの出所につきましては、本書面の末尾に記載しておきました。「文京区の統計」を利用した部分につきましては、数値および計算方法が適切であるかなどをあらためて区のご担当部署にご確認ください。

1. 報告書の副題(キャッチフレーズ)

「語りました！保育ビジョンについてのみんなの夢」では、汐見委員長のご指摘を待つまでもなく、委員会としては無責任な副題です。副題はキャッチフレーズでもあるので、ポジティブな姿勢を打ち出すため、以下のような案はいかがでしょうか。

1. 子ども・親・まち ともに育ち合う文京のために
2. 子ども・親・まち 有機的な結びつきで発展するために
3. 子ども・親・まち ここから躍動が始まる

2. 第Ⅳ 2 子育てを負担に感じる人の増加 のタイトルと本文を修正

この項のタイトルは「2 子育てを負担に感じざるを得ない現状」としてください。
また、本文の末尾には以下の一文を挿入することを提案いたします。

「このようにさまざまな不安や悩みが挙げられる背景としては、核家族化で地域社会のつながりの希薄化が進みつつあるなかで、文京区において区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていない現状があります。」

(理由)

すでに「中間のまとめ」に対する区民意見で「トーンが暗い」と指摘されたように、「子育ては大変だ」という面のみが強調されすぎており、「子育ていろいろ大変だけど、やっぱり子供をもててよかった！子育てって楽しい！」と思う親のポジティブな気持ちも反映するようにしてください。

「なぜ負担を感じるのか」まで踏み込んで考えれば、家庭で子育て中の主婦の方にしてみれば、「核家族化で、地域社会のつながりもあまりなく、結果、子育ての責任が母親ひとりに負わされているから負担」と感じるのでしょうし、保育園保護者にして

みれば、アンケートで順位が1位だった「仕事と子育ての両立・働き方」の中には、仕事との兼ね合いやら、祖父母がそばにおらずサポートしてくれる人がいない、とか、そもそも前提として、希望の保育園に、好きなときに入らない現状など、さまざまな要素が含まれていると思います。

また、子育てを負担に感じる人が「増加しているかどうか」は統計的な裏づけが十分ではなく、またそうであったとしても、それが親の個人的な感じ方という主観的な要因と、核家族化のように地域社会の環境変化など客観的な要因を区別しておくことは重要でしょう。区行政として直接できることは後者の客観的要因に対処することであり、それによって「感じ方」という主観的要因による負担感を間接的に緩和することができるものと考えます。

3. 第 VII 保育ビジョン実現の推進に向けて (p.28～29)

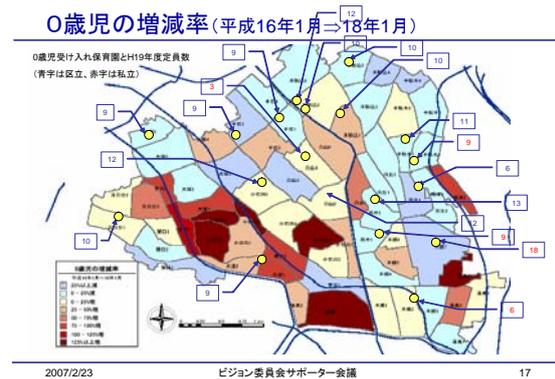
タイトルは「保育ビジョンの実現に向けて」のほうがすっきりします。ここに列挙された項目のうち1. と8. については、以下のような文面を提案いたします。また追加で、今回のビジョン委員会での議論をつうじて浮かび上がってきた点について、今後の検討課題とすべく9. を追加してください。なお、8の修正提案の内容と9(1)(2)(4)については、23日の委員会の場で汐見委員長からいただいたコメントと同様の趣旨を反映したものであります。

1. 保育ビジョン実現に向けての具体的な施策づくりは区民参画によりすすめていく。それにあたっては、実際の行政サービスの現状、とくに現場の声に関する分析を行うことが望ましい。また、将来を見据えた利用者層の実態、たとえば人口の増減や地域分布などの把握が効率的な施策の推進にあたっては望まれる。

8. 時代に応じて、子どもと育児世代とが抱える課題は変化していくと思われる。また国、東京都の今後の保育・育児支援政策や関連する区の政策の変化も想定される。したがって本保育ビジョンは将来適宜改訂して、時代の変化を先取りしていくことが望ましい。

9. なお、今回の保育ビジョンの検討過程で浮かび上がってきた課題として、以下の4点が今後の検討課題として挙げられる。

(1) 子育て支援サービスの利用者層の変化や居住環境の変化を踏まえてサービス提供のあり方を随時見直していくことがのぞましい。例えば、0歳児受入れ保育園の地域別分布と定員を最近児の0歳児の地域別増加率と対比すると、区南西部では昨今のマンション建設の増加などにより保育園が不足することが予想される。(下図)このように文京区特有の人口動態を地域別・年齢層別セグメントで的確に把握しつつ、十分に予見されうる問題については対策を早めに講じていくべきである。



(資料第26号20・21ページ)

(2) 近年の人口動態を見ると、ひと頃減少傾向にあった文京区の人口は、地価の下落などの要因を背景とした都心回帰などもあり近年増加に転じている。とくに乳幼児人口の増加率は総人口の増加率をやや上回るペースであり、保育園をはじめとする子育て支援サービスに対する需要の増加しつつあるという情勢の変化がある。このため、現状の施設数では待機児童が今後も継続的に発生することが予想される一方、これまで保育園職員数は削減されてきたため、職員一人当たり園児数が増えて保育サービスの質が低下する懸念がある。保育サービスのこうした量的・質的な劣化を未然に防止するため、中長期的な展望にたって施設と人材の確保を行っていくことがのぞましい。

(3) 短期的に対処すべき課題として、緊急一時保育や障害児の受入態勢の整備が必要という認識が示されたので、現状の保育園等の施設で可能な限り対応すべく、人員と場所の確保など具体的な施策の検討にとりかかることが喫緊の課題である。

(4) 今回検討された「保育ビジョン」のスコープは未就学児童を対象としたものであるが、区行政としては、今回事務局を務めた保育課の管轄範囲を越える行政分野—具体的には、幼稚園、学童保育、その他の地域・まちづくり施策など—を含めて、区議会の少子化・青少年委員会との連携も図りながら、区民に適切な行政サービスを提供していくための中長期的なビジョン作りに取り組むことが望まれる。